美女遺跡（びじょういせき）

― 遺構編 ―

1998. 3

長野県飯田市教育委員会

正　誤　表

遺構編

挿図73　以下の凡例が欠如している。

・炉穴および底面に焼土が検出された土坑

網掛け…炉穴

無　地…底面に焼土が検出された土坑

・貯蔵穴

黒丸印…礫の入ったもの

無　地…その他の貯蔵穴

	誤	正
付図1	Ⅱ区	Ⅲ区
	Ⅲ区	Ⅱ区

遺物編

	誤	正
第33図6	ＳＫ23	ＳＫ233
第34図1	ＳＫ312	ＳＫ318
第34図6	拓本が5 と同一のため省く	
第38図10	拓本内外面逆	
第40図6	ＳＫ464	ＳＫ511
第40図8	ＳＫ511	ＳＫ464

美女遺跡（びじょういせき）

― 遺構編 ―

1998. 3

長野県飯田市教育委員会

序

飯田市座光寺一帯は、古代以降、長野県史跡高岡１号古墳（前方後円墳）をはじめとする古墳が多く築かれ、又、古代伊那郡衙がおかれるなど、政治・経済・文化の中心的役割を果たした地域であり、名刹元善光寺もここにあります。

この座光寺万才地籍に、今回発掘された「美女遺跡」があります。「美女」とは、いかにも粋な連想を呼ぶ地名ではありますが、ここに、約10,000年前から1,700年前にいたる間の人々の生活の痕跡が残されていたのであります。

これまで県内では、一番古い縄文時代のムラとして、草創期の木曽郡上松町のお宮の森裏遺跡が知られておりますし、飯田下伊那では住居址が１軒単独で調査されたことはありますが、早期にさかのぼるムラは知られておりません。美女遺跡で調査されたムラのあとは、当時としては長野県内で最大級であるばかりでなく、全国的にみても屈指のものであり、注目に値すると思っております。

即ち、8,000年前のムラの様子が明らかになると共に、ここに、学術的に貴重な8,000年前の遺物が多数出土して、他地域との交流の様子も明らかにされました。誠に意義深いものであると考えております。

ここにそれらの事実が報告書としてまとめられることになりました。今後この報告書が、広くこの道を志す方々や、多くの皆様方にご活用あられんことを願っております。

最後になりましたが、委託者である長野県下伊那地方事務所の皆様方をはじめ、ご協力をいただきました多くの皆様方に深甚なる感謝を申し上げまして、序といたします。

平成10年３月

飯田市教育委員会

教育長　　小　林　恭之助

例　　言

1．本書は広域営農団地農道整備事業伊那南部２期地区、および県単農道整備事業（伊那南部地区）－ポケットパーク－建設工事に先立って実施された、飯田市座光寺美女遺跡の緊急発掘調査報告書である。

2．調査は、下伊那地方事務所からの委託を受け、飯田市教育委員会が実施した。

3．調査は、平成７・８年度に現地作業、平成９年度に整理作業及び報告書作成作業を行った。

4．調査実施に当たり、基準点測量・航空測量・航空写真撮影・遺物実測を株式会社ジャステックに委託した。

5．発掘作業・整理作業に当たり、遺跡略号ＢＪＯを一貫して用いた。なお、遺跡の中心地番である1379を略号に続けて付した。

6．本報告書では以下の遺構略号を使用している。竪穴住居址・竪穴－ＳＢ、溝・溝状址－ＳＤ、集石－ＳＩ、炉穴・貯蔵穴・土坑－ＳＫ（なお、貯蔵穴の一部には礫の入ったものがあり、ＳＩを使用している。）

7．本報告書は、遺構編・遺物編・写真図版編に分冊した。記載順は遺構別を優先し、竪穴住居址については時期別とした。遺構図は本文とあわせ挿図とした。

8．土層の色調については、『新版標準土色帖』1996年版の表示に基づいて示した。

9．本書に関わる図面の整理は、調査員・整理作業員の協力により馬場保之・下平博行が行なった。

10．本書の執筆は、第Ⅲ章第３節(1) ①ＳＢ01のみ山下誠一が、他は馬場が担当した。また、編集は調査員の協議により、馬場・下平が行なった。

11．本書の遺構図にの中に記した数字は、検出面・床面からそれぞれの穴の深さ（単位cm）を表している。

12．本書に関連した出土遺物及び図面写真類は飯田市教育委員会が管理し、飯田市考古資料館に保管している。

本　文　目　次

序
例言
目次

第Ⅰ章　経　過　1
　第1節　調査に至るまでの経過　1
　第2節　調査の経過　1
　第3節　調査組織　2
第Ⅱ章　遺跡の環境　4
　第1節　自然環境　4
　第2節　歴史環境　4
第Ⅲ章　調査結果　10
　第1節　調査位置・調査区の設定　10
　第2節　基本層序　10
　第3節　遺構　15
　　(1) 竪穴住居址　15
　　(2) 竪穴　45
　　(3) 炉穴　49
　　(4) 集石　53
　　(5) 貯蔵穴　58
　　(6) 土坑　58
　　(7) 溝址　94
　　(8) 遺構外　94
第Ⅳ章　まとめ　123

引用・参考文献　131
抄録　134

付　図　目　次

付図1　遺構全体図

挿　図　目　次

挿図1　調査遺跡および周辺遺跡位置図
挿図2　調査位置および周辺地図
挿図3　基準メッシュ図区画方法1
挿図4　基準メッシュ図区画方法2・3
挿図5　基準メッシュ図区画方法4・5
挿図6　基準メッシュ図区画調査位置
挿図7　基本層序
挿図8　ＳＢ01
挿図9　ＳＢ08
挿図10　ＳＢ11
挿図11　ＳＢ14
挿図12　ＳＢ18
挿図13　ＳＢ18
挿図14　ＳＢ19
挿図15　ＳＢ19
挿図16　ＳＢ20

挿図17　ＳＢ20
挿図18　ＳＢ21
挿図19　ＳＢ21
挿図20　ＳＢ21
挿図21　ＳＢ24
挿図22　ＳＢ25
挿図23　ＳＢ26
挿図24　ＳＢ23
挿図25　ＳＢ03
挿図26　ＳＢ09
挿図27　ＳＢ07
挿図28　ＳＢ16
挿図29　ＳＢ15
挿図30　ＳＢ13
挿図31　ＳＢ17
挿図32　ＳＢ02・04・05・06・10
挿図33　ＳＢ12・22
挿図34　ＳＫ217・ＳＫ220-225-226-228・ＳＫ221-235-240-247-248・ＳＫ412
挿図35　ＳＫ411-426-427・ＳＫ420・ＳＫ456
挿図36　炉穴検出状況
挿図37　ＳＩ01～09
挿図38　ＳＩ10・11・13～15・17・18
挿図39　ＳＩ16・20・21・23～25
挿図40　ＳＩ22
挿図41　ＳＫ01・02・59・60・72・74・75
挿図42　ＳＫ78・81・85・202・233・239・311
挿図43　ＳＫ328・347・348・365・380・381・400・403
挿図44　ＳＫ478・516・520、ＳＩ12・19
挿図45　土坑平面図(1)
挿図46　土坑平面図(2)
挿図47　土坑平面図(3)
挿図48　土坑平面図(4)
挿図49　土坑平面図(5)
挿図50　土坑平面図(6)
挿図51　土坑平面図(7)
挿図52　土坑平面図(8)
挿図53　土坑平面図(9)
挿図54　土坑平面図(10)
挿図55　土坑平面図(11)
挿図56　土坑平面図(12)
挿図57　土坑平面図(13)
挿図58　土坑平面図(14)
挿図59　土坑平面図(15)
挿図60　土坑平面図(16)
挿図61　土坑平面図(17)
挿図62　土坑平面図(18)
挿図63　土坑平面図(19)
挿図64　土坑平面図(20)
挿図65　土坑平面図(21)
挿図66　土坑平面図(22)
挿図67　土坑平面図(23)
挿図68　土坑平面図(24)
挿図69　土坑平面図(25)
挿図70　土坑平面図(26)
挿図71　土坑平面図(27)
挿図72　土坑平面図(28)、ＳＤ01～03、遺構外遺物出土状況
挿図73　時期別・遺構別分布状況

表　目　次

表１　ＳＢ23
表２　ＳＢ03
表３　ＳＢ09
表４　ＳＢ07
表５　ＳＢ16
表６　ＳＢ15

表7　ＳＢ13
表8　ＳＢ17
表9　ＳＢ02
表10　ＳＢ04
表11　ＳＢ05
表12　ＳＢ06
表13　ＳＢ10
表14　ＳＢ12
表15　ＳＢ22
表16　基本層序土層注記
表17　竪穴住居址土層注記
表18　竪穴住居址土層注記
表19　竪穴住居址土層注記
表20　竪穴土層注記
表21　炉穴土層注記
表22　炉穴土層注記
表23　集石土層注記
表24　集石土層注記
表25　貯蔵穴土層注記
表26　貯蔵穴土層注記
表27　貯蔵穴土層注記
表28　土坑土層注記
表29　土坑土層注記
表30　土坑土層注記
表31　土坑土層注記
表32　土坑土層注記
表33　土坑土層注記
表34　土坑土層注記
表35　土坑土層注記
表36　土坑土層注記
表37　土坑土層注記
表38　土坑土層注記
表39　土坑土層注記
表40　土坑土層注記
表41　土坑土層注記
表42　土坑土層注記
表43　土坑土層注記
表44　土坑土層注記
表45　土坑土層注記
表46　土坑土層注記
表47　土坑土層注記
表48　溝址土層注記
表49　各遺跡検出竪穴住居址属性表

第Ⅰ章　経　　過

第１節　調査に至るまでの経過

平成４年度に、下伊那地方事務所土地改良課から飯田市座光寺万才地籍における下伊那郡松川町と飯田市を結ぶ広域営農団地農道整備事業伊那南部２期地区、および県単農道整備事業（伊那南部地区）－ポケットパーク－の計画が提示され、計画地内に埋蔵文化財包蔵地美女遺跡・半の木遺跡の一部がかかることが判明した。そこで、平成５年３月８日・９月24日及び６年９月29日の三度にわたり、長野県教育委員会文化課・下伊那地方事務所土地改良課・飯田市教育委員会の三者が現地で保護協議を行ない、試掘調査を実施して本発掘調査の要否を判断するとともに、公園計画の中に遺跡を活した整備計画を検討することとなった。

その後計画が具体化したのを受けて、平成７年12月に両遺跡について試掘調査を実施した。その結果、美女遺跡では縄文時代早期から弥生時代後期にかけての遺構・遺物が、また、半の木遺跡でも縄文時代及び古墳時代の遺構・遺物が確認され、本発掘調査の実施が必要であると判断された。そこで、試掘調査に引き続き、平成７年度は同月から８年２月にかけて、美女遺跡の県単農道整備事業（伊那南部地区）－ポケットパーク－の事業計画地の一部について本発掘調査を実施した。

平成８年度は、４月10日付けで広域営農団地農道整備事業伊那南部２期地区「美女遺跡」発掘調査業務の委受託契約を、また、５月１日付けで県単農道整備事業　伊那南部地区「美女遺跡」発掘調査業務の委受託契約を下伊那地方事務所長と飯田市長の間で締結した。

第２節　調査の経過

平成８年４月10日、農道分の発掘調査に着手し、５月１日からはポケットパーク分の発掘調査を再開し、農道分と併せて調査を行なった。重機により表土剥ぎを行ない、続いて作業員を入れて遺構検出・掘り下げ・精査を行なった。写真撮影・細部の実測作業の後、重機により土の返しを行なった。同様の作業実施を経て、８月20日現地での作業を終了した。なお、基準点設置・地形測量・航空写真撮影・遺構測量作業を株式会社ジャステックに委託実施した。専門的な立場からの調査指導が不可欠なことから、６月25日、７月24・25日調査指導を受けた。また、８月10日には現地見学会を開催し、地域の歴史を皆で考える場を提供した。引き続き、飯田市考古資料館において、現地で記録された図面・写真類等の基礎的な整理作業を行ない、概要報告書の作成にあたった。

平成９年度は、それぞれについて５月１日付けで整理作業についての委託契約を締結した。そして、飯田市考古資料館において出土遺物の水洗・注記・接合・復元作業、遺物の実測・写真撮影作業、遺構図等の作成・トレース作業、版組み等行ない、本報告書作成作業にあたった。

第３節　調査組織

(1) 調査

調査担当者　　馬場保之　　下平博行

調　査　員　　佐々木嘉和　　鳴海紀彦　　吉川　豊　　山下誠一　　吉川金利
福沢好晃　　伊藤尚志

派遣調査員　　上沼由彦（財団法人　長野県埋蔵文化財センター　平成８年度）

作　業　員　　新井幸子・伊坪　節・井上恵資・今村春一・太田沢男・岡田直人・岡田紀子
奥村栄子・北原　裕・木下貞子・木下義男・木下力弥・熊谷義章・熊崎三代吉
小池金太郎・小島妙子・榊原政夫・坂下やすゑ・佐々木阜・佐々木文茂・清水三郎
代田和登・瀬古郁保・竹本常子・田中　薫・田中博人・塚原次郎・仲田昭平
中平隆雄・仲村　信・鳴海紀彦・服部光男・林　悟史・原田四郎八・久田きぬゑ
久田　誠・樋本宣子・福沢トシ子・古林登志子・牧内　修・正木実重子・松井明治
松下成司・松下節子・松下光利・松島　保・柳沢謙二・吉川正実
新井幸子・新井ゆり子・池田幸子・伊東裕子・金井照子・金子裕子・唐沢古千代
木下早苗・木下玲子・小池千津子・小平晴美・小平不二子・小平まなみ・小林千枝
斎藤徳子・佐々木真奈美・佐々木美千枝・佐藤知代子・関島真由美・高木純子
高橋恭子・竹本常子・橘千賀子・田中　薫・筒井千恵子・中沢温子・中田　恵
中平けい子・那須貴代子・林勢紀子・林ひとみ・原　昭子・樋本宣子・平栗陽子
福沢育子・福沢幸子・古根素子・牧内喜久子・牧内八代・松島直美・松本恭子
三浦厚子・南井規子・宮内真理子・森藤美知子・森山律子・吉川悦子・吉川紀美子

(2) 指導

長野県教育委員会文化財保護課
会田　進（岡谷市教育委員会）
神村　透（木曽郡町村会）
矢野健一（財団法人　辰馬考古資料館）
山田　猛（財団法人　三重県埋蔵文化財センター）
その他の協力機関・諸氏
愛知県足助町教育委員会・（財）愛知県埋蔵文化財センター・鹿児島県立埋蔵文化財センター・群馬県北橘村教育委員会・茅野市教育委員会・三重県多気町立図書館・上田典男・角張淳一・川崎　保・功刀　司・近藤尚義・新東晃一・長谷川福次・廣瀬昭弘・綿田弘実

(3) 事務局

飯田市教育委員会

社会教育課（～平成８年６月）

横田　穆　（社会教育課長）

小林正春　（　〃　文化係長）

吉川　豊　（　〃　文化係）

山下誠一　（　〃　〃　）

馬場保之　（　〃　〃　）

吉川金利　（　〃　〃　）

福澤好晃　（　〃　〃　）

伊藤尚志　（　〃　〃　）

下平博行　（　〃　〃　）

岡田茂子　（　〃　社会教育係）

博物館課（平成８年７月～）

矢澤与平　（博物館課長、～平成９年３月）

小畑伊之助（　〃　、平成９年４月～）

小林正春　（　〃　埋蔵文化財係長）

吉川　豊　（　〃　埋蔵文化財係）

山下誠一　（　〃　〃　）

馬場保之　（　〃　〃　）

吉川金利　（　〃　〃　）

福澤好晃　（　〃　〃　）

伊藤尚志　（　〃　〃　）

下平博行　（　〃　〃　）

牧内　功　（　〃　庶務係）

第Ⅱ章　遺跡の環境

第１節　自然環境

飯田市座光寺地区は市街地の北東４㎞にあり、北東を下伊那郡高森町、南東は天竜川を挟んで同喬木村、南西を飯田市上郷と接しており、飯田市の北端部に位置している。

飯田市は赤石山脈と木曽山脈にはさまれた伊那谷の南端にあたり、両山脈の間を天竜川が南流する。天竜川に沿った典型的な河岸段丘が見られるとともに、山脈の形成に関わる断層地塊運動に伴ない盆地・大きな段丘崖が形成されており、複雑な段丘地形を呈している。

座光寺地区の場合、断層運動でつくられた段丘で大きく上段と下段に分けられる。上段は木曽山脈の山裾部から大規模な扇状地が発達し、扇端から段丘縁辺にかけては小河川の開析・湧水等微地形の変化が著しい。特に地区を区画する北側の南大島川、南側の土曽川・栃ヶ洞川による扇状地の形成、開析谷の浸食は著しい。下段は数段の小段丘からなり、恒川遺跡群が立地する上位の段丘面の場合、北側は南大島川から扇状地が発達するのに対し、南側は比較的段丘面がよく残る等複雑な微地形を呈する。

美女遺跡は飯田市座光寺地区の北中央部に所在する。座光寺地区と高森町を画する南大島川が木曽山脈より流れ出しており、その解析谷は浸食が著しく規模が大きい。その浸食谷は地区中央部では現在の南大島川の現河床から２段を成しており、現河床面の谷は幅が狭いのに反してその上の面は比較的広い面を形成している。美女遺跡は上の面の北部に立地している。南大島川との比高差は20ｍを測る。

微地形をみると、南側は南大島川旧河床と考えられる窪地が北西から南東方向に続いており、そこに、江戸時代（天保３年）に築かれた「美女下の堤」と明治時代（明治４年）に築かれた「美女上の堤」、および「半の木井」がある。調査区のうち、窪地に面した部分には土石流の跡があり、中には１ｍを超える巨礫を含まれる。さらに地山にも大小の花崗岩礫が多数含まれ、縄文時代以前にも土石流に見舞われたことがわかる。窪地を挟んだ南側には今回同時に調査した縄文時代早期・同中期・古墳時代前期の半の木遺跡がある。さらに南側は、南大島川の浸食による比高差20ｍを測る崖となっていて、崖上には座光寺北の原遺跡・座光寺城遺跡がある。美女遺跡の西側は傾斜が急になっており、比高差18ｍで北並木遺跡へと連続する。調査地点は、美女遺跡26,500㎡のほぼ中央部に当たる。

第２節　歴史環境　（挿図１）

座光寺地区は土器・石器等の遺物や古墳の多いことで古くから知られており、埋蔵文化財包蔵地が濃密に分布している。こうした文化財に表われた先人達の活動の証しは旧石器時代末までさかのぼる。前述の自然環境で概観した地形的特徴が当地区の遺跡立地に大きく関わっており、上段と中・下段で遺跡の分布や性格が異なっている。また、発掘調査された遺跡が多く、全時代にわたって具体的な様相を描くことができる。

上段では縄文時代から弥生時代にかけての遺跡が多く、とくに山麓部には縄文時代の遺跡が集中し、鳥居龍蔵の調査で知られた大門原遺跡等、また、扇端から上段の段丘崖にかけては弥生時代後期の標式遺跡である座光寺原遺跡・中島遺跡がある。

縄文時代よりも古い遺跡・遺物はこれまでのところ確認されていない。縄文時代早期では、宮崎Ａ遺跡（長野県教委　1971）・米の原遺跡・大門原遺跡で押型文土器が出土している。中期は多くの遺跡が知られているが、発掘調査された事例は少ない。大久保遺跡では、中期初頭の竪穴住居址１軒が調査され、良好な土器群が得られている（飯田市教委　1997）。大門原遺跡は東面した緩傾斜の扇状地扇央部分にあたり、大規模な集落址の存在がうかがえる。平成８年度に農道改良に伴い発掘調査が実施されており、縄文時代中期中葉から後葉の伊那谷有数の大集落が広がっていることが確認されつつある。この他、宮崎Ｂ遺跡・座光寺原遺跡（今村　1967）・宮崎南原遺跡では、縄文時代中期後葉の住居址が調査されている（長野県教委　1971）。後・晩期は、断片的に遺物出土がみられるのみで、人々の生活の場は確認されていない。山中の大笹遺跡（周辺遺跡位置図範囲外）では、後期前葉の注口土器等が出土している。南大島川縁の大井遺跡では、詳細時期不明であるが、３基の集石が調査され、川に面した臨時的な調理場と考えられている（飯田市教委　1997）。中期に比べると低地に寄った集落展開が考えられる。

弥生時代では、中期の遺跡はほとんど知られておらず、後期に遺跡数の急激な増加がみられ、米の原遺跡や大門原遺跡でも土器片が採集されている。高燥な台地上に生産基盤を求めた該期に共通する現象であり、具体的には人口増と生産手段の発達が背景と考えられる。後期前半の座光寺原遺跡（今村　1967）や大門原Ｂ遺跡（長野県教委　1971）は後半までは継続しておらず、短期間に集落が廃絶している。続く後期後半では、中島遺跡（下伊那誌編纂會　1991）・宮崎Ａ遺跡等の調査例がある。中島遺跡は、昭和50年農業構造改善事業に伴ない道路部分が調査され、さらに、平成８・９年度には広域農道新設に先立ちその東側部分が発掘調査され、大規模な集落であることが改めて確認された。座光寺原遺跡・中島遺跡とも周辺に低湿地を控えており、畑作と水稲を組み合わせていたと考えられる。

古墳時代では、大井遺跡で南大島川旧河道から管玉２点が出土しているが、他に当該期の遺構が確認されていないことから、遺跡の性格等不明な点が多い。この他、上段では、古墳は井下横古墳１基があるのみで、考古学的な痕跡は稀薄となる。同様に奈良・平安時代についても断片的に遺物が得られているにすぎない。古墳時代以降は散在的な集落景観が考えられよう。

中世には、段丘崖上部に北本城城跡（1981年調査）・南本城城跡・浅間砦が築かれ、小河川に開析された複雑な地形を生かしている。北本城城跡は４つの曲輪を主体とした居城的な城郭で、16世紀中頃松岡氏の支城であったとの伝承がある以外は記録等全くなく、その築城・廃城の時期や治めていた氏族等も不明である。現在のところ、座光寺の地名に共通する座光寺氏の居城であるという説が有力である。平成２年度に行なわれた児童センター建設に先立つ二の曲輪の調査では、恒久的な施設ばかりでなく簡易的な施設も確認され、この部分が居住機能と防御機能とを併せ持っていたことが明らかにされた（飯田市教委　1992ａ）。南本城城跡は、現在でも良好に当時の姿をとどめている城跡で、防御施設の整った防御専門の城郭で、北本城に関連するとされる。

近世では、大門原Ｄ遺跡で火葬墓・土葬墓５基が調査されている（長野県教委　1971）。

中・下段地帯は縄文時代から近世にかけての遺跡が複合しており、時代毎占地した地点を若干異にしている。縄文時代の集落は主に南大島川から発達した扇状地に立地する。縄文時代中期を除く他時期は遺物が中心で集落の実態は明確でないが、資料が十分でない各期にあって比較的良好な資料を提示している。旧石器時代終末から草創期にかけての遺物は、石行遺跡で中世の溝址から有舌尖頭器が出土している（岡田　1986)。早期は石行遺跡で細久保式土器・沈線文土器・条痕文土器などが出土している他、恒川遺跡群の新屋敷遺跡では相木式の遺物集中や塩屋式期の遺構等があり、細久保式・高山寺式土器等も出土している（飯田市教委　1986)。半の木遺跡（1996年調査）でも樋沢式や茅山下層式といった土器や同じ時期の遺構が調査されている。前期は断片的な資料が恒川遺跡群で得られているにすぎない。しかし、中期については、新井原遺跡で後葉のかなり大規模な集落の一部が調査されており、低位段丘の大規模集落の存在に目を向けさせることになった。後期から晩期の前半にかけての様相は、前期同様詳らかではない。晩期終末には石行遺跡から竪穴住居址と浮線文系や条痕文系の土器群が見つかっている。

弥生時代には、中期前半は断片的な資料はあるものの、これまでのところ遺構が認められない。後半には恒川遺跡群で40軒以上の竪穴住居址が調査されており、広範に住居址が分布し、段丘上全体を居住空間とした集落展開がする。後期前半には遺構の分布が稀薄になり、段丘上の特定地域に居住空間を限定した可能性が指摘されている。後半になると住居址が恒川遺跡田中地籍に集中し、その中でも台地縁辺部の集落域とより内側の墓域の分化がみられるようになる（飯田市教委　1988)。

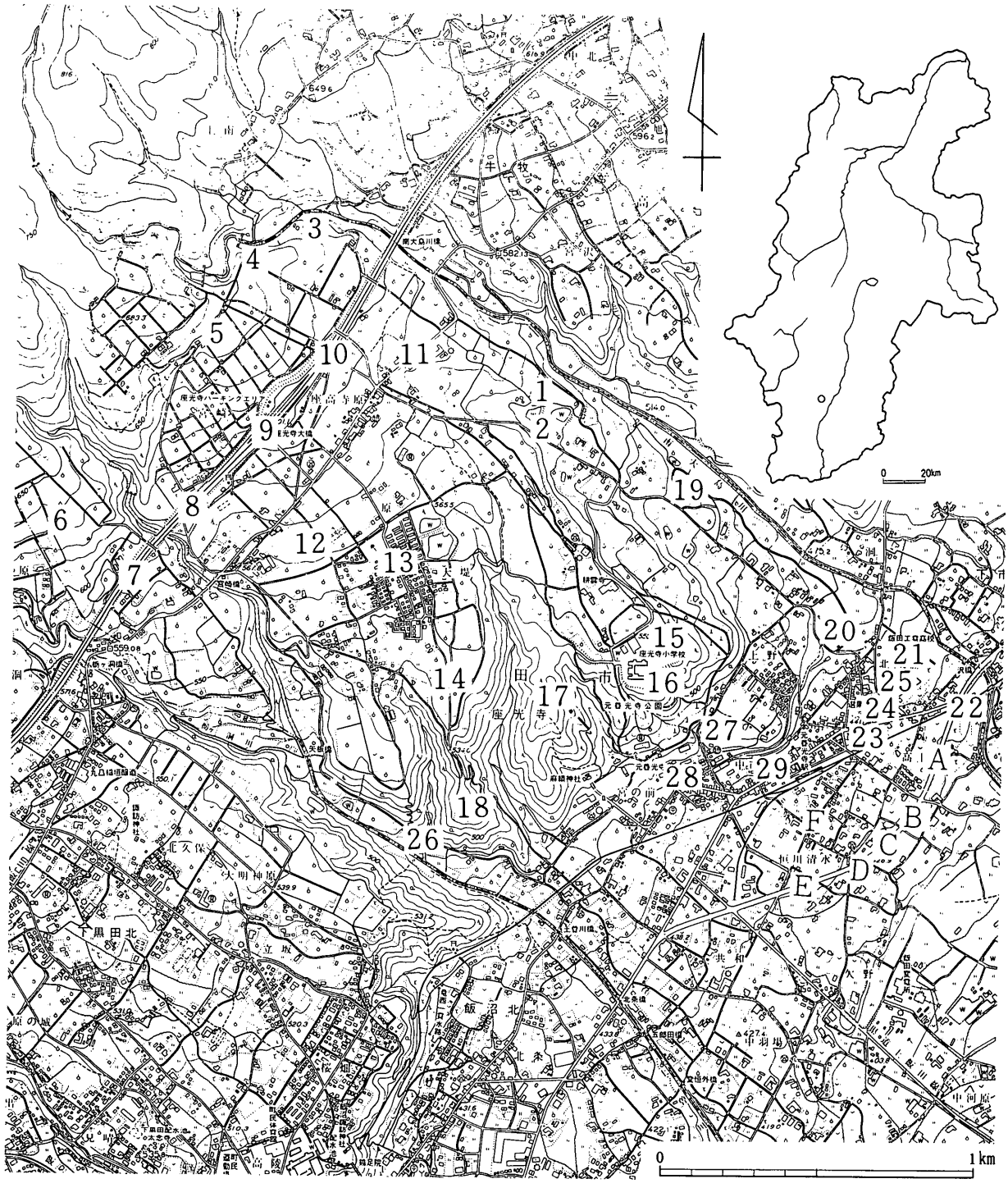
古墳時代前期においては、基本的に前時代にみられた集落展開が継続する。中段の半の木遺跡でも住居址１軒が調査されている。後期になると、住居址が増加し、恒川遺跡群ではほぼ全域に分布が拡大する。遺物等からみた３～４小期の変遷では、奈良時代直前には新屋敷遺跡や恒川遺跡恒川Ｂ地籍に限定的に遺構がみられることから、この時代の集落の在り方は必ずしも一様でなく、終末期にはより政治的な規制が加わった可能性が指摘されている（飯田市教委　1986)。古墳は竜丘地区・松尾地区に次いで多く築造されており、後期の古墳が多い。その分布は集落の外縁の、高岡第１号古墳を中心とする北部の扇状地扇頂付近および恒川遺跡群東側の段丘崖上等にみられ、集落域・生産域とは分化された姿がある。これまで調査された古墳は新井原12号古墳（1922年・1980年調査、飯田市教委　1986）をはじめとする新井原古墳群、畦地１号古墳（1923年他調査)、北本城古墳（1981年調査)、壱丈藪３号古墳（1984年調査)、高岡３号・４号古墳（飯田市教委　1990)・ナギジリ１号古墳（1997年調査）等がある。新井原12号古墳では４号土坑から馬具・馬骨が出土し、12号墳に副葬されたと考えられる。新井原２号古墳では鹿の線刻画のある埴輪片が出土した他、周溝内部から馬を副葬した土坑３基が見つかっている。畦地１号古墳では銀製垂飾付長鎖式耳飾が出土している。北本城古墳は上段の段丘の縁に占地する。前方後方墳ではないかとされる古墳で、こうした墳形は飯田下伊那地方では他に長野県史跡代田山狐塚古墳があるだけである。濃尾地方の前方後方墳との関連が指摘されている。壱丈藪３号古墳やナギジリ１号古墳は、副葬品に後期古墳に特徴的とされる馬具類が多く、追葬の結果複数組の金環がある。

奈良時代には信濃国伊那郡に含まれ、恒川遺跡群はかねてより古代「伊那郡衙」ないしは『三代実録』にみられる定額の寂光寺の有力な比定地とされてきた。昭和51年度から実施された一般国道153号座光寺バイパス建設に先立つ恒川遺跡群発掘調査の結果、大型掘立柱建物址群や硯・鉄鈴・和同開珎銀銭等の官衙的遺構・遺物が多数発見されている（飯田市教委　1986)。そして、昭和57年度から飯田市教育

委員会が継続実施している範囲確認調査の中で、古代「伊那郡衙」が追究されてきた。その結果、平成6年度の調査で正倉となる大型の掘立柱建物址が調査され、なお郡衙の中心部は不明であるものの、具体的地点をあげて推定される段階に至った。同時に遺跡群内の各地点が果たした役割が遺構分布状況から描出されてきている。さらに平成7・8年度の薬師垣外地籍の調査では、区画の溝内部から古瓦が出土し、郡家ないし寺院が付近に存在する可能性が指摘されている。また、バイパス周辺の諸開発に先立つ緊急調査の結果、田中・倉垣外地籍、新屋敷地籍周辺の遺構分布が明らかにされつつある（飯田市教育委員会　1988・1991ａ・1991ｂ)。この時代には金井原瓦窯址で瓦生産が行なわれ、半地下無段式窖窯1基と工房址2棟が調査されている（宮澤　1953・54、飯田市教委　1996)。西三河北野系の影響を受けているとされ、高森町古瀬遺跡からも同范の瓦が出土している。また、前述の恒川遺跡群薬師垣外地籍の他、如来寺境内・古瀬平遺跡・石行遺跡からも古瓦が出土している。

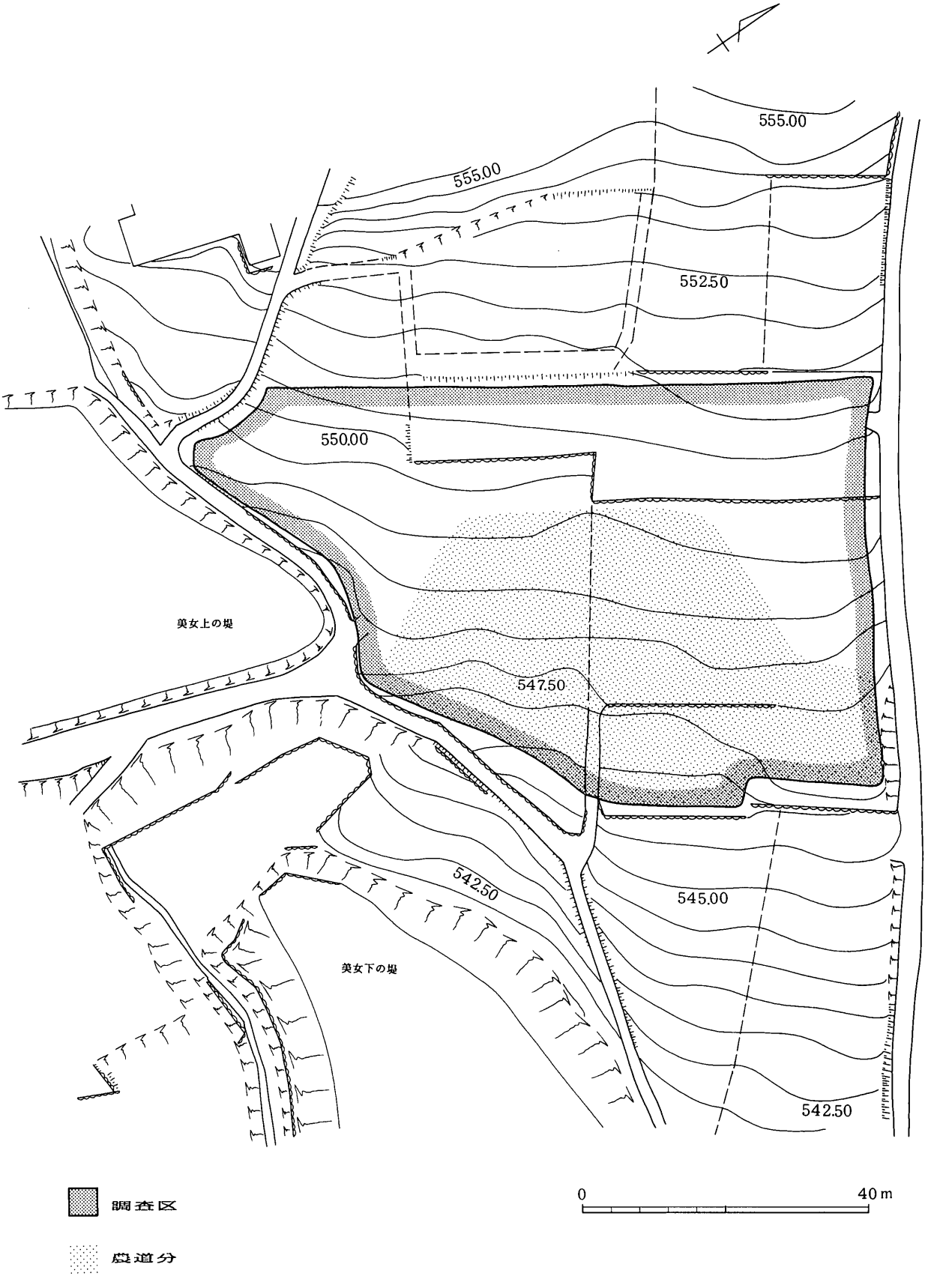
平安時代から中世にかけては、恒川遺跡群を中心に住居址・建物址・溝址・土葬墓・火葬墓等が調査されている。恒川遺跡群では、平安時代前期には前時代の名残りとして官衙的な遺構・遺物があるが、中期以降一般集落に変貌していく。こうした中で小鍛冶遺構を伴なう住居址が多いことから、前代の郡衙との関わりが指摘されている。新井原遺跡では灰釉陶器蔵骨器を伴なう火葬墓1基が調査されている他、中世には石行遺跡では土葬墓・火葬墓が多くあり、古墳時代以降連続してこの辺りが墓域であった様子がうかがえる。

以上、座光寺地区の遺跡を中心に各時代を概観した。この歴史的脈絡の中で、本遺跡がどのように位置づくかは、以下本書の内容に譲る。



1．美女遺跡　2．半の木遺跡　3．大井遺跡　4．大久保遺跡　5．大門原遺跡　6．米の原遺跡
7．宮崎Ａ遺跡　8．宮崎Ｂ遺跡　9．大門原Ｂ遺跡　10．大門原Ｄ遺跡　11．井下横古墳
12．南原遺跡　13．座光寺原遺跡　14．中島遺跡　15．北本城城跡　16．北本城古墳
17．南本城城跡　18．浅間砦　19．壱丈藪３号古墳　20．畔地１号古墳　21．石行遺跡
22．新井原12号古墳　23．高岡１号古墳　24．高岡３号古墳　25．高岡４号古墳
26．ナギジリ１号古墳　27．金井原瓦窯址　28．如来寺境内　29．古瀬平遺跡
恒川遺跡群…Ａ．新井原　Ｂ．新屋敷　Ｃ．恒川Ｂ　Ｄ．恒川Ａ　Ｅ．田中・倉垣外　Ｆ．薬師垣外

挿図１　調査遺跡および周辺遺跡位置図



挿図２　調査位置および周辺地図

第Ⅲ章　調　査　結　果

第１節　調査位置・調査区の設定　（付図１・挿図６）

調査区の設定は、飯田市埋蔵文化財基準メッシュ図（以下、基準メッシュ図と略す。）に基づいて、株式会社ジャステックに委託実施した。

基準メッシュ図の区画については、１：5,000大縮尺地形図（国土基本図）の区画に準ずる（社団法人日本測量協会　1969　『国土基本図図式　同適用規定』参照)。

① 投影は、昭和43年建設省告示第3,059号に示す平面直角座標系による「横メルカトール図法」とする。

② 基準メッシュ図の１図葉は、座標系（飯田市は第Ⅷ座標系に属するので、座標系番号は省略する。）のＹ軸およびＸ軸を基準として、南北300km東西160kmを含む地域を、30km×40kmの長方形に分割して区画を定め、たとえばＬＣのようにアルファベット大文字の組合せによって区画名を表示する（挿図３)。

③ 30km×40kmの長方形区画を100等分して、３km×４kmの１：5,000図葉に相当する区画に分割する。１：5,000図はアラビア数字で区画番号を定め、座標系の区画を横線に結んだ後に続けて、たとえばＬＣ－83のように表示する（挿図４上)。

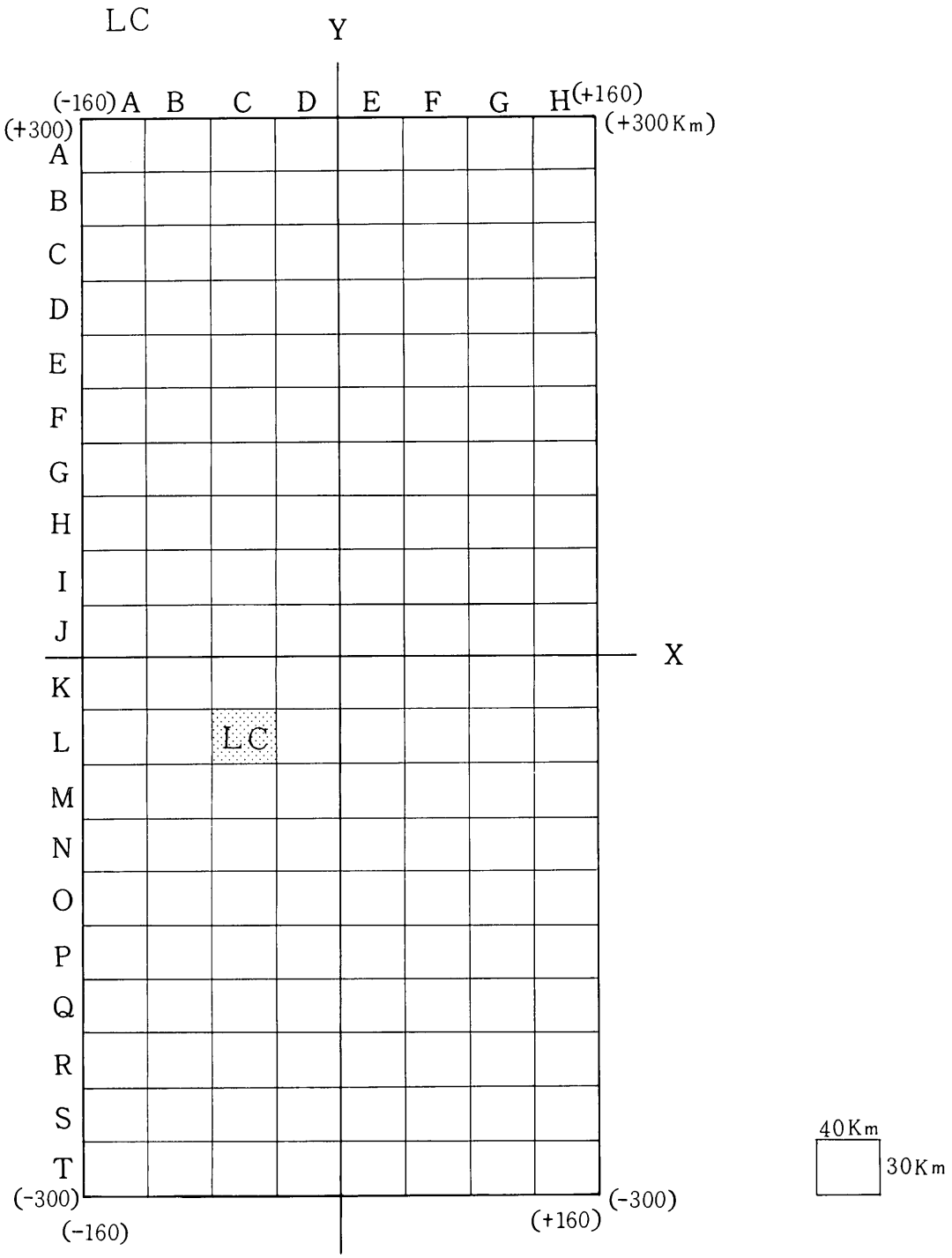
④ １：5,000図葉を25等分して0.6km×0.8kmの長方形小区画に分割する。区画番号は挿図４下のごとく定め、たとえばＬＣ－83　19のように表示する。

⑤ 0.6km×0.8kmの長方形小区画を48分して100ｍ×100ｍの正方形区画に分割する。区画番号は挿図５上のごとく定め、たとえばＬＣ－83　19－16のように表示する。今次調査では、ＬＣ－65　22－23をⅠ区、同22－24をⅡ区、同22－31をⅢ区、同22－32をⅣ区と略す。

⑥ 100ｍ×100ｍの正方形区画を2,500等分して２ｍ×２ｍの正方形小区画（グリッド）に分割する。区画の名称は、正方形区画の南から北に向かってＡＡ～ＡＹ・ＢＡ～ＢＹ、西から東に向かって０～49とし、たとえばＡＩ15のように表示する（挿図５下)。

第２節　基本層序　（挿図７・付図１）

基本層序は挿図７のとおりであり、Ⅱ層上面およびⅢ層上面で遺構を検出した。早期前半の竪穴住居址の検出面はⅡ層上面であるが、各遺構で詳述するように、Ⅲ層上面が掘り込み面である可能性が高い。



挿図３　基準メッシュ図区画方法１

LC-83

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1	10									19
2	20									29
3	30									39
4	40									49
5	50									59
6	60									69
7	70									79
8	80			83						89
9	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99

4Km

3Km

基準メッシュ図区画方法２

LC-83　19

1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20
21	22	23	24	25

0.8Km

0.6Km

基準メッシュ図区画方法３

挿図４　基準メッシュ図区画方法２・３

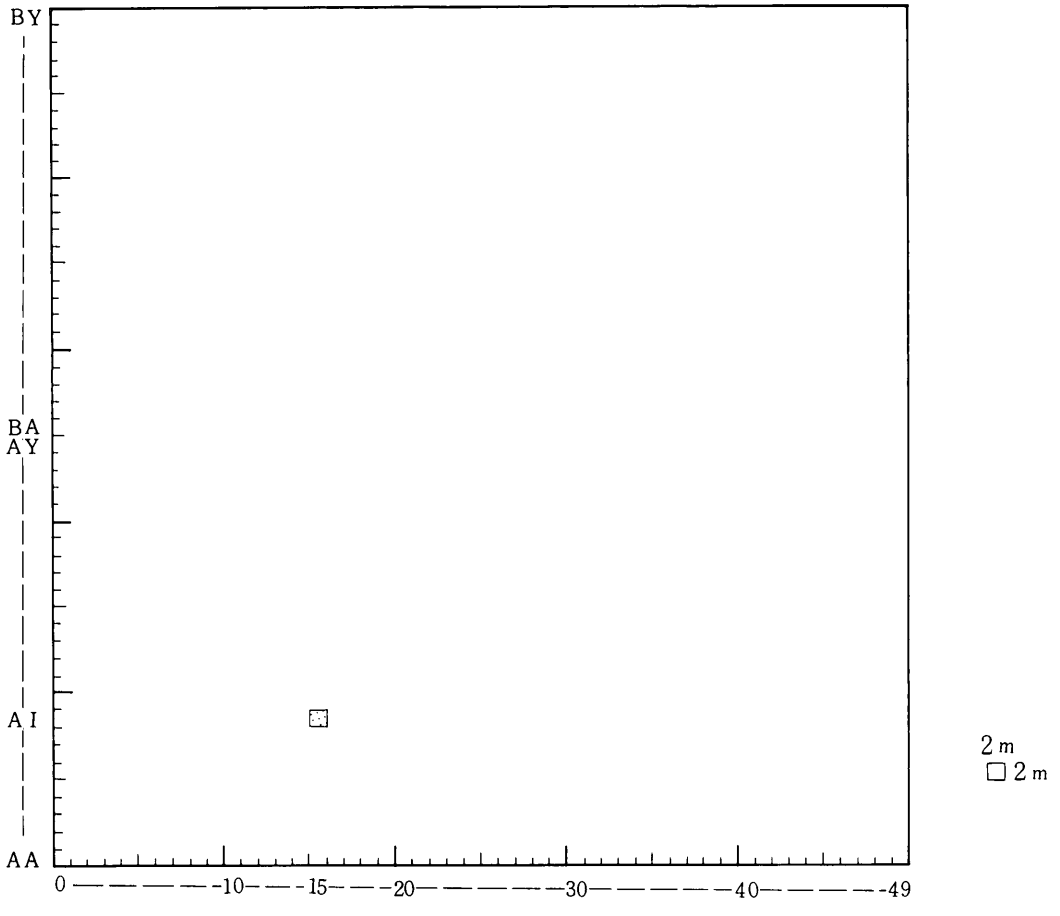
LC-83　19-16

1	2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31	32
33	34	35	36	37	38	39	40
41	42	43	44	45	46	47	48

100m
100m

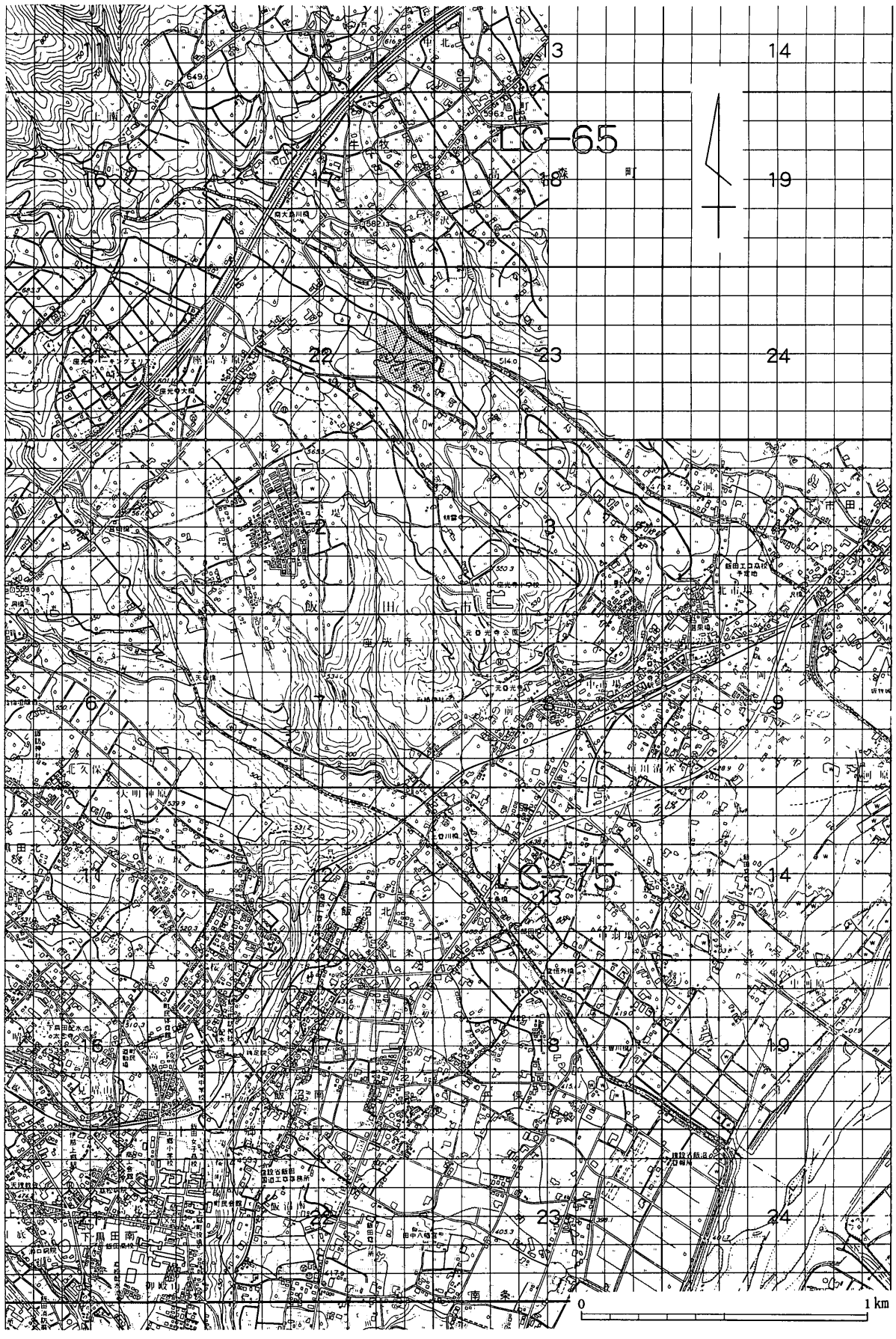
基準メッシュ図区画方法４

LC-83　19-16　AI15

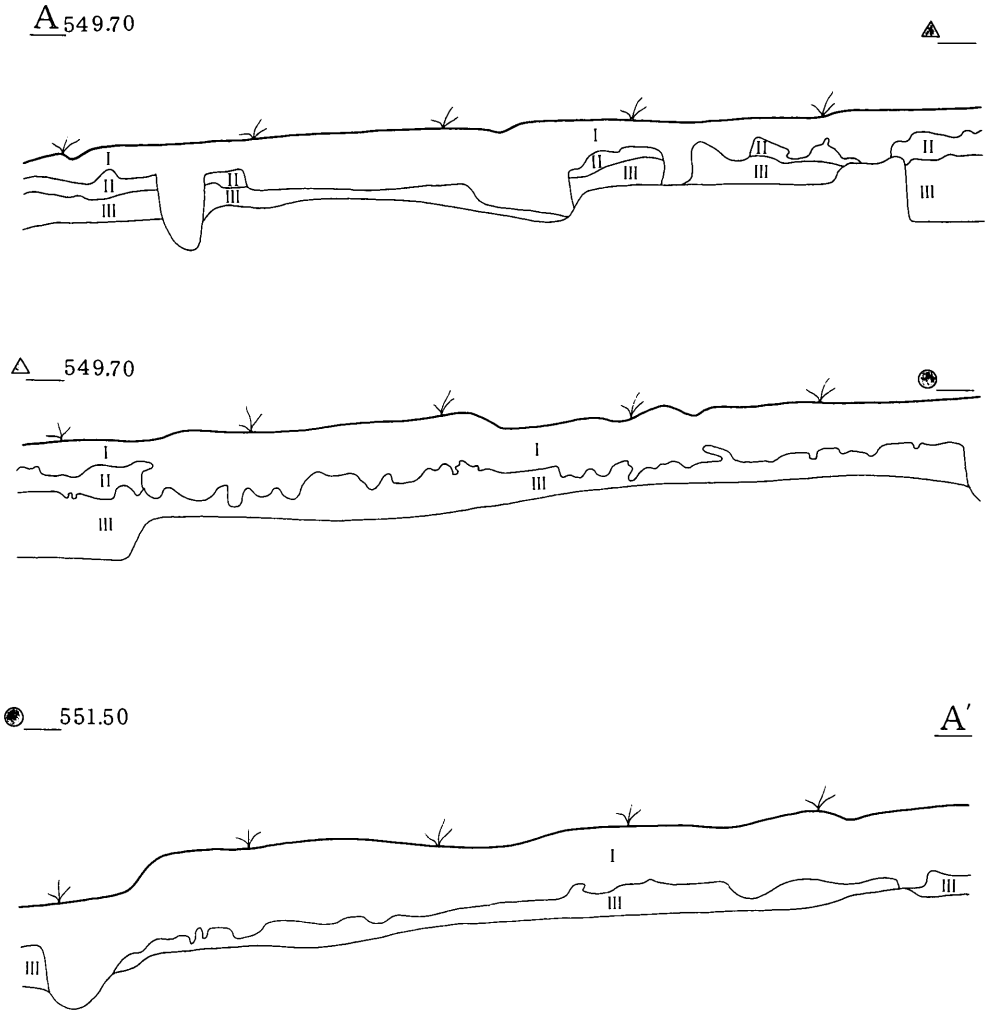


基準メッシュ図区画方法５

挿図５　基準メッシュ図区画方法４・５



挿図６　基準メッシュ図区画調査位置



挿図７　基本層序

第３節　遺構

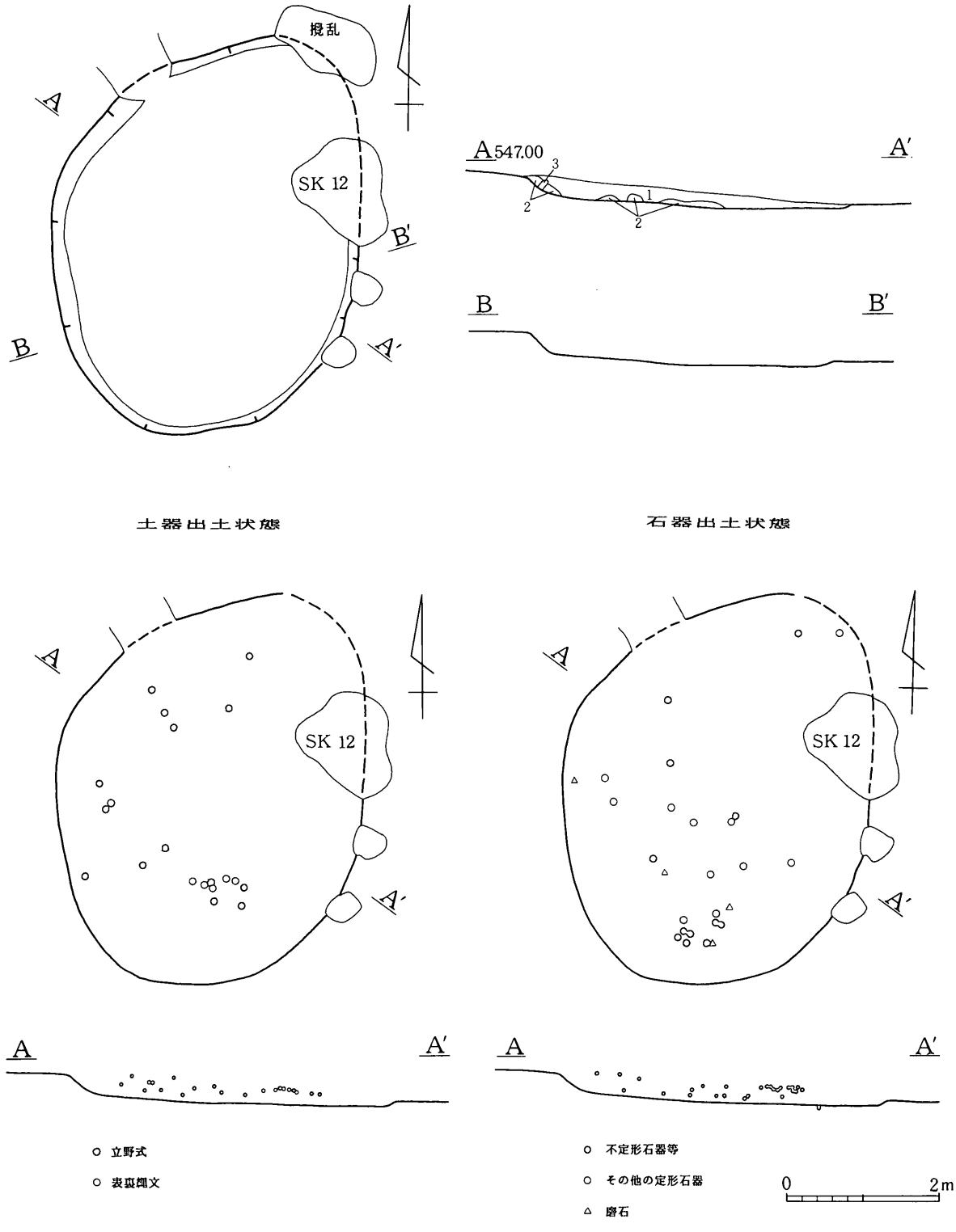
(1) 竪穴住居址

1)縄文時代早期前半

該期の竪穴住居址の出土遺物については、可能な限り層位毎・点取りを行ない取り上げた。また、ＳＢ01以外は、埋土を乾燥篩にかけ、微細遺物の検出に努めた。立野式以外の他時期の遺物出土も少なからずあることから、混入の状況についても記述する。

①ＳＢ01（挿図８）

調査区の東側、Ⅱ区ＡＣ21を中心にして検出し、全体を調査した。時期不明のＳＫ12に切られる。北東側は北壁と連続して落ち込みが確認され、名称は付さなかったが本址を切る土坑状の遺構と考えられる。長芋栽培に伴なう撹乱が著しい。規模5.6×4.1m、床面積（14.3）㎡の不整楕円形の竪穴住居址で、長軸方向はN40°Wを示す。


撹乱
SK 12
A
A'
B
B'
A547.00
1
2
3
土器出土状態
石器出土状態
○ 立野式
○ 表裏縄文
○ 不定形石器等
○ その他の定形石器
△ 磨石
0
2m

挿図8　ＳＢ01

底面は全体に硬く明瞭であったが、底面よりやや浮いて礫３個が認められたことや、後述の遺物の出土状況から、貼床された床面を確認できずに掘り方部分を把握した可能性がある。壁高は５～20cmを測り、きわめて緩やかな壁面をなす。主柱穴・柱穴・炉址等は確認できなかった。礫３個のうち南側の１個は台石と考えられる。

遺物の出土は、本址中央部の上層から遺構検出面を主体に認められ、特に東側では検出面での出土が多い。２層および床面上の遺物はほとんど確認されなかった。表裏縄文土器がやや南側にまとまるが、立野式土器との分布差はないようで、レベル差もない。石器は主に南側に集中しており、壁際に寄った位置に磨石類が、その内側に削器・石錐が分布する。

出土遺物から、表裏縄文土器の終末期から立野式土器の初現期に位置づけられる。　　（山下誠一）

②ＳＢ08（挿図９）

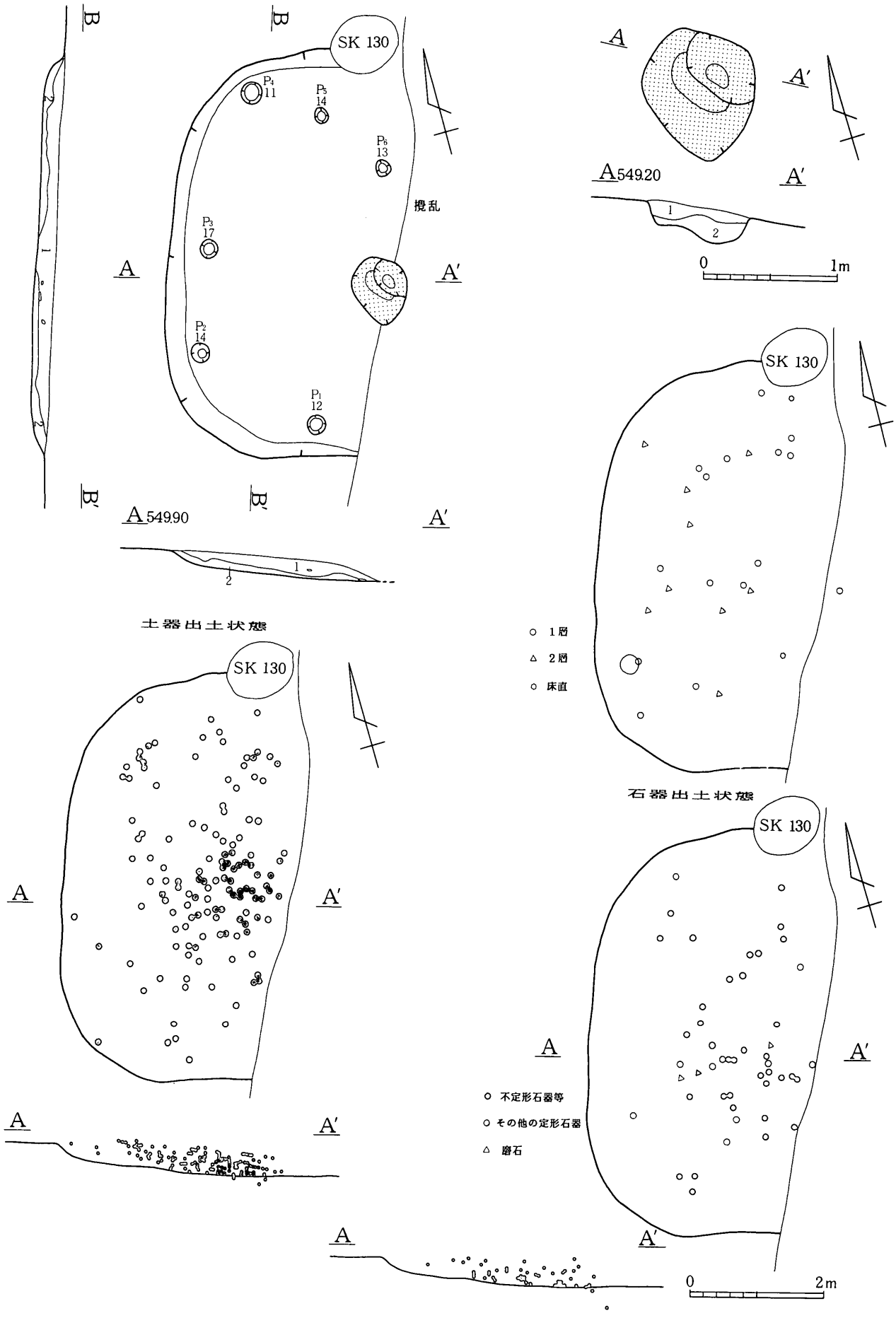
調査区の北側、Ⅱ区ＡＭ７を中心にⅡ層上面で検出された。後述の壁の検出状況から、掘り込み面はⅢ層上面の可能性がある。東側半分は耕地の造成に際して削平され、この部分では炉址以外は調査できなかった。時期不明の土坑ＳＫ130に切られる。規模は南北方向で6.0ｍを測り、不整円形ないし楕円形を呈すると考えられる。

埋土の１層ばかりでなく２層からも他時期の遺物の混入が多い（挿図９）。層位別の混入数（混入率）は、１層15点（24.2%）・２層９点（14.3%）・床直２点（9.1%）・全体で40点（21.1%）と高率である。ＳＢ20を除く他の立野式期の住居址での混入率が５%前後であることを考えると、際だっている。壁際から40～80cmほど内側全面に散在して分布している。本址と重複する土坑群があった可能性もあるが、遺物が散在して分布することからすれば自然堆積により埋没した可能性が高い。若干の前期後葉の土器が混入する以外は、早期後葉～前期初頭のものが多いことから、相当長期間埋まらずに凹地状を呈していたことが考えられる。周辺にＳＫ116・ＳＫ122～ＳＫ125・ＳＫ127・ＳＫ195・ＳＫ266・ＳＫ267といった他時期の遺構が集中することから、こうした遺構に関連する遺物が流れ込んだと考えられる。一方で、ＳＫ128・ＳＫ271を除くと、早期前半の遺構は周辺にはみられないことから、本址出土の立野式土器は外部からの流れ込みはないと判断した。埋土中に若干の礫が浮いた状態で含まれる以外、焼土・炭化物は検出されなかった。

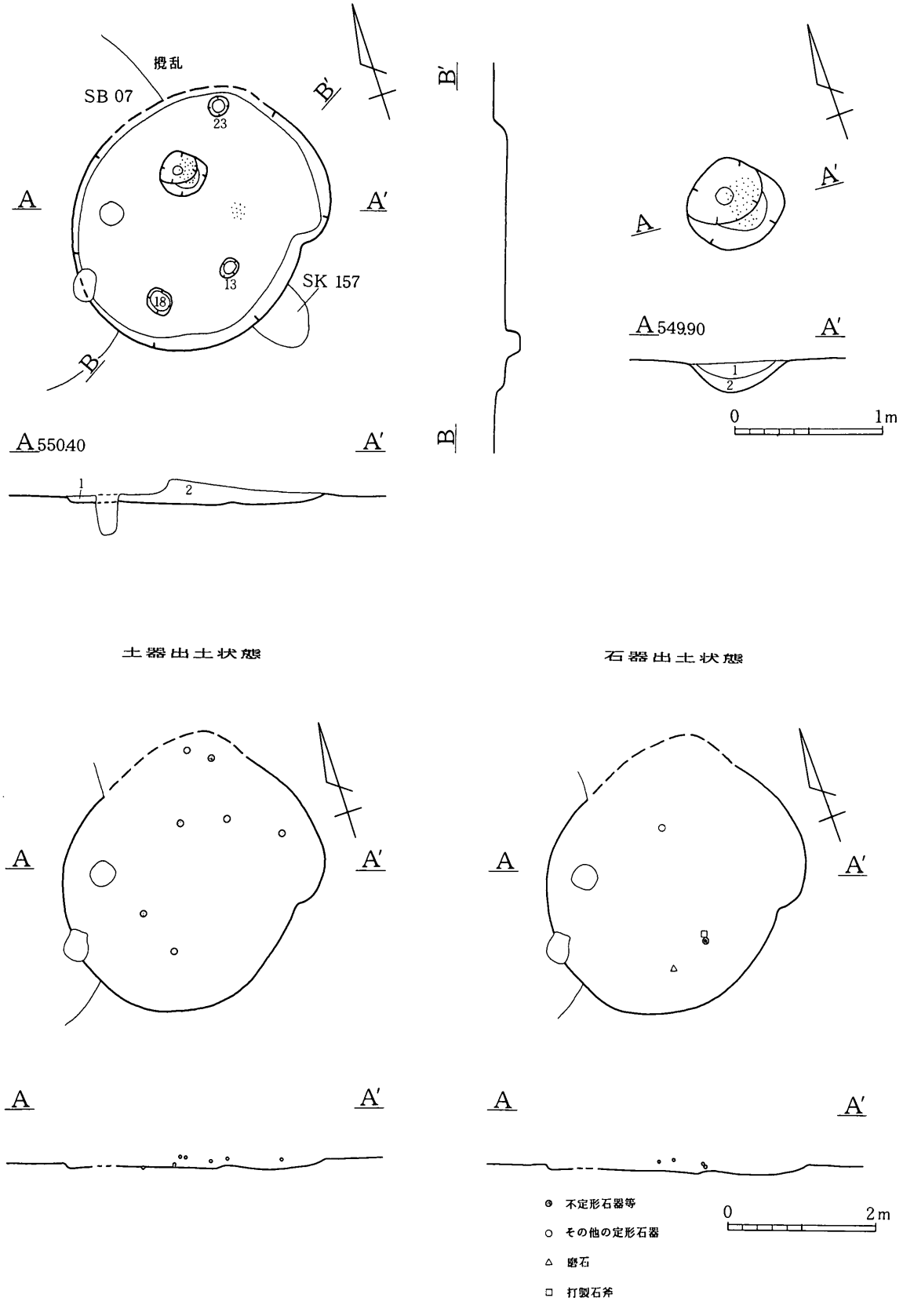
床面は全体にやや硬く明瞭に検出でき、貼床はない。壁面は下半が明確で、壁高20～30cmを測り、緩やかに立ち上がる。柱穴は壁下のＰ１～Ｐ４と、やや内部のＰ５・Ｐ６があり、径20～30cm・深さ11～17cmと、深い掘り込みをもつものはない。柱痕は確認できなかった。周溝は確認されていない。炉址は中央やや南側に寄った位置に設けられ、東側が一段低くくぼむ。内部に焼けた礫２個があった。炉以外の施設はなく、増改築の痕跡もない。

遺物の出土は、中央付近を中心としており、Ｐ４・Ｐ５・Ｐ６周辺にも若干の集中がみられる。断面に投影した結果では、検出面から床面まで満遍なく出土している。石器は磨石類・削器・石鏃が炉の周囲に集中するようにみえるが、やはり床面から浮いた状態のものが多い。埋土中出土で樋沢式土器がある。

出土遺物から、本址は縄文時代早期前半の立野式期に比定される。


SK 130
P4 11
P5 14
P6 13
P3 17
P2 14
P1 12
撹乱
A
A′
B
B′
A549.90
A549.20
1
2
0
1m
土器出土状態
石器出土状態
○ 1層
△ 2層
○ 床直
○ 不定形石器等
○ その他の定形石器
△ 磨石
0
2m

挿図9　ＳＢ08


撹乱
SB 07
23
13
18
SK 157
A
A′
B
B′
A550.40
1
2
A549.90
0
1m
土器出土状態
石器出土状態
0
2m
不定形石器等
その他の定形石器
磨石
打製石斧

挿図10　ＳＢ11

③ＳＢ11（挿図10）

調査区の北側、Ⅱ区ＡＰ４を中心にⅢ層上面で検出された。本址付近ではⅡ層の堆積はなく、あってもごく薄いため、Ⅲ層上面での確認となった。北壁の一部を撹乱により壊される。時期不明の土坑ＳＫ157を切り、ＳＢ07に切られる。規模5.7×5.2m、床面積7.7㎡を測り、不整楕円形を呈する。長軸方向はN68°Ｅを示す。

埋土の状況から、自然堆積により埋没したと考えられる。埋土中に礫・焼土・炭化物はない。

床面は全体に軟弱であったが、明確に検出できた。貼床はない。壁面はしっかりしており、壁高20cmほどの緩やかに立ち上がりを示す。柱穴は壁下の炉を挟む位置に検出されたものと、やや内部に掘り込まれた浅いものの３本があり、柱痕は確認できなかった。周溝はない。炉址は床面で検出され、中央より北壁に寄った位置に設けられている。北側が一段低くくぼむ。炉の南東側床面に焼土があった。炉址以外の施設・増改築の痕跡等はない。

遺物の出土は少なく、点取り遺物は１層および床面直上からの出土である。

出土遺物から、本址は縄文時代早期前半の立野式期に比定される。

④ＳＢ14（挿図11）

調査区の北側、Ⅱ区ＡＫ１を中心にⅡ層上面で検出された。壁の上半がはっきりしないという検出状況から、掘り込み面はⅢ層上面の可能性がある。規模4.2×3.8m、床面積9.0㎡を測り、不整円形を呈する。ＳＢ09・ＳＢ12に切られる。

埋土はいわゆるレンズ状に堆積している。埋土２層を中心に１層からも他時期（早期末葉～前期前葉）の遺物が出土している（挿図11）。層位別の混入数（混入率）は、１層３点（9.1%）・２層11点（5.8%）・全体で14点（5.2%）である。壁際から30～170cmほど内側で傾斜の下側に集中する傾向があり、自然堆積により埋没したと考えられる。埋土中の礫は中央から東壁にかけての位置に10～30cm程度の大きさのものが、また、床面上では、台石の北側から10～20cm程度の礫が集中して出ている。埋土中の焼土や炭化物は確認されていない。

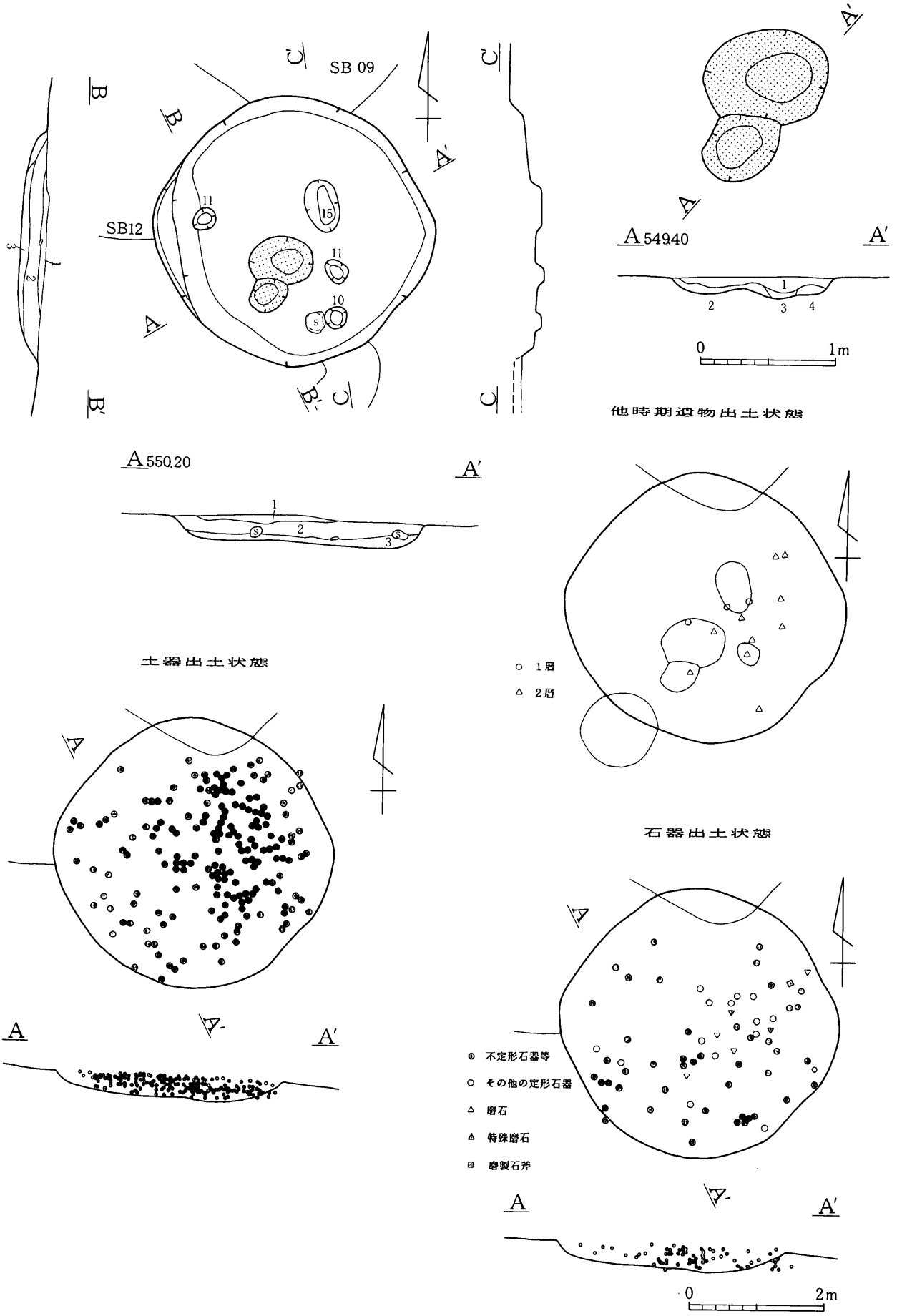
床面は明瞭に把握でき、中央部分は硬い床面が検出された。壁面は明確で、壁高20～25cmを測り、緩やかに立ち上がる。柱穴は壁下と炉址の脇に３本検出され、径約30cm・深さ10cm程度と、いずれも浅い深い掘り込みである。いずれも柱痕は確認できなかった。周溝は確認されていない。炉址は中央やや南西側に寄った位置に設けられ、床面で検出された。両側に焼土の入った穴がある。南側壁寄りには台石が置かれる。増改築の痕跡等はない。

遺物の出土は、炉址の東側と台石の周囲に集中している。２層からの出土が多いが、断面投影では２層下部を中心にそれより上位から多く出土している。石器では、炉の北側に削器が集中する。

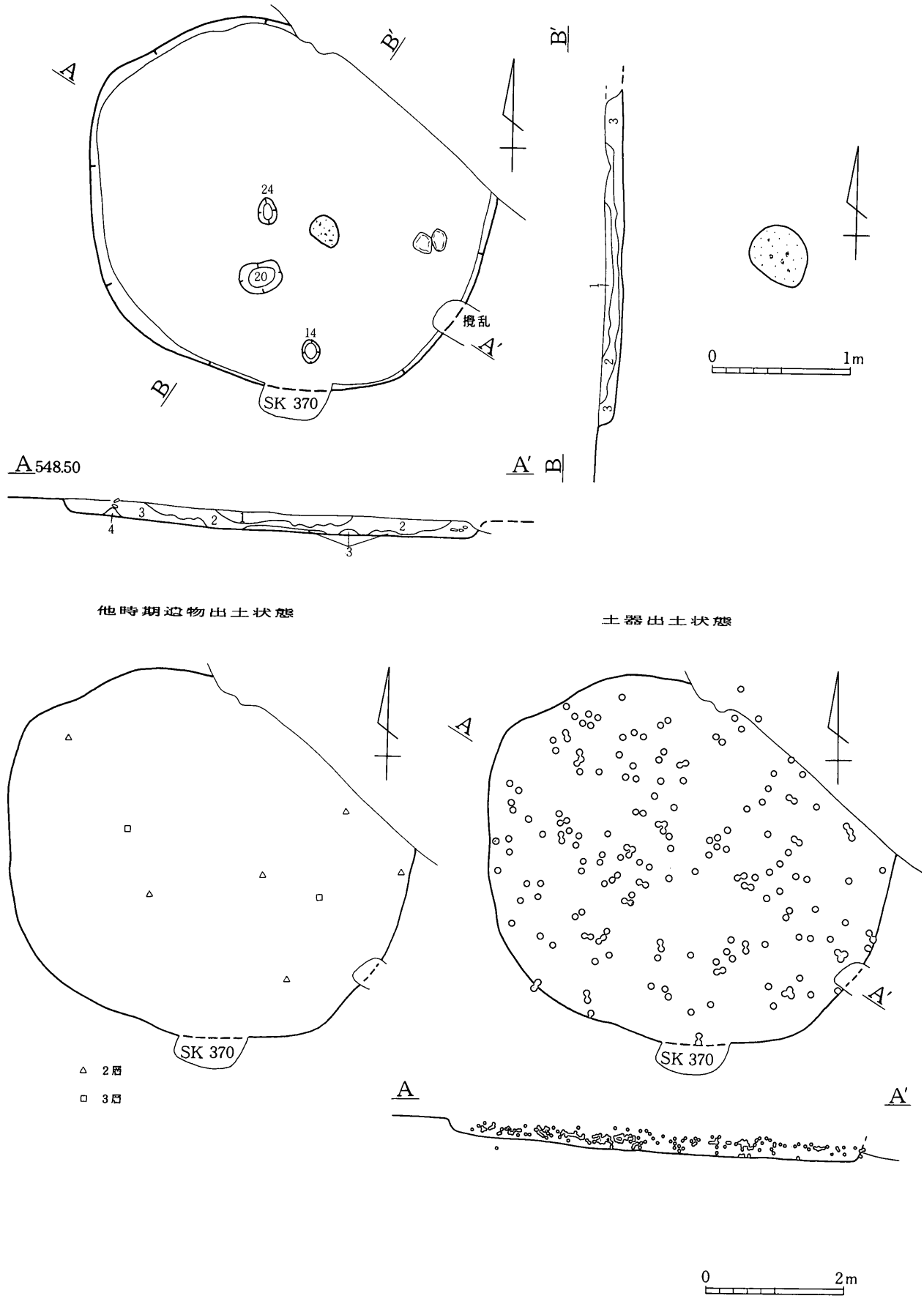
出土遺物から、本址は縄文時代早期前半の立野式期に比定される。

⑤ＳＢ18（挿図12・13）

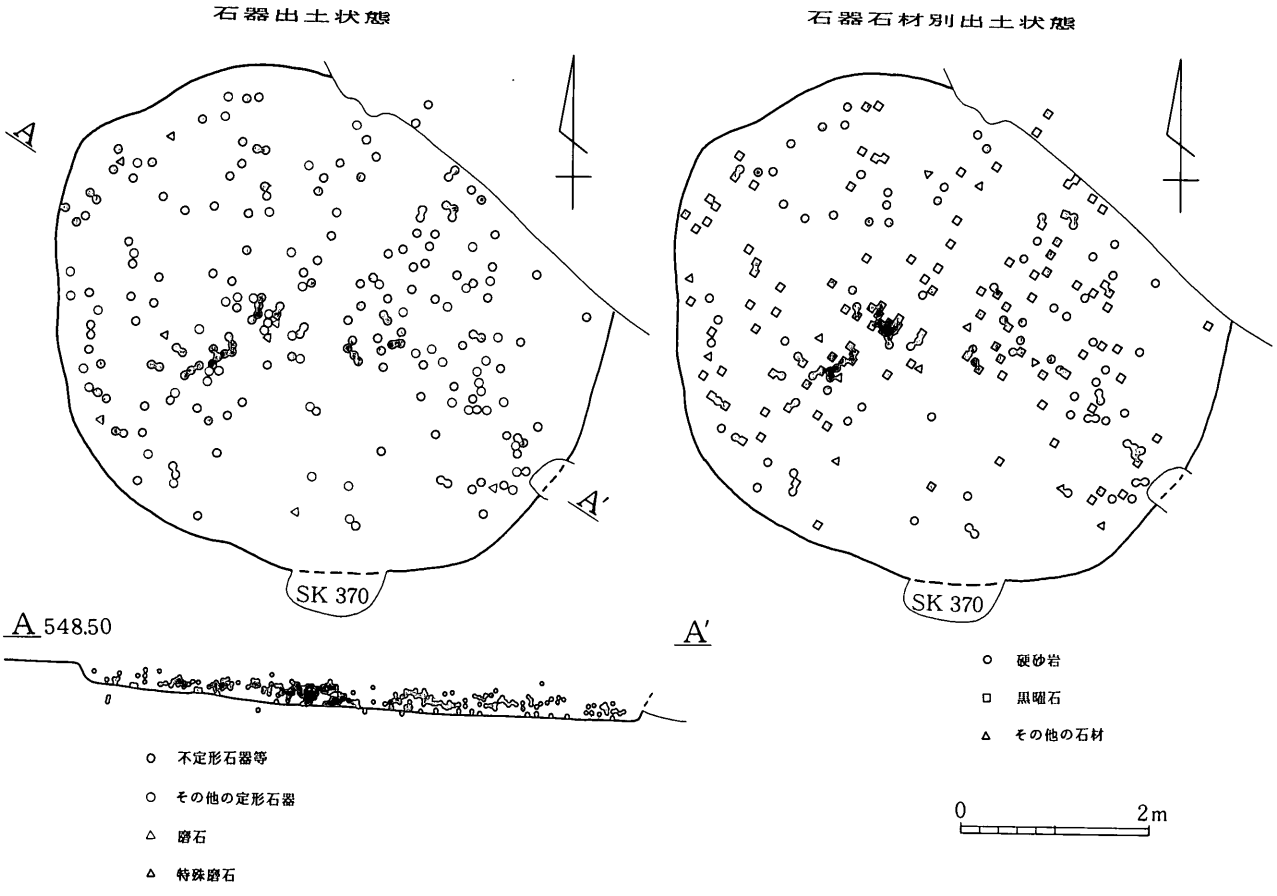
調査区の中央、Ⅱ区ＡＢ３を中心にⅡ層上面で検出された。壁の上半がはっきりしないという検出状


SB 09
SB12
A 550.20
A 549.40
他時期遺物出土状態
土器出土状態
石器出土状態
1層
2層
不定形石器等
その他の定形石器
磨石
特殊磨石
磨製石斧
0
1m
2m

挿図11　ＳＢ14


A
B'
B
A'
24
20
14
撹乱
SK 370
A 548.50
4
3
2
1
2
3
0
1m
他時期遺物出土状態
土器出土状態
△ 2層
□ 3層
0
2m

挿図12　ＳＢ18



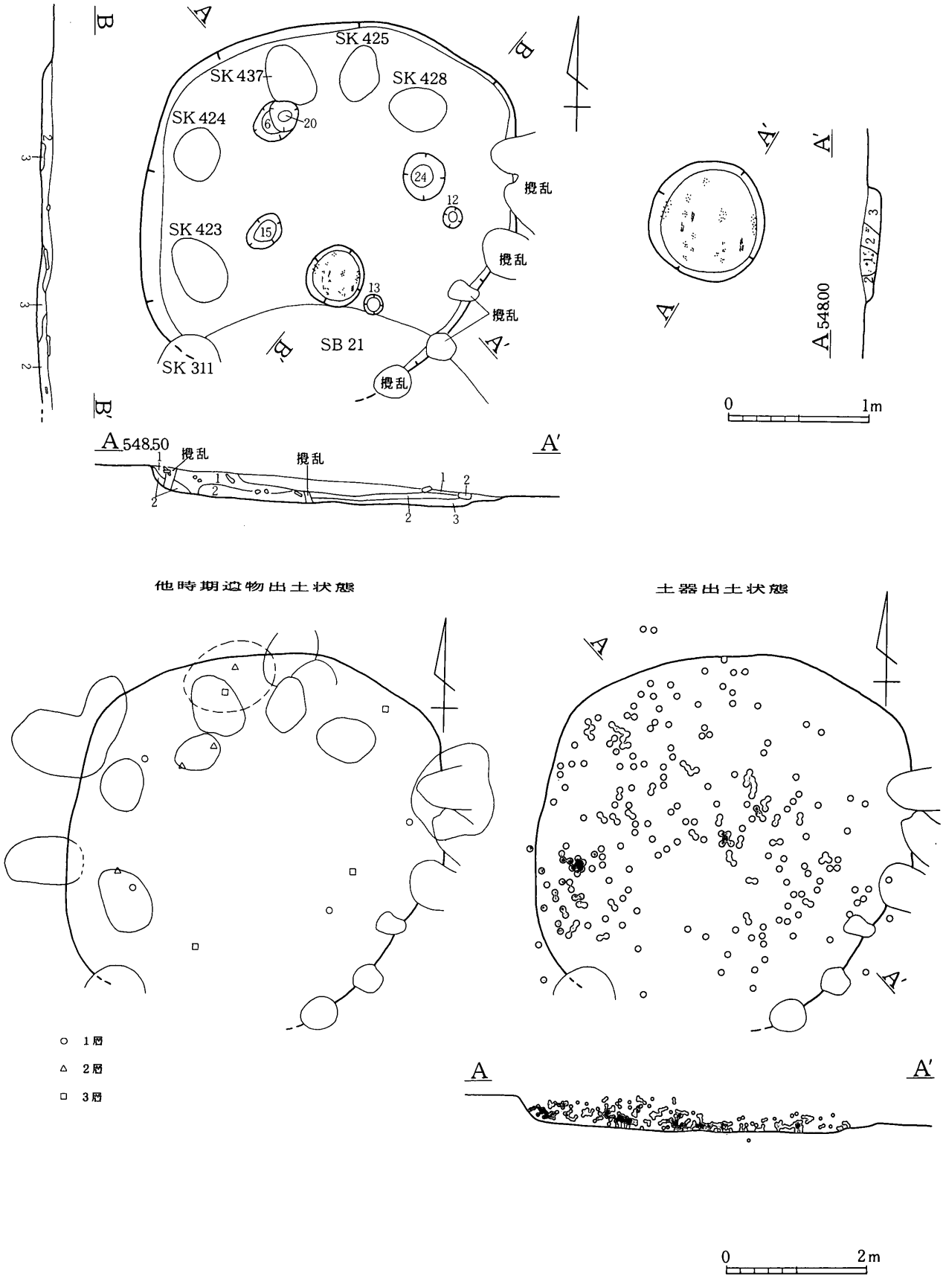
挿図13　ＳＢ18

況から、掘り込み面はⅢ層上面の可能性がある。北東側は、作業の効率化を図るため調査区を分割調査した結果、プランを把握できずに終わっている。この部分は基本層序にかかるが、やはり把握されておらず、掘り込み面は確認されていない。また、これに連続する北東壁部分は、撹乱のため不明瞭である。ＳＢ24を切る。規模6.0×5.0m、床面積（22.5）㎡を測り、不整楕円形を呈する。長軸方向はN58°Ｗを示す。

埋土は１～３層に分層され、いわゆるレンズ状の堆積で、自然堆積により埋没したと考えられる。他時期の遺物の混入が比較的少ない（挿図12）。層位別の混入数（混入率）は、２層６点（4.7％）・３層２点（5.6％）・全体で22点（6.6％）である。南西側は空白部になっており、やや傾斜の下側に集中する傾向がある。早期後葉～前期前葉のものが多い。埋土中の礫は、北西壁寄り・中央・南東壁寄りに集中がみられ、この順にだんだん深い位置からの出土となる。また、埋土中の焼土や炭化物は確認されていない。

床面は全体的に軟弱であるが、ブロック状に硬い部分がある。貼床はなかった。壁面は下半が明確で、壁高20～30cmを測り、緩やかに立ち上がる。柱穴は住居址の中央から南壁下にかけて３本検出され、中央の穴は60×40cmと大きいのに対し、他の２つは小型の穴である。柱痕は確認できなかった。周溝は確認されていない。炉址は中央やや南東側の床面で検出され、地床炉である。東側壁寄りには石皿および台石が置かれる。炉以外の施設はなく、増改築の痕跡もない。

遺物は、ほぼ全面に出土しており、２層中からの出土が多い。石器は、石鏃が炉の周囲と西壁際に、石錐が炉の周囲、削器は炉や石皿・台石の周囲、磨石類・石核類は壁際に集中するようにみえる。石器


SK 425
SK 437
SK 428
SK 424
SK 423
SK 311
SB 21
撹乱
A 548.50
A 548.00
0 1m
他時期遺物出土状態
土器出土状態
1層
2層
3層
0 2m

挿図14　ＳＢ19

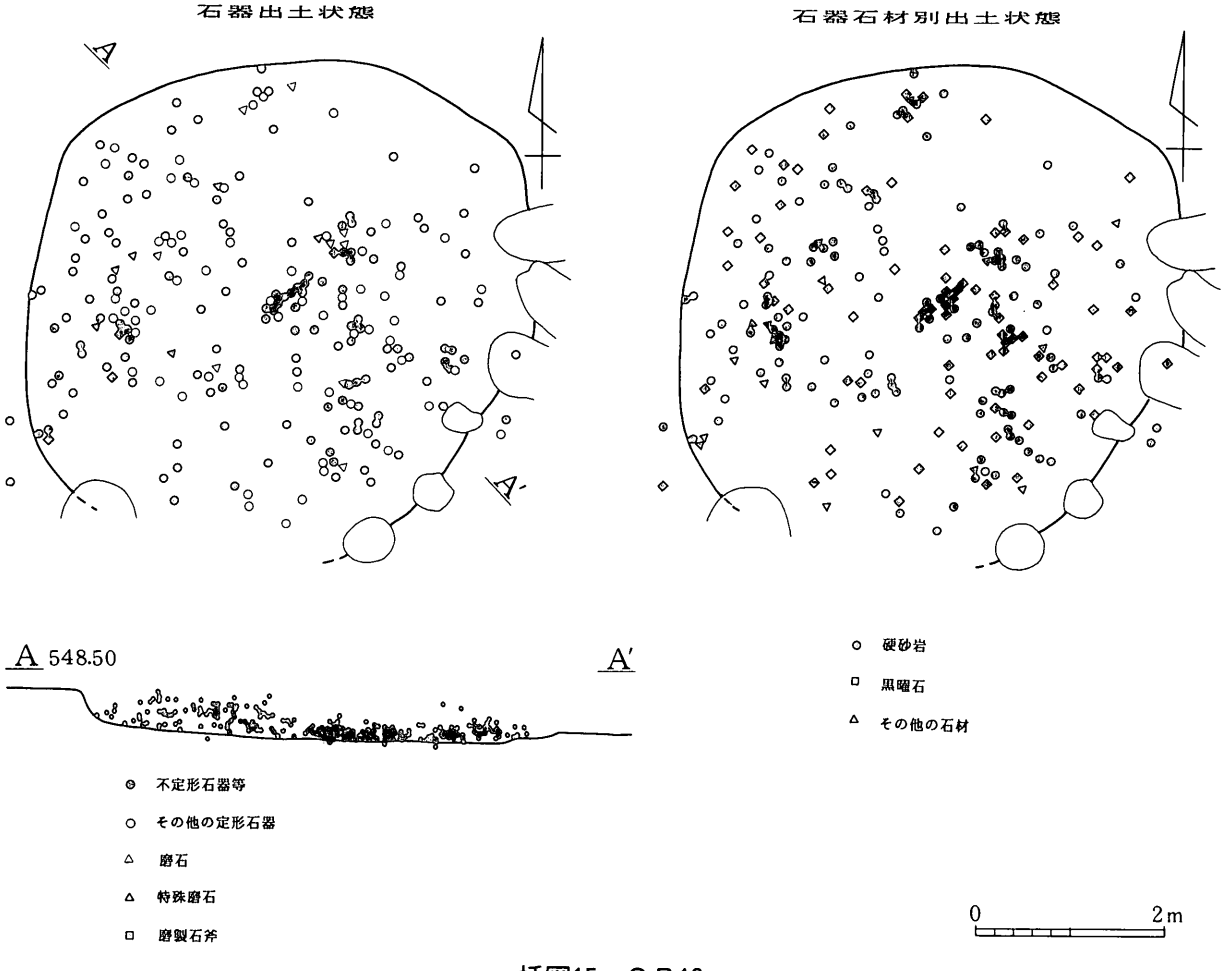
の石材別分布の顕著な偏りはみられない。

本址は縄文時代早期前半の立野式期に比定される。

⑥ＳＢ19（挿図14・15）

調査区の中央、Ⅳ区ＢＸ５を中心にⅡ層上面で検出された。他の該期の住居址と同様、壁の上半がはっきりしないという検出状況から、掘り込み面はⅢ層上面の可能性がある。本址の中央部は試掘調査のトレンチにかかり、南壁は削平して確認できなかった。本址の東半は長芋栽培に伴なう撹乱が著しく、一部は床面よりも下位まで及んでいた。ＳＢ21のプランが外側の場合重複関係にあるが、上述の試掘トレンチのため新旧関係の把握は困難であった。ＳＫ423～ＳＫ425・ＳＫ428・ＳＫ437は本址の床面で確認されたが、ＳＫ423・ＳＫ437は本址よりも新しい時期の土坑と考えられる。ＳＫ424・ＳＫ425・ＳＫ428については別遺構としたが、若干の焼土を含んでおり、本址に伴なう可能性がある。また、ＳＩ24に切られる。規模（5.7）×5.2m、床面積20.7㎡を測り、不整楕円形を呈する。長軸方向はN51.5°Ｅを示す。

埋土は１～３層に分層され、いわゆるレンズ状の堆積で、他の住居址と同様自然堆積により埋没したと考えられる。他時期の遺物の混入が比較的少ない（挿図14）。層位別の混入数（混入率）は、１層４



挿図15　ＳＢ19

点（11.8%）・２層４点（4.7%）・３層４点（3.8%）・全体で20点（6.4%）である。混入遺物の分布は撹乱部分のものと、ＳＫ423・ＳＫ437と重複する遺物がある。早期末葉～前期後葉の混入遺物がある。中央部を中心に床面より浮いた状態で、10～30cm程度の小礫が100個近くが確認された。埋土中の焼土・炭化物は確認されていない。

床面は中央部を中心に全体にしっかりしており、明瞭に検出された。貼床はない。壁面の立ち上がりが把握された部分は北西側のみで、他は撹乱および試掘トレンチのため不明瞭である。壁高10～35cmを測り、緩やかに立ち上がる。柱穴は壁から50～130cm離れて５個検出された。径約25cm、深さ15cm程度の小型の穴と、これより規模の大きな穴がある。ＳＫ437と重複する柱穴はだらだらと掘り込まれている。いずれも柱痕は確認できなかった。周溝はない。炉址は中央やや南側の床面で検出された。断面でもはっきりした掘り方がなく、地床炉と考えられる。炉以外の施設はなく、増改築の痕跡もない。

遺物は２・３層中からの出土が多い。土器は、西壁に寄った部分と中央やや東寄りに分布の密な部分があり、11個体の接合関係がある。石器は、土器に比べると分散しており、ほぼ全体から出土している。器種毎の分布の偏りはないようである。また、石器の石材についても同様である。

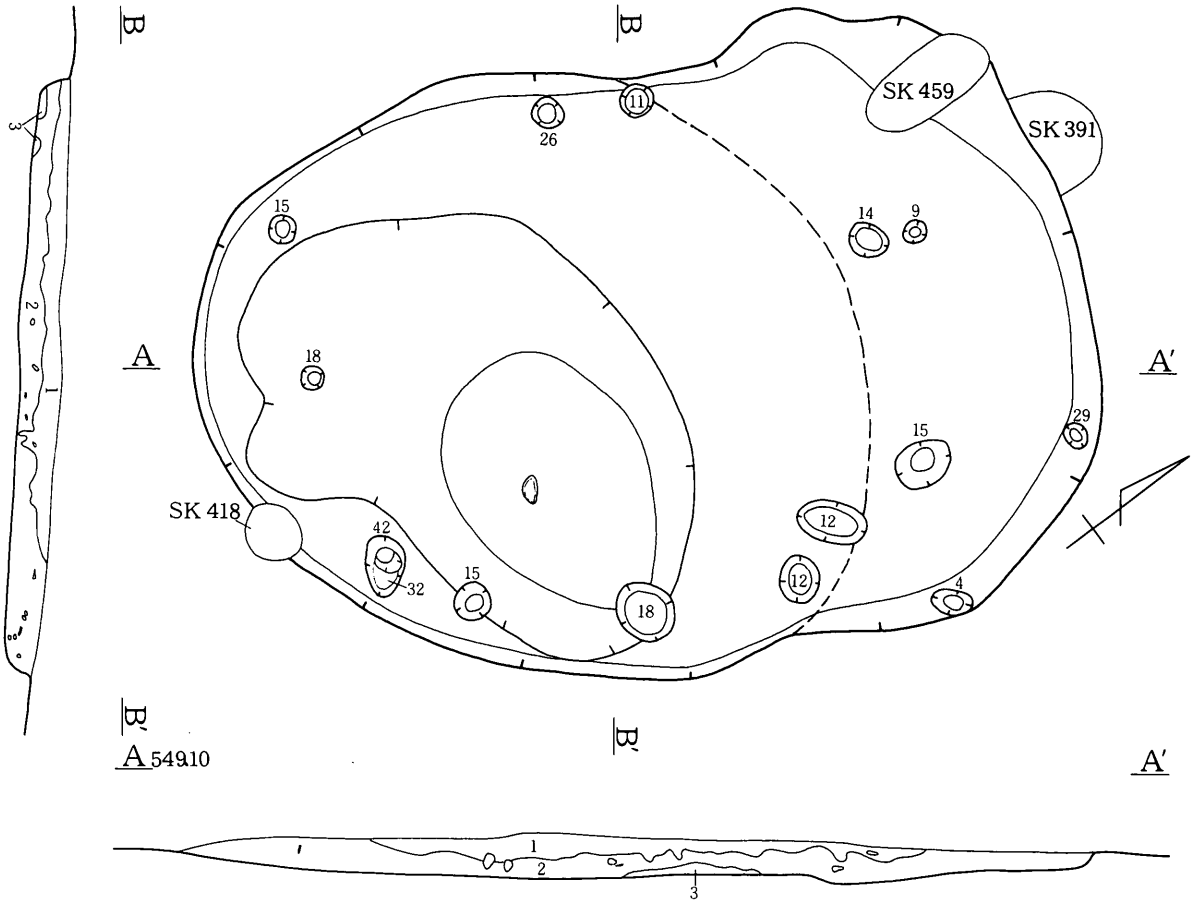
出土遺物から、本址は縄文時代早期前半の立野式期に比定される。

⑦ＳＢ20（挿図16・17）

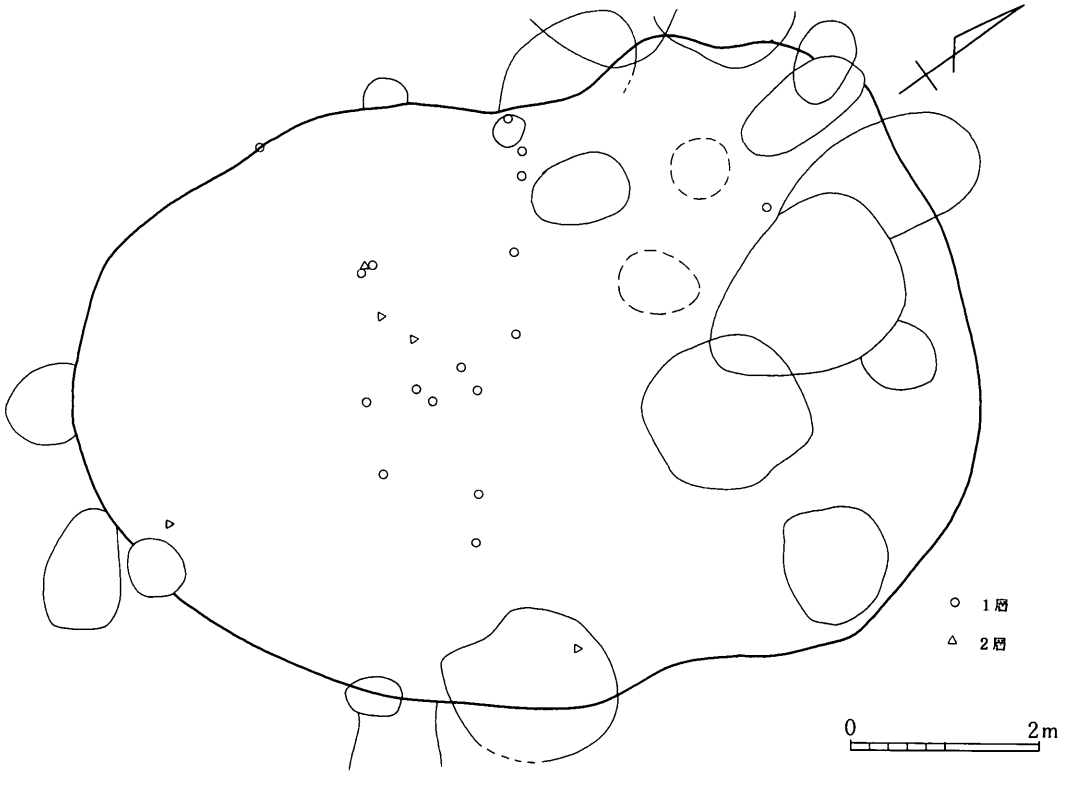
調査区の中央、Ⅲ区ＢＸ49・Ⅳ区ＢＸ０を中心にⅡ層上面で検出された。他の該期の住居址と同様、壁の上半がはっきりしないという検出状況から、掘り込み面はⅢ層上面の可能性がある。不整形を呈することから２軒の重複を１軒とした可能性が高い。調査時には南側が一段低くくぼんでおり、重複部分でその上部からは床面が確認されていないこと、検出時よりも北側に掘り広がっていることから、南側が新しいと判断した。しかし、南半中央やや東側で出土した石皿は、床面より15cm浮いた位置にある。北半のプランから想定される壁際にあたり、高さも北半の床面と一致することから、新旧が逆である可能性もある。いずれにしても断面で新旧関係の把握はできておらず、新旧関係不明としておきたい。炉穴ＳＫ420およびＳＩ17・ＳＩ18に切られる。全体で規模は9.6×6.4m、床面積45.4㎡を測る。長軸方向はＮ29°Ｅを示す。

埋土は１～３層のいわゆるレンズ状の堆積で、自然堆積により埋没したと考えられる。１層での他時期の遺物の混入が多く（挿図16）、層位別の混入数（混入率）は、１層17点（24.2%）・２層５点（2.2%）・全体で128点（16.2%）と高率である。ただし、全体での点数の多いのは、点取り遺物ではない埋土一括の遺物の故であり、遺物収納の際に誤って他所から混入したためである。１層の混入遺物の分布は帯状を呈しており、本址の南東側に重複するＳＫ441も細長い形状をとることから、平面および断面では確認できなかったものの、溝状の遺構があった可能性も否定できない。１・２層出土の遺物では前期初頭を中心に早期後葉から前期前葉まで、また、埋土一括では前期初頭を中心に早期後葉から晩期後葉までの混入遺物がある。埋土中に若干の礫が含まれる他は、焼土・炭化物はない。

床面は全体的にやや軟弱であるものの、明瞭に検出された。貼床はない。壁面の立ち上がりは、他の住居址と同様上半ははっきりとはしない。南半が明確で緩やかな立ち上がりを示すのに対して、北半は不明瞭でだらだらした立ち上がりである。壁高はそれぞれ20～30cm、15～25cmである。柱穴は壁際を中

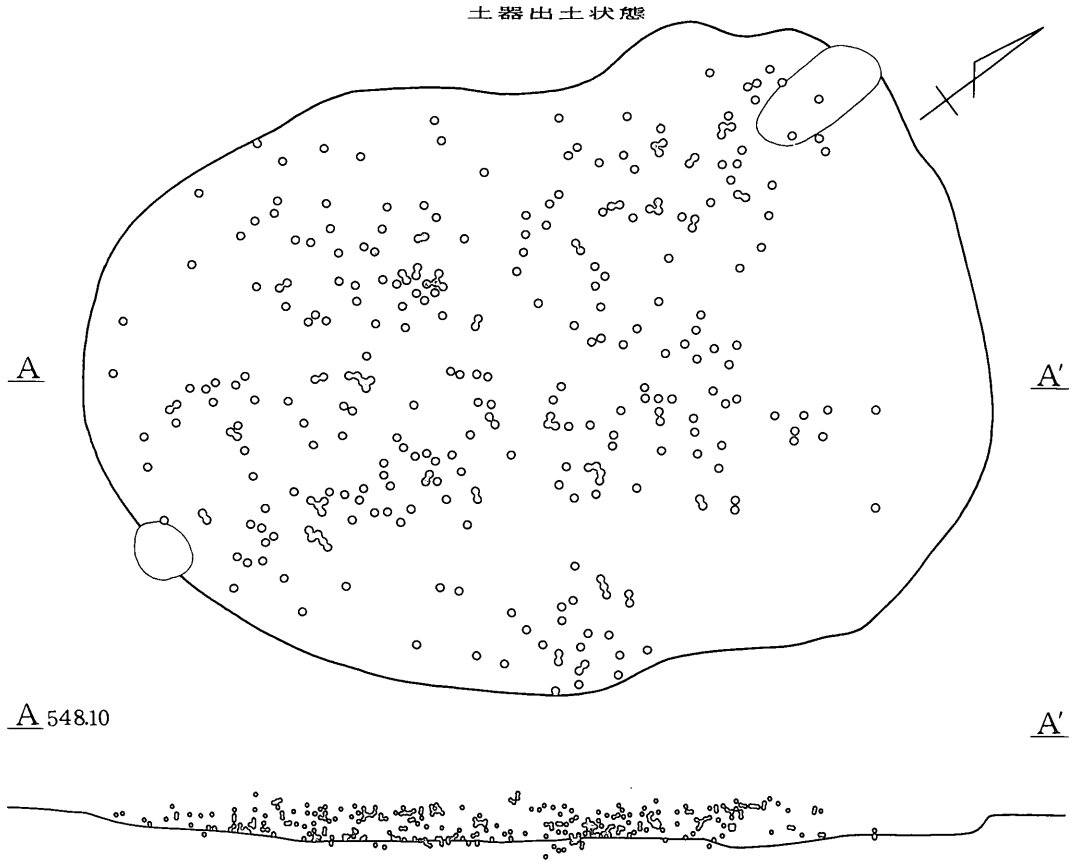


他時期遺物出土状態



挿図16　ＳＢ20

土器出土状態



石器出土状態

挿図17　ＳＢ20

心に検出され、60～280cmの間隔をおいて並ぶ。径30～50cm、深さ15cm程度の小型の穴が多く、南壁際の深さ40cmを超える穴は特異である。いずれも柱痕は確認されていない。炉址その他の施設はない。また、増改築の痕跡はない。

遺物は南半では2層から、北半では逆に1層からの出土が多い。土器・石器とも、壁際が疎な分布状況を示すが、細かくみると東壁際に密な部分があり、その北側に大きな空白部分がある。石器は、石皿周辺や壁寄りにトゥール類が分布するようである。他に若干の樋沢式土器の出土をみる。

出土遺物から、本址は縄文時代早期前半の立野式期に比定される。

⑧ＳＢ21（挿図18～20）

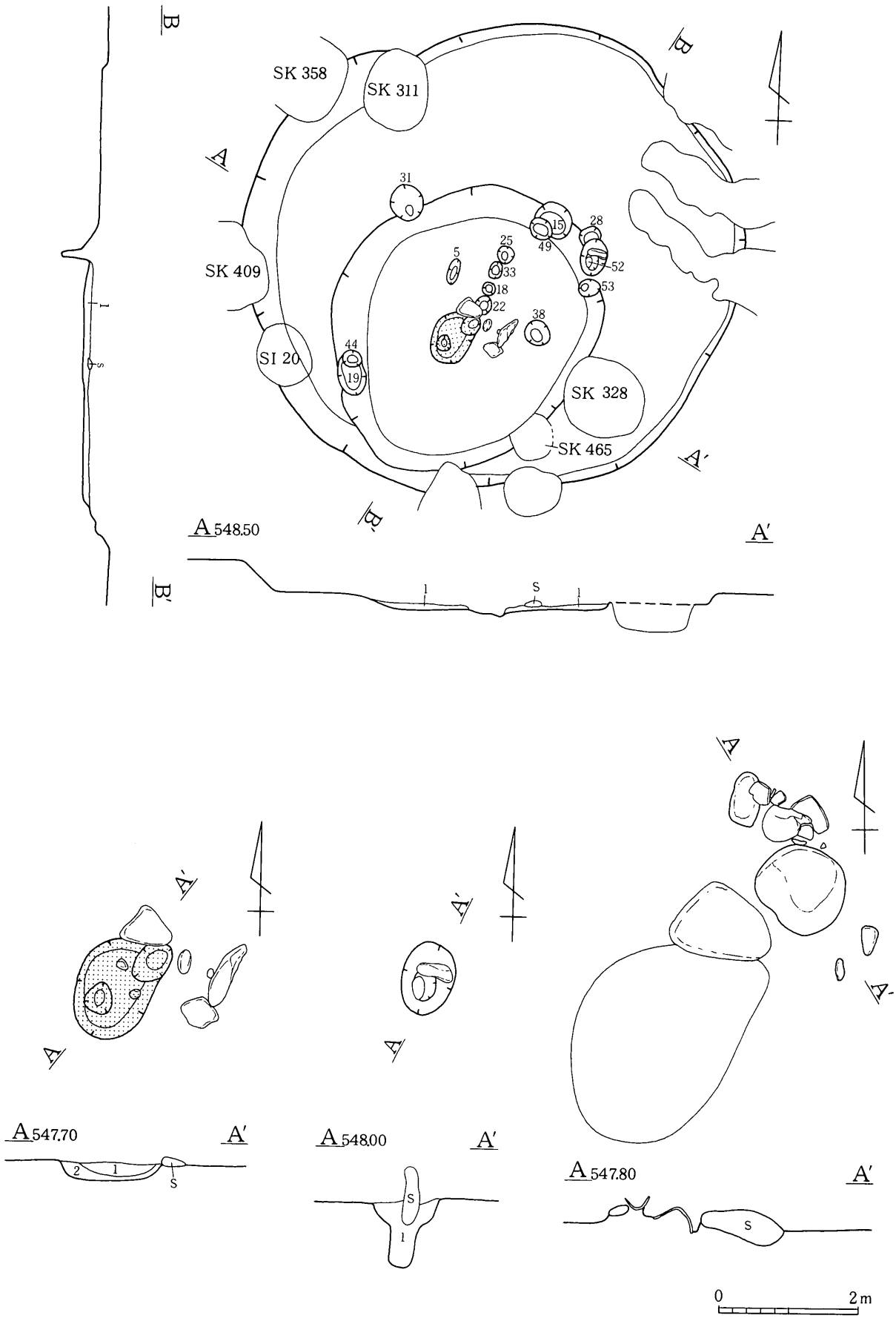
調査区の中央、Ⅳ区ＢＶ５を中心にⅡ層上面で検出された。他の該期の住居址と同様の壁の検出状況から、掘り込み面はⅢ層上面の可能性がある。西半は壁が把握できたが、東半は長芋栽培に伴なう撹乱が著しく十分に把握できたとはいえない。出土遺物の分布からみる限り、プランは少し小さくなる可能性がある。ＳＢ19との新旧関係は重複部分が試掘トレンチで削平されたため不明である。ＳＩ20・ＳＩ21・ＳＩ23およびＳＫ311・ＳＫ312・ＳＫ328・ＳＫ346・ＳＫ358に切られる。また、西壁寄り床面より上位に楕円状に分布する焼土２ヶ所を検出した。掘り方は確認できなかったが、形態から炉穴の底面と考えられ、本址よりも新しい。規模は7.0×7.0m、床面積32.1㎡を測り、不整円形を呈する。

埋土は試掘トレンチおよび著しい撹乱のため一括１層とした。自然堆積により埋没したと考えられる。他時期の遺物の混入が少ない（挿図19）。層位別の混入数（混入率）は、１層７点（3.6%）・全体で10点（3.4%）である。本址の東半はＳＢ19と同様、耕作に伴なう撹乱が著しく、一部は床面よりも下位まで及んでいる。１層出土の大半は溝状に展開する撹乱の内部および延長上に位置するものが多いことから、近年の耕作に伴ない混入した遺物と考えられる。早期後葉～前期後葉の混入遺物がある。本址中央部を中心に埋土中から10～20cm程度の礫が出ている。また、前述の焼土を除いて、焼土・炭化物等はない。

床面は、中央から南側に黄褐色土ブロックの貼床が検出され、貼床を中心に部分的に硬い。貼床部分で掘り方が一段低く凹む。壁面の立ち上がりは、上半がはっきりとしない。西壁ではやや緩やかな立ち上がりを示す。壁高は４～37cmを測る。柱穴は貼床の縁辺と内部にあり、深い掘り込みをもつ。柱痕は確認されていない。Ｐ１は40×30cmの平らな花崗岩が立った状態で入っていた。炉から北東側に連続して並ぶ５個の柱穴については、本址に伴なうかどうか不明である。周溝はない。炉址は中央南寄りの貼床上で検出され、地床炉と考えられる。炉の北東側に30～50cmの大型礫があり、また、上部および周囲に焼けた礫が散らばる。その他の施設や増改築の痕跡はない。

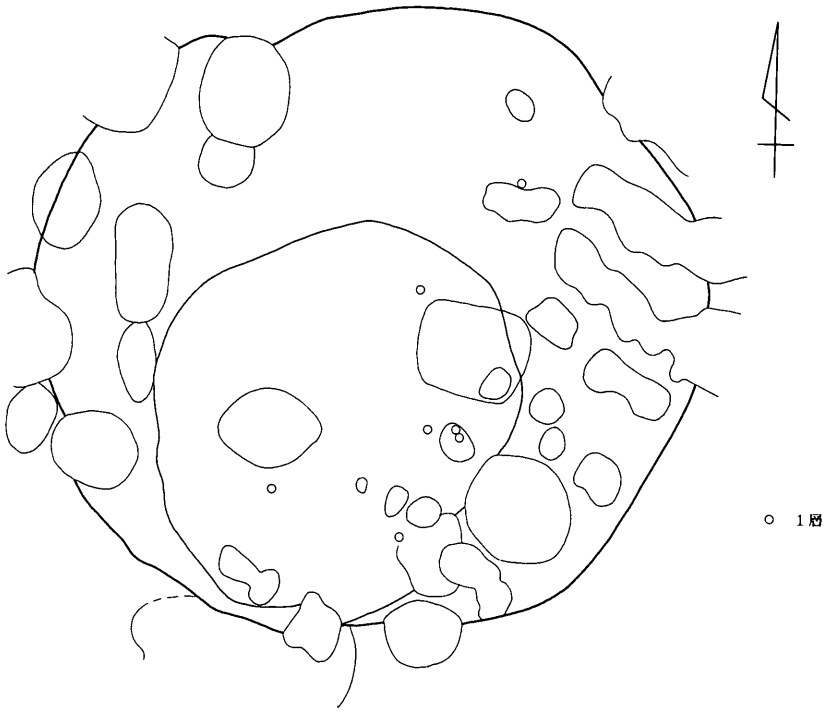
遺物は検出面から床面まで満遍なく出土しており、壁際が疎な分布状況を示し、炉の周囲に集中がみられる。土器は炉の周囲を中心に５個体の接合関係がある。特に炉の北側では、１個体はほぼ正位、もう１個体は逆位に床面に並んで出土している。その北側に大きな空白部分がある。石器は、石鏃が壁寄りに、磨石類が炉の周囲や壁寄りに分布するようで、石材別の分布の偏りは特にない。

出土遺物から、本址は縄文時代早期前半の立野式期に比定される。

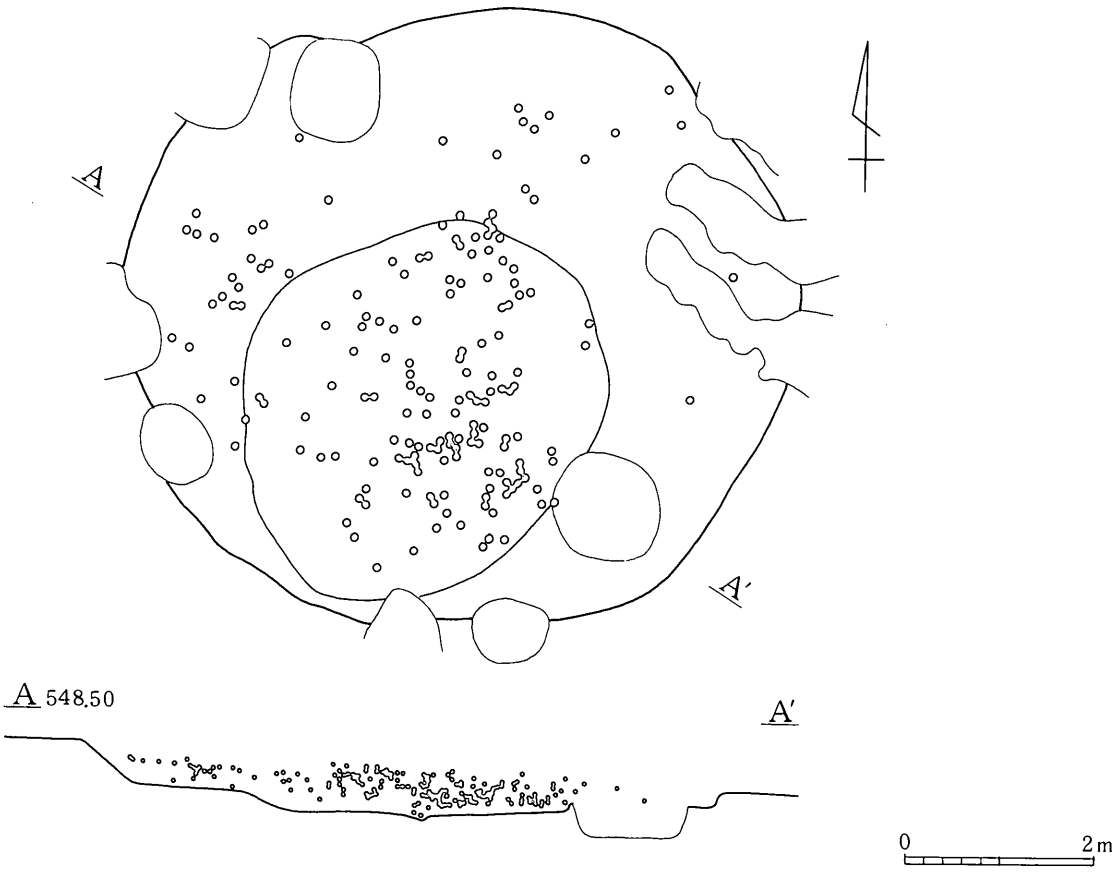

SK 358
SK 311
SK 409
SI 20
SK 328
SK 465
A 548.50
A′
B
B′
A 547.70
A′
A 548.00
A′
A 547.80
A′
0
2m

挿図18　ＳＢ21

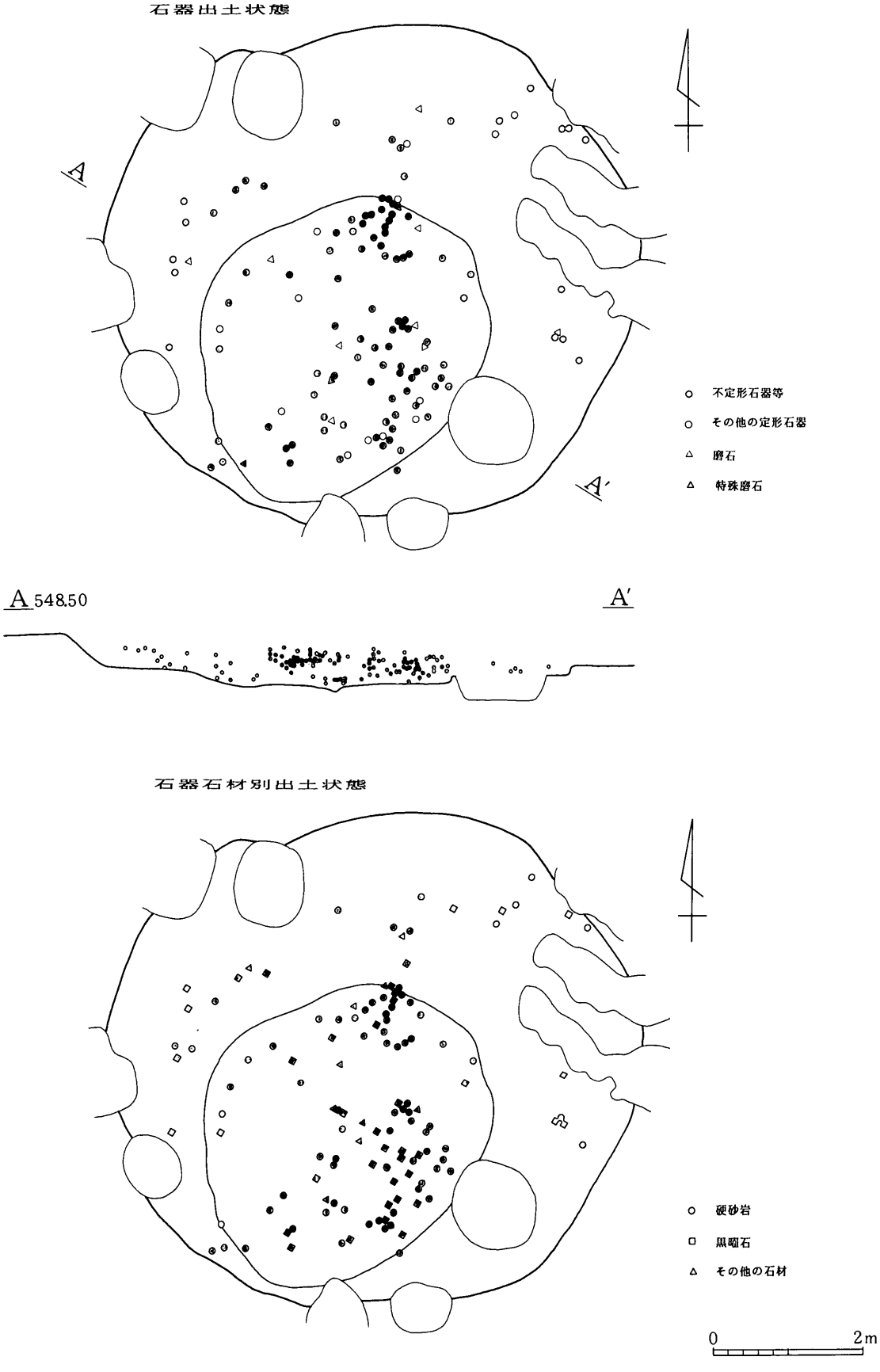
他時期遺物出土状態



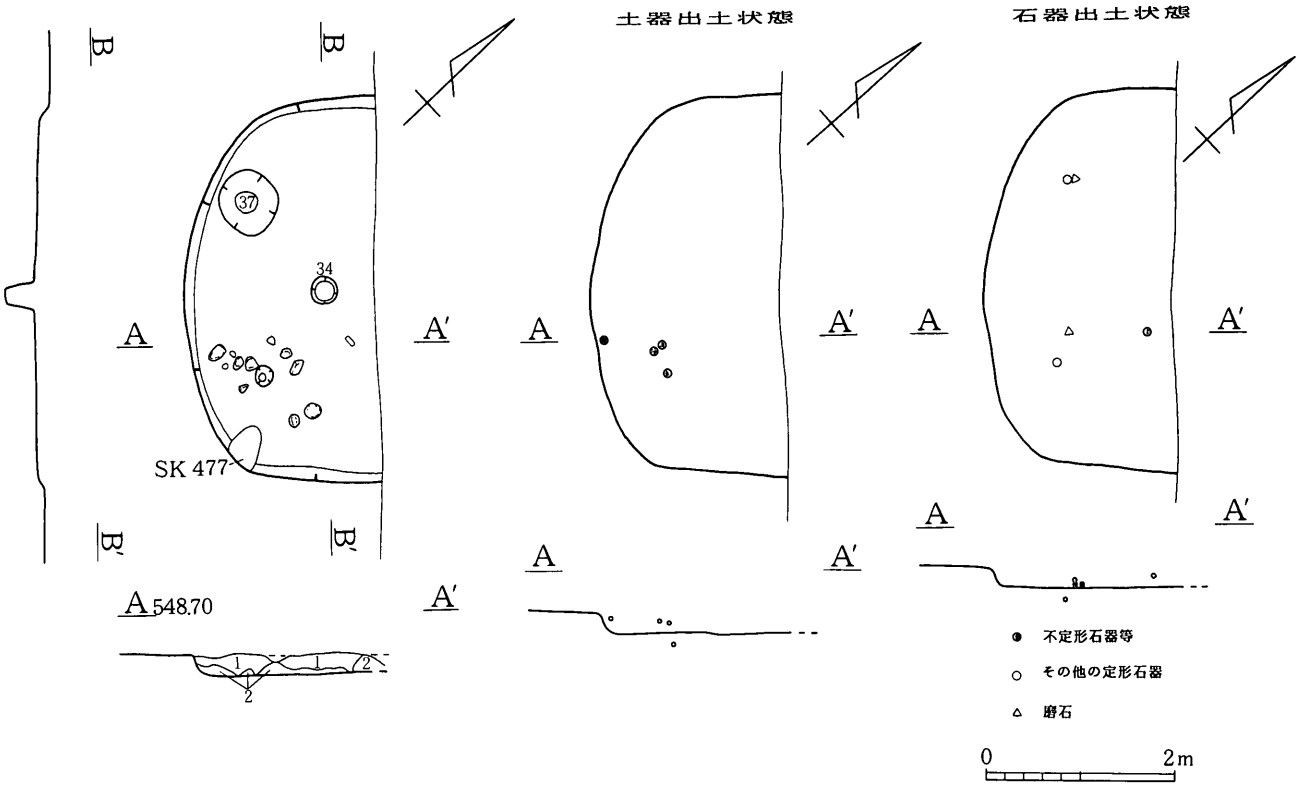
土器出土状態



挿図19　ＳＢ21


石器出土状態
A
A′
不定形石器等
その他の定形石器
磨石
特殊磨石
A 548.50
A′
石器石材別出土状態
硬砂岩
黒曜石
その他の石材
0
2m

挿図20　ＳＢ21



挿図21　ＳＢ24

⑨ＳＢ24（挿図21）

調査区の中央、Ⅱ区ＡＢ４を中心にＳＢ18床面およびⅢ層上面で検出された。ＳＢ18と同様、北東半は分割調査前段では把握しておらず、後段調査にかかる１／２を把握したにとどまる。基本層序でも把握していない。残存部分については、プランの把握は西半では良好であったが、東半は長芋栽培に伴なう撹乱が著しく十分ではない。後述する遺物の出土状況や出土量、さらに炉址等の施設の面から竪穴住居址とするには若干の疑問がある。ＳＢ18に切られる。本址床面でＳＫ477を検出したが、新旧関係は不明である。規模は南東－北西方向で4.0mを測る。不整円形ないし楕円形を呈すると考えられる。

埋土は１・２層で、自然堆積により埋没したと考えられる。他時期の遺物の混入はない。南東壁寄りに10～20cm程度の焼け礫が床面より浮いて出ている。また、焼土・炭化物等はない。

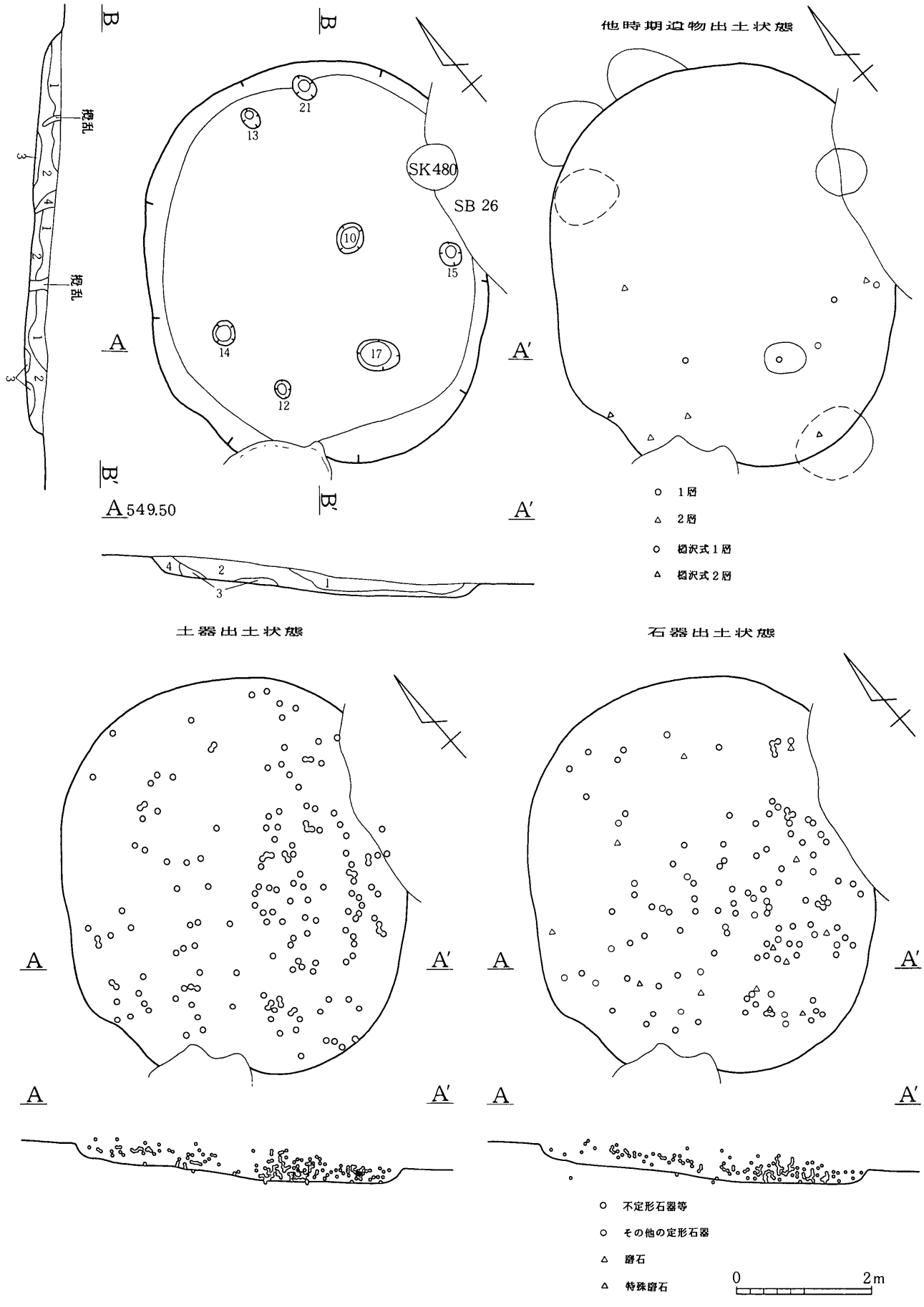
床面は明確に把握できたが、全体的に軟弱である。壁面の立ち上がりは、ＳＢ18との重複等により上部を欠くため不明である。柱穴は３本検出され、うち２本は深い掘り込みをもつ。柱痕は確認されていない。西壁際の柱穴は、径約60cmを測り、だらだらと掘り込んでいる。周溝・炉址・その他の施設は確認されていない。

遺物出土は少なく、焼け礫の周辺および西壁際の柱穴付近から出土している。

重複関係や出土遺物から、縄文時代早期前半の立野式期の住居址としておきたい。

⑩ＳＢ25（挿図22）

調査区の南西側、Ⅲ区ＢＰ40を中心にⅡ層上面で検出された。他の該期の住居址と同様の壁の検出状況から、掘り込み面はⅢ層上面の可能性がある。南西壁には、土石流に起因すると考えられる花崗岩の


他時期遺物出土状態
土器出土状態
石器出土状態
SK480
SB 26
A 549.50
撹乱
1層
2層
樹沢式1層
樹沢式2層
不定形石器等
その他の定形石器
磨石
特殊磨石
0
2m

挿図22　ＳＢ25

巨礫がかかり、この部分から南壁にかけてはプランがはっきりしない。ＳＢ26との新旧関係は断面観察の結果把握され、ＳＢ26が新しい。ＳＩ25・ＳＫ480に切られる。また、草創期のＳＫ525を切る。規模6.0×5.0m、床面積19.7㎡を測り、不整楕円形を呈する。長軸方向はN24° Eを示す。

埋土は１～４層に分けられ、４層の把握については若干疑問が残るものの、自然堆積により西壁側から埋没したと考えられる。他時期の遺物の混入が比較的少ない（挿図22)。層位別の混入数（混入率）は、１層５点（8.8%)・２層６点（5.1%)・全体で17点（6.9%）である。混入遺物の分布は南半に集中する。早期後葉～前期前葉の混入遺物がある。埋土中に僅かに礫が入っており、西壁より150～170cm内側に弧状に分布する。

床面はそれほど硬くなく、部分的に貼床がある。地山の礫が顔を出していることから、礫を抜いて整地した結果とも考えられる。壁は緩やかな立ち上がりを示し、壁高は20～30cmを測る。柱穴は壁から40～110cm内側に、ばらばらの間隔で配置される。径25～60cm、深さ10～20cm程度の浅い掘り込みである。柱痕は確認されていない。周溝・炉址・その他の施設はない。

遺物は西壁側では埋土の上部で、東壁側では検出面から床面まで満遍なく出土している。全体では、２層出土が多い。平面分布では、土器・石器とも南半に濃密である。石器は、石鏃が南壁寄り、磨石類が柱穴を結んだライン付近から出土している。１・２層から樋沢式土器が混入出土しており、その分布域は本址の南西側にある。

出土遺物から、本址は縄文時代早期前半の立野式期に比定される。

⑪ＳＢ26（挿図23)

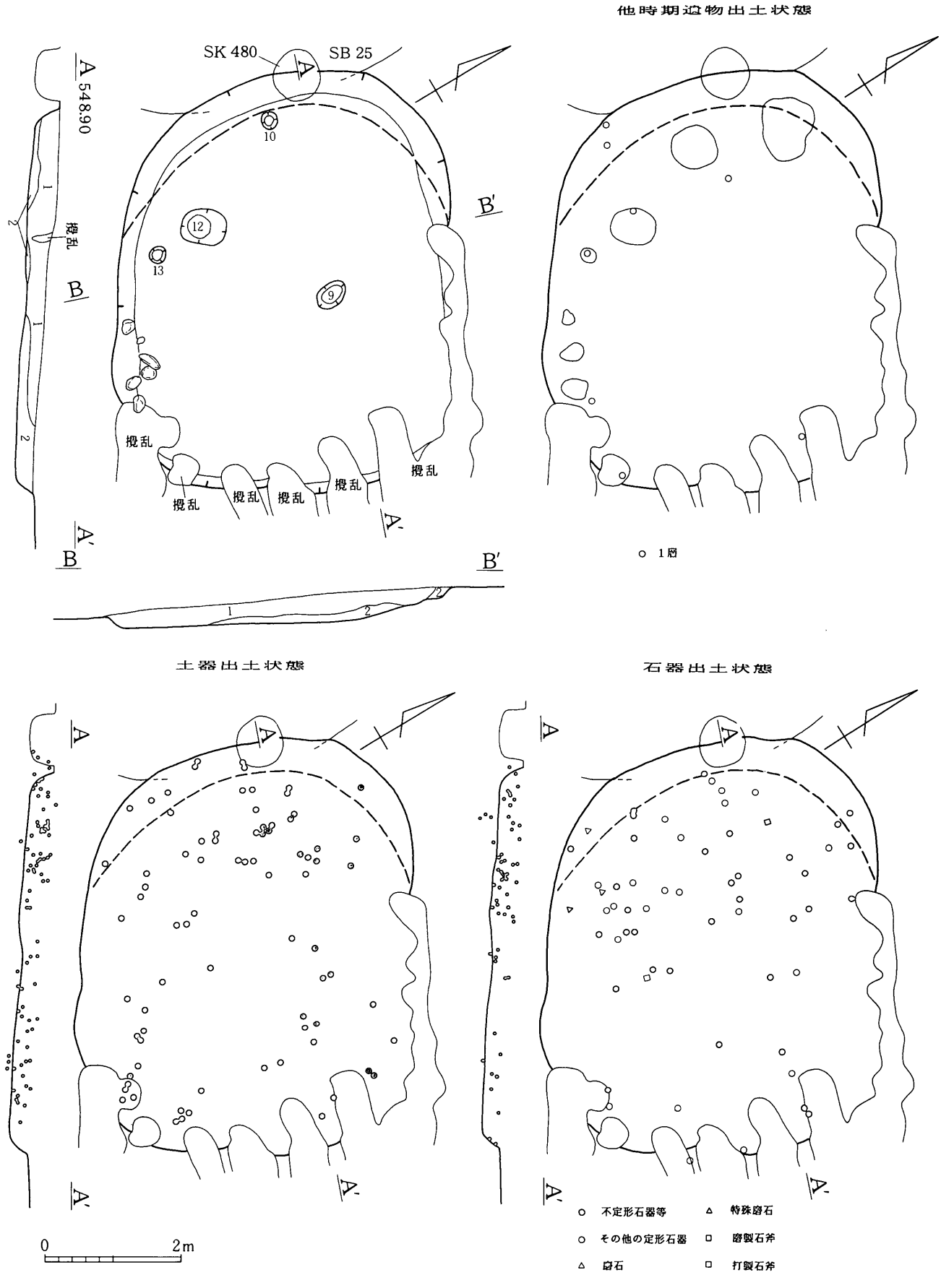
調査区の南西側、Ⅲ区ＢＯ42を中心にⅡ層上面で検出された。他の該期の住居址と同様の壁の検出状況から、掘り込み面はⅢ層上面の可能性がある。東半はＳＢ19・ＳＢ21と同様、長芋栽培に伴なう撹乱が著しく十分に把握できたとはいえない。ＳＢ25を切り、ＳＫ479～ＳＫ481に切られる。規模は6.0×4.9m、床面積21.8㎡を測り、不整楕円形を呈する。長軸方向はN65.5° Wを示す。

埋土は１層および２層で、自然堆積により埋没したと考えられる。他時期の遺物の混入が比較的少ない（挿図23)。層位別の混入数（混入率）は、１層８点（8.4%)・全体で11点（8.4%）である。長芋栽培の撹乱が一部は床面よりも下位まで及んでおり、この撹乱の周囲を除くと、混入遺物の分布は南西側に集中している。ＳＢ25の混入遺物の分布との連続の可能性が指摘できよう。地形的にはこの部分は凹地状になっており、後世の流れ込みの可能性が高い。早期後葉～前期前葉の混入遺物がある。埋土中の礫は10～30cmほどの大きさのものが10個程度あり、西壁から南壁にかけてのやや内側の位置で出土している。南東側の礫ほど低いレベルにある。他に埋土中に焼土・炭化物等はない。

床面は軟弱で、貼床はない。壁面の立ち上がりは、上半がはっきりとしない。西壁ではやや緩やかな立ち上がりを示す。壁高は20～35cmを測る。柱穴は中央から西壁にかけて４本検出され、壁際２本は小形であるのに対し、内側の２本はやや大きめである。いずれも浅い掘り込みである。周溝・炉址・その他の施設はなく、増改築の痕跡も確認できない。

遺物はやや少なく、１層からの出土が多い。平面分布では、西半に偏りをみせる。

重複関係および出土遺物から、本址は縄文時代早期前半の立野式期に比定される。

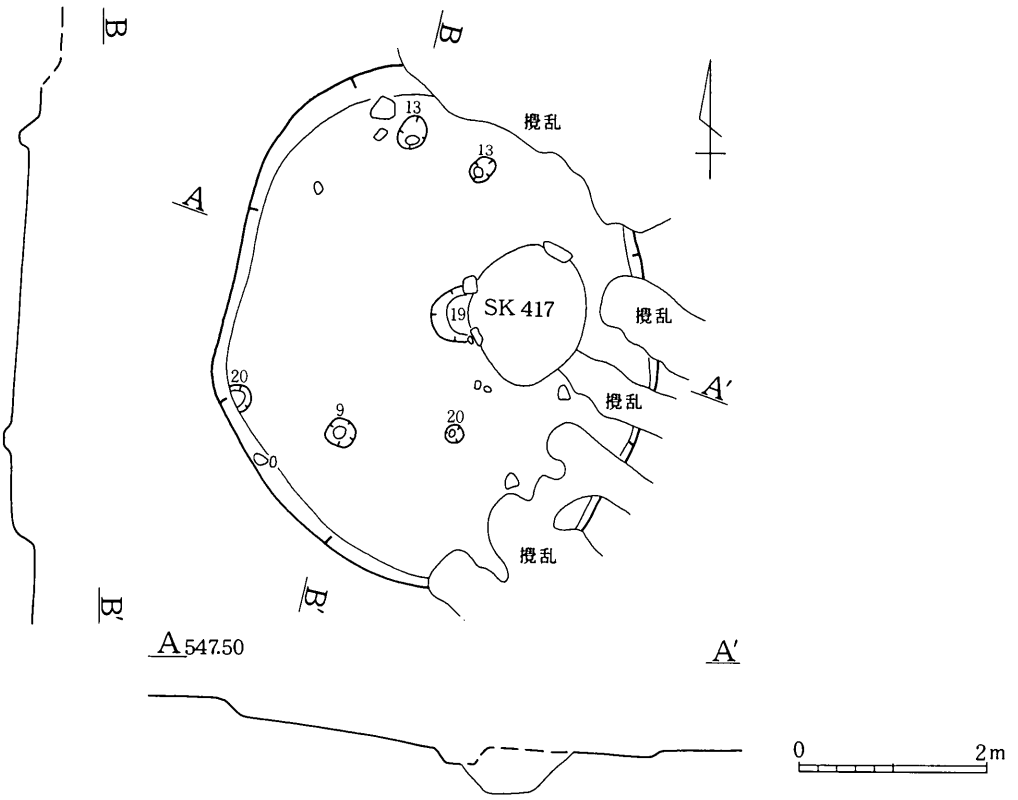

他時期遺物出土状態
SK 480
SB 25
A 548.90
撹乱
B
B'
A
A'
10
12
13
9
1
2
撹乱
撹乱
撹乱
撹乱
撹乱
撹乱
○ 1層
土器出土状態
石器出土状態
○ 不定形石器等
○ その他の定形石器
△ 磨石
△ 特殊磨石
□ 磨製石斧
□ 打製石斧
0
2m

挿図23　ＳＢ26

2)早期後葉ないし末葉

遺構番号	ＳＢ23	検出位置	Ⅳ区ＢＱ10		
規　　模	560×460×20cm	長　　軸	Ｎ２°Ｅ	平 面 形	不整楕円形
検出状況	埋土が地山と明瞭に異なり、明確に検出された。東半が撹乱にかかる。				
重複関係	ＳＫ381・ＳＫ417に切られる。				
壁	明確で、緩やかな立ち上がりを示す。				
床	やや堅固。貼床はなし。				
柱　　穴	５本検出したが、だらだらとした掘り込みが多い。				
炉	不明。おそらくＳＫ417に切られる。				
付属施設	なし。				
遺　　物	埋土中全般から出土。石器－石鏃・磨石・削器等				
そ の 他	自然埋没と考えられる。				

表１　ＳＢ23

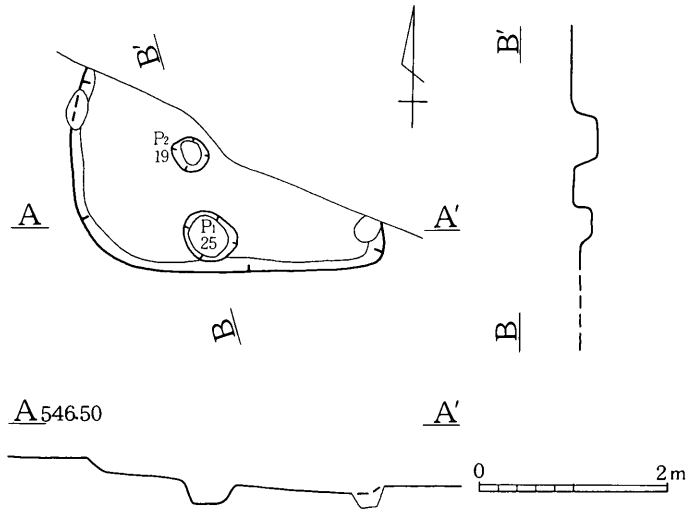


挿図24　ＳＢ23

3)前期前葉

遺構番号	ＳＢ03	検出位置	Ⅳ区ＢＳ14		
規　　模	330×－×20cm	長　　軸	不明	平 面 形	隅丸（長）方形と考えられる。
検出状況	埋土が地山と異なり、明確に把握された。撹乱により、北側が壊される。				
重複関係	なし。				
壁	緩やかな立ち上がりを示す。				
床	軟弱で、傾斜の上方側がやや高い。貼床なし。				
柱　　穴	Ｐ１・Ｐ２				
炉	不明。				
付属施設	なし。				
遺　　物	僅少。				
そ の 他	自然埋没と考えられる。				

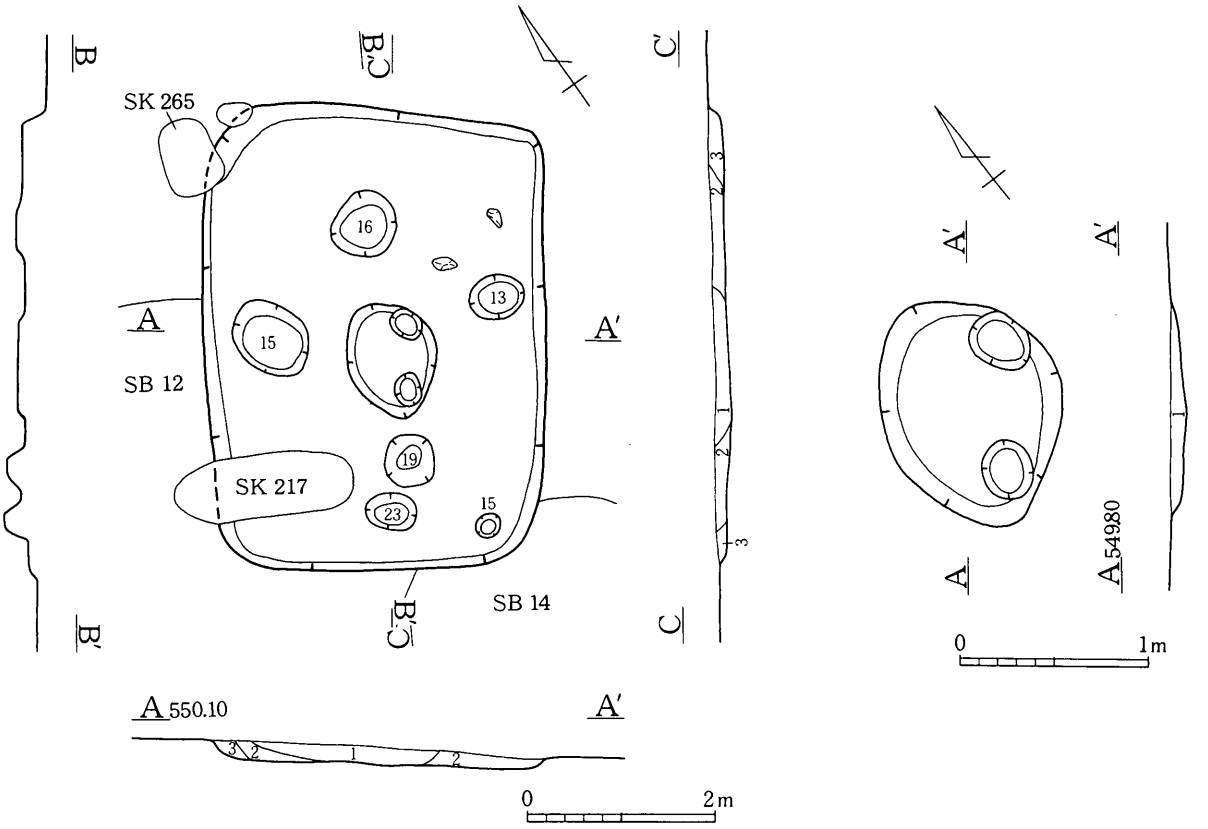
表２　ＳＢ03



挿図25　ＳＢ03

遺構番号	ＳＢ09	検出位置	Ⅱ区ＡＭ２		
規　　模	500×360×20cm	長　　軸	N37° E	平 面 形	隅丸長方形
検出状況	埋土が地山となんとなく異なる。				
重複関係	ＳＢ12・ＳＢ14・ＳＫ217を切る。				
壁	やや緩やかに立ち上がる。				
床	軟弱である。貼床なし。				
柱　　穴	径20～90cmの柱穴６個あり。15～20cm程度の浅い掘り込み。主柱穴は不明。				
炉	中央床面に炭の集中あり。焼土は検出できなかったが、地床炉か。				
付属施設	なし。				
遺　　物	全般に少ない。石器－石鏃・磨石・削器等				
そ の 他	増改築の痕跡なし。				

表３　ＳＢ09

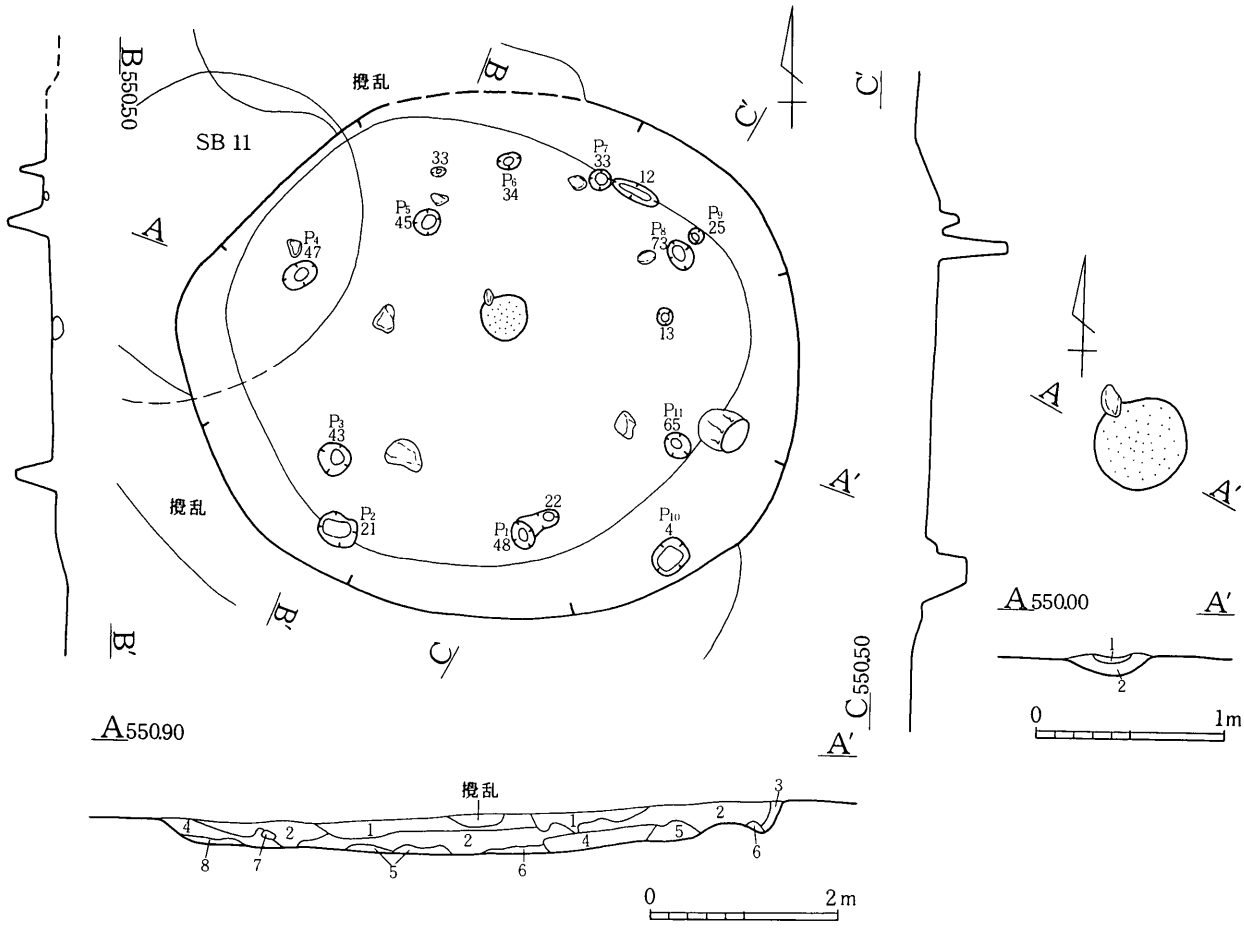


挿図26　ＳＢ09

4)前期終末～中期初頭

遺構番号	ＳＢ07	検出位置	Ⅱ区ＡＱ２		
規　　模	660×560×35cm	長　　軸	N74° W	平 面 形	不整楕円形
検出状況	埋土が地山と明確に異なる。				
重複関係	ＳＢ11を切り、ＳＫ153等と重複する。				
壁	明確で、緩やかな立ち上がりを示す。				
床	硬い床面で、貼床はない。				
柱　　穴	壁寄りに６本の主柱穴（Ｐ１・Ｐ３～Ｐ５・Ｐ８・Ｐ11)、Ｐ８・Ｐ11は深い。				
炉	中央やや南寄りに地床炉１基。				
付属施設	なし。				
遺　　物	少ない。石器－打製石斧・石鏃・石錐・掻器・磨石・削器				
そ の 他	床面上に炭化材多量にあり、焼失住居と考えられる。増改築の痕跡なし。				

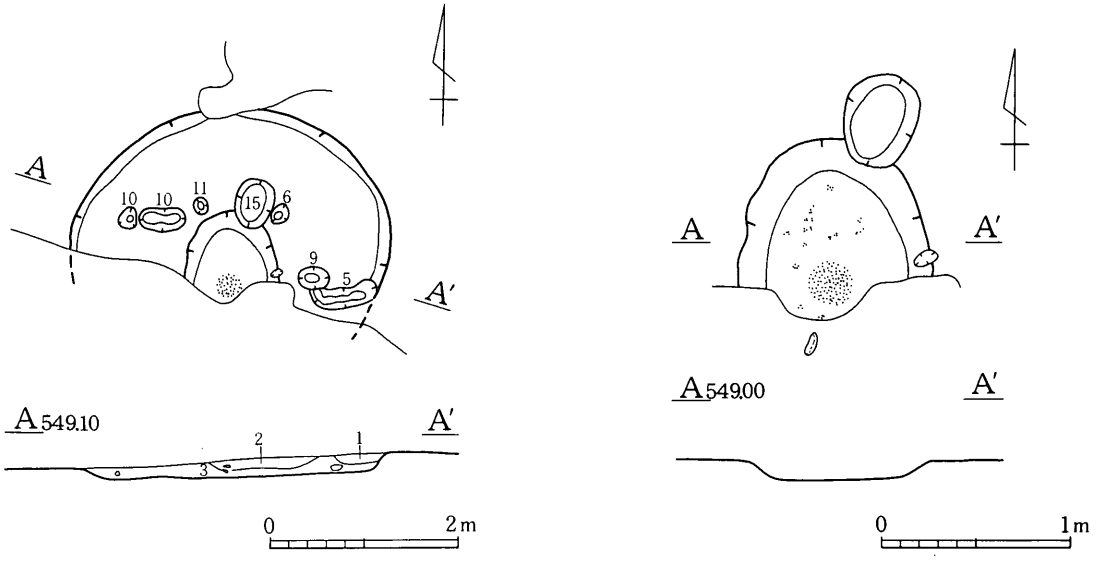
表４　ＳＢ07



挿図27　ＳＢ07

遺構番号	ＳＢ16	検出位置	Ⅲ区ＢＵ45		
規　　模	320×－×20cm	長　　軸	不明	平 面 形	不整円形と考えられる。
検出状況	埋土が地山と明確に異なる。南半を撹乱（用水）により削平される。				
重複関係	なし。				
壁	明確で、ほぼ垂直に立ち上がる。				
床	明確に検出され、主柱穴内部は硬い床面である。貼床はない。				
柱　　穴	主柱穴は不明で、小型で浅い柱穴数基あり。				
炉	中央に大きな掘り方あり。中心部が著しく焼けている。炉石が抜き取られたと考えられる。				
付属施設	なし。				
遺　　物	全般に少ない。西壁寄りに立位ほぼ完形の深鉢出土。				
そ の 他	床面上に炭化材多量にあり、焼失住居と考えられる。増改築の痕跡なし。				

表５　ＳＢ16

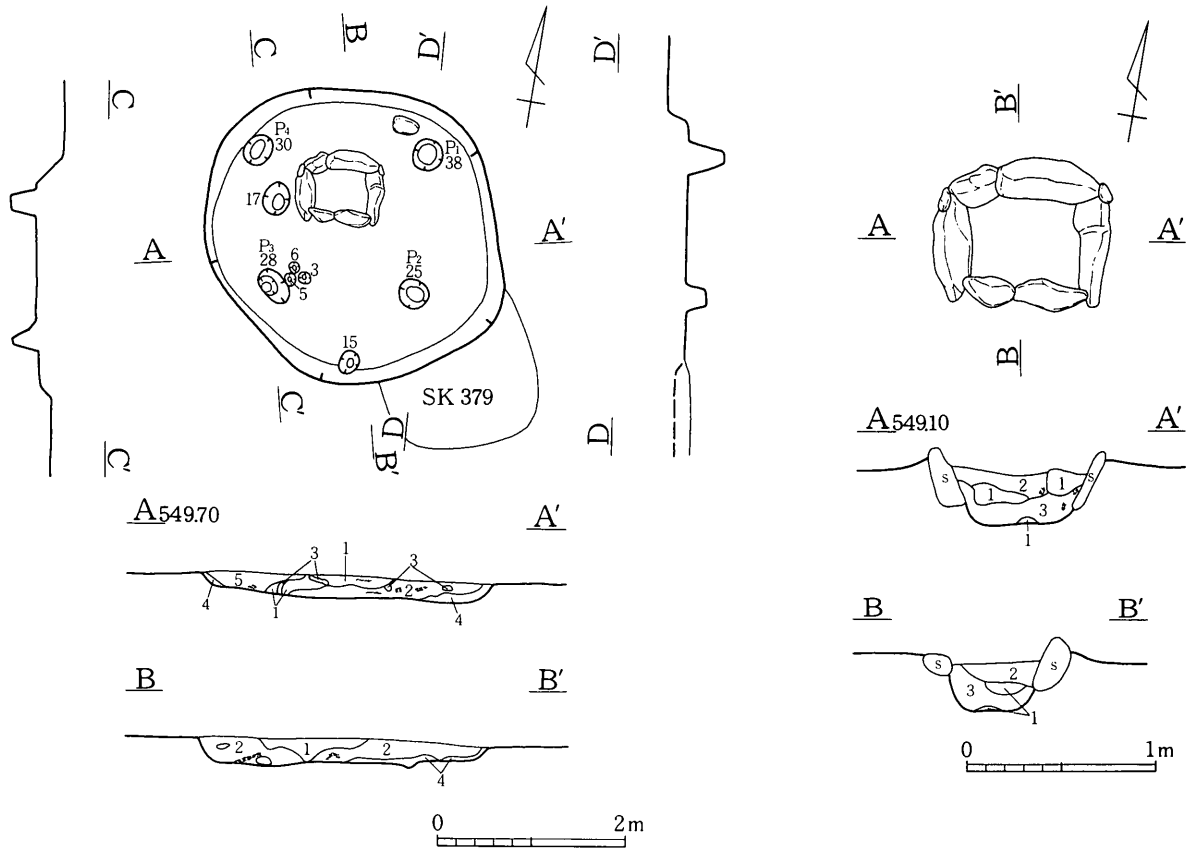


挿図28　ＳＢ16

5)中期後葉ないし後期前葉

遺構番号	ＳＢ15	検出位置	Ｉ区ＡＡ47		
規　　模	310×310×25cm	主　　軸	N15° W	平 面 形	不整円形
検出状況	埋土が地山と明確に異なる。				
重複関係	なし。				
壁	明確で、やや緩やかに立ち上がる。				
床	明確に検出され、主柱穴内部は硬い床面である。貼床はない。				
柱　　穴	主柱穴４本（Ｐ１～Ｐ４）、径30cm程度、深さ25～38cm。				
炉	中央北西寄りに95×80cmの掘炬燵状の石組炉あり。扁平な花崗岩礫を立て並べる。				
付属施設	北壁際に台石あり。				
遺　　物	きわめて少ない。				
そ の 他	炉の周囲・南東壁寄りを中心に床面上に炭化材多量にあり、焼失住居と考えられる。				

表６　ＳＢ15

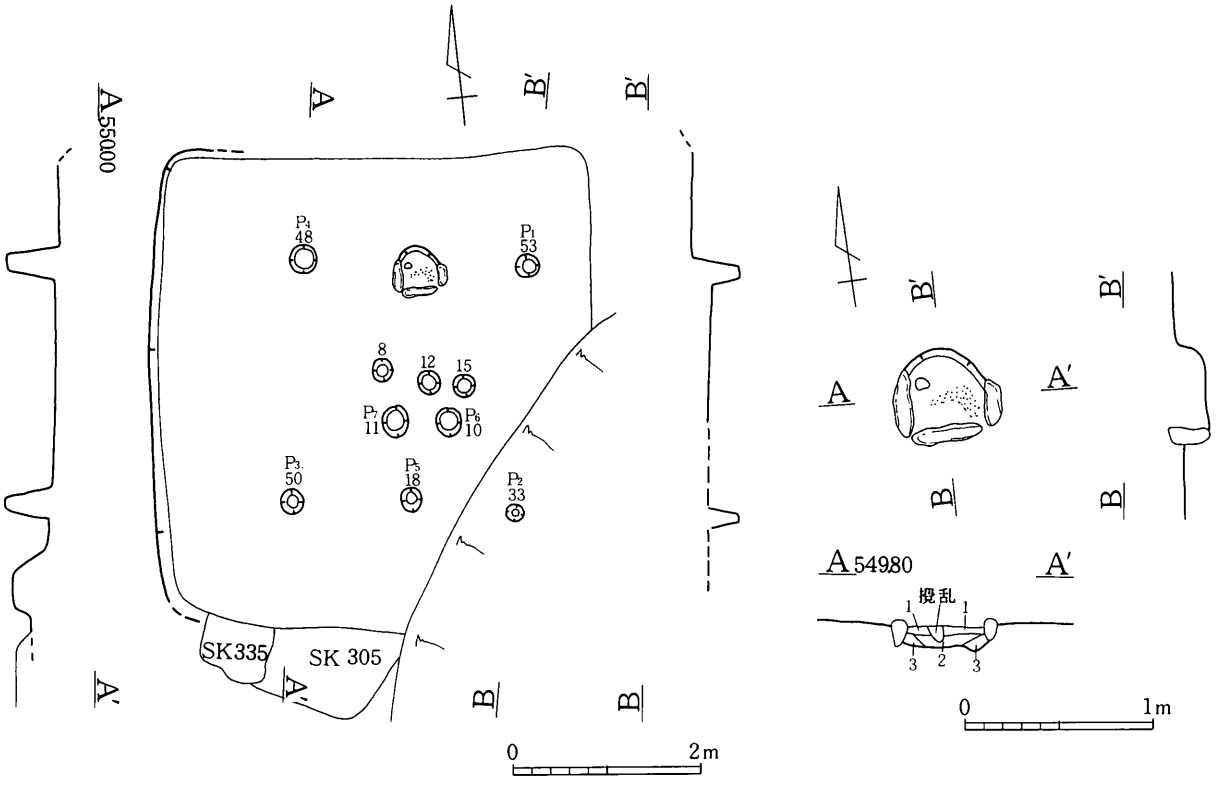


挿図29　ＳＢ15

6)弥生時代後期後葉

遺構番号	ＳＢ13	検出位置	Ｉ区ＡＤ46		
規　　模	500×440×15cm	長　　軸	Ｎ７°Ｗ	平 面 形	不整長方形
検出状況	埋土が地山と明確に異なる。試掘トレンチで把握。南東部分は田地造成の際に削平。				
重複関係	ＳＫ305・ＳＫ308・ＳＫ335～ＳＫ340・ＳＫ345を切る。				
壁	明確で、ほぼ垂直に立ち上がる。				
床	主柱穴の内部は硬い床面が検出され、全面に貼床される。南西側は溝状に掘り込まれる。				
柱　　穴	４本の主柱穴。深さ約50cm。その他、中央付近に間仕切りと考えられる補助柱穴あり。				
炉	Ｐ１・Ｐ４の間に石囲い炉。三方に石が据えられる。				
付属施設	周溝等なし。				
遺　　物	きわめて少ない。				
そ の 他	増改築の痕跡なし。				

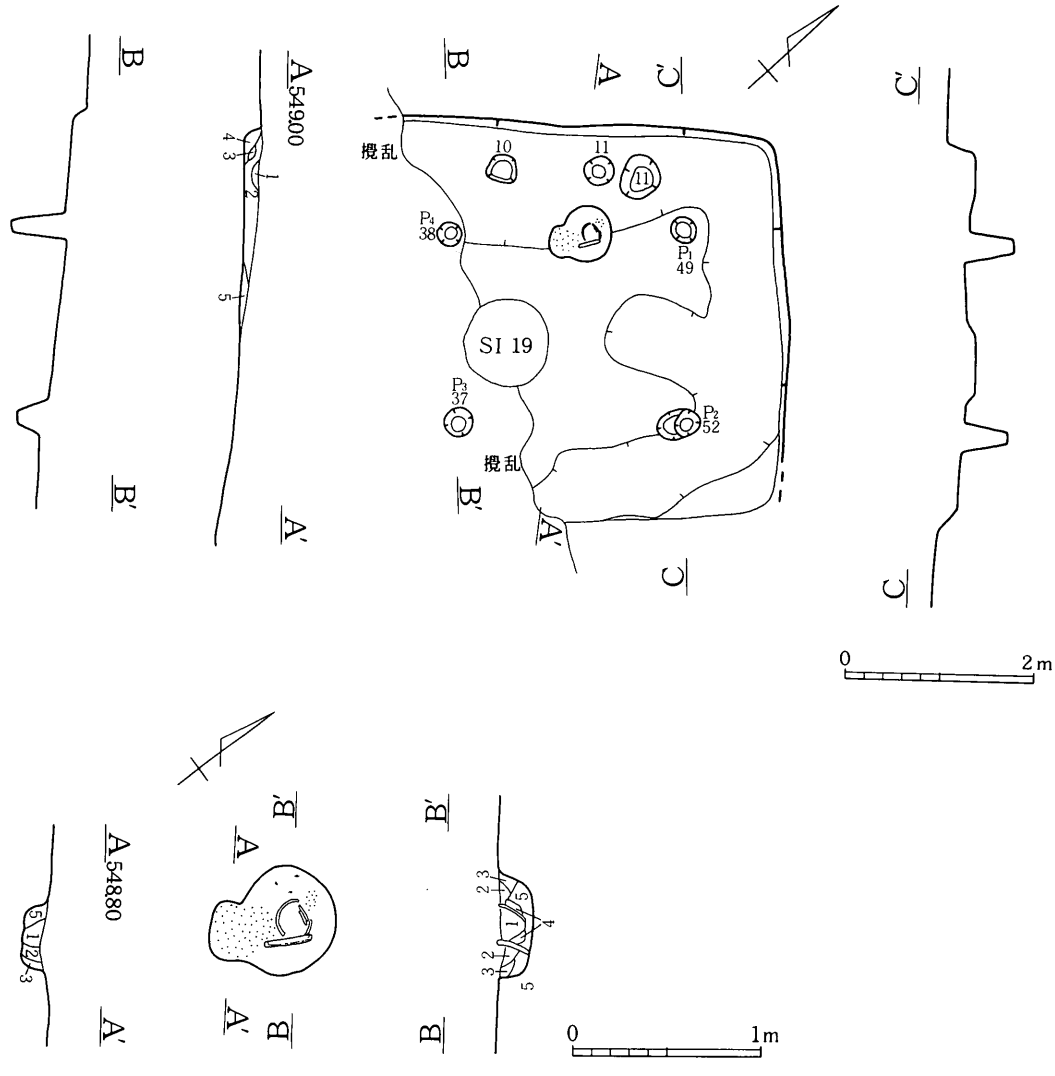
表７　ＳＢ13



挿図30　ＳＢ13

遺構番号	ＳＢ17	検出位置	Ⅲ区ＢＴ48		
規　　模	－×400×20cm	長　　軸	N47° W	平 面 形	不整長方形
検出状況	埋土が地山と明確に異なる。南半を撹乱（用水）により削平される。				
重複関係	ＳＩ19上部に貼床が検出され、これを切る。				
壁	明確で、ほぼ垂直に立ち上がる。				
床	全体的に硬い貼床が検出された。掘り方があり、壁下を中心に溝状に掘り込まれる。				
柱　　穴	主柱穴４本で、深さ約50cmを測る。北西壁際に補助柱穴３本あり。				
炉	Ｐ１・Ｐ４の間に炉縁石を伴なう土器埋設炉。				
付属施設	周溝等なし。				
遺　　物	炉体の甕を除き遺物はほとんどない。				
そ の 他	炉の周囲床面上に若干の炭化材あり。増改築の痕跡なし。				

表８　ＳＢ17



挿図31　ＳＢ17

(2) 竪穴

竪穴住居址より小型の一定規模のもので、遺物が少なく、住居址である可能性の低いものを竪穴とした。

遺構番号	ＳＢ02	時　期	縄文時代草創期・早期末葉・前期前葉		
規　模	－×－×－cm	長　軸	不明	平面形	不明
検出状況	埋土が地山と明瞭に異なり、明確に検出された。				
重複関係	なし				
壁	撹乱が多く不明確だが、緩やかに立ち上がると考えられる。				
床	軟弱。床面上に平盤な礫あり。				
柱　穴	なし。				
付属施設	なし。				
遺　物	埋土中から少量出土。				
その他	大部分が用地外と撹乱にかかり、詳細は不明である。				

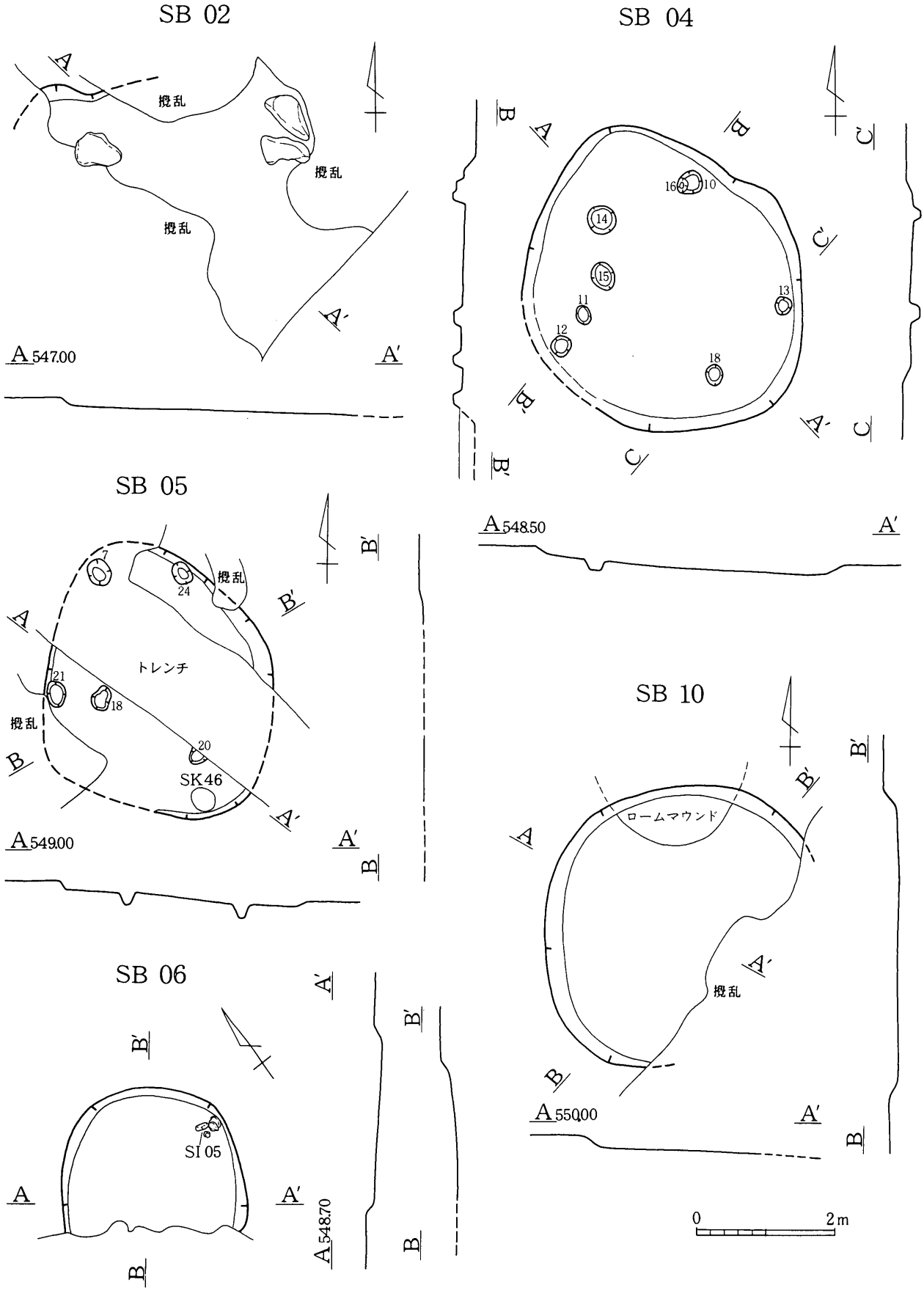
表9　ＳＢ02

遺構番号	ＳＢ04	時　期	縄文時代早期後葉～前期前葉		
規　模	460×420×18cm	長　軸	N35° W	平面形	不整楕円形
検出状況	埋土が地山と明瞭に異なり、明確に検出された。				
重複関係	なし。				
壁	明確であり、緩やかに立ち上がる。				
床	軟弱で、貼られた痕跡もない。中央付近の石は床面直上で検出された。				
柱　穴	壁よりやや内側に径20～35cm、深さ10～20cmほどの小柱穴が９本検出された。				
付属施設	なし。				
遺　物	埋土上層中央付近に多く、流れ込みによるものが多いと考えられる。				
その他	自然埋没と考えられる。				

表10　ＳＢ04

遺構番号	ＳＢ05	時　期	縄文時代早期後葉～前期前葉		
規　模	－×－×12cm	長　軸	不明	平面形	不整楕円形と考えられる。
検出状況	埋土が地山と明瞭に異なり、明確に検出された。				
重複関係	なし。				
壁	明確であり、やや緩やかに立ち上がる。				
床	軟弱で、貼床された痕跡はない。				
柱　穴	壁際および内部に径30～40cm、深さ７～24cmほどの小柱穴が４本検出された。				
付属施設	なし。				
遺　物	全般に少ない。				
その他	撹乱およびトレンチで削平され、ほとんど遺存せず。自然埋没と考えられる。				

表11　ＳＢ05



挿図32　ＳＢ02・04・05・06・10

遺構番号	ＳＢ06	時　　期	縄文時代早期前半・前期前葉		
規　　模	260×(250)×10cm	長　　軸	不明	平 面 形	不整円形と考えられる。
検出状況	埋土が地山となんとなく異なり、プランも不明確である。				
重複関係	ＳＩ05に切られる。				
壁	なんとなく、緩やかに立ち上がるようだ。				
床	硬い部分はない。				
柱　　穴	なし。				
付属施設	なし。				
遺　　物	僅少。				
そ の 他	自然埋没と考えられる。				

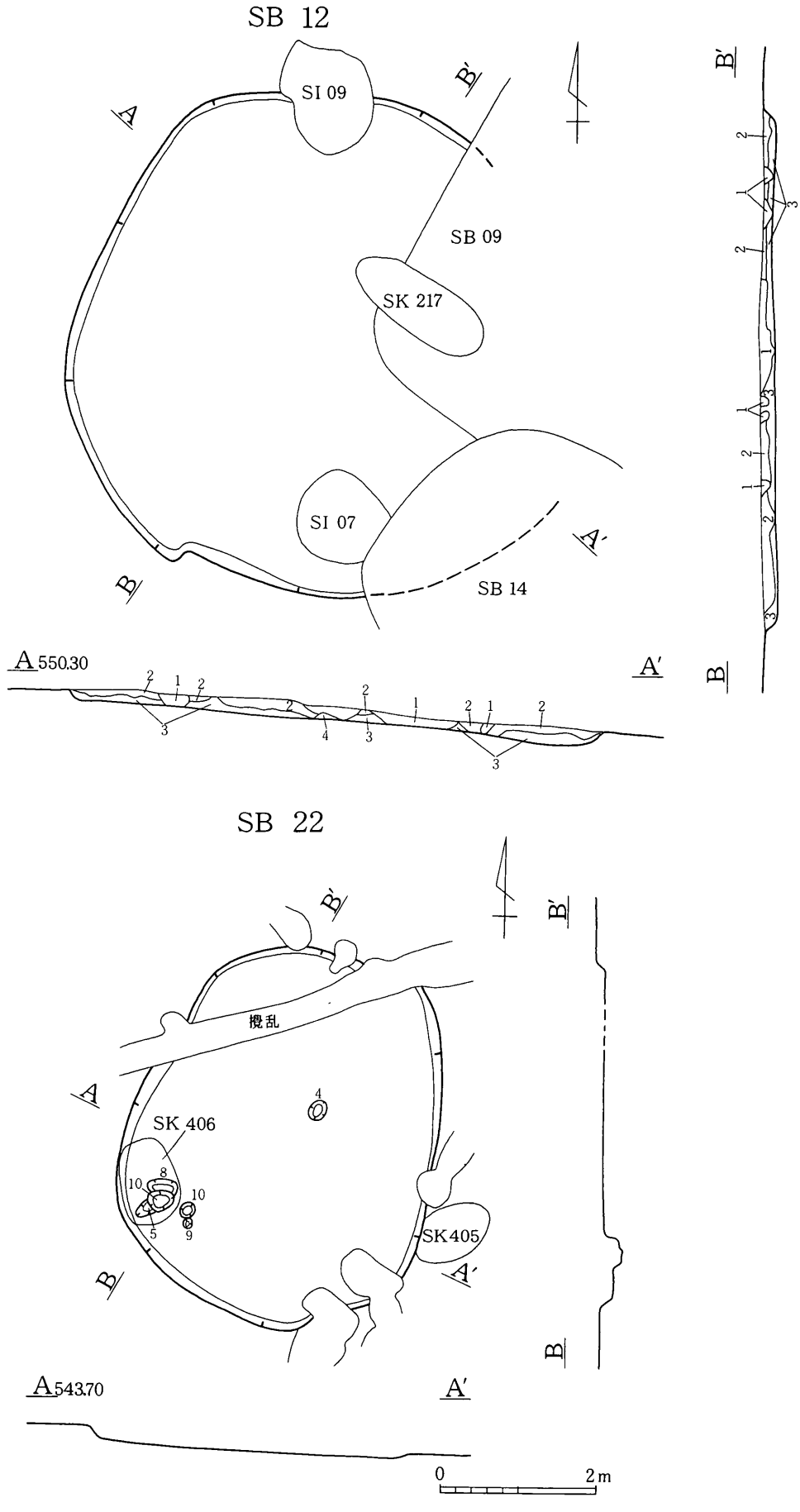
表12　ＳＢ06

遺構番号	ＳＢ10	時　　期	縄文時代早期前半・前期		
規　　模	420×－×23cm	長　　軸	不明	平 面 形	不整円形と考えられる。
検出状況	埋土が地山となんとなく異なる。				
重複関係	なし。				
壁	緩やかに立ち上がる。				
床	軟弱である。				
柱　　穴	なし。				
付属施設	なし。				
遺　　物	僅少。				
そ の 他	自然埋没と考えられる。北側はロームマウンドを切っている。				

表13　ＳＢ10

遺構番号	ＳＢ12	時　　期	縄文時代早期後葉～前期前葉		
規　　模	(660)×650×22cm	長　　軸	N24°Ｅ	平 面 形	不整形
検出状況	埋土が地山となんとなく異なる。				
重複関係	ＳＢ14を切り、ＳＢ09に切られる。				
壁	不明確である。				
床	軟弱である。				
柱　　穴	壁よりやや内側に径20～35cm、深さ10～20cmほどの小柱穴が９本検出された。				
付属施設	なし。				
遺　　物	僅少。				
そ の 他	自然埋没と考えられる。				

表14　ＳＢ12


SB 12
SI 09
SB 09
SK 217
SI 07
SB 14
A
A′
B
B′
A 550.30
SB 22
撹乱
SK 406
SK 405
A 543.70
0
2m

挿図33　ＳＢ12・22

遺構番号	ＳＢ22	時　　期	縄文時代早期前半		
規　　模	480×400×13cm	長　　軸	N22°Ｅ	平 面 形	不整楕円形
検出状況	埋土が地山となんとなく異なる。				
重複関係	ＳＫ405・ＳＫ406と重複する。				
壁	不明確である。				
床	軟弱である。				
柱　　穴	なし。				
付属施設	なし。				
遺　　物	僅少。				
そ の 他	自然埋没と考えられる。				

表15　ＳＢ22

(3) 炉穴

①ＳＫ217

調査区の北側、Ⅱ区ＡＭ１を中心にⅢ層上面で検出された。ＳＢ09・ＳＢ12に切られ、ＳＫ456を切る。規模190×65cm、深さ70cmほどで、長軸方向N30°Ｗを示す。不整長楕円形を呈する。断面でみると、南東端が一段高くなり、足場状の部分があったと考えられる。北西側は緩やかな立ち上がりを示す。底面が著しく焼けている。

②ＳＫ220-225-226-228

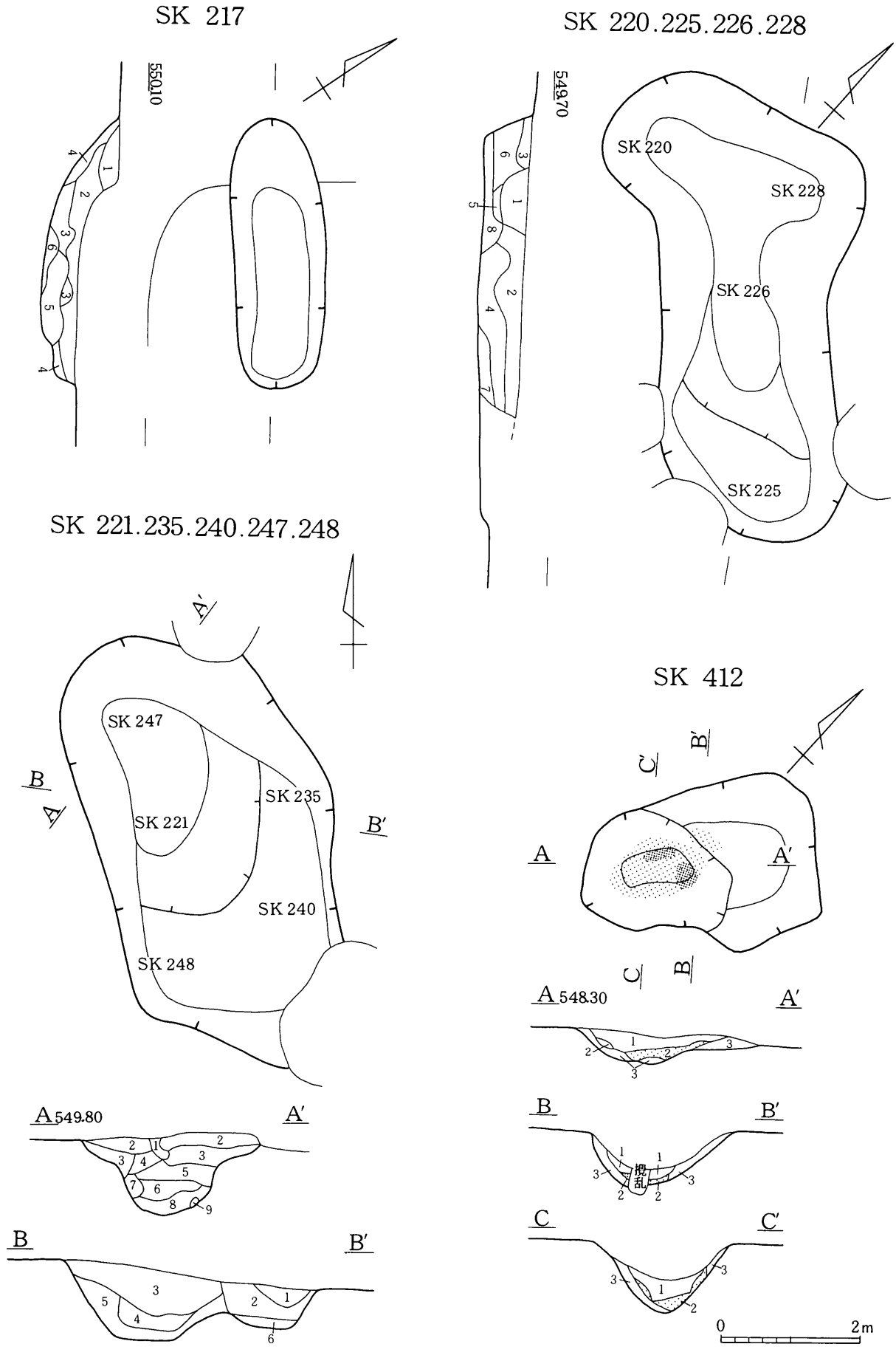
調査区の北側、Ⅱ区ＡＩ０を中心にⅢ層上面で検出された。調査時はＳＫ220・ＳＫ225・ＳＫ226・ＳＫ228の別個の遺構として把握した。北西側はやや膨らむが、中央に焼土がみられた以外は、膨らんだ箇所に焼土はない。他の炉穴の形態からもともとは不整長楕円形を呈していたと考えられる。規模340×120cm、深さ35cmほどで、長軸方向N45°Ｗを示す。南東端に足場をもつ。ＳＫ226からＳＫ220北側にかけての部分は底面が著しく焼ける。

③ＳＫ221-235-240-247-248

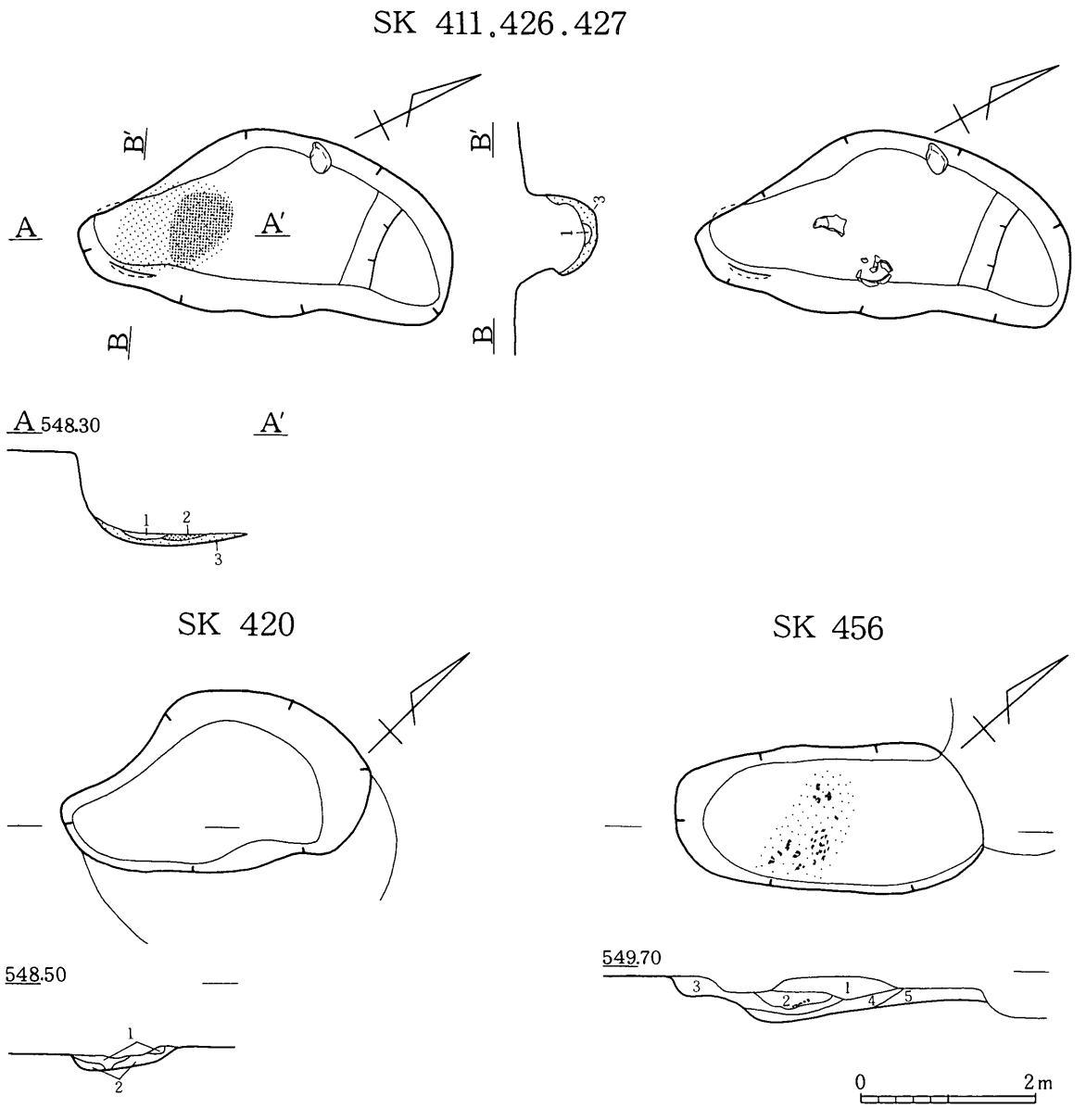
調査区の北側、Ⅰ区ＡＩ49を中心にⅢ層上面で検出された。調査時はＳＫ221・ＳＫ235・ＳＫ240・ＳＫ247・ＳＫ248の別個の遺構として把握した。不整形である。規模330×170cm、深さ60cmほどで、長軸方向N28°Ｗを示す。南東端に足場をもつ。ＳＫ221からＳＫ247にかけては底面が著しく焼ける。ＳＫ220-225-226-228と隣接することから、同時期の遺構と考えられる。

④ＳＫ412

調査区の中央、Ⅱ区ＡＡ３・Ⅳ区ＢＹ３を中心にⅢ層上面で検出された。ＳＫ411-426-427と方向を揃える。ＳＫ315・ＳＫ367～ＳＫ369に切られ、ＳＢ18を切る。規模170×120cm、深さ50cmほどで、長軸方向N32.5°Ｅを示す。不整形を呈する。北東側が一段高くなり、足場状になる。燃焼部は底面およ



挿図34　ＳＫ217・ＳＫ220-225-226-228・ＳＫ221-235-240-247-248・ＳＫ412



挿図35　ＳＫ411-426-427・ＳＫ420・ＳＫ456

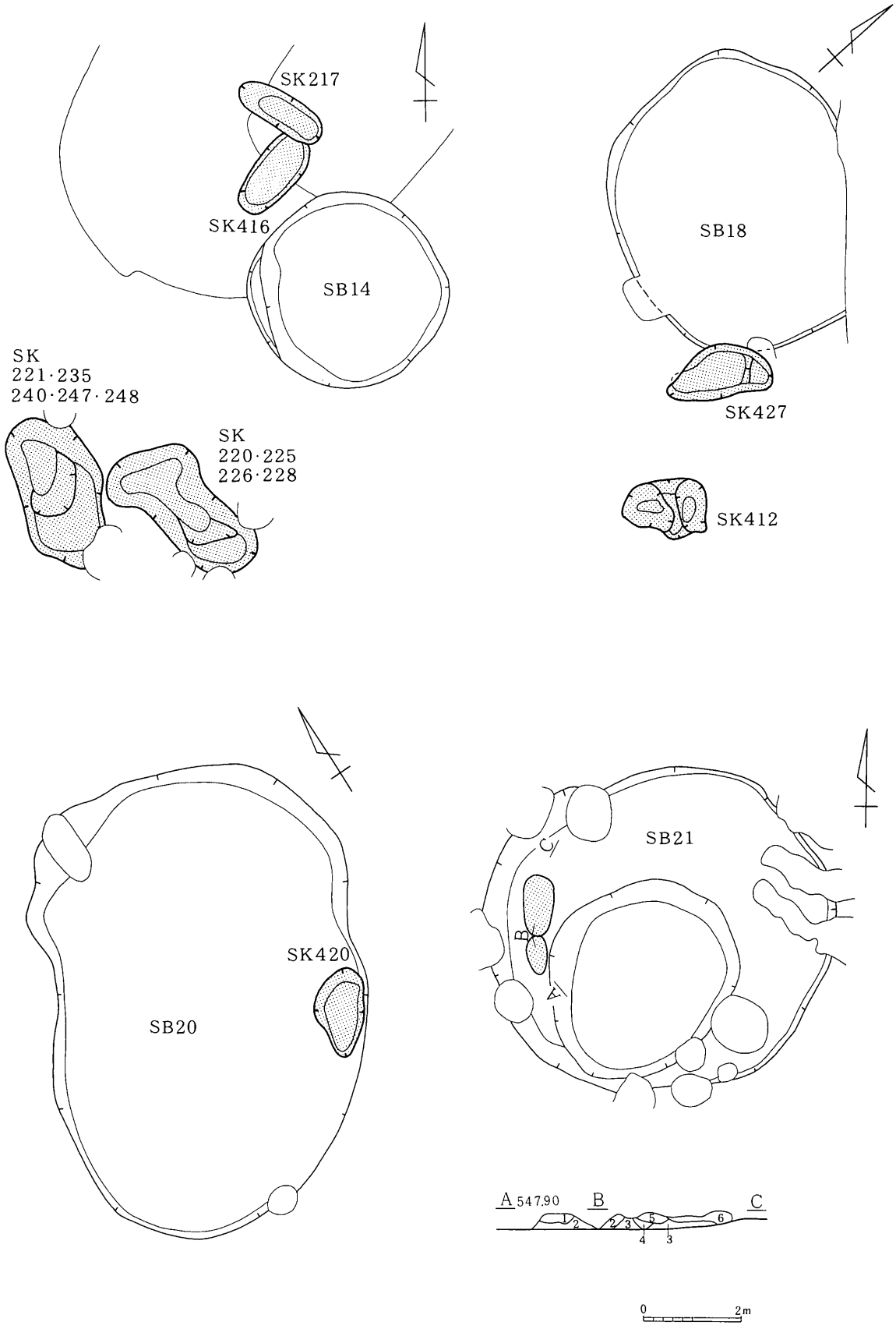
び側壁が焼け、ほぼ中央は著しく焼け締まっている。ＳＫ412に連続するＳＫ413は、中央がくぼみ焼土が検出されていることから、ＳＫ412の煙道部の可能性もある。

⑤ＳＫ420

調査区の中央、Ⅳ区ＢＶ１・ＢＷ１で検出された。ＳＢ20床面で検出されたが、新旧関係は不明である。規模175×105cm、ＳＢ20床面からの深さ35cmほどで、長軸方向N30.5°Ｅを示す。不整形を呈する。足場の有無は不明である。北東側は緩やかな立ち上がりを示す。南西側は幅が狭くなり、底面が著しく焼けている。

⑥ＳＫ411-426-427

調査区の中央、Ⅳ区ＢＹ43を中心にⅢ層上面で検出された。調査時にはＳＫ411・ＳＫ426・ＳＫ427


SK217
SK416
SB14
SB18
SK427
SK
221·235
240·247·248
SK
220·225
226·228
SK412
SB20
SK420
SB21
A
B
C
A 547.90
B
C
0
2m

挿図36　炉穴検出状況

の別個の遺構として把握した。ＳＫ412と方向を揃える。ＳＫ314・ＳＫ351・ＳＫ364・ＳＫ367等に切られる。規模215×105cm、深さ50cmほどで、長軸方向Ｎ35°Ｅを示す。不整長楕円形を呈する。北東側はやはり一段高くなり、足場状である。燃焼部は底面および側壁が焼け、中央からやや南西寄りが著しく焼け締まっている。南西端の部分は幅が狭くなり、端部がほぼ垂直に立ち上がるものの、両側壁は上部が被っており、形態がいわゆる煙道付炉穴と類似する。燃焼部の手前から遺物が出土しており、復元された１個体は口縁部から底部まで約１／２残存している。

⑦ＳＫ456

調査区の北側、Ⅱ区ＡＬ１を中心にⅢ層上面で検出された。ＳＢ09・ＳＢ12・ＳＫ217に切られる。規模175×80cm、深さ25cmほどで、長軸方向Ｎ40°Ｅを示す。不整長楕円形を呈する。断面でみると、北東側が一段高くなり、足場状の部分があったと考えられる。北西側は緩やかな立ち上がりを示す。中央やや南西寄りの底面に、焼土・炭化材が集中する。他の炉穴と比較して掘り込みが浅いが、上部を削平されていると考えられる。

⑧ＳＢ21重複焼土

調査区中央、Ⅳ区ＢＶ４を中心に検出された。ＳＢ21上面では把握できず、ＳＢ21調査中に確認した。ＳＢ21西壁寄りの床面より上位にあり、ＳＢ21より新しい。隣接して２基の楕円状の集積があるが、位置関係から別個のものではなく、一連のものと考えられる。規模200×60cm、厚さ20cmほどで、長軸方向Ｎ２°Ｅを示す。足場の痕跡は確認されていない。

(4) 集石

集石は、いずれもⅡ層上面で検出されている。花崗岩を主体とし、多くの被熱痕跡を示す礫で構成される。遺構の性格・用途等からすれば、出土遺物は遺構の構築された時期を表わすのではなく、せいぜい上限を示すものである。出土遺物の時期は、

1)早期前半　ＳＩ02、ＳＩ13、ＳＩ14、ＳＩ17、ＳＩ18、ＳＩ21

2)早期末葉～前期初頭

ＳＩ01、ＳＩ07、ＳＩ09、ＳＩ16、ＳＩ24

3)前期　ＳＩ08、ＳＩ11

4)早期前半～中期初頭

ＳＩ22

5)時期不明　ＳＩ03、ＳＩ04、ＳＩ05、ＳＩ06、ＳＩ08、ＳＩ10、ＳＩ15、ＳＩ20、ＳＩ23

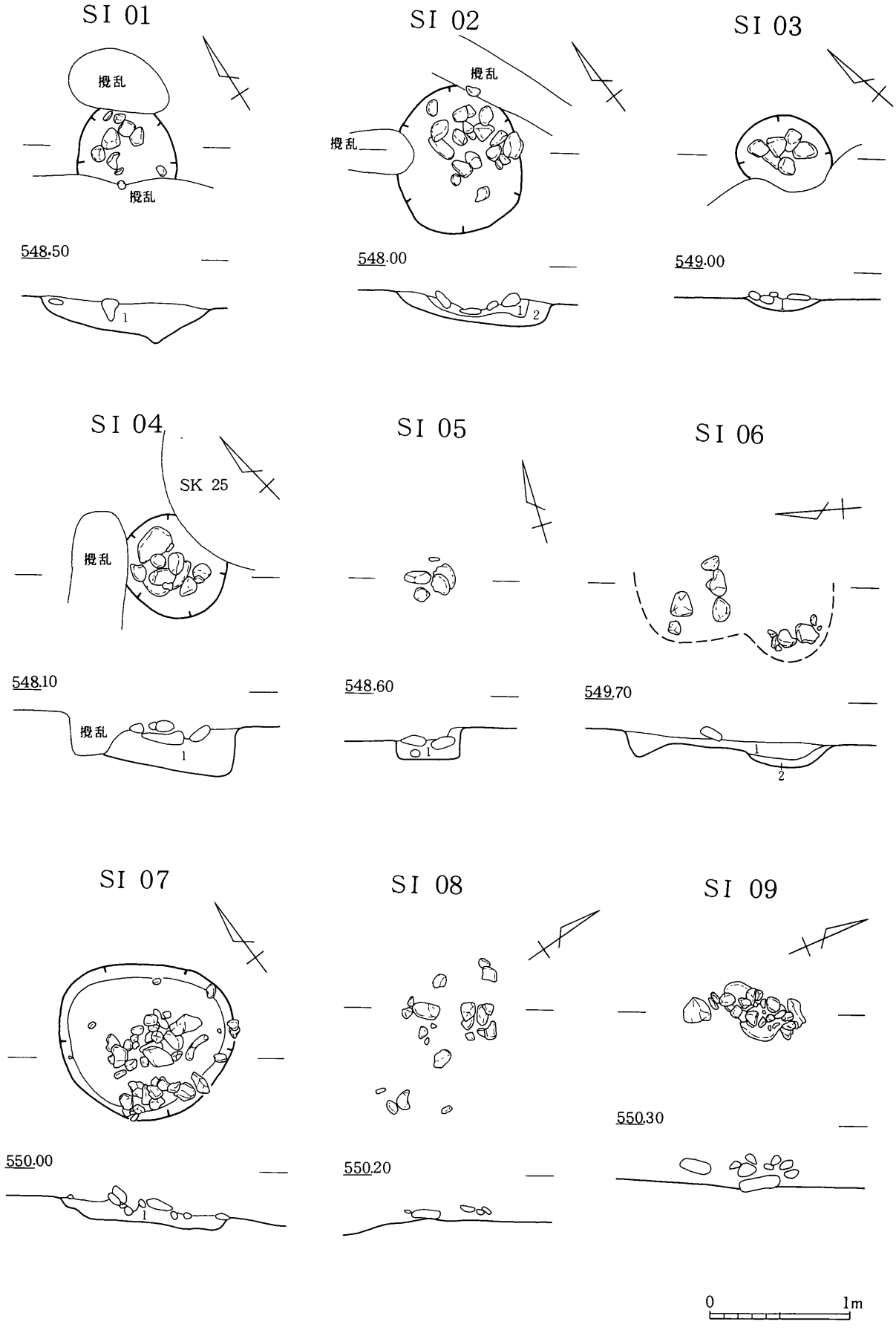
ＳＩ25

新旧関係は（新←古で表示）、

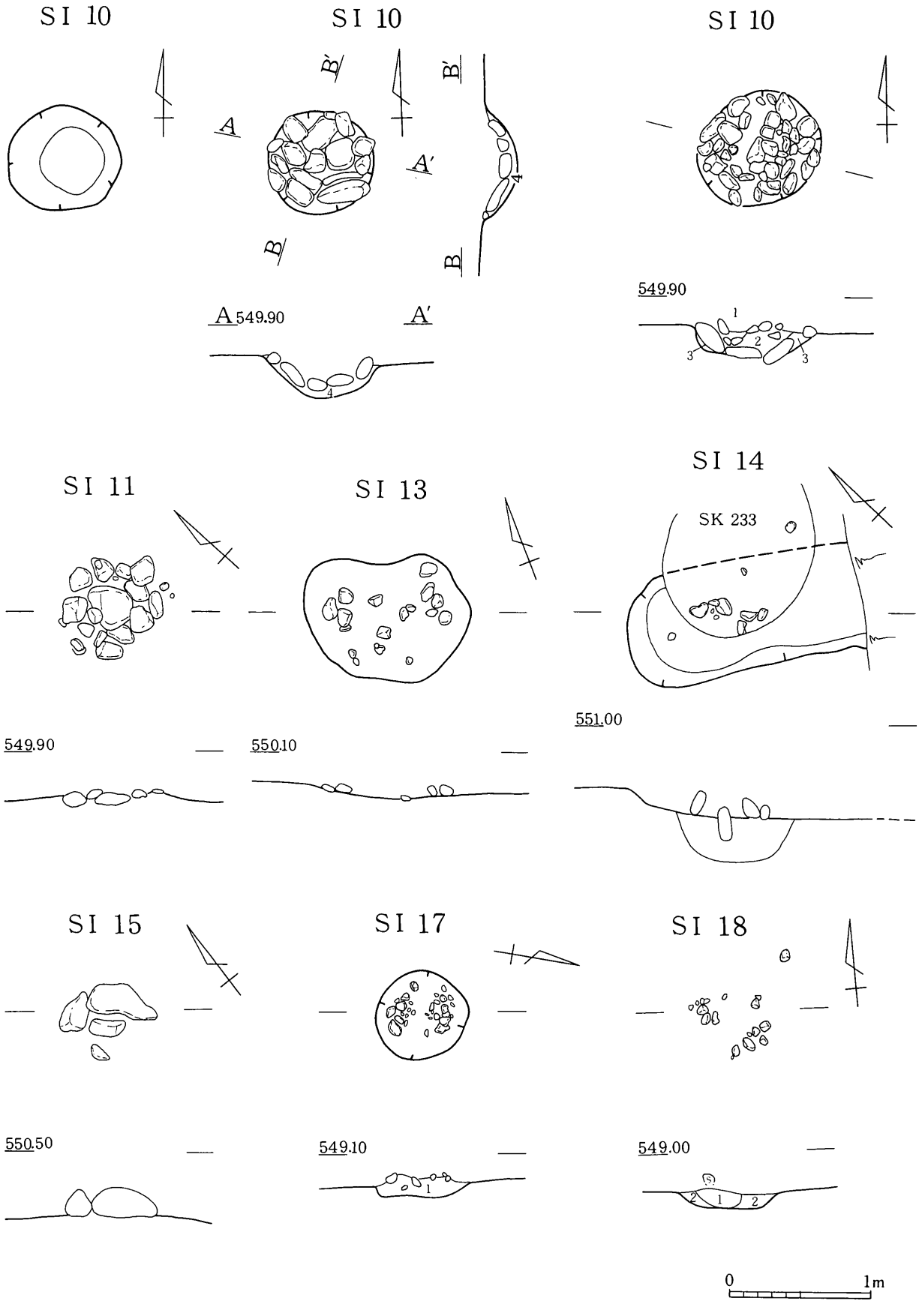
ＳＩ05←ＳＢ06、ＳＩ06←ＳＢ14、ＳＩ08←ＳＫ232、ＳＩ09←ＳＢ12、ＳＩ10←ＳＫ266

ＳＩ16←ＳＫ449、ＳＩ18・ＳＩ19←ＳＢ20、ＳＩ20・ＳＩ21・ＳＩ23←ＳＢ21

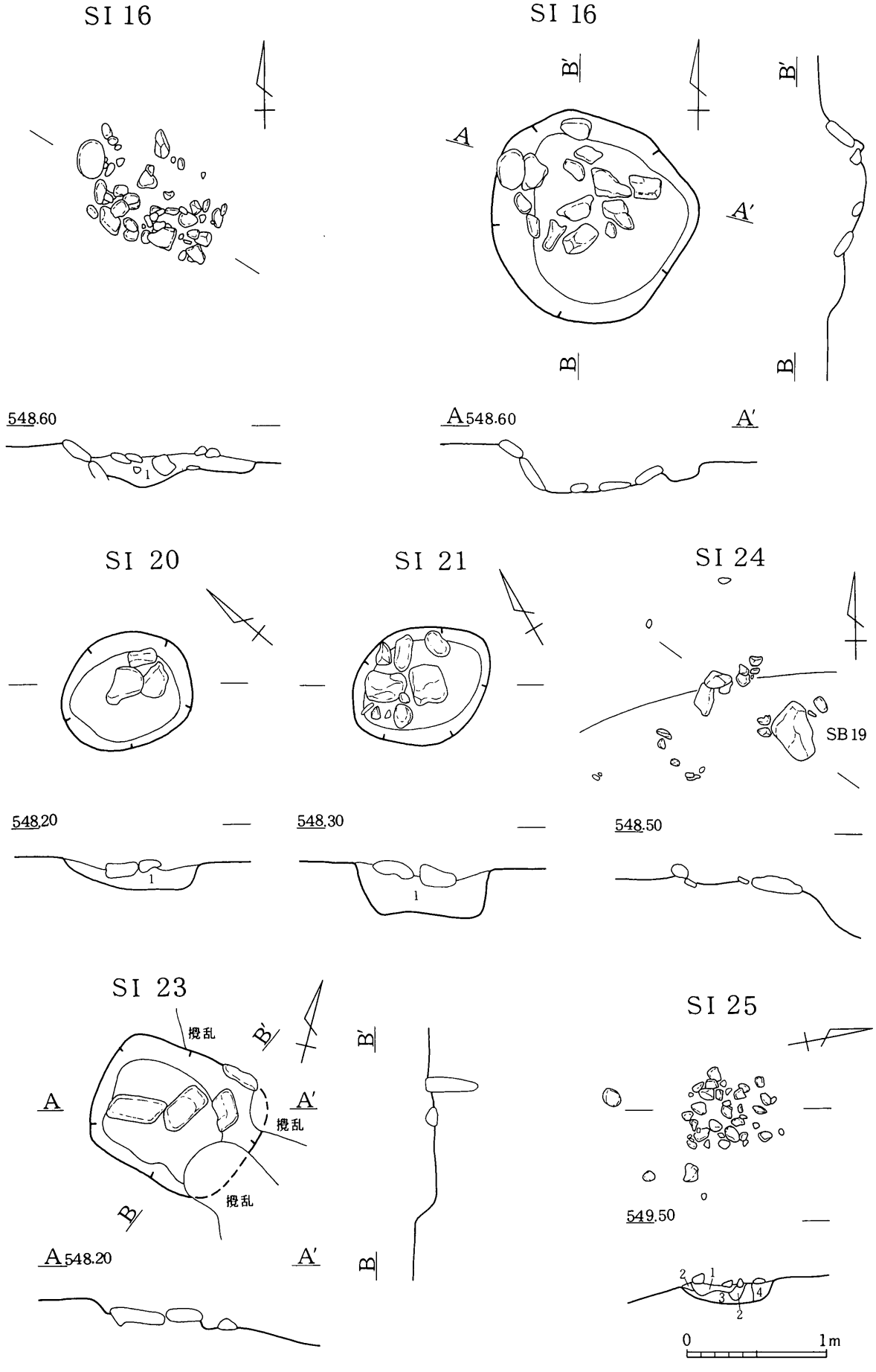
ＳＩ25←ＳＢ25


SI 01
撹乱
撹乱
548.50
1
SI 02
撹乱
撹乱
548.00
1
2
SI 03
549.00
1
SI 04
SK 25
撹乱
548.10
撹乱
1
SI 05
548.60
1
SI 06
549.70
1
2
SI 07
550.00
1
SI 08
550.20
SI 09
550.30
0
1m

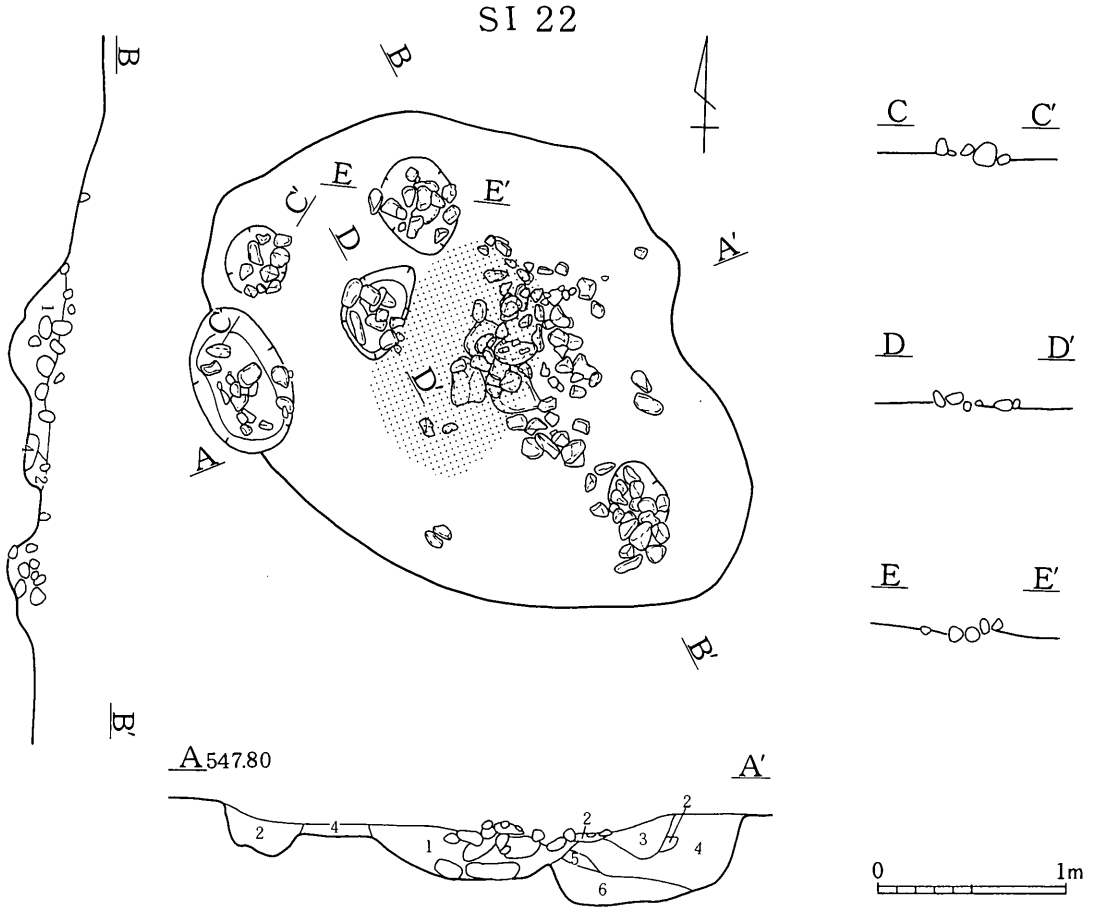
挿図37　ＳＩ01～09



挿図38　S I 10・11・13～15・17・18



挿図39　ＳＩ16・20・21・23～25



挿図40　ＳＩ22

形態別にみると、

Ａ群；礫が平面的に集中するもの

ＳＩ01、ＳＩ08、ＳＩ11、ＳＩ15、ＳＩ24

Ｂ群；下部に掘り方をもつもの

ＳＩ02、ＳＩ03、ＳＩ04、ＳＩ05、ＳＩ06、ＳＩ07、ＳＩ14、ＳＩ17、ＳＩ18、ＳＩ20
ＳＩ21、ＳＩ25

Ｃ群；掘り方底部に礫が集中するもの

ＳＩ13、ＳＩ22、ＳＩ23

Ｄ群；擂鉢状に掘りくぼめ、底部に20～40cm扁平礫を敷き並べ、その上部に10～20cm程度の礫が集中するもの

ＳＩ09、ＳＩ10、ＳＩ16、ＳＩ22の一部

である。ＳＩ22については検出時に一面に炭が広がっていたため、一つの遺構として捉えたが、礫の分布状況や掘り方から６基の集石が密集していたと考えられる。中央やや東寄りの大きなまとまりは、Ｄ群と考えられる。早期前半のＳＩ17・ＳＩ18・ＳＩ21の遺物は、ＳＢ20・ＳＢ21との重複で混入したと考えられ、各ＳＩの検出状況と両住居址の埋没状況からすると、早期末葉以降に構築されたと考えられる。早期前半はＢ・Ｃ群、早期末葉から前期初頭にかけてはＡ（・Ｂ）・Ｄ群、前期は詳細時期は不明

であるがＡ群が特徴的といえる。

(5) 貯蔵穴

ＳＫ233はⅢ層上面で、それ以外はⅡ層上面で検出された。

1) 早期前半　ＳＫ81、ＳＫ233、ＳＫ400、ＳＫ403、ＳＫ520

2) 早期末葉　ＳＫ78、ＳＫ311、ＳＫ516

3) 後・晩期　ＳＫ348、ＳＫ381

4) 晩期終末ないし弥生時代前期

ＳＫ01、ＳＫ328

5) 時期不明　ＳＫ02、ＳＫ59、ＳＫ60、ＳＫ72、ＳＫ74、ＳＫ85、ＳＫ202、ＳＫ239

ＳＫ347、ＳＫ365、ＳＫ380、ＳＫ478 ＳＩ12、ＳＩ19

形態別にみると、

Ａ群；円筒状を呈するもの（Ａ１群；埋土中に礫がないもの、Ａ２群；埋土中に礫があるもの）

Ａ１群；ＳＫ01、ＳＫ75、ＳＫ311、ＳＫ380、ＳＫ478

Ａ２群；ＳＫ59、ＳＫ60、ＳＩ12

Ｂ群；フラスコ状を呈するもの

ＳＫ02、ＳＫ72、ＳＫ81、ＳＫ85、ＳＫ328、ＳＫ348、ＳＫ400、ＳＫ516

ＳＫ520

Ｃ群；フラスコ状を呈し、底部に周溝が巡らされるもの

ＳＫ365、ＳＫ403

Ｄ群；フラスコ状を呈し、底部に扁平な礫が敷かれ、かつ周溝が巡らされるもの

ＳＩ19

Ｅ群；形態が不明のもの（底部付近は擂鉢状を呈するものの、上部が不明のものを含む）

ＳＫ74、ＳＫ78、ＳＫ202、ＳＫ233、ＳＫ239、ＳＫ347、ＳＫ381

であり、時期別の形態の変化はみられない。

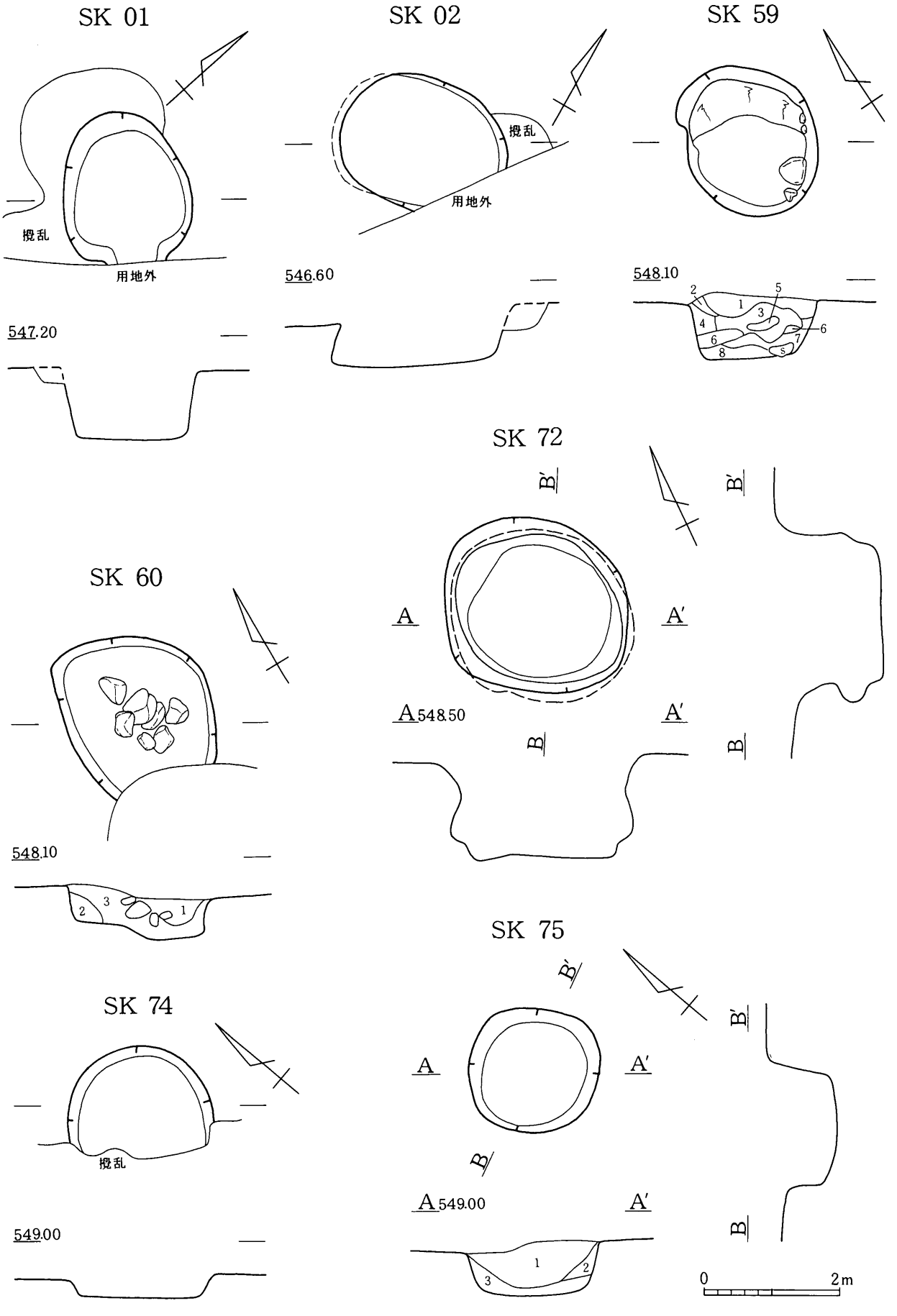
(6) 土坑

土坑は、ＳＫ104～ＳＫ157・ＳＫ194・ＳＫ195・ＳＫ312～ＳＫ315・ＳＫ321～ＳＫ327・ＳＫ329・ＳＫ330・ＳＫ346・ＳＫ349～ＳＫ364・ＳＫ366～ＳＫ379・ＳＫ382～ＳＫ392・ＳＫ485～ＳＫ488・ＳＫ490～ＳＫ500はⅡ層上面で、それ以外はⅢ層上面で検出された。

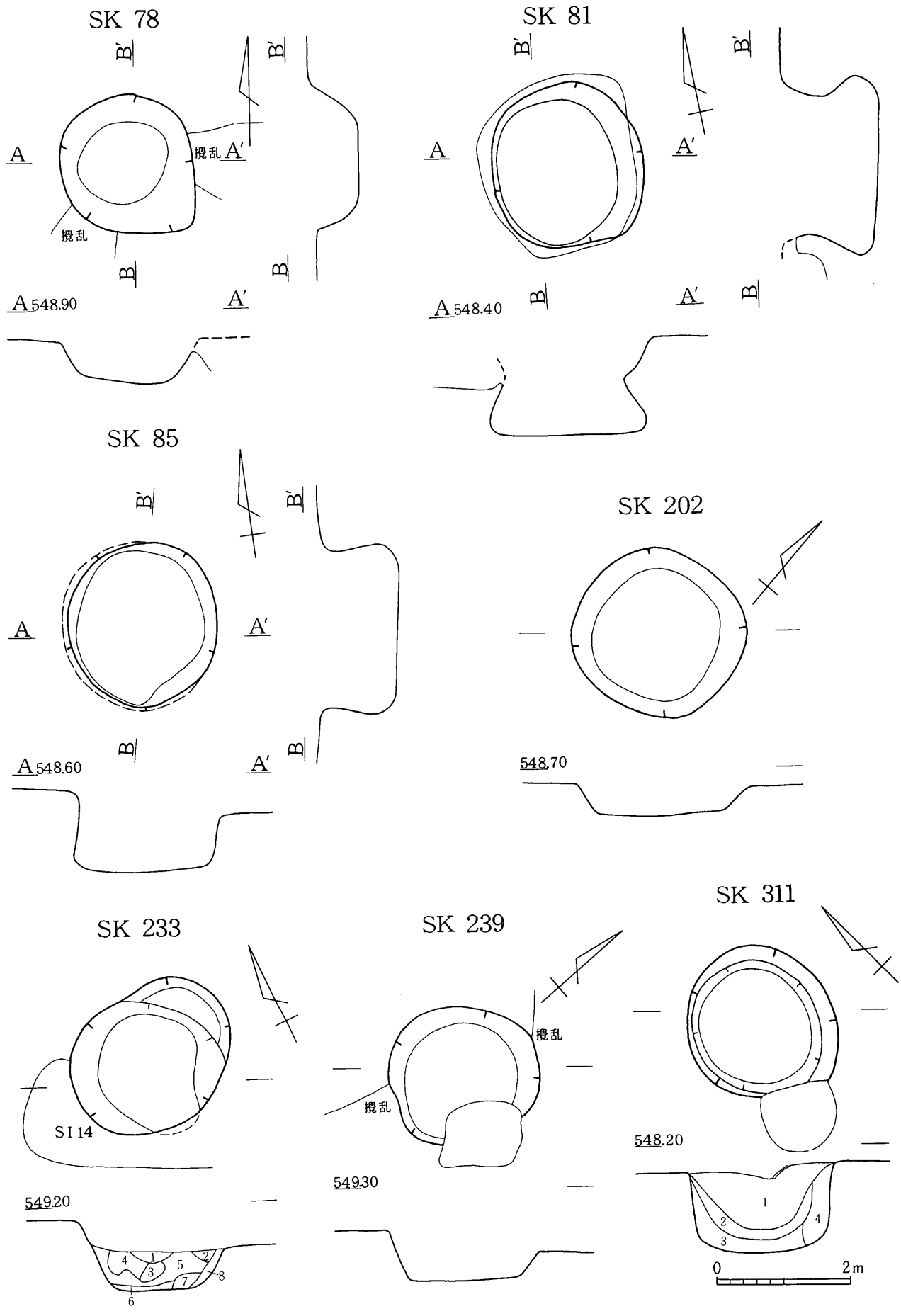
1) 草創期　ＳＫ525

2) 早期前半　ＳＫ08、ＳＫ09、ＳＫ36、ＳＫ43、ＳＫ45、ＳＫ61、ＳＫ82、ＳＫ89、ＳＫ91

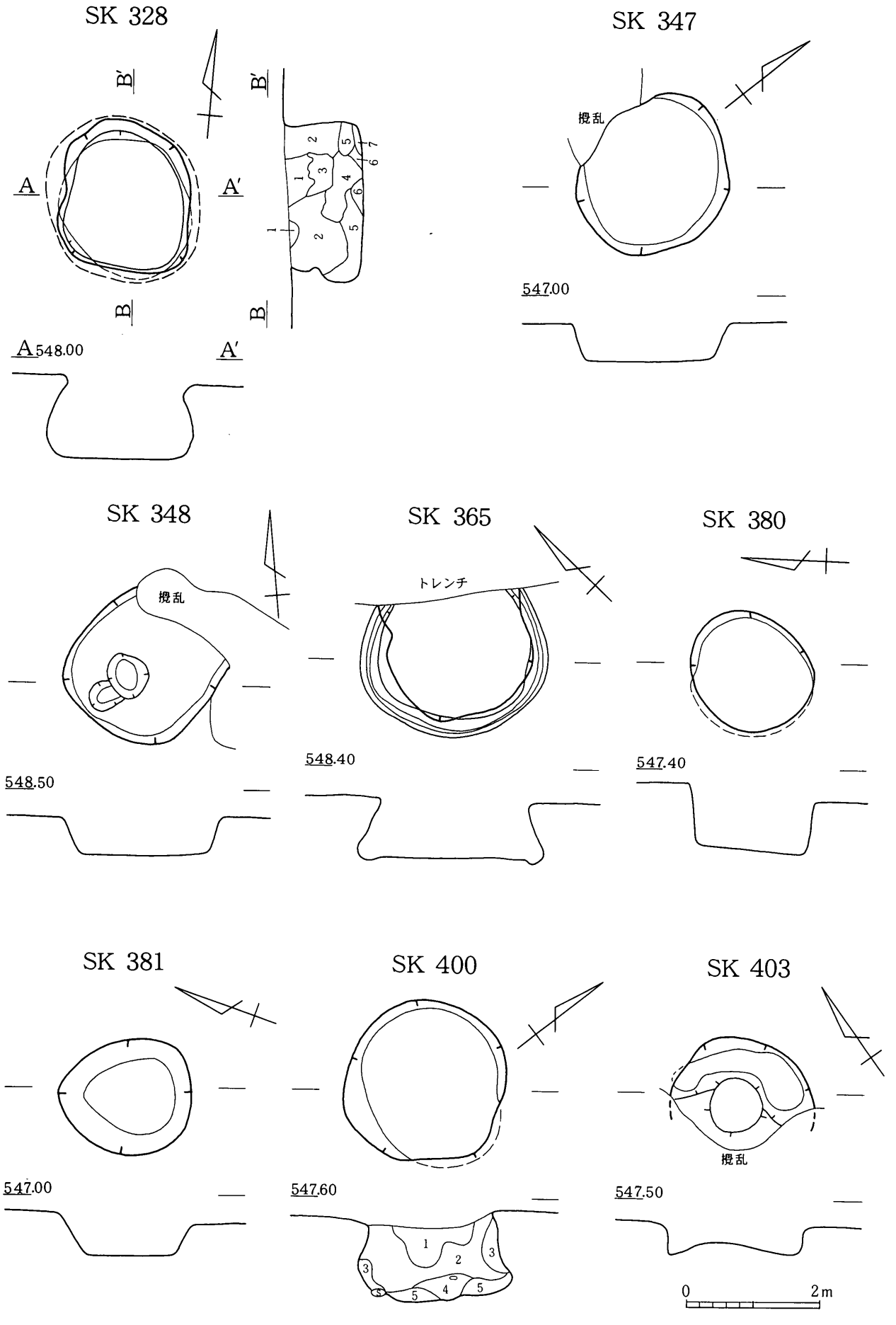
ＳＫ96、ＳＫ97、ＳＫ99、ＳＫ104、ＳＫ114、ＳＫ115、ＳＫ128



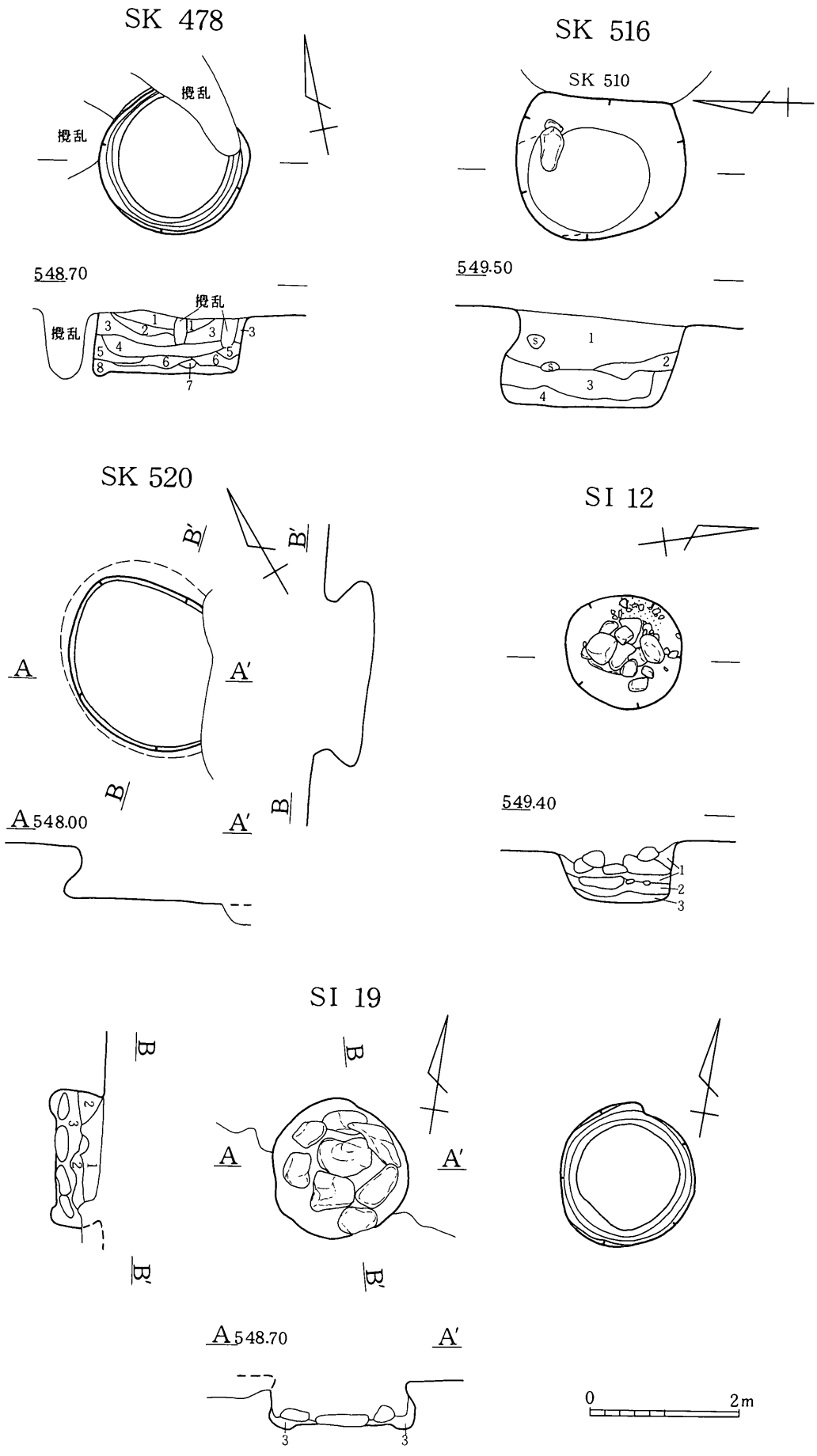
挿図41　ＳＫ01・02・59・60・72・74・75



挿図42　ＳＫ78・81・85・202・233・239・311



挿図43　ＳＫ328・347・348・365・380・381・400・403



挿図44　ＳＫ478・516・520、ＳＩ12・19

ＳＫ130、ＳＫ143、ＳＫ145、ＳＫ147、ＳＫ170、ＳＫ175、ＳＫ210
ＳＫ211、ＳＫ222、ＳＫ223、ＳＫ229、ＳＫ232、ＳＫ243、ＳＫ245
ＳＫ249、ＳＫ252、ＳＫ256、ＳＫ261、ＳＫ271、ＳＫ279、ＳＫ297
ＳＫ298、ＳＫ305、ＳＫ314、ＳＫ317、ＳＫ318、ＳＫ321、ＳＫ326
ＳＫ327、ＳＫ331、ＳＫ334、ＳＫ336、ＳＫ339、ＳＫ343、ＳＫ345
ＳＫ346、ＳＫ352、ＳＫ354、ＳＫ355、ＳＫ356、ＳＫ358、ＳＫ359
ＳＫ361、ＳＫ362、ＳＫ363、ＳＫ364、ＳＫ367、ＳＫ369、ＳＫ375
ＳＫ376、ＳＫ377、ＳＫ378、ＳＫ385、ＳＫ390、ＳＫ397、ＳＫ399
ＳＫ404、ＳＫ406、ＳＫ407、ＳＫ409、ＳＫ410、ＳＫ413、ＳＫ419
ＳＫ421、ＳＫ424、ＳＫ435、ＳＫ436、ＳＫ438、ＳＫ441、ＳＫ444
ＳＫ446、ＳＫ447、ＳＫ455、ＳＫ459、ＳＫ468、ＳＫ469、ＳＫ472
ＳＫ473、ＳＫ477、ＳＫ479、ＳＫ480、ＳＫ481、ＳＫ487、ＳＫ496
ＳＫ498、ＳＫ500、ＳＫ501、ＳＫ505、ＳＫ506、ＳＫ507、ＳＫ508
ＳＫ521、ＳＫ524、ＳＫ527、ＳＫ532、ＳＫ533

形態別にみると、

Ａ１群；平面概ね円形・断面擂鉢状を呈し、１ｍ以上の大きさのもの
ＳＫ08、ＳＫ43、ＳＫ468、ＳＫ533

Ａ２群；平面概ね円形・断面擂鉢状を呈し、１ｍ以下の大きさのもの
ＳＫ82、ＳＫ97、ＳＫ99、ＳＫ104、ＳＫ130、ＳＫ223、ＳＫ229
ＳＫ245、ＳＫ261、ＳＫ352、ＳＫ354、ＳＫ355、ＳＫ356、ＳＫ361
ＳＫ362、ＳＫ390、ＳＫ479、ＳＫ480

Ｂ１群；不整形で内部が一段窪む。１ｍ以上の大きさのもの
ＳＫ09、ＳＫ96、ＳＫ128、ＳＫ143、ＳＫ145、ＳＫ147、ＳＫ211
ＳＫ249、ＳＫ252、ＳＫ256、ＳＫ298、ＳＫ305、ＳＫ314、ＳＫ318
ＳＫ321、ＳＫ334、ＳＫ339、ＳＫ343、ＳＫ345、ＳＫ358、ＳＫ369
ＳＫ385、ＳＫ410、ＳＫ413、ＳＫ419、ＳＫ436、ＳＫ438、ＳＫ441
ＳＫ487、ＳＫ498、ＳＫ500、ＳＫ505、ＳＫ506、ＳＫ508

Ｂ２群；不整形で内部が一段窪む。１ｍ以下の大きさのもの
ＳＫ377、ＳＫ378、ＳＫ424

Ｃ　群；概ね円形を呈し、内部が一段窪む。１ｍ以下の大きさのもの
ＳＫ36、ＳＫ114、ＳＫ115、ＳＫ297、ＳＫ346

Ｄ　群；概ね円形を呈し、底部が不整形のもの。１ｍ以下の大きさのもの
ＳＫ359

Ｅ１群；不整形を呈し、平坦に掘り窪む。１ｍ以上の大きさのもの
ＳＫ45、ＳＫ61、ＳＫ89、ＳＫ91、ＳＫ170、ＳＫ175、ＳＫ210、ＳＫ327
ＳＫ336、ＳＫ364、ＳＫ367、ＳＫ399、ＳＫ404、ＳＫ406、ＳＫ407
ＳＫ435、ＳＫ444、ＳＫ473、ＳＫ501、ＳＫ521、ＳＫ524

Ｅ２群；不整形を呈し、平坦に掘り窪む。１ｍ以下の大きさのもの

ＳＫ222、ＳＫ477、ＳＫ527

Ｆ１群；不整形を呈し、断面片上がりのもの。１ｍ以上の大きさのもの

ＳＫ232、ＳＫ376、ＳＫ409、ＳＫ446

Ｆ２群；不整形を呈し、断面片上がりのもの。１ｍ以下の大きさのもの

ＳＫ363、ＳＫ375

Ｇ１群；不整形を呈し、底面が平坦でないもの。１ｍ以上の大きさのもの

ＳＫ271、ＳＫ279、ＳＫ317、ＳＫ326、ＳＫ331、ＳＫ397、ＳＫ421
ＳＫ447、ＳＫ455、ＳＫ459、ＳＫ469、ＳＫ472、ＳＫ496、ＳＫ507
ＳＫ532

Ｇ２群；不整形を呈し、底面が平坦でないもの。１ｍ以下の大きさのもの

ＳＫ481

で、Ａ２群・Ｂ１群・Ｅ１群・Ｇ１群が多く、１ｍ以上の大型で不整形な土坑と、１ｍ以下の概ね形の整った土坑とがある。

ＳＫ243は、17点の石器（トゥールおよび素材）が埋納された土坑で、土器の出土はみなかったが、特殊磨石が含まれることからこの時期とした。飯田下伊那地方ではこれまで他に例をみない。

3）早期末葉　ＳＫ13、ＳＫ15、ＳＫ16、ＳＫ21、ＳＫ25、ＳＫ42、ＳＫ64、ＳＫ86、ＳＫ94
ＳＫ103、ＳＫ106、ＳＫ116、ＳＫ122、ＳＫ123、ＳＫ124、ＳＫ125
ＳＫ127、ＳＫ135、ＳＫ146、ＳＫ149、ＳＫ151、ＳＫ154、ＳＫ161
ＳＫ183、ＳＫ193、ＳＫ195、ＳＫ207、ＳＫ231、ＳＫ264、ＳＫ266
ＳＫ267、ＳＫ274、ＳＫ275、ＳＫ291、ＳＫ315、ＳＫ325、ＳＫ370
ＳＫ379、ＳＫ392、ＳＫ398、ＳＫ401、ＳＫ415、ＳＫ417、ＳＫ434
ＳＫ470、ＳＫ476、ＳＫ488、ＳＫ495、ＳＫ511、ＳＫ530

形態別にみると、

Ａ１群；平面概ね円形・断面擂鉢状を呈し、１ｍ以上の大きさのもの

ＳＫ16、ＳＫ127、ＳＫ398、ＳＫ417

Ａ２群；平面概ね円形・断面擂鉢状を呈し、１ｍ以下の大きさのもの

ＳＫ103、ＳＫ116、ＳＫ124、ＳＫ146

Ｂ１群；不整形で内部が一段窪む。１ｍ以上の大きさのもの

ＳＫ21、ＳＫ25、ＳＫ122、ＳＫ125、ＳＫ151、ＳＫ195、ＳＫ264
ＳＫ274、ＳＫ275、ＳＫ530

Ｂ２群；不整形で内部が一段窪む。１ｍ以下の大きさのもの

ＳＫ193、ＳＫ476

Ｃ　群；概ね円形を呈し、内部が一段窪む。１ｍ以下の大きさのもの

ＳＫ86、ＳＫ94

Ｅ１群；不整形を呈し、平坦に掘り窪む。１ｍ以上の大きさのもの

ＳＫ42、ＳＫ123、ＳＫ149、ＳＫ267、ＳＫ379、ＳＫ392、ＳＫ415
ＳＫ495

Ｅ２群；不整形を呈し、平坦に掘り窪む。１m以下の大きさのもの
ＳＫ207、ＳＫ434、ＳＫ470

Ｆ１群；不整形を呈し、断面片上がりのもの。１m以上の大きさのもの
ＳＫ154、ＳＫ511

Ｇ１群；不整形を呈し、底面が平坦でないもの。１m以上の大きさのもの
ＳＫ15、ＳＫ64、ＳＫ135、ＳＫ161、ＳＫ231、ＳＫ266、ＳＫ488

Ｇ２群；不整形を呈し、底面が平坦でないもの。１m以下の大きさのもの
ＳＫ13、ＳＫ106、ＳＫ183、ＳＫ291、ＳＫ315、ＳＫ325、ＳＫ370
ＳＫ401

Ｂ群・Ｅ群・Ｇ群が多いようであるが、形態・大きさともばらつきがある。
ＳＫ488からは打越式土器が出土している。

4）早期末葉ないし前期初頭
ＳＫ26、ＳＫ301、ＳＫ302、ＳＫ491

ＳＫ302内より玦状耳飾りが出土した。半分欠損するが、出土状況から墓壙と考えられる。

5）前期初頭　ＳＫ71、ＳＫ241、ＳＫ242、ＳＫ257、ＳＫ276、ＳＫ289、ＳＫ324
ＳＫ422

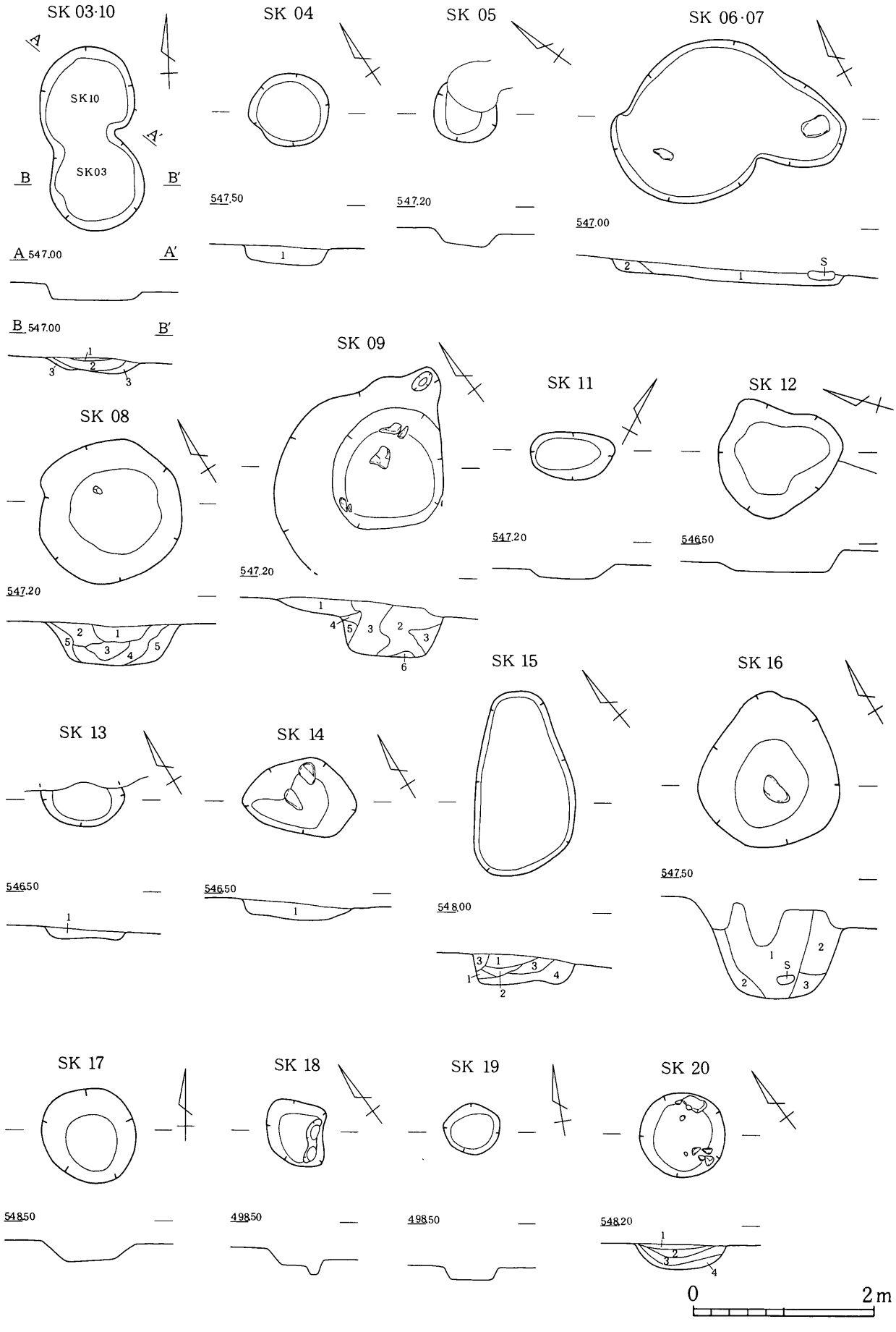
6）前期末～中期初頭
ＳＫ04、ＳＫ20、ＳＫ31、ＳＫ90、ＳＫ313、ＳＫ329、ＳＫ357、ＳＫ360
ＳＫ380、ＳＫ395、ＳＫ464、ＳＫ478、ＳＫ518

7）後・晩期　ＳＫ382

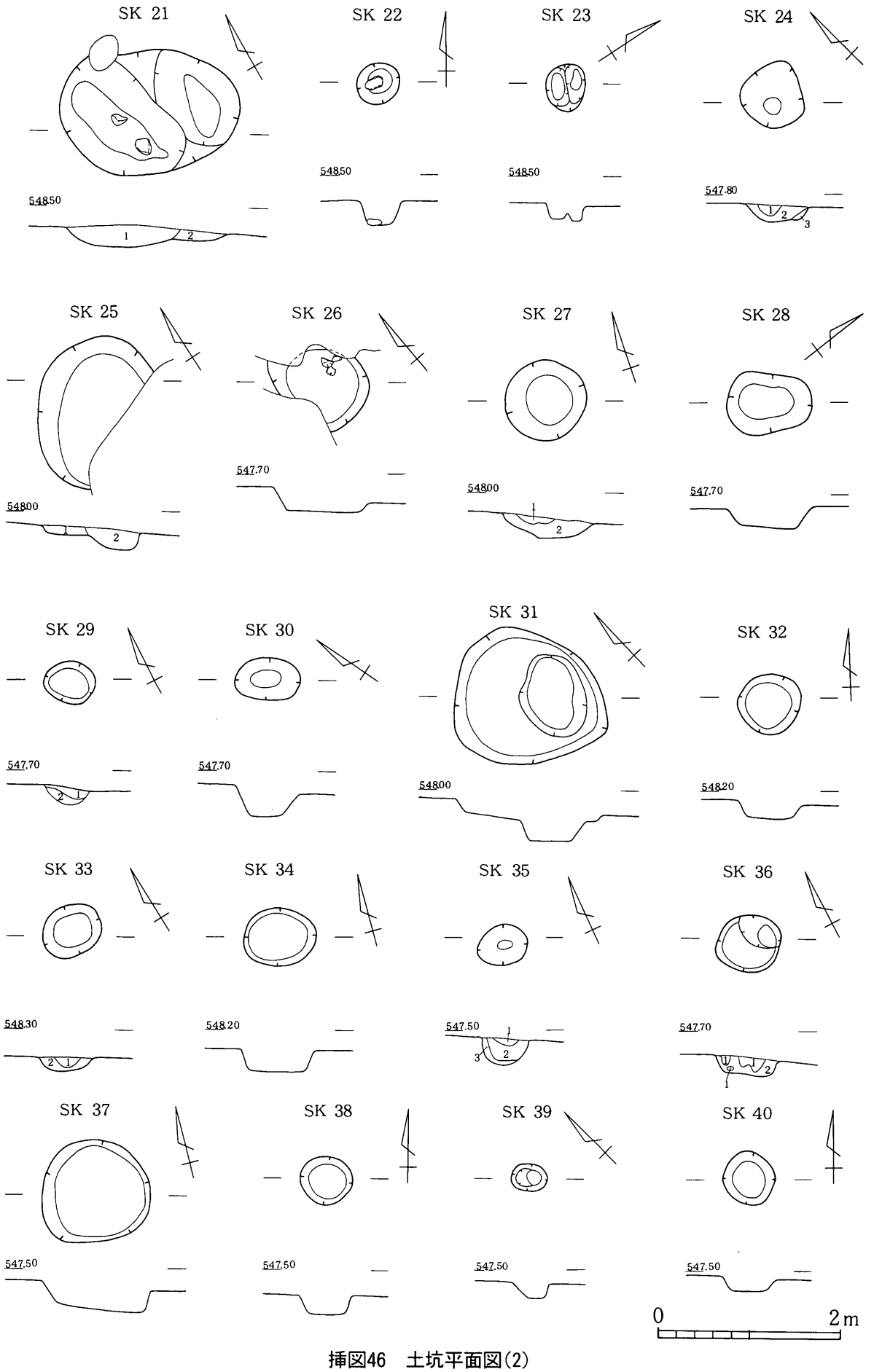
8）晩期終末ないし弥生時代前期
ＳＫ489

9）時期不明　上記以外のＳＫ

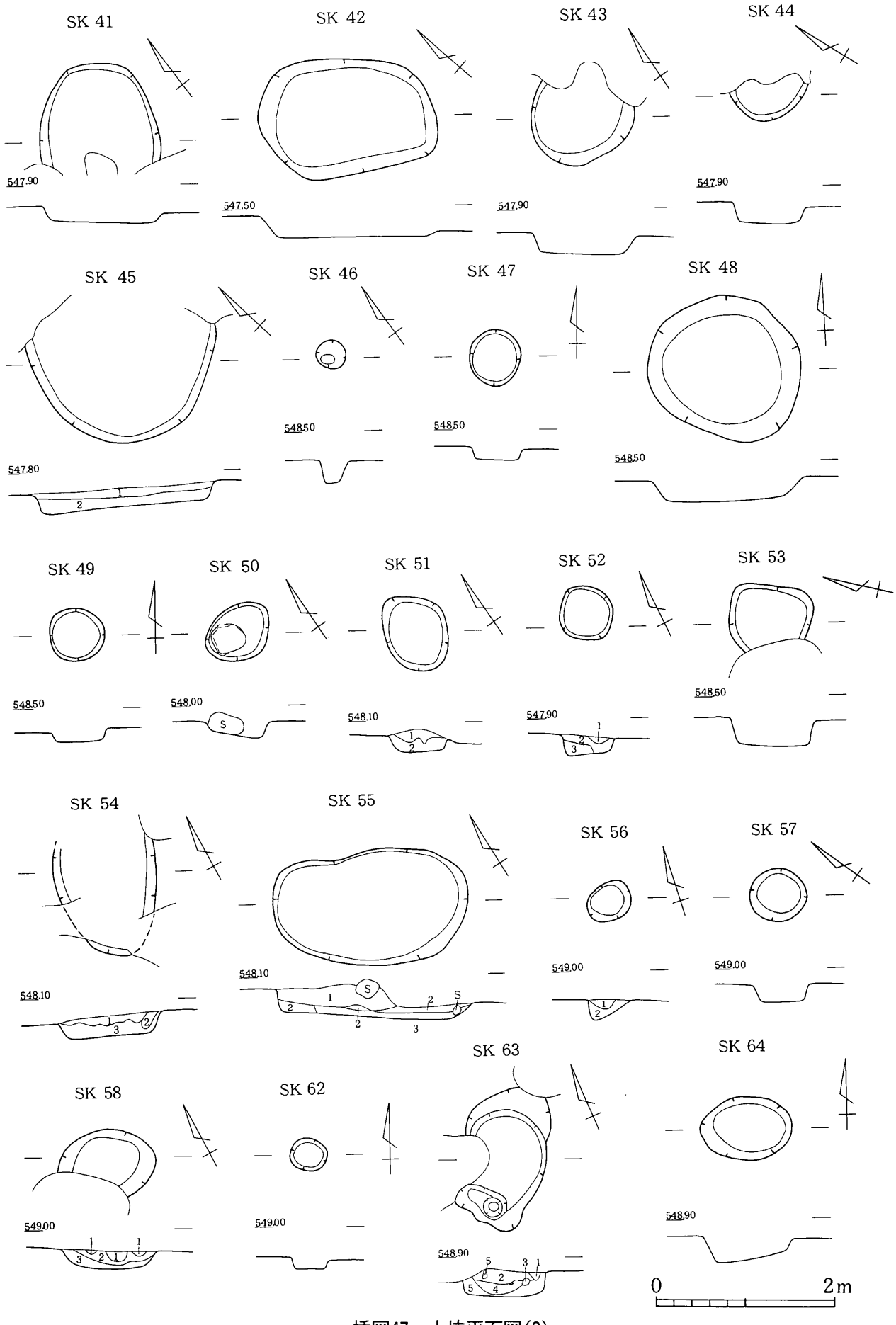
また、底面に焼土の検出された土坑は、
ＳＫ42、ＳＫ44、ＳＫ63、ＳＫ66、ＳＫ69、ＳＫ87、ＳＫ114、ＳＫ210
ＳＫ213、ＳＫ223、ＳＫ244、ＳＫ308、ＳＫ314、ＳＫ322、ＳＫ331
ＳＫ332、ＳＫ336、ＳＫ339、ＳＫ385、ＳＫ396、ＳＫ397、ＳＫ408
ＳＫ413、ＳＫ416、ＳＫ419、ＳＫ421、ＳＫ424、ＳＫ425、ＳＫ428
ＳＫ429、ＳＫ435、ＳＫ438、ＳＫ454、ＳＫ461、ＳＫ463、ＳＫ465


SK 03·10
SK10
SK03
A
A'
B
B'
A 547.00
B 547.00
SK 04
547.50
SK 05
547.20
SK 06·07
547.00
S
SK 08
547.20
SK 09
547.20
SK 11
547.20
SK 12
546.50
SK 13
546.50
SK 14
546.50
SK 15
548.00
SK 16
547.50
S
SK 17
548.50
SK 18
498.50
SK 19
498.50
SK 20
548.20
0
2m

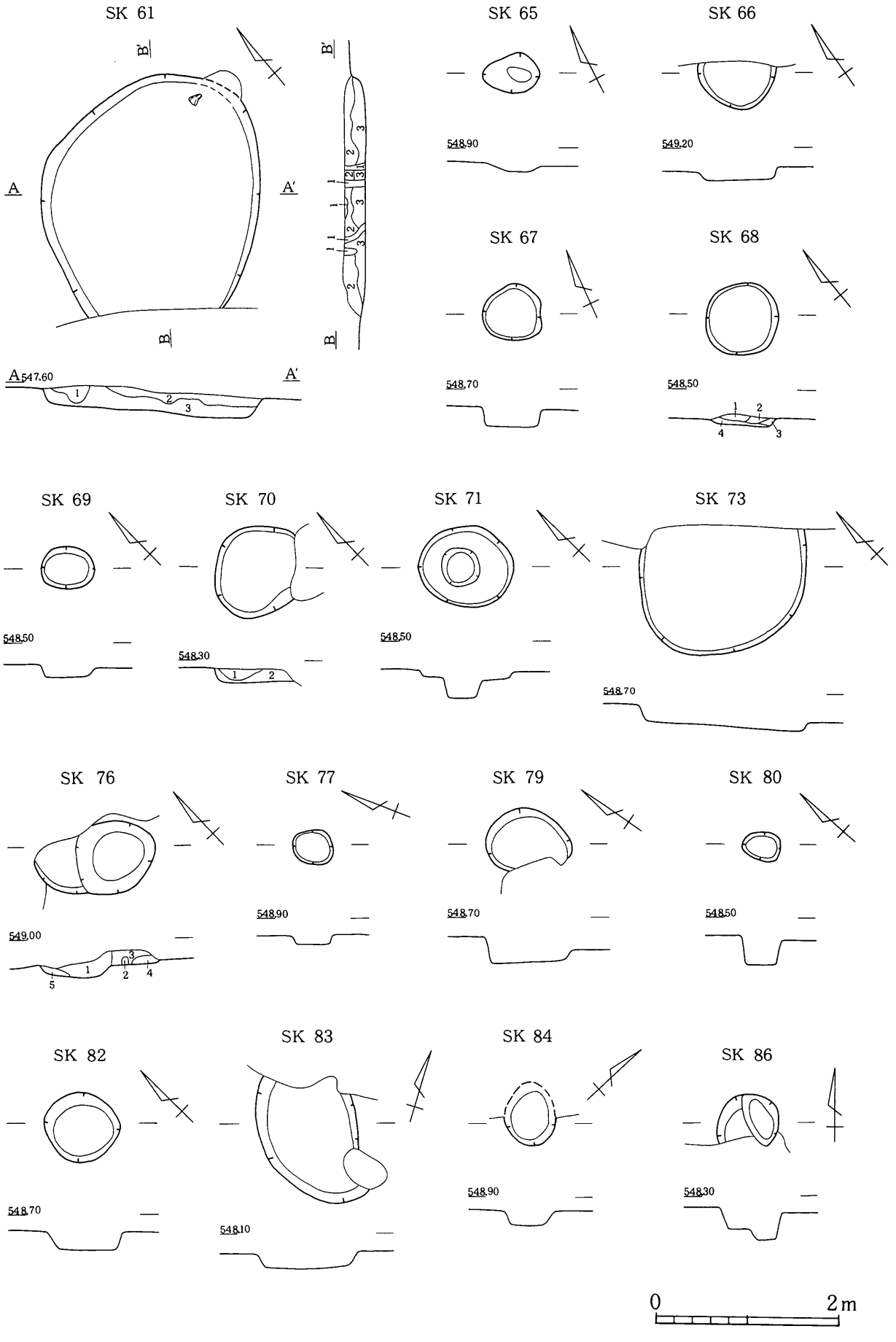
挿図45　土坑平面図(1)


SK 21
548.50
SK 22
548.50
SK 23
548.50
SK 24
547.80
SK 25
548.00
SK 26
547.70
SK 27
548.00
SK 28
547.70
SK 29
547.70
SK 30
547.70
SK 31
548.00
SK 32
548.20
SK 33
548.30
SK 34
548.20
SK 35
547.50
SK 36
547.70
SK 37
547.50
SK 38
547.50
SK 39
547.50
SK 40
547.50
0
2m

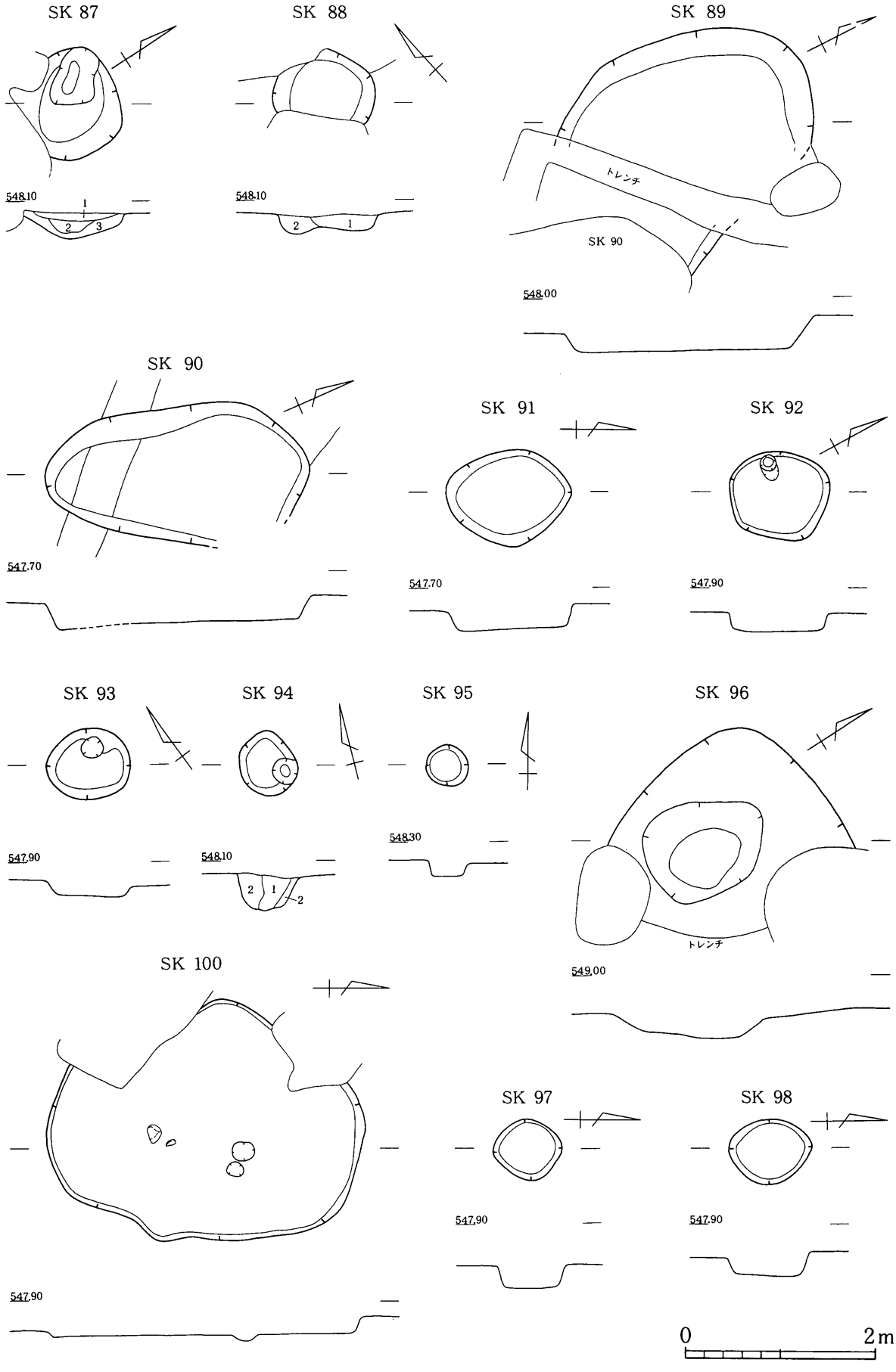
挿図46　土坑平面図(2)


SK 41
547.90
SK 42
547.50
SK 43
547.90
SK 44
547.90
SK 45
547.80
SK 46
548.50
SK 47
548.50
SK 48
548.50
SK 49
548.50
SK 50
548.00
SK 51
548.10
SK 52
547.90
SK 53
548.50
SK 54
548.10
SK 55
548.10
SK 56
549.00
SK 57
549.00
SK 58
549.00
SK 62
549.00
SK 63
548.90
SK 64
548.90
0
2m

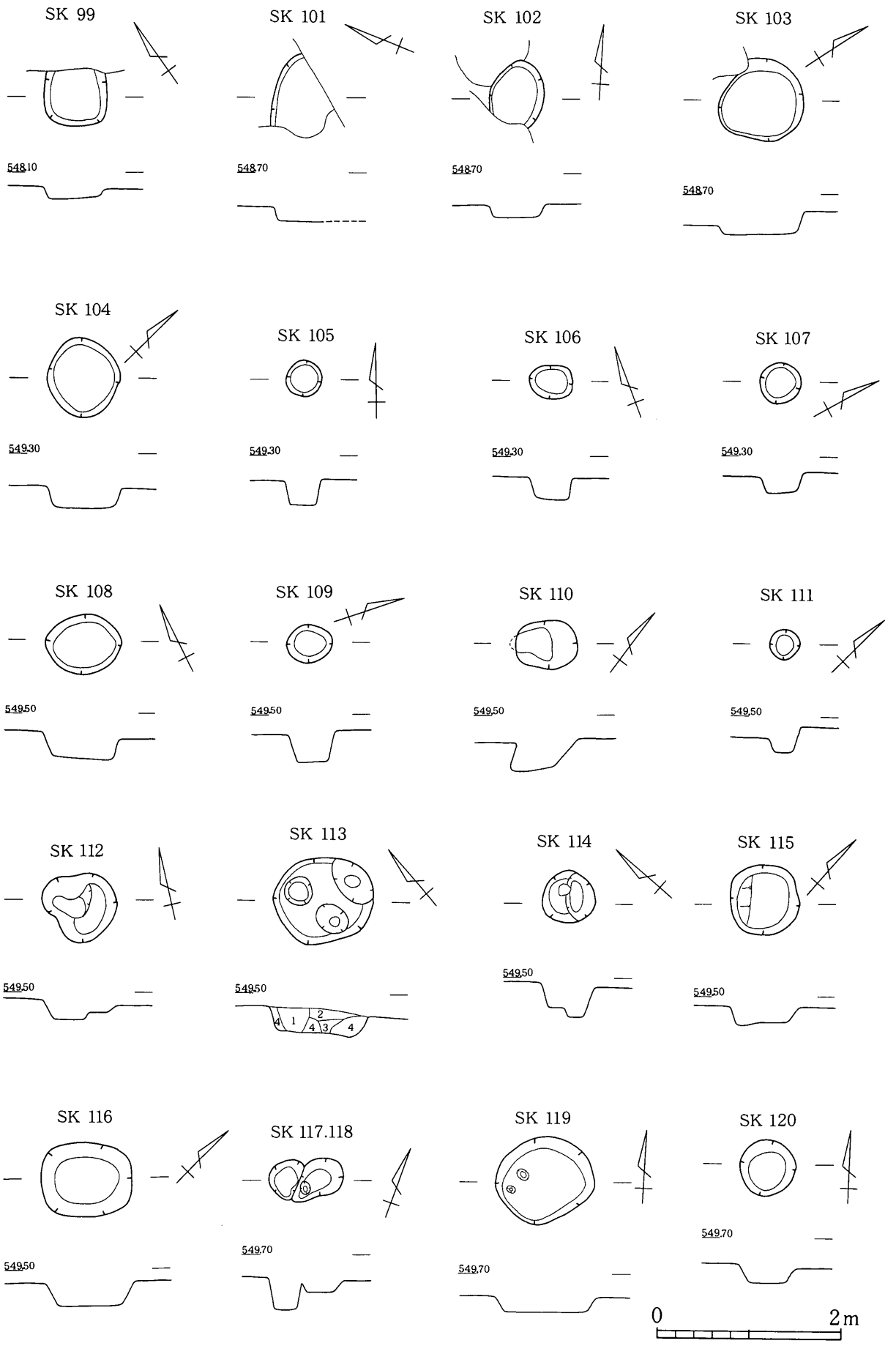
挿図47　土坑平面図(3)


SK 61
SK 65
SK 66
SK 67
SK 68
SK 69
SK 70
SK 71
SK 73
SK 76
SK 77
SK 79
SK 80
SK 82
SK 83
SK 84
SK 86
A
A'
B
B'
A 547.60
548.90
549.20
548.70
548.50
548.30
549.00
548.10
0
2m

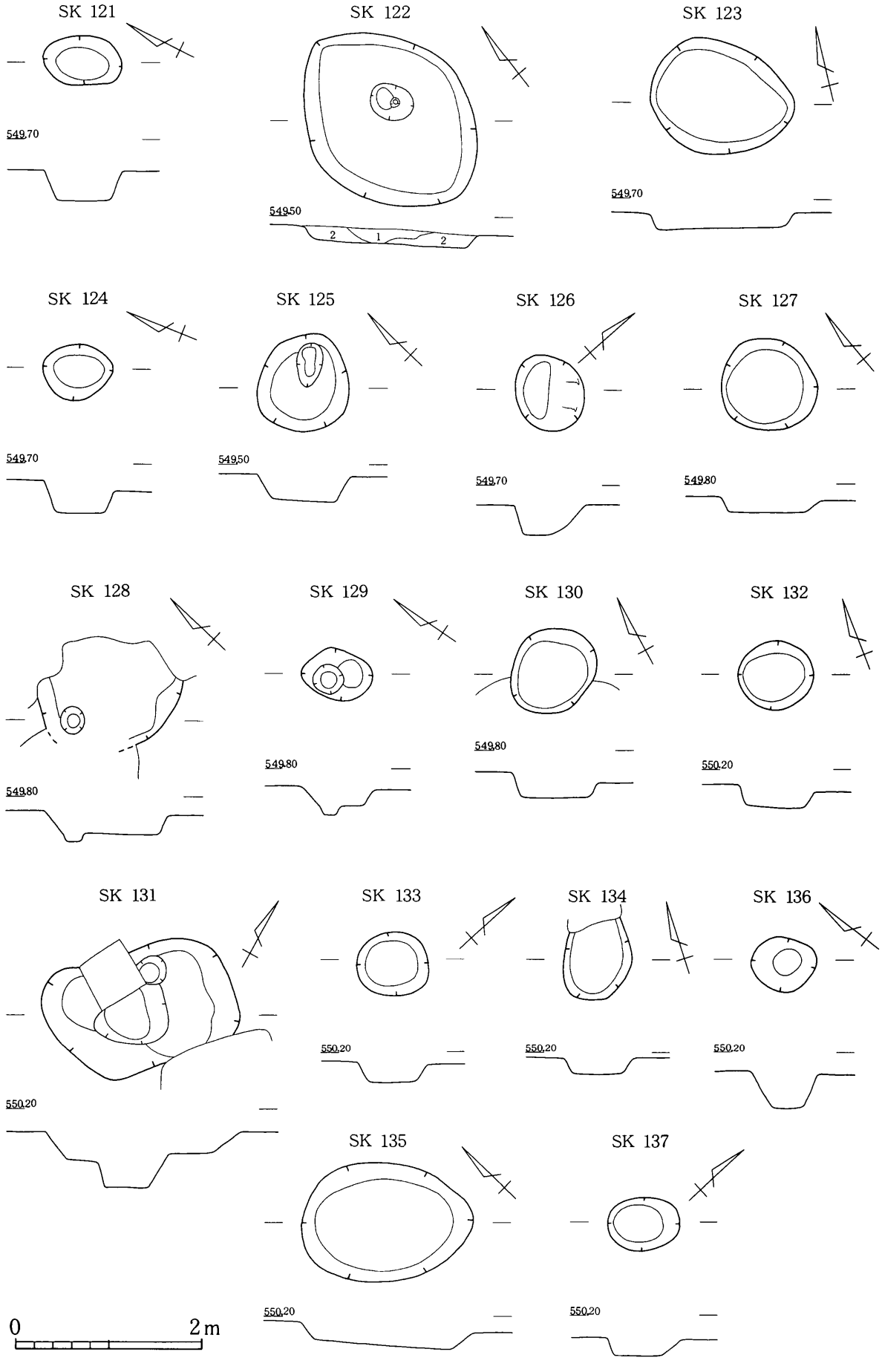
挿図48　土坑平面図(4)


SK 87
548.10
1
2
3
SK 88
548.10
2
1
SK 89
トレンチ
SK 90
548.00
SK 90
547.70
SK 91
547.70
SK 92
547.90
SK 93
547.90
SK 94
548.10
2
1
2
SK 95
548.30
SK 96
トレンチ
549.00
SK 100
547.90
SK 97
547.90
SK 98
547.90
0
2m

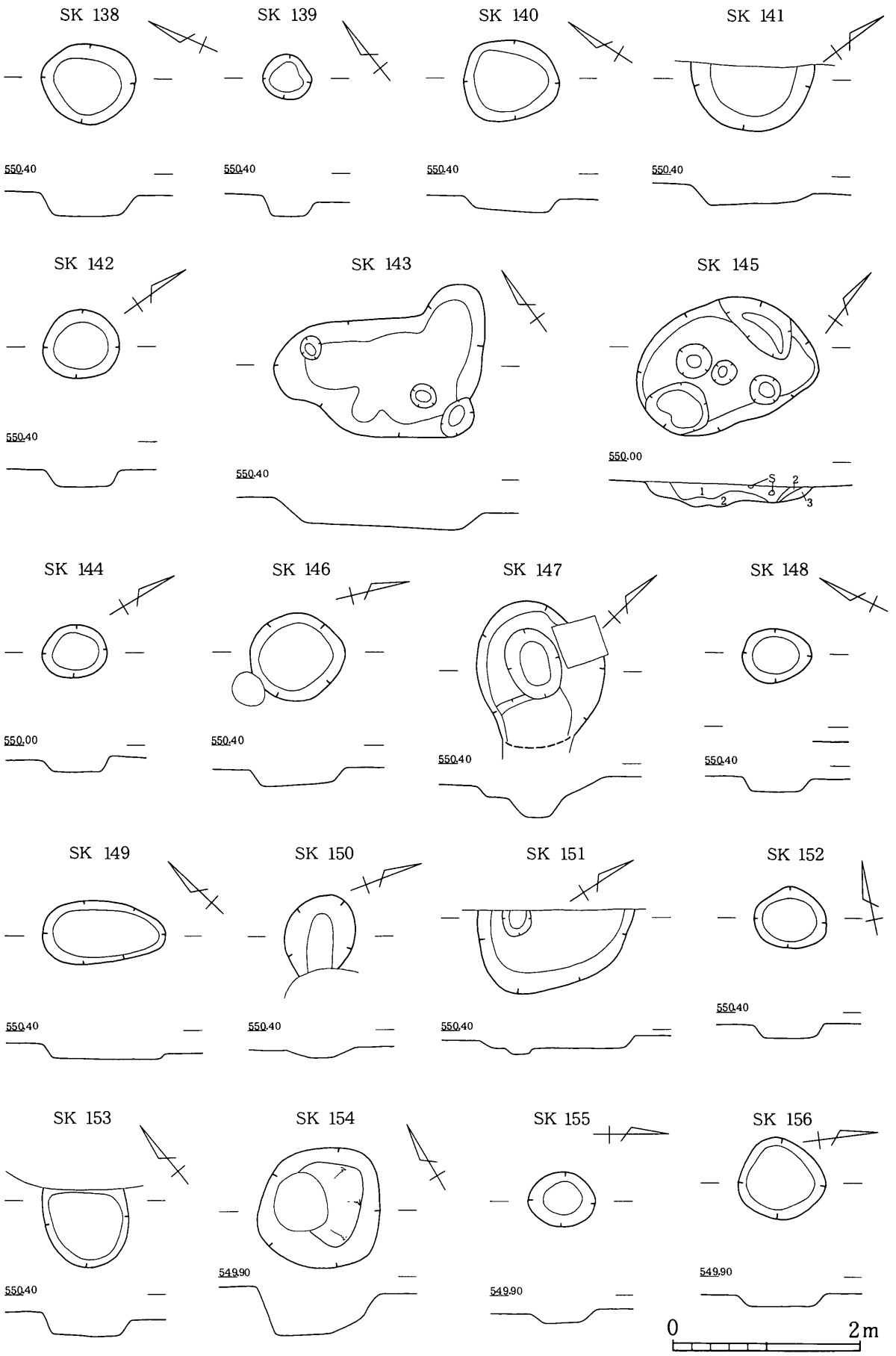
挿図49　土坑平面図(5)


SK 99
548.10
SK 101
548.70
SK 102
548.70
SK 103
548.70
SK 104
549.30
SK 105
549.30
SK 106
549.30
SK 107
549.30
SK 108
549.50
SK 109
549.50
SK 110
549.50
SK 111
549.50
SK 112
549.50
SK 113
549.50
SK 114
549.50
SK 115
549.50
SK 116
549.50
SK 117.118
549.70
SK 119
549.70
SK 120
549.70
0
2m

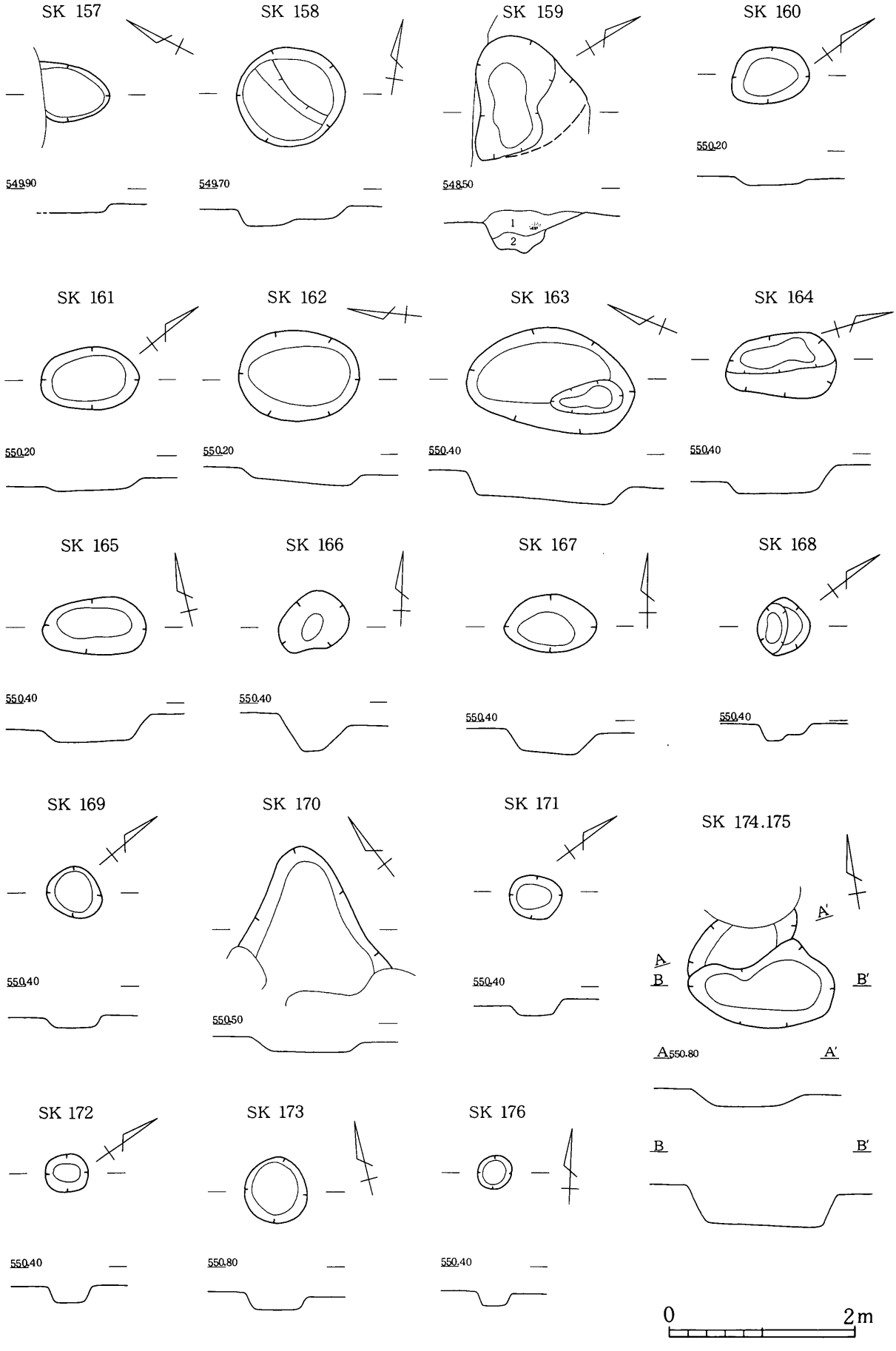
挿図50　土坑平面図(6)


SK 121
549.70
SK 122
549.50
2
1
2
SK 123
549.70
SK 124
549.70
SK 125
549.50
SK 126
549.70
SK 127
549.80
SK 128
549.80
SK 129
549.80
SK 130
549.80
SK 132
550.20
SK 131
550.20
SK 133
550.20
SK 134
550.20
SK 136
550.20
SK 135
550.20
SK 137
550.20
0
2m

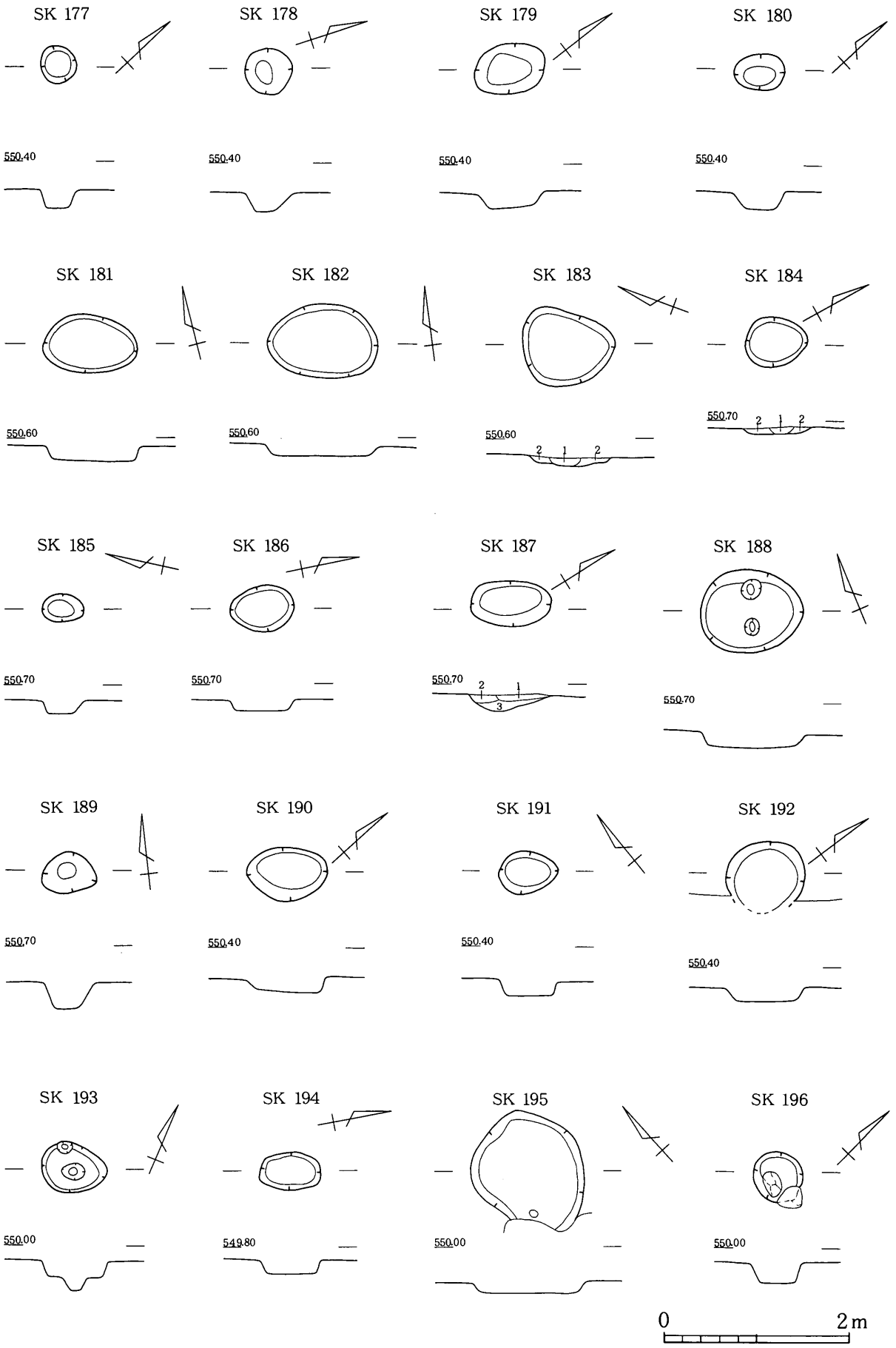
挿図51　土坑平面図(7)


SK 138
550.40
SK 139
550.40
SK 140
550.40
SK 141
550.40
SK 142
550.40
SK 143
550.40
SK 145
550.00
S
2
1
2
3
SK 144
550.00
SK 146
550.40
SK 147
550.40
SK 148
550.40
SK 149
550.40
SK 150
550.40
SK 151
550.40
SK 152
550.40
SK 153
550.40
SK 154
549.90
SK 155
549.90
SK 156
549.90
0
2m

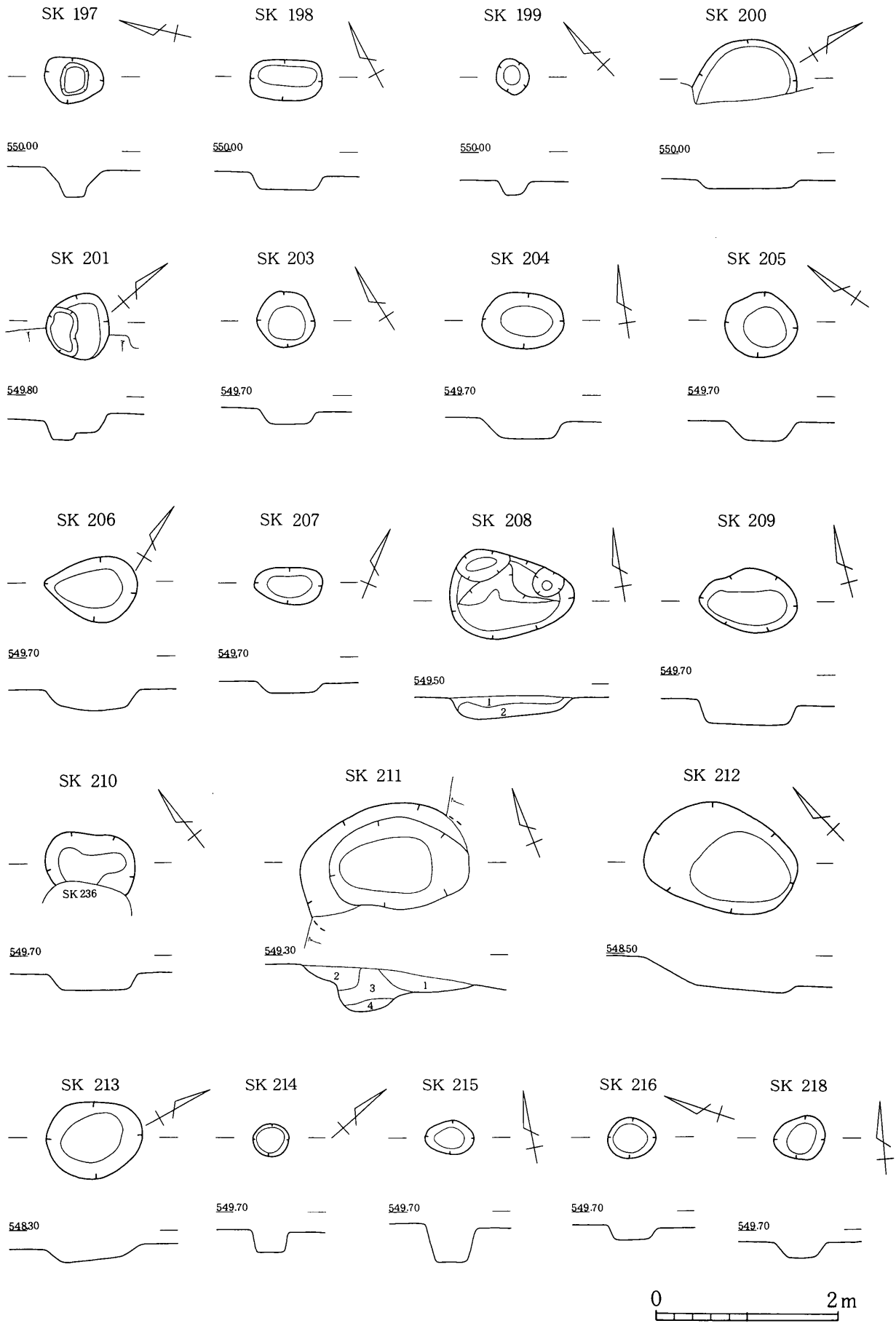
挿図52　土坑平面図(8)


SK 157
549.90
SK 158
549.70
SK 159
548.50
1
2
SK 160
550.20
SK 161
550.20
SK 162
550.20
SK 163
550.40
SK 164
550.40
SK 165
550.40
SK 166
550.40
SK 167
550.40
SK 168
550.40
SK 169
550.40
SK 170
550.50
SK 171
550.40
SK 174.175
A
A'
B
B'
A 550.80
A'
B
B'
SK 172
550.40
SK 173
550.80
SK 176
550.40
0
2m

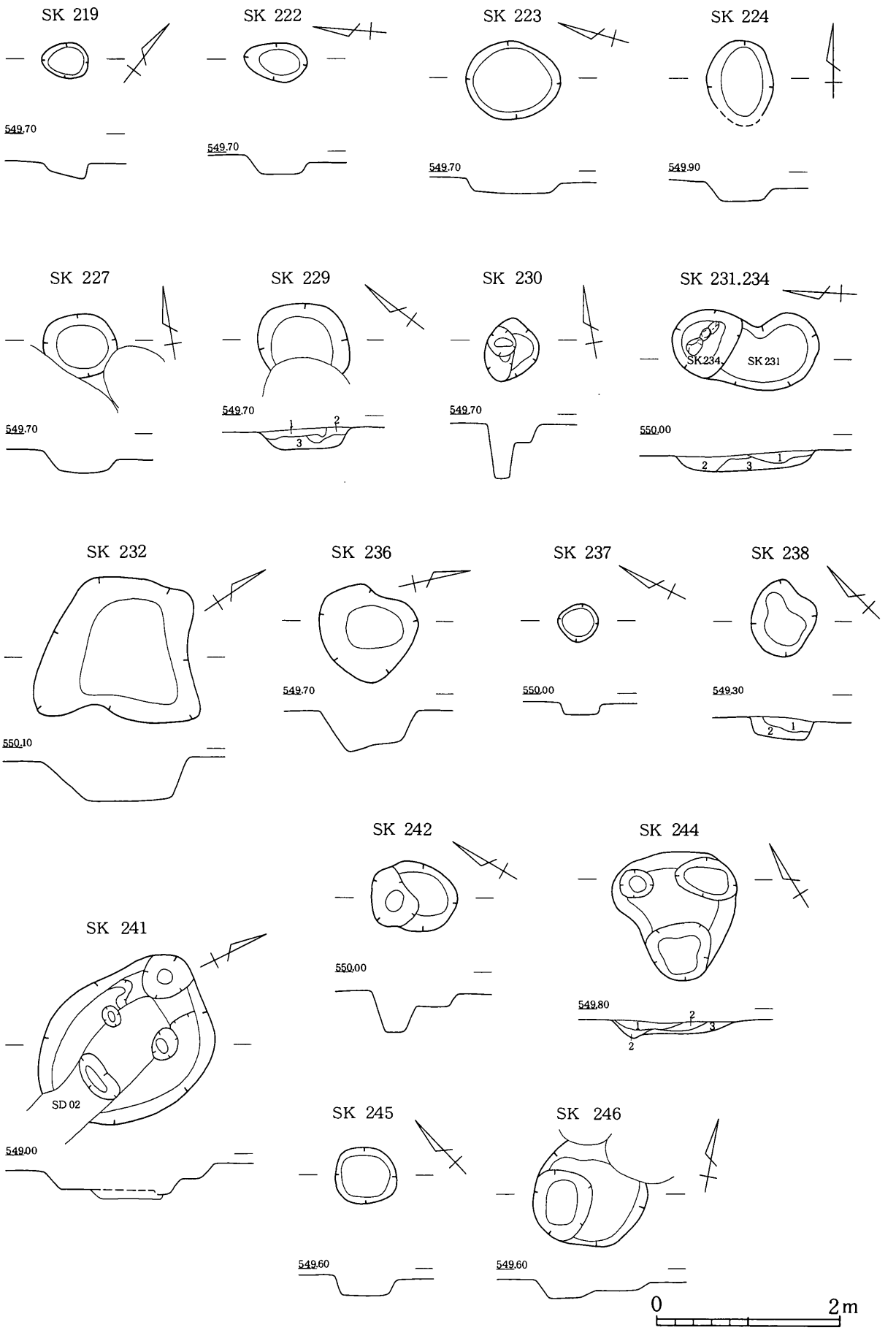
挿図53　土坑平面図(9)



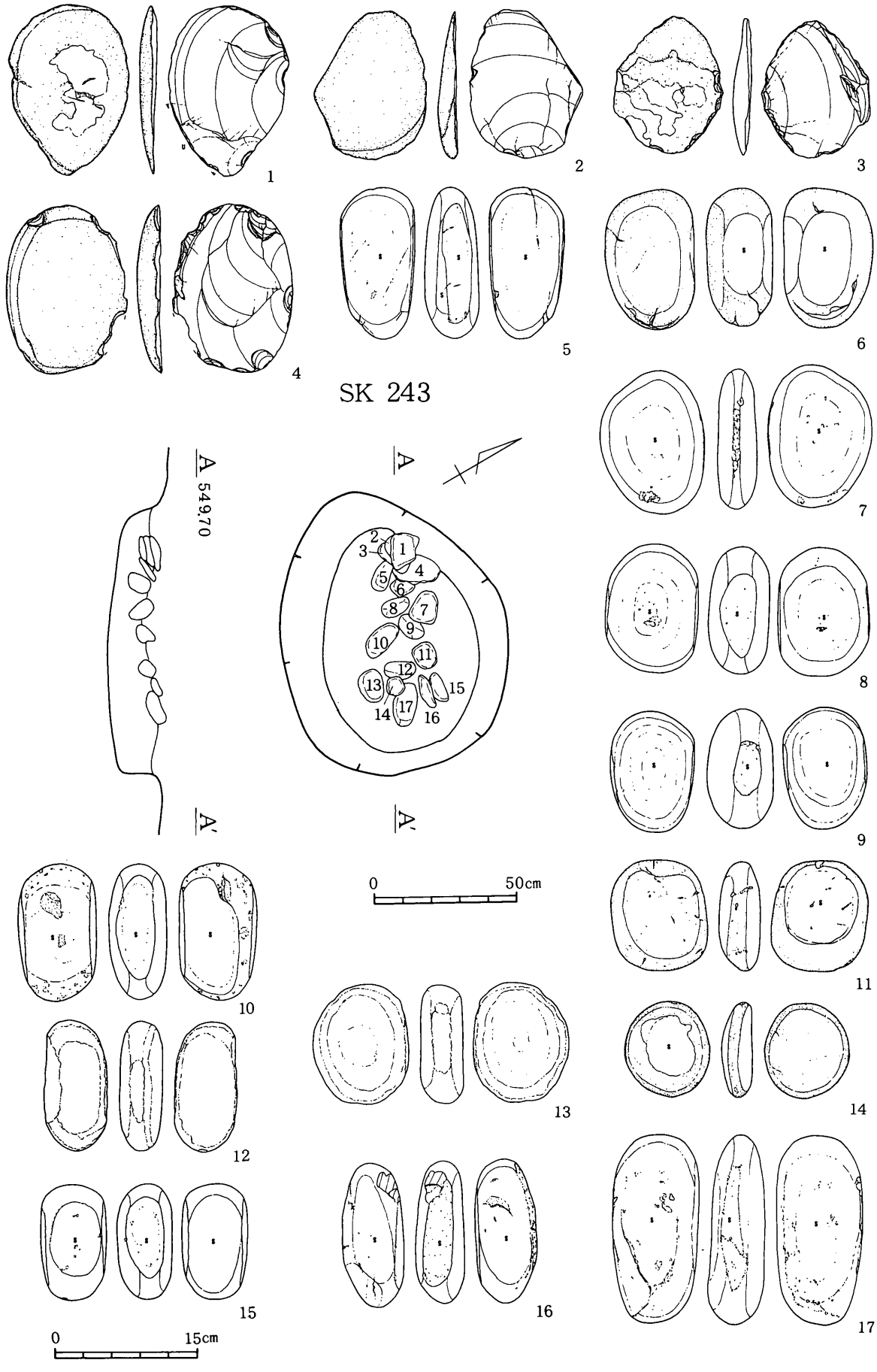
挿図54　土坑平面図(10)



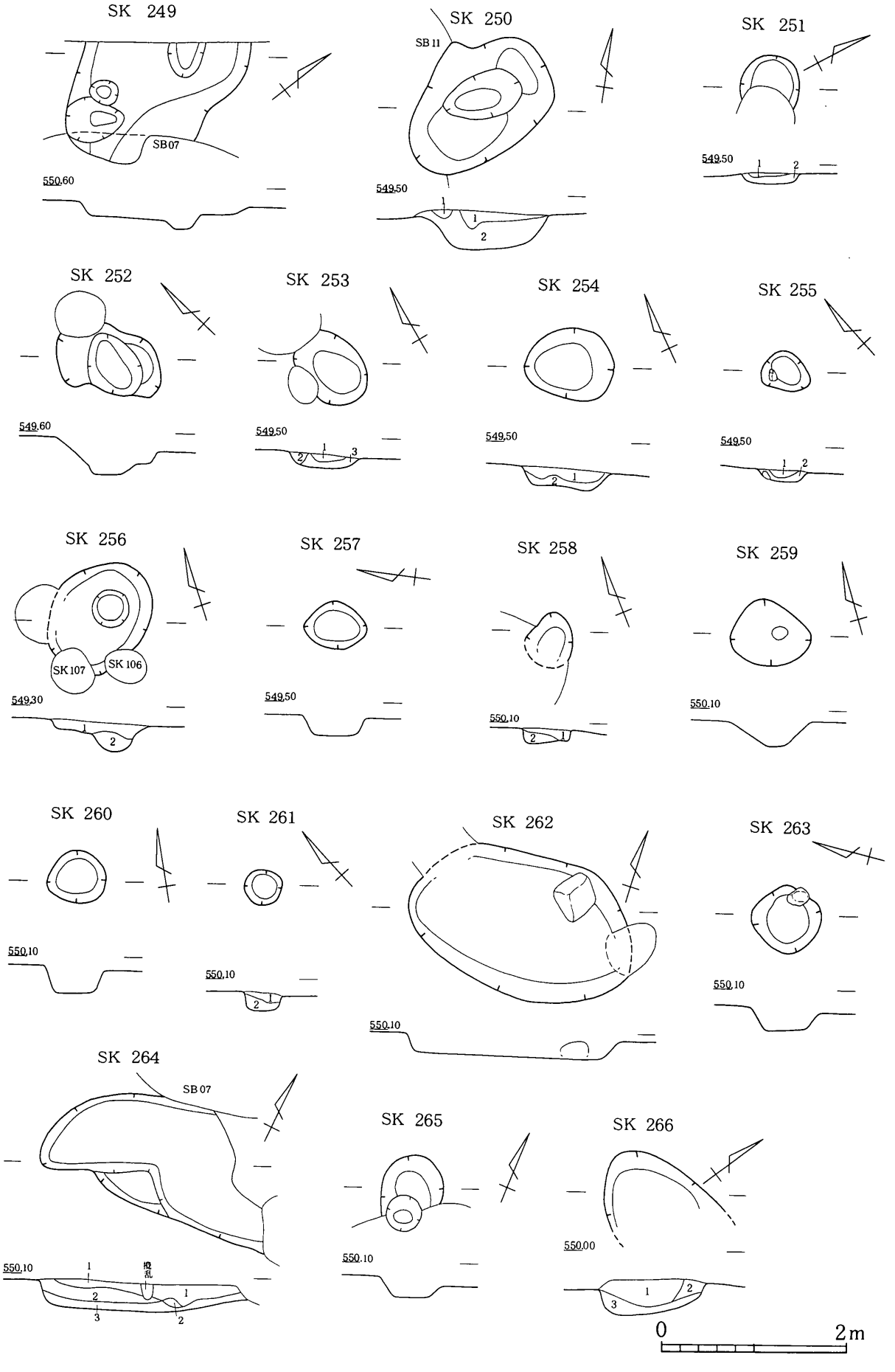
挿図55　土坑平面図(11)



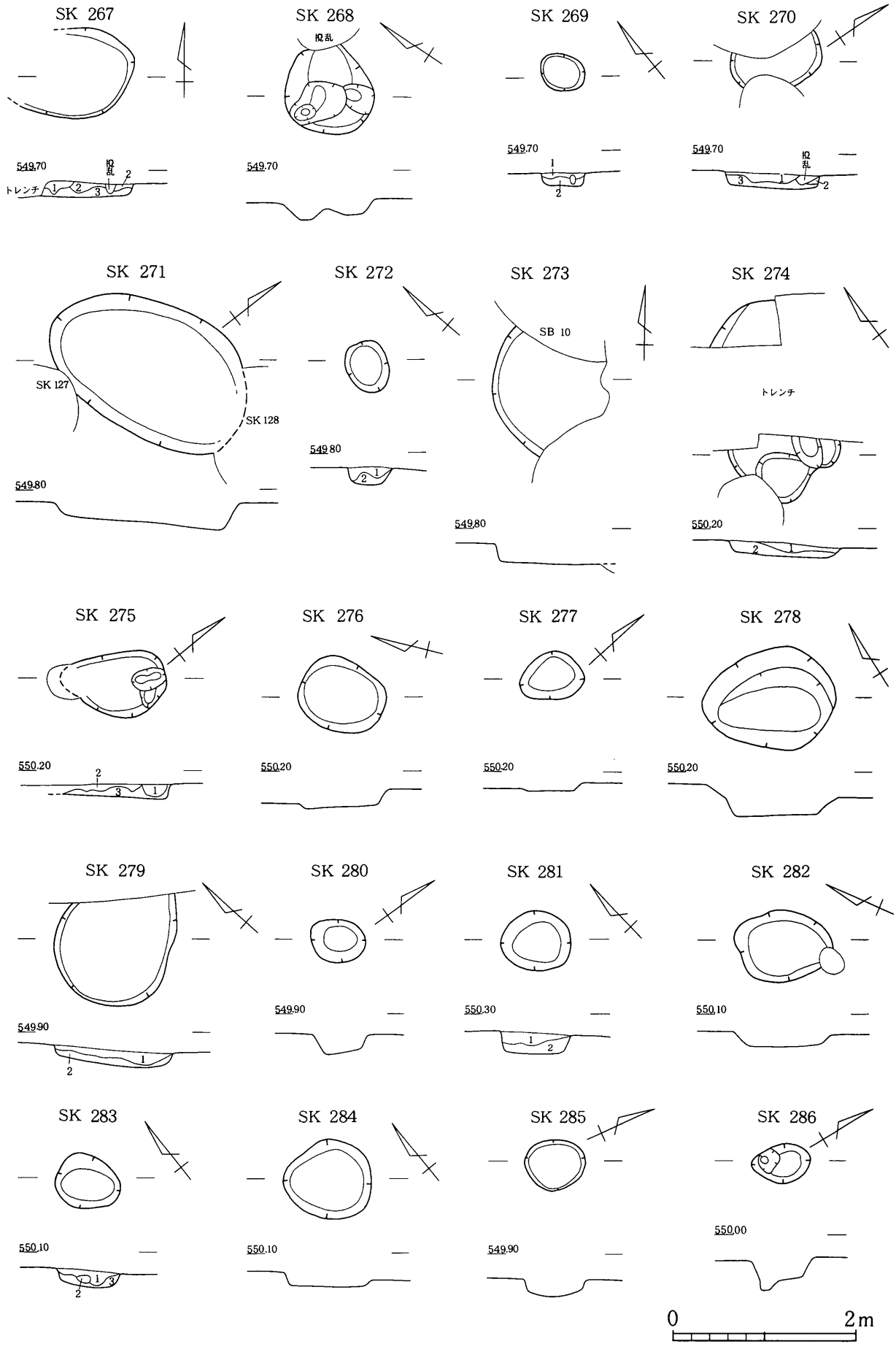
挿図56　土坑平面図(12)



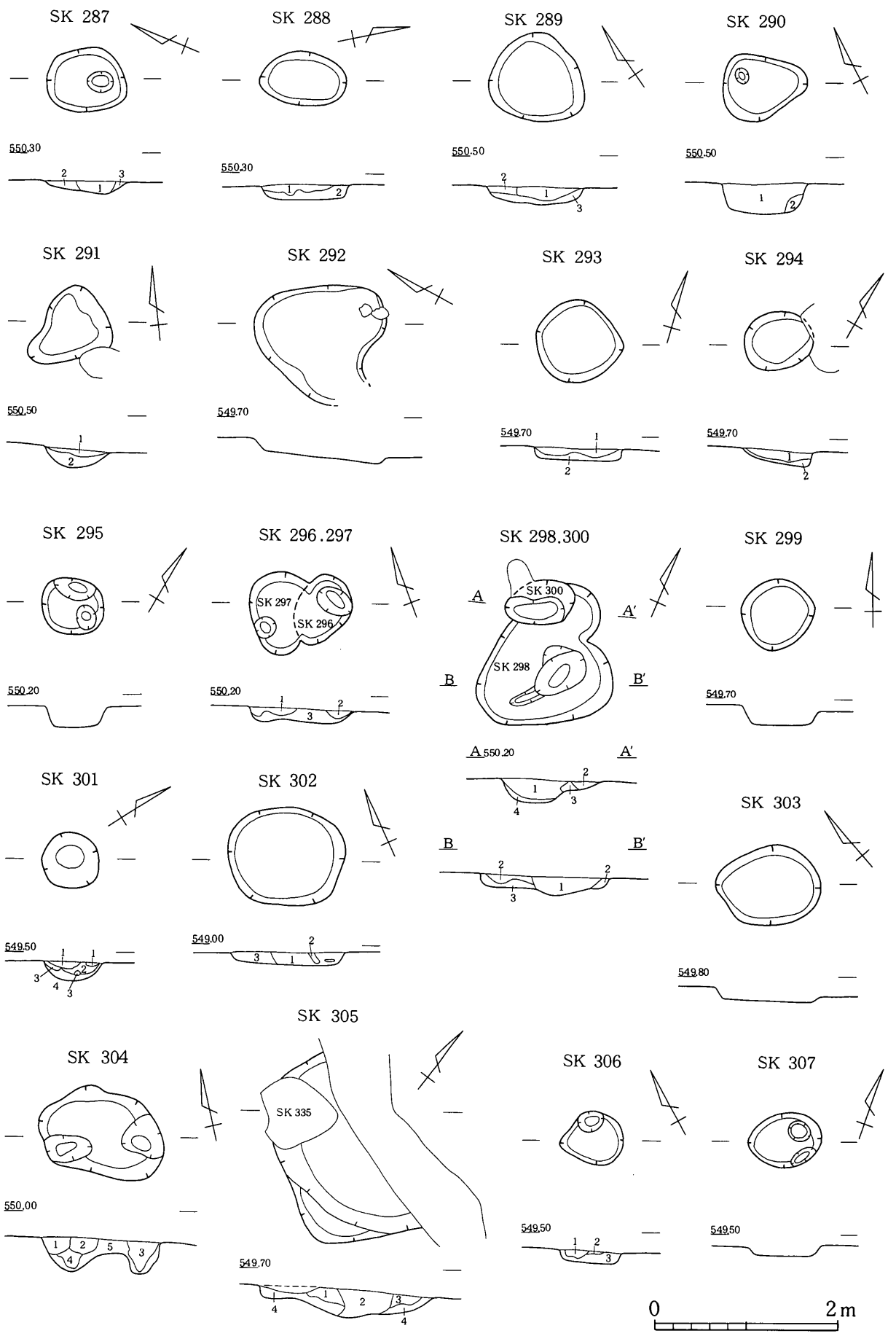
挿図57　土坑平面図(13)



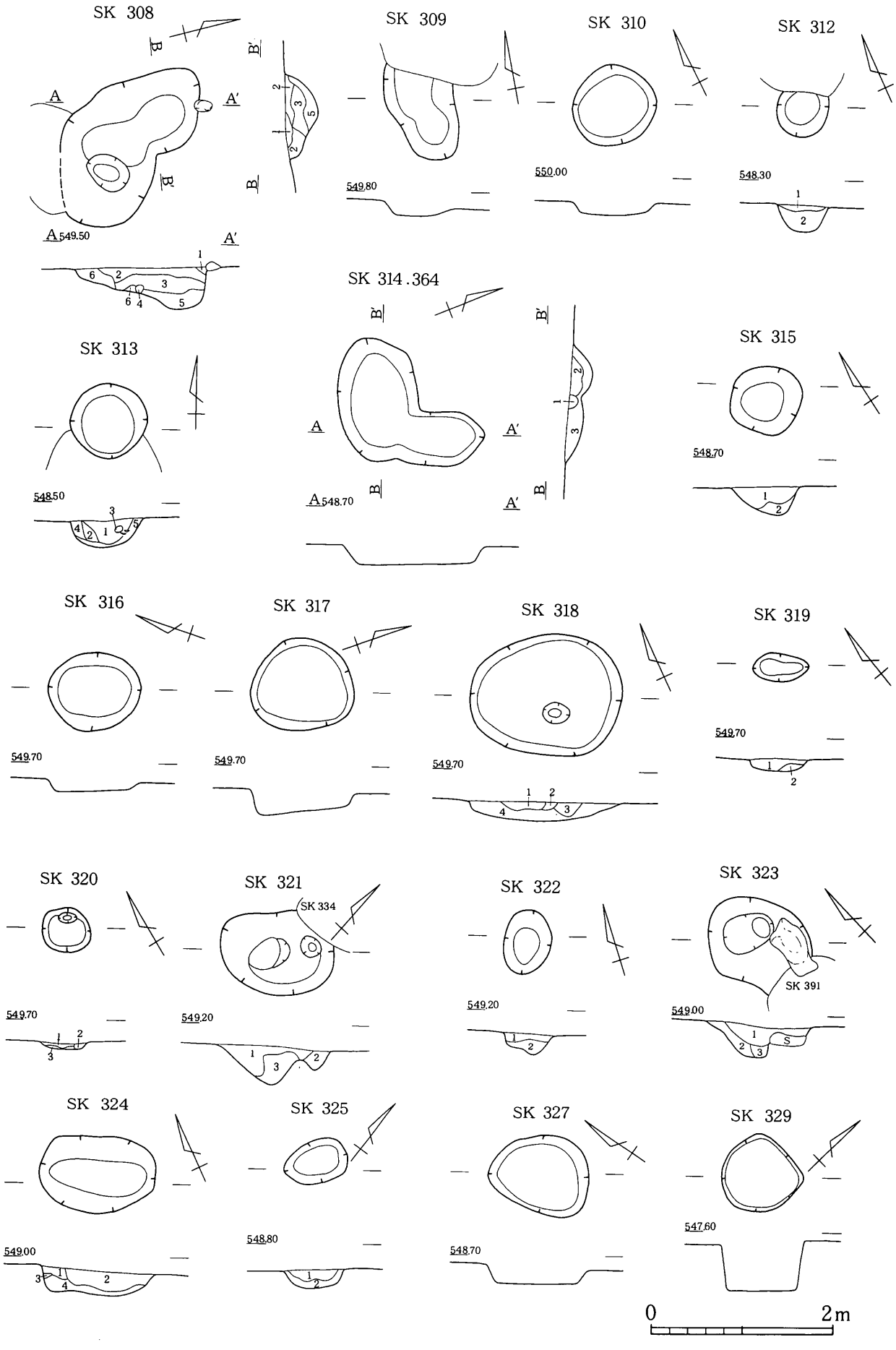
挿図58　土坑平面図(14)



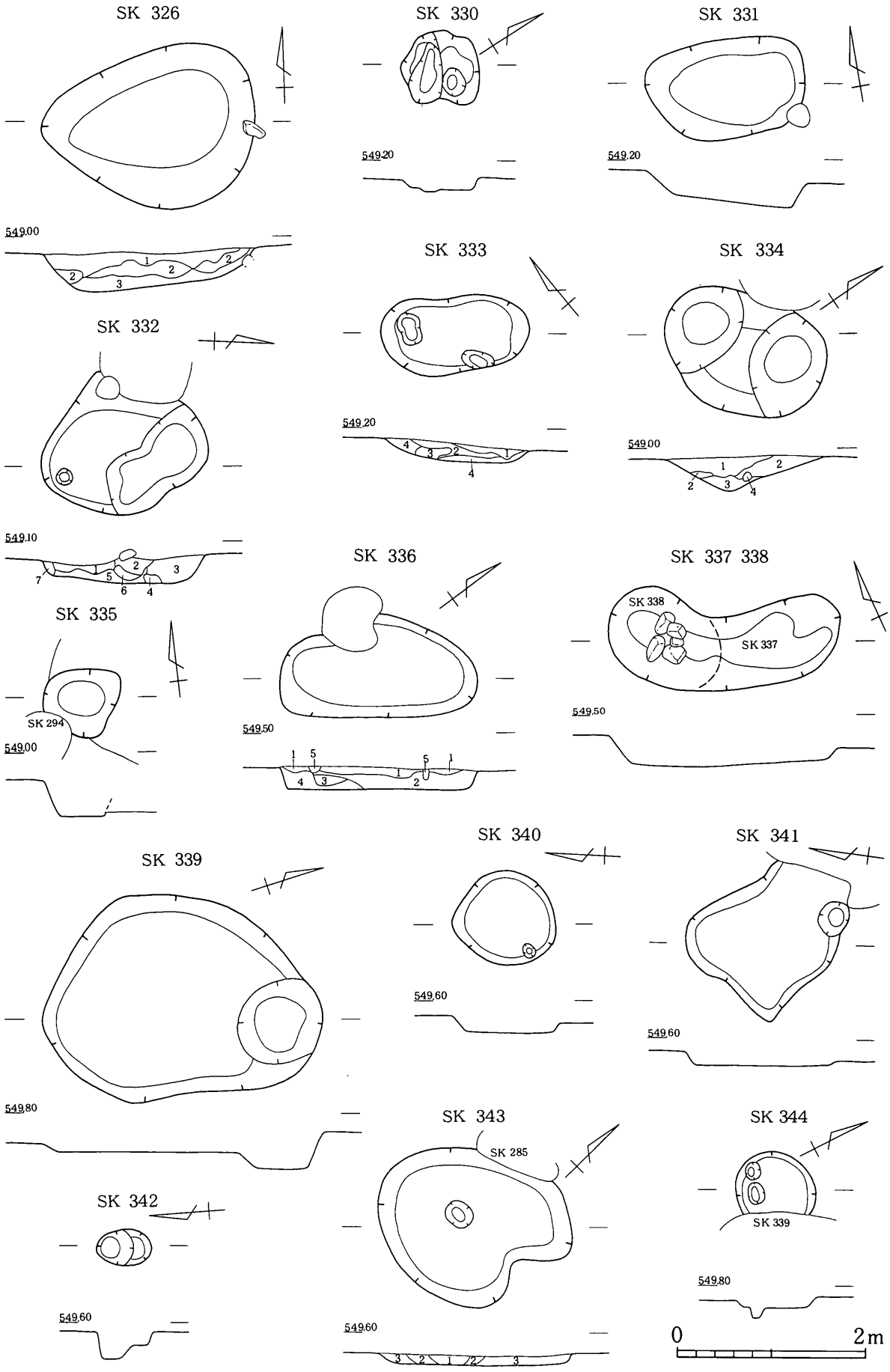
挿図59　土坑平面図(15)



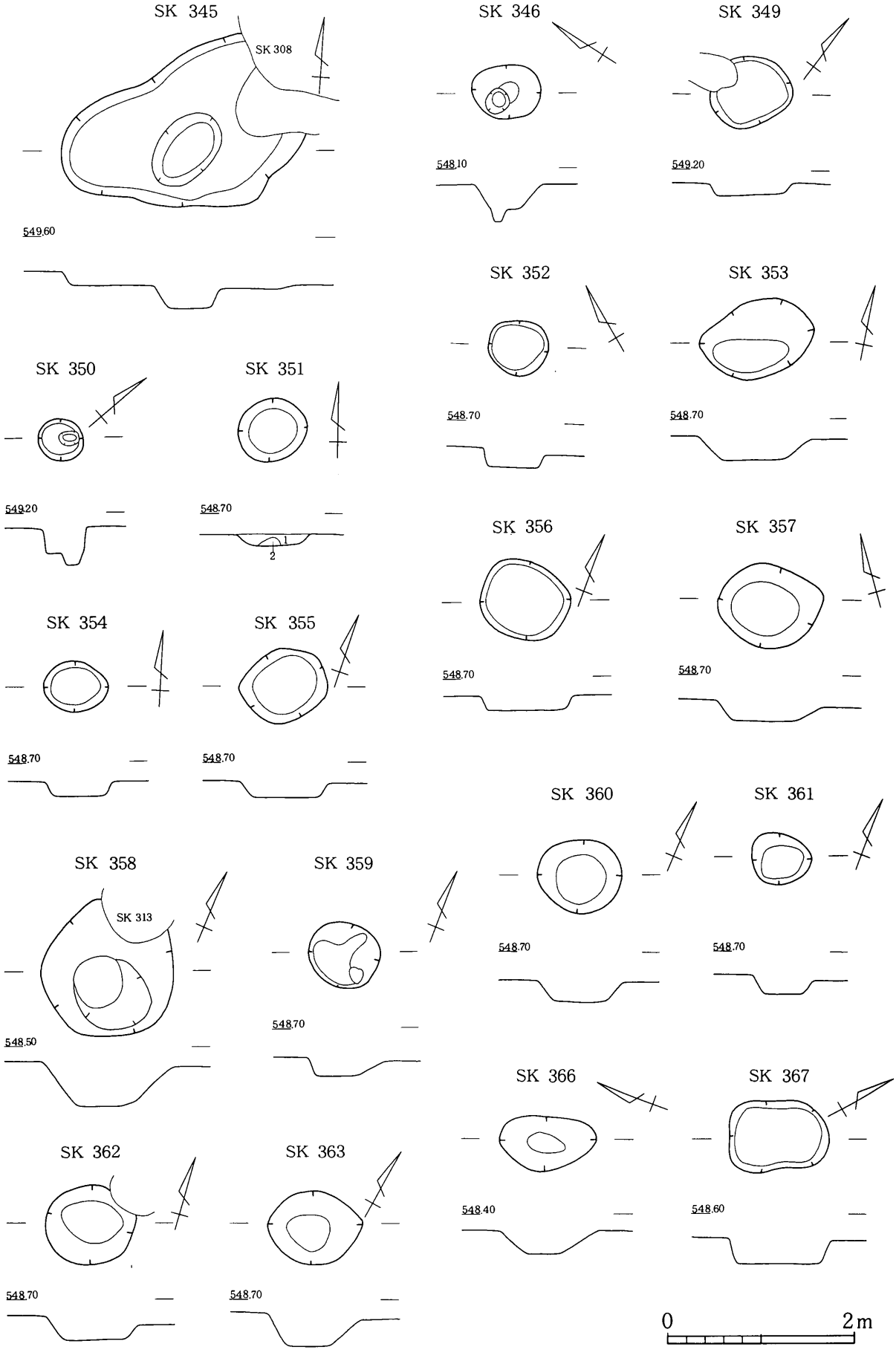
挿図60　土坑平面図(16)



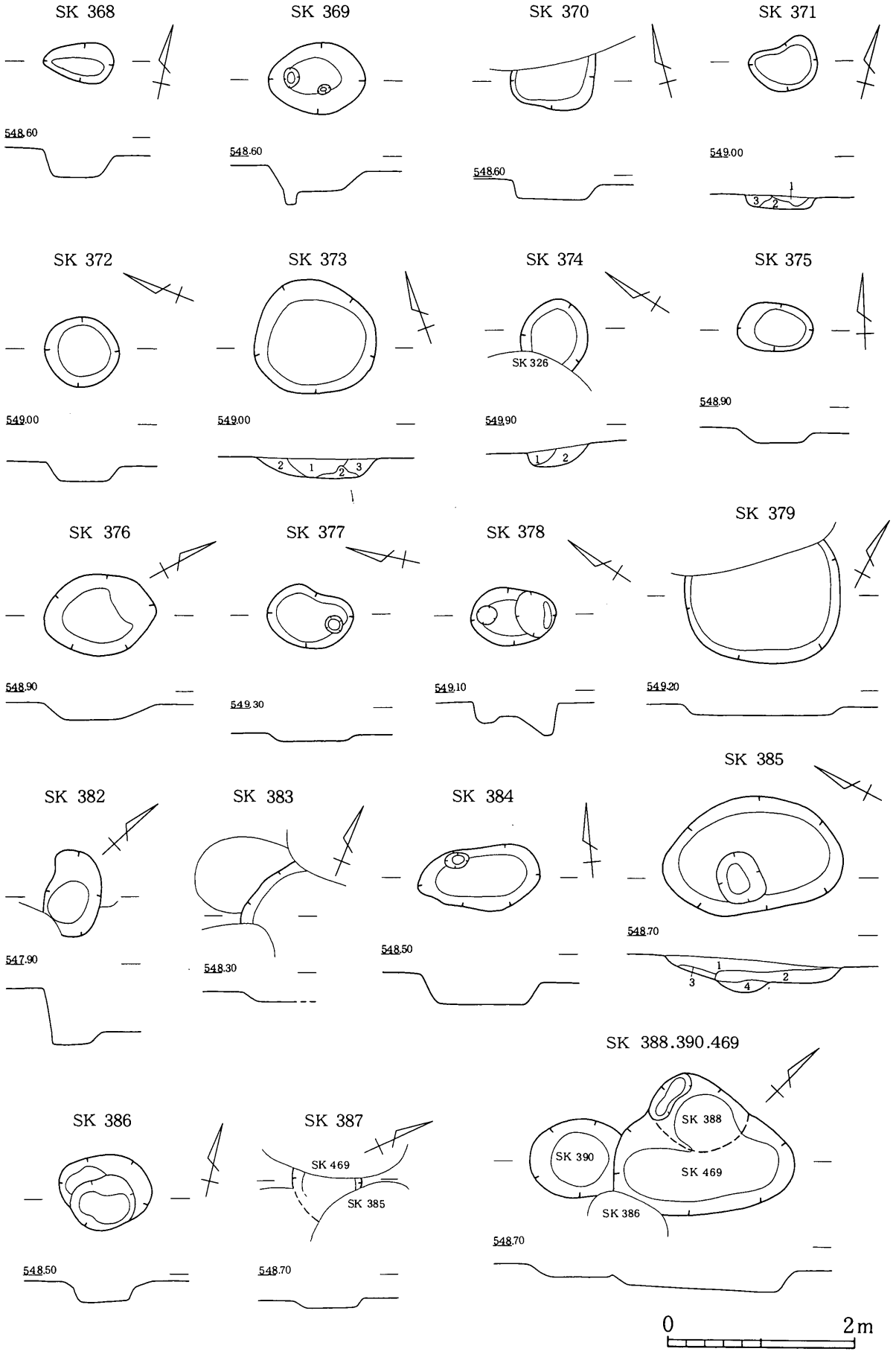
挿図61　土坑平面図(17)



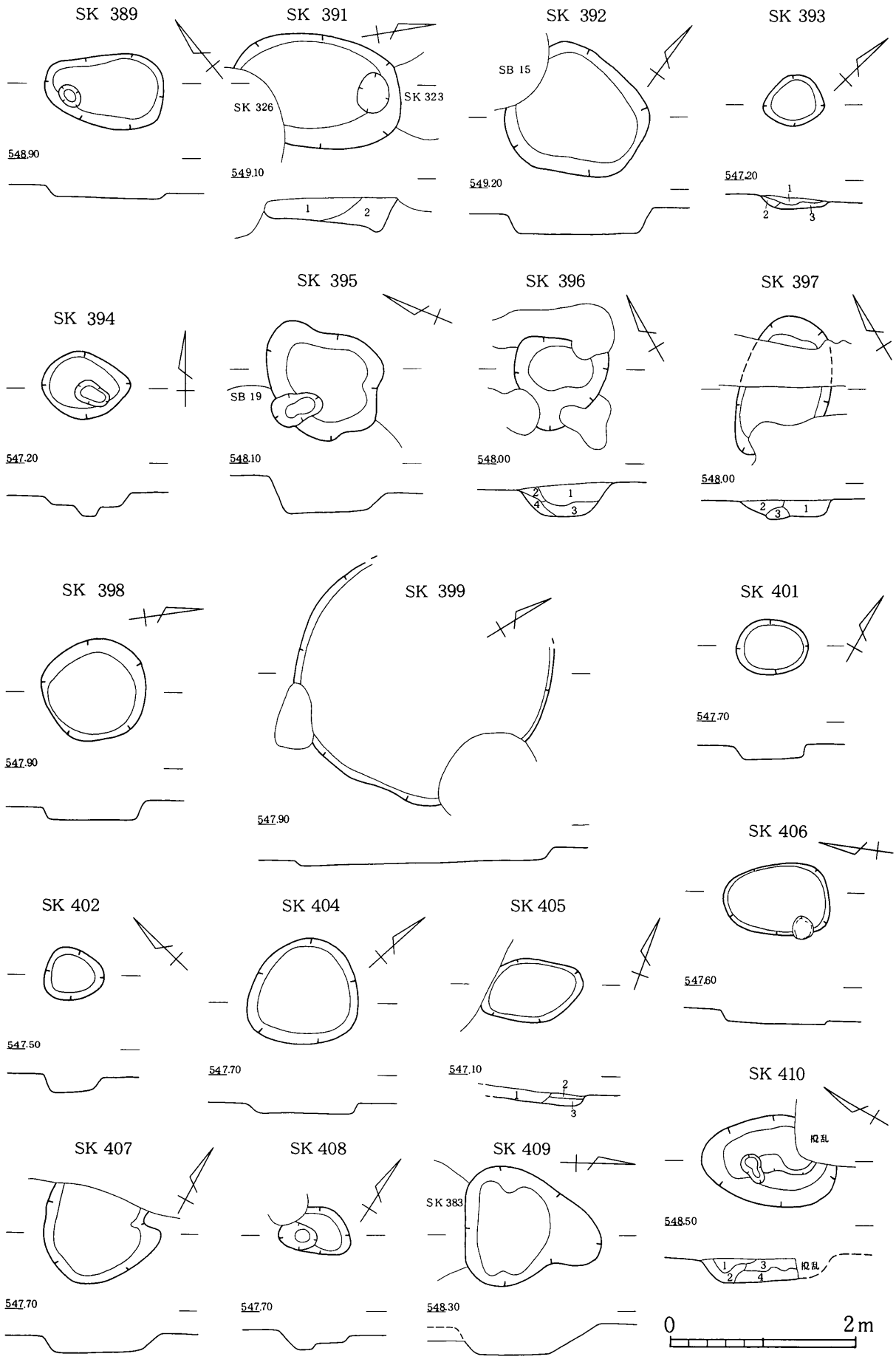
挿図62　土坑平面図(18)



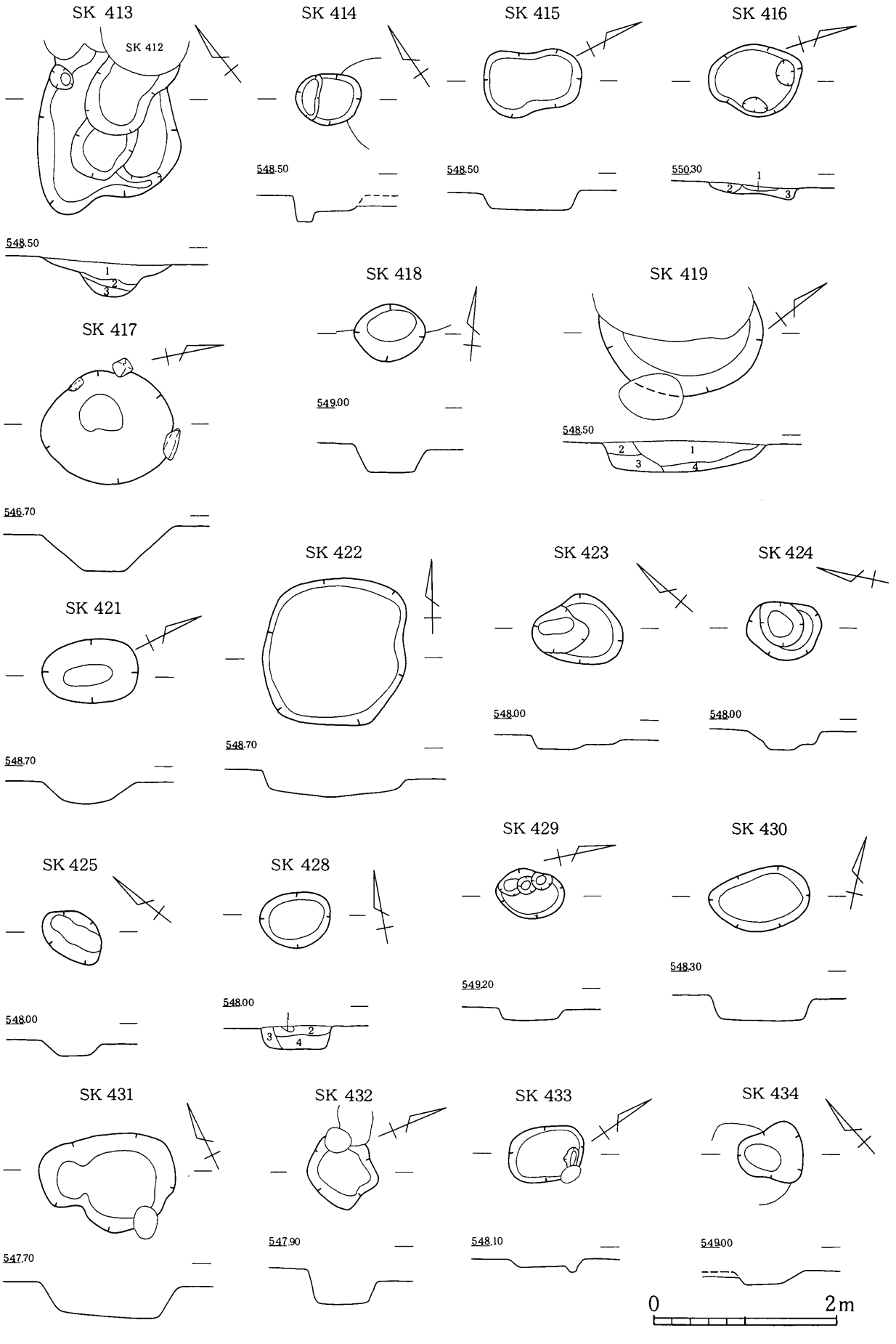
挿図63　土坑平面図(19)



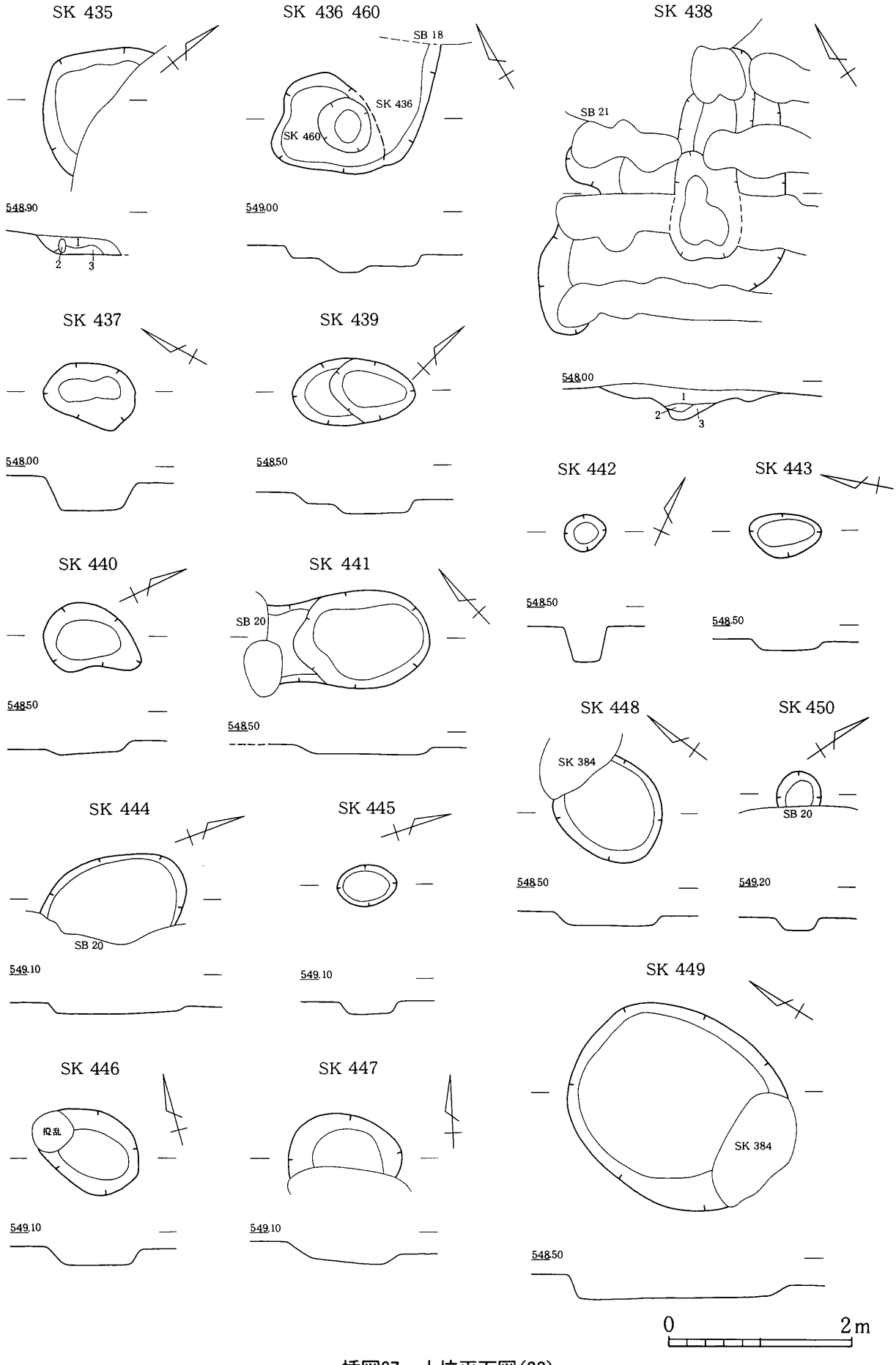
挿図64　土坑平面図(20)



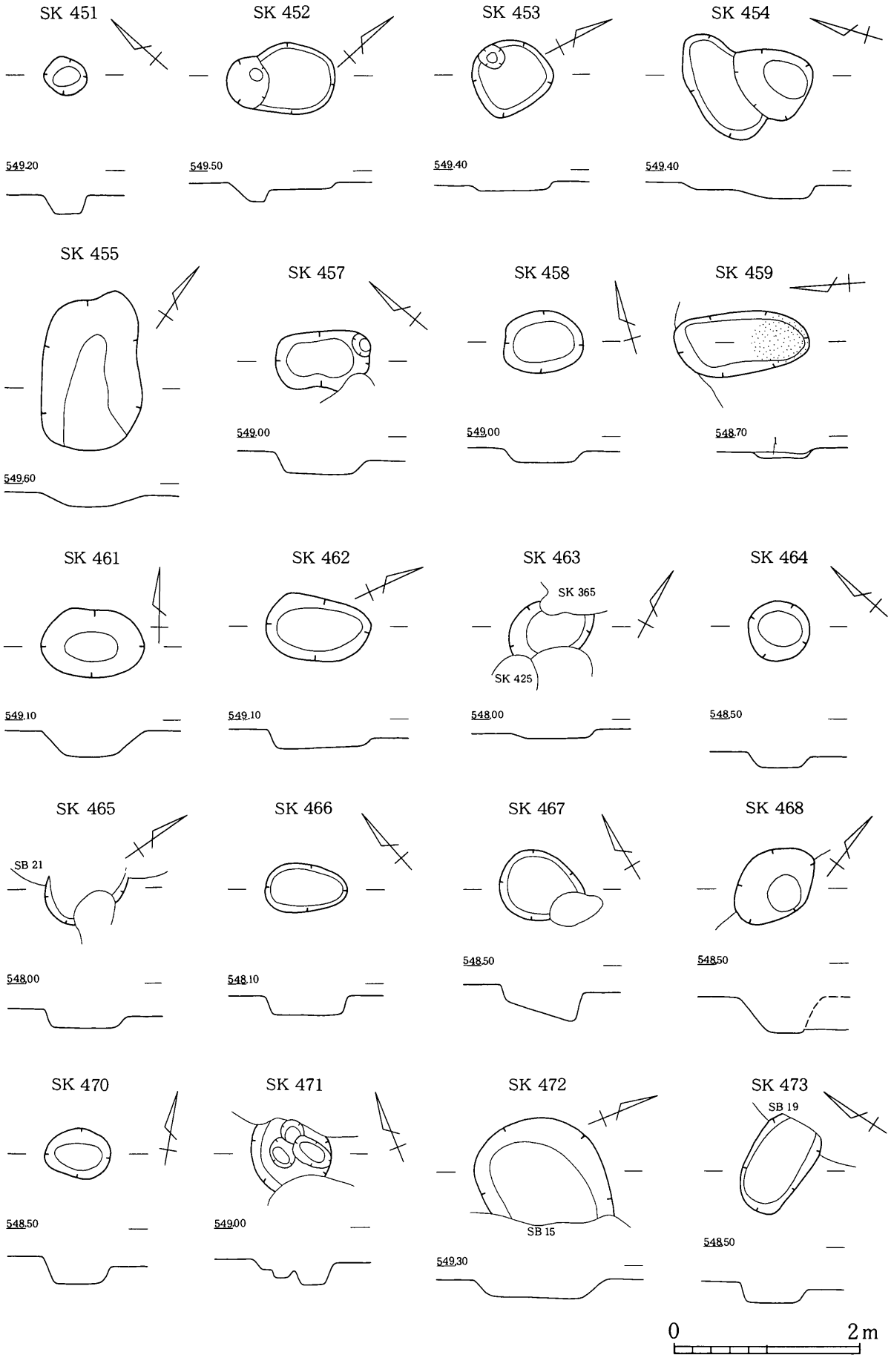
挿図65　土坑平面図(21)



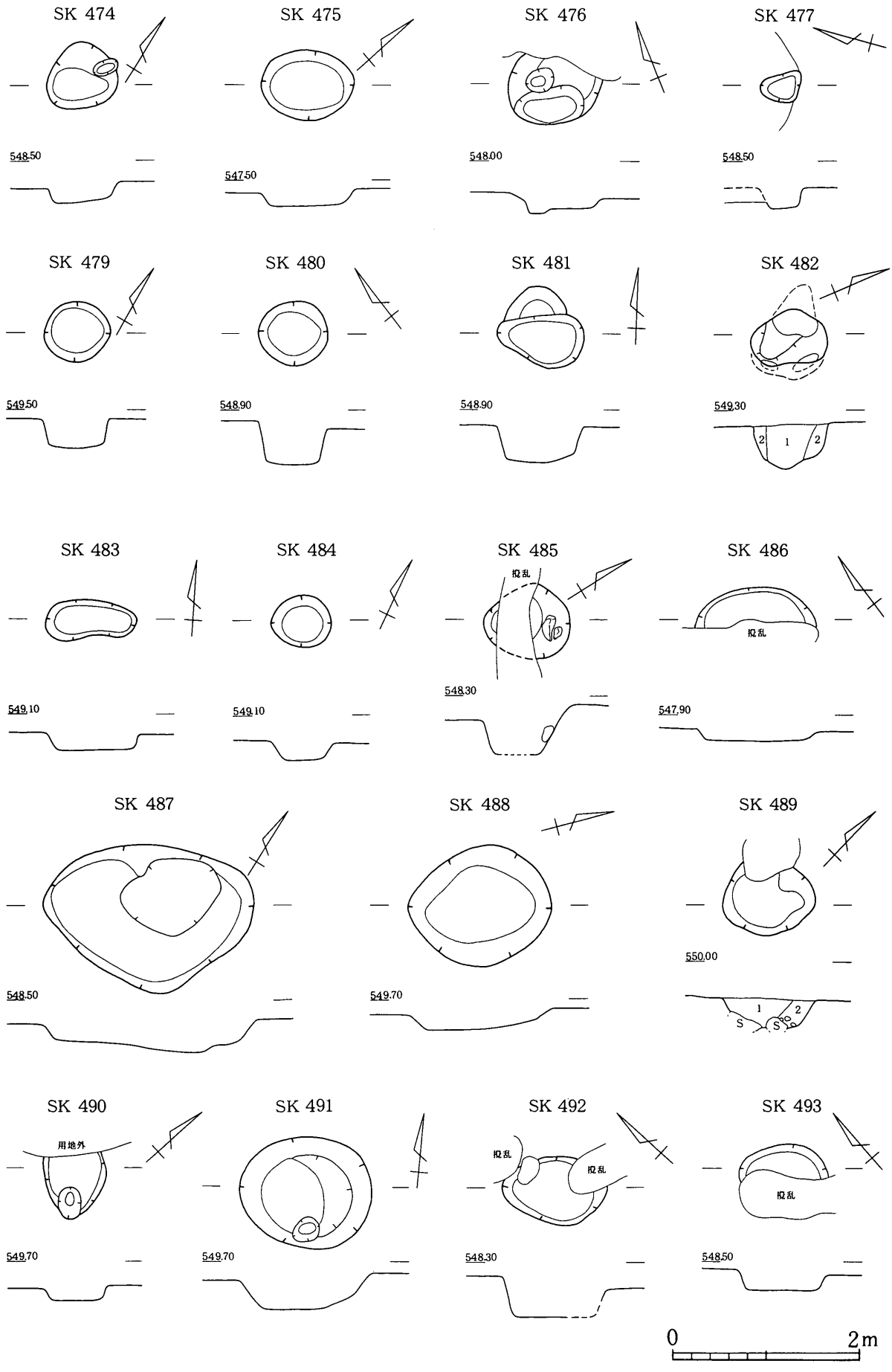
挿図66　土坑平面図(22)



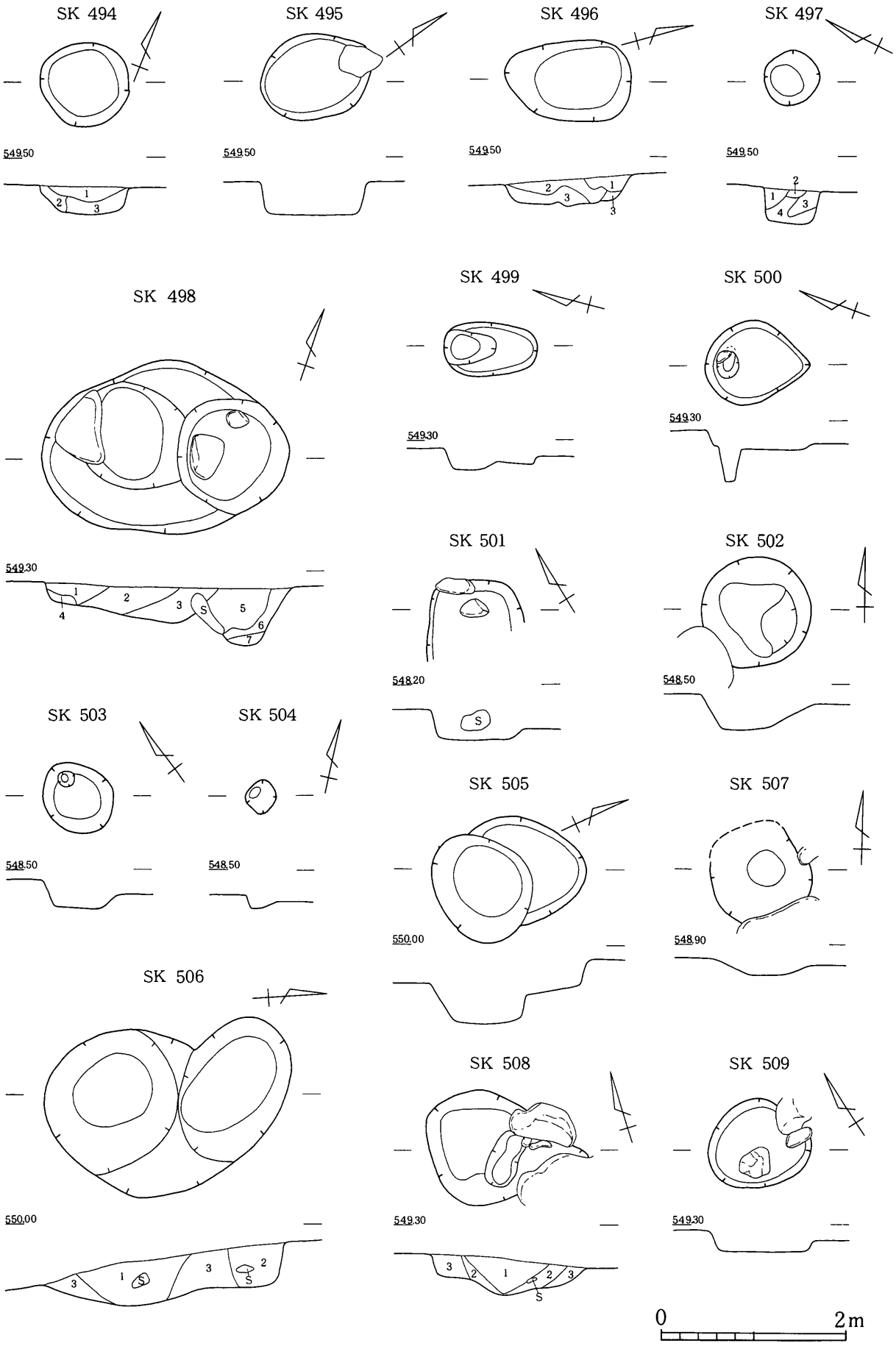
挿図67　土坑平面図(23)



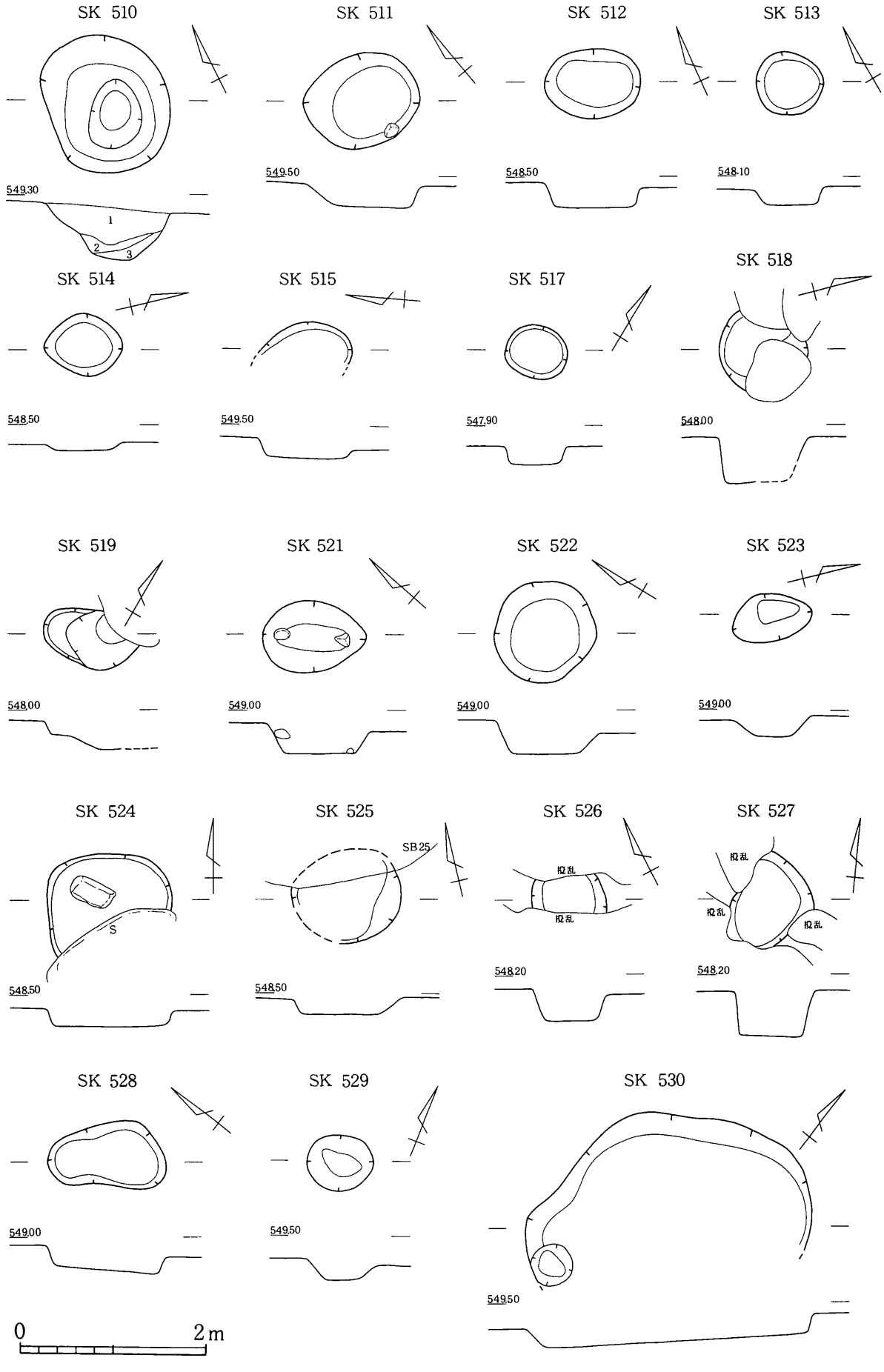
挿図68　土坑平面図(24)



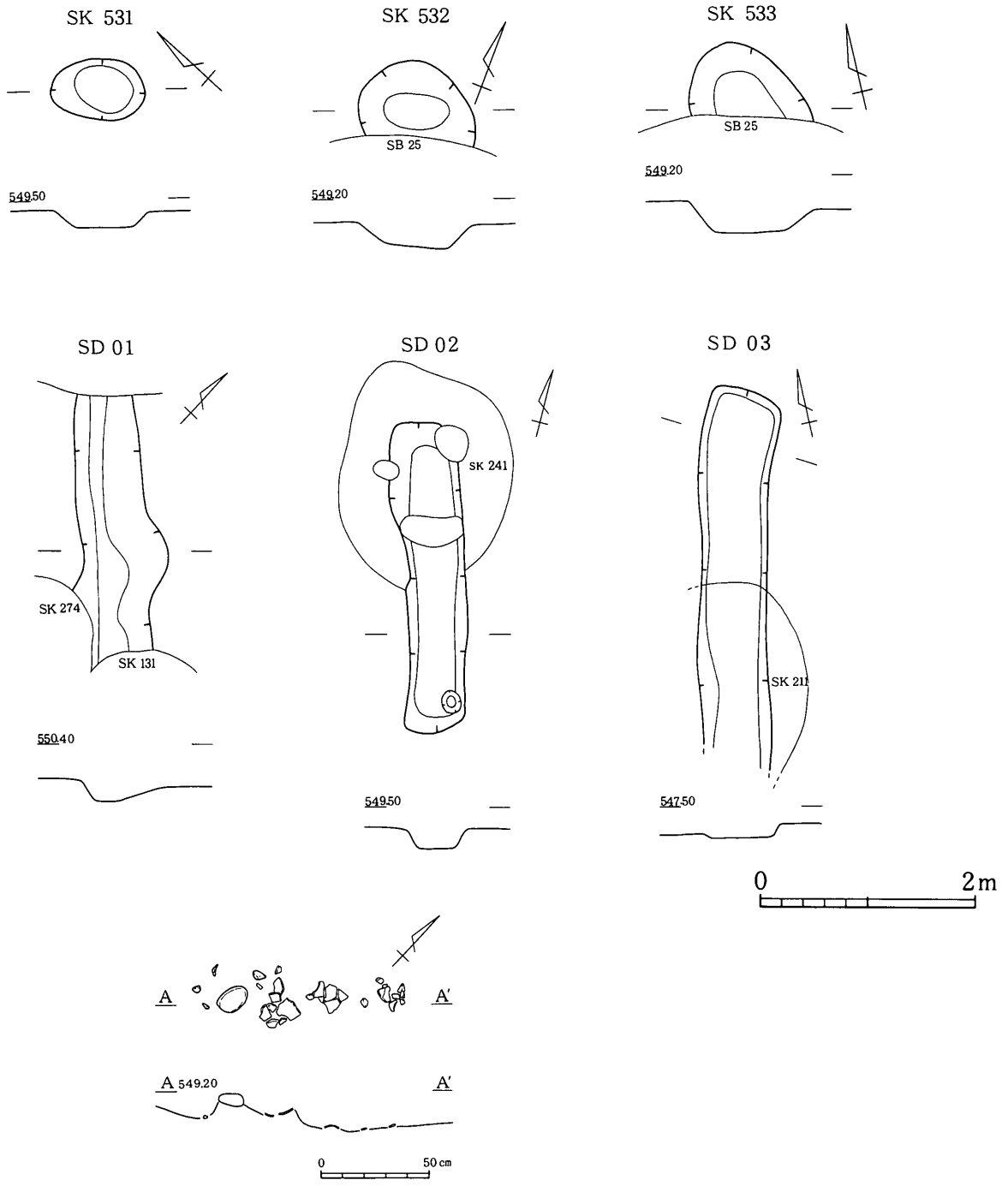
挿図69　土坑平面図(25)



挿図70　土坑平面図(26)



挿図71　土坑平面図(27)



挿図72　土坑平面図(28)、ＳＤ01～03、遺構外遺物出土状況

ＳＫ466、ＳＫ468、ＳＫ477、ＳＫ492、ＳＫ527

である。ＳＫ42と時期不明の土坑を除くと、概ね早期前半の立野式期に属するものである。早期前半の土坑の形態との関係についてみると、おおむね不整な円形ないし楕円形のものが多く、大きさにはばらつきがある。ＳＫ413はＳＫ412との関係を重視した方がよいかもしれない。

(7) 溝址

いずれもⅡ層上面で検出された。ＳＤ02からは、縄文時代草創期の絡条体圧痕文・早期の立野式土器・早期末葉～前期初頭の土器が出土しており、前期初頭に位置づく。ＳＤ01・ＳＤ03からは遺物出土はなく、時期等詳細は不明である。

(8) 遺構外

Ｉ区ＡＣ49より立野式土器１個体が出土した。丹念に精査したが、遺構等は検出できなかった。この他特記されるものとして、撹乱中より早期末葉～前期初頭と考えられる玦状耳飾りが出土した。

	層	ＪＩＳ標準色票	土壌色	土性	しまり	粘性	備考
基本層序	Ⅰ	10ＹＲ４／２	灰黄褐	SiCL	やや良	なし	耕土および耕作に伴なう撹乱
	Ⅱ	10ＹＲ５／６	黄褐	CL	やや良	なし	
	Ⅲ	10ＹＲ４／４	褐	CL	やや良	なし	

表16　基本層序土層注記

遺構名	層	ＪＩＳ標準色票	土壌色	土性	しまり	粘性	備考
ＳＢ01	1	10ＹＲ３／３	暗褐				
	2	10ＹＲ４／６	褐				
	3	10ＹＲ５／６	黄褐				
08	1	7.5ＹＲ３／４	暗褐	LiC	良	なし	炭化物含
	2	7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	良	なし	炭化物含
08炉	1	10ＹＲ６／４	にぶい黄橙				径１cm大の焼土ブロック
	2	10ＹＲ７／６	明黄褐				径１cm大の焼土ブロック
11	1	7.5ＹＲ４／６	褐	SiCL	良	やや有	
	2	7.5ＹＲ２／４	暗褐	SiCL	良	やや有	径１～２mmの礫混じる
	3	7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	やや有	
11炉	1	2.5ＹＲ５／６	明赤褐				焼土
	2	7.5ＹＲ５／４	にぶい褐				炭化物等含む

表17　竪穴住居址土層注記

遺構名	層	ＪＩＳ標準色票	土壌色	土性	しまり	粘性	備考
ＳＢ14	1	10ＹＲ４／１	褐灰	SiCL			炭化物少量
	2	10ＹＲ４／２	灰黄褐	SiCL			径５㎜位の炭化物焼土等入る
	3	10ＹＲ６／４	にぶい黄褐	SiCL			混入物ナシ
	4	10ＹＲ４／３	にぶい黄褐				ロームブロック焼土・炭化物入る
14炉	1	10ＹＲ５／６	黄褐	SiC	良	やや有	10ＹＲ４／３にぶい黄褐30%混じる　焼土粒混じり
	2	10ＹＲ５／６		SiC	良	やや有	10ＹＲ４／３　10%混じる
	3	５ＹＲ４／８	赤褐				焼土
	4	10ＹＲ５／６			良	有	焼土粒混じり
18	1	10ＹＲ２／１	黒		不良	なし	ロームブロック．炭化物等入る
	2	10ＹＲ５／２	灰黄褐		良	有	径１～５㎜位の長石粒多量に入る　炭化物入る
	3	10ＹＲ６／４	にぶい黄橙				炭化物ごく少量入る
	4	10ＹＲ７／４	にぶい黄橙				炭化物少量入る
19	1	10ＹＲ４／１	褐灰				礫．炭化物等たくさんある
	2	10ＹＲ５／２	灰黄褐				台石風の礫等入る
	3	10ＹＲ７／４	にぶい黄橙				地山ブロック炭化物など混入
19炉	1	7.5ＹＲ５／８	明褐	SiC	良	有	焼土多量
	2	7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	やや有	焼土少量　炭化物微量
	3	10ＹＲ４／６	褐	SiC	良	やや有	
20	1	10ＹＲ３／１	黒褐		不良		径５～１㎜位の小石粒多く含まれる
	2	10ＹＲ４／２	灰黄褐				５㎝位の礫炭化物など含む
	3	10ＹＲ７／６	明黄褐			やや有	炭化物少量
21	1	7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	良		
21炉	1	10ＹＲ４／１	褐灰		不良		焼土粒わずか炭化物入る
	2	10ＹＲ６／４	にぶい黄橙				１層と地山の混合土
21P1	1	10ＹＲ３／２	黒褐				炭化物．地山のブロック少量入る
24	1	7.5ＹＲ４／３	褐	SiCL	良	やや有	炭化物．焼土微量入る
	2	7.5ＹＲ４／６	褐	SiC	良	有	
25	1	10ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	良	やや有	
	2	7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	良	有	
	3	7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiC	良	有	
	4	7.5ＹＲ４／６	褐	SiC	良	有	
26	1	10ＹＲ４／２	灰黄褐	SiC	不良		
	2	10ＹＲ５／６	明赤褐		やや良		

表18　竪穴住居址土層注記

遺構名	層	ＪＩＳ標準色票	土壌色	土性	しまり	粘性	備考
ＳＢ03		7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	不良	有	炭化物含む
09	1	10ＹＲ２／１	黒				炭化物によって黒い
	2	10ＹＲ３／２	黒褐				ロームブロック炭化物少量混じる
	3	10ＹＲ６／６	明黄褐				ローム混じり
09炉	1	10ＹＲ３／１	黒褐			なし	炭化物ロームブロック入る
07	1	10ＹＲ1.7／１	黒				サクサクしている
	2	10ＹＲ1.7／１	黒				径0.5～１cm混入
	3	10ＹＲ４／２	灰黄褐				炭化物ナシ
	4	10ＹＲ４／2～3					炭化物黄色粒子多い
	5	10ＹＲ３／２	黒褐				３層より炭化物少ない
	6	10ＹＲ２／１	炭層				
	7	５ＹＲ４／４	にぶい赤褐				焼土層
	8	10ＹＲ７／６	明黄褐				粘土層
07炉	1		炭				
16	1	10ＹＲ６／４	にぶい黄橙				ロームブロック多い
	2	10ＹＲ３／１	黒褐				焼土粒炭化物多い
	3	10ＹＲ５／３	にぶい黄褐				炭化物多い
15	1	7.5ＹＲ３／２	黒褐	SiCL	良	なし	
	2	7.5ＹＲ３／３	暗褐	SiCL	良	なし	焼土・炭少し混じる
	3	7.5ＹＲ４／６	褐	SiCL	やや良	なし	ロームブロック
	4	7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	良	有	
	5	7.5ＹＲ４／３	褐	SiCL	良	やや有	
15炉	1	５ＹＲ５／８	明赤褐	SiC			焼土
	2	7.5ＹＲ３／３	暗褐	SiC	やや良	なし	焼土混じる
	3	7.5ＹＲ1.7／１	黒	SiC	やや良	なし	炭混じる
13炉	1	7.5ＹＲ３／４	黒褐		不良	なし	
	2	５ＹＲ	赤褐		良	なし	
	3	7.5ＹＲ４／４	褐		良	なし	
17	1	10ＹＲ４／２	灰黄褐	SCL	良	やや有	径２～５mmほどの炭化物混入
	2	10ＹＲ４／３	にぶい黄褐	SL	良	やや有	炭化物．黄色ブロック礫やや混入
	3	10ＹＲ５／４	にぶい黄褐	SiC	やや良	やや有	径２～５mmほどの礫やや混入
	4	10ＹＲ３／４	暗褐	SiC	やや不良	やや有	径２～５mmほどの礫やや混入
	5	10ＹＲ４／４	褐	SL	良	やや有	径２～10mmの炭化物多く混入
17炉	1	10ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	やや良	なし	炭．焼土ブロック状に混じる
	2	7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	やや不良	やや有	炭．焼土少量含む
	3	7.5ＹＲ４／６	褐	SiC	良	やや有	

表19　竪穴住居址土層注記

遺構名	層	ＪＩＳ標準色票	土 壌 色	土性	しまり	粘 性	備 考
ＳＢ 04		7.5ＹＲ４／６	褐	LiC	不 良	な し	炭化物微量
05		7.5ＹＲ４／４	褐	LiC	不 良	な し	炭化物微量
06		7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	良	な し	炭化物微量
12	1	7.5ＹＲ３／４	暗褐	LiC	良	な し	
	2	7.5ＹＲ４／４	褐	LiC	良	な し	
	3	7.5ＹＲ５／６	明褐	LiC	やや良	やや有	
22		7.5ＹＲ４／４	褐	LiC	良	な し	炭化物微量

表20　竪穴土層注記

遺構名	層	ＪＩＳ標準色票	土 壌 色	土性	しまり	粘 性	備 考
ＳＫ 217	1	7.5ＹＲ３／３	暗褐	LiC	良	やや有	
	2	7.5ＹＲ４／３	褐	SiC	良	やや有	炭含む
	3	7.5ＹＲ４／４	にぶい赤褐	LiC	良	な し	焼土多い　炭含む
	4	7.5ＹＲ５／３	にぶい褐	LiC	良	やや有	
	5	7.5ＹＲ４／６	赤褐	LiC	良	な し	
	6	7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	やや良	有	焼土・炭含む
220	1	7.5ＹＲ３／３	暗褐	SiL	良	な し	砂・礫・微量炭化物混じり
225	2	7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	良	やや有	小礫・炭少量混じる
226	3	7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	やや有	砂微量混じる　キメこまかくそろっている
228	4	7.5ＹＲ４／６	褐	SiC	良	有	炭・焼土少量混じる
	5	7.5ＹＲ４／６	褐	SiC	良	有	
	6	7.5ＹＲ４／６	褐	SiC	良	有	焼土微量混じる
	7	5ＹＲ４／６	赤褐	SiC	良	有	焼土混じる　よく焼けている
	8	7.5ＹＲ５／８	明褐	SiC	良	有	
221	1	7.5ＹＲ３／３	暗褐	SiC	良	やや有	
235	2	7.5ＹＲ４／４	褐	LiC	やや良	やや有	
240	3	7.5ＹＲ４／６	褐	LiC	やや不良	やや有	
247	4	7.5ＹＲ４／３	褐	LiC	良	な し	
248	5	5ＹＲ３／２	暗赤褐	LiC	やや良	な し	
Ａ－Ａ′	6	5ＹＲ４／４	にぶい赤褐	LiC	やや良	な し	
	7	7.5ＹＲ４／４	褐	LiC	やや不良	な し	
	8	7.5ＹＲ４／４	褐	LiC	良	な し	
	9						焼土ブロック
Ｂ－Ｂ′	1	7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	良	な し	小礫少量混じる
	2	7.5ＹＲ４／３	褐	SiCL	良	やや有	

表21　炉穴土層注記

遺構名	層	ＪＩＳ標準色票	土 壌 色	土性	しまり	粘 性	備　　考
Ｂ－Ｂ′	3	7.5ＹＲ３／３	暗褐	SiCL	良	な し	
	4	5ＹＲ４／６	赤褐	SiCL		な し	粘土多量に混じる
	5	7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	やや有	
	6	7.5ＹＲ４／６	褐	SiL	良	有	
412	1	7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	やや不良	やや有	灰多量　炭・焼土少量含む
	2	5ＹＲ４／４	にぶい赤褐	SiCL	やや良	やや有	7.5ＹＲ３／４混じり　焼土多量に含む
	3	地山					
420	1	7.5ＹＲ４／４		SiCL	良	有	焼土少量　炭化物微量
	2	7.5ＹＲ４／６		SiC	良	有	
427	1	7.5ＹＲ３／３	暗褐	SiCL	不 良	な し	灰多量に含む
	2	5ＹＲ４／６	赤褐		良	やや有	焼土
	3	7.5ＹＲ５／６	明褐	SiCL	良	やや有	焼土多量に含む
456	1	7.5ＹＲ３／３	暗褐		良	な し	
	2	7.5ＹＲ３／２	黒褐		良	な し	
	3	7.5ＹＲ３／４	暗褐		良	な し	
	4	7.5ＹＲ４／３	褐		良	な し	
	5	7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	な し	
ＳＢ 21	1	5ＹＲ４／３	にぶい赤褐				焼土のかたまりが入っている
重複焼土断面	2	7.5ＹＲ４／６	褐	SiCL	不 良	な し	
	3	7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	不 良	な し	
	4	5ＹＲ４／４	にぶい赤褐			不 良	焼土多く混じる
	5	7.5ＹＲ３／４	暗褐			不 良	焼土多く混じる　炭化物が少し混じる
	6	5ＹＲ４／３	にぶい赤褐		不 良	な し	

表22　炉穴土層注記

遺構名	層	ＪＩＳ標準色票	土 壌 色	土性	しまり	粘 性	備　　考
ＳＩ 01	1	7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	やや有	
02	1	7.5ＹＲ４／３	褐		良	な し	
	2	7.5ＹＲ４／４	褐		良	な し	1㎜～2㎜の礫含む
03	1	7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	やや有	
04	1	7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	やや有	
05	1	7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	な し	
	2	7.5ＹＲ３／２	黒褐	SiCL	不 良	な し	
06	1	10ＹＲ４／３	にぶい黄褐	SiCL	良	な し	
	2	10ＹＲ５／６	黄褐	SiC	良	有	
07	1	7.5ＹＲ３／４		SiCL	不 良	やや有	

表23　集石土層注記

遺構名	層	ＪＩＳ標準色票	土 壌 色	土性	しまり	粘 性	備　　考
ＳＩ　10	1	7.5ＹＲ３／２	黒褐	LiC	不　良	な　し	
	2	7.5ＹＲ２／１	黒	CL	良	な　し	
	3	7.5ＹＲ４／２	灰褐	CL	不　良	な　し	
	4	7.5ＹＲ４／６	褐	SiC	やや良	やや有	焼土微量炭化物少量含む　切り合っているＳＢの埋土かも
16	1	7.5ＹＲ２／３	極暗褐	SCL	やや良	やや有	白色岩片炭化物含む
17	1	10ＹＲ３／３	暗褐	SiCL	良	やや有	炭化物微量に含む
18	1	7.5ＹＲ２／１	黒	S	良	な　し	炭化物多く含む
	2	7.5ＹＲ３／２	黒褐	SiL	良	な　し	
20	1	10ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	やや有	焼土微量に含む
21	1	7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	良	やや有	炭、焼土微量に含む
22	1	7.5ＹＲ２／２	黒褐	SiCL	やや不良	な　し	炭を多量に含む　全体に光沢を帯びる程の量
	2	7.5ＹＲ３／３	暗褐	L	不　良	な　し	焼いた礫を含む　炭を少量含む
	3	10ＹＲ３／４	暗褐	SiC	良	有	炭小ブロック状に含む　粘土ブロック含む
	4	7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	良	有	炭化物微量に含む　粘土ブロック含む
	5	7.5ＹＲ３／４	暗褐	LiC	やや不良	有	炭少量、焼けてくずれた小礫多量に含む
	6	7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiC	良	有	炭化物微量
25	1	7.5ＹＲ３／２	黒褐	CL	やや不良	やや有	炭化物微量に含む　焼土微量に含む
	2	7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	良	やや有	炭化物微量に含む
	3	7.5ＹＲ４／６	褐	SiC	良	有	炭化物微量に含む
	4	7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	有	炭化物微量に含む

表24　集石土層注記

遺構名	層	ＪＩＳ標準色票	土 壌 色	土性	しまり	粘 性	備　　考
ＳＫ　02							
59	1	7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	な　し	径１㎜小礫若干含む
	2	7.5ＹＲ４／６	褐	SiL	不　良	な　し	粒子細かくサラサラ
	3	7.5ＹＲ３／２	黒褐	SiL	良	な　し	
	4	7.5ＹＲ４／３	褐	SiCL	良	やや有	
	5	7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	不　良	有	キメ荒い
	6	7.5ＹＲ３／１	黒褐	SiC	不　良	やや有	7.5ＹＲ４／６褐混じりキメ荒くポクポクした感じ
	7	7.5ＹＲ４／６	褐	SiCL	良	やや有	ローム混じり
	8	7.5ＹＲ５／６	明褐	SiL	良	な　し	
60	1	7.5ＹＲ４／４	褐	SiL		やや有	
	2	7.5ＹＲ４／６	褐	SiL		有	
	3	7.5ＹＲ４／３	褐	SiL		有	

表25　貯蔵穴土層注記

遺構名	層	ＪＩＳ標準色票	土壌色	土性	しまり	粘性	備考
ＳＫ 74		7.5ＹＲ４／３	褐	SiCL	やや良	な し	焼土炭化物混じる
75	1	7.5ＹＲ３／４	黒褐	SiL		な し	径１～２㎜の礫含む
	2	7.5ＹＲ４／４	褐	SiL		やや有	
	3	7.5ＹＲ４／６	褐	SiL	良	やや有	
78		7.5ＹＲ３／４	暗褐	LiC	不 良	な し	炭化物含む（7.5ＹＲ４／６褐ブロック混）
81		礫下7.5YR２／３	極暗褐	SiC	不 良	有	貯蔵穴
233	1	7.5ＹＲ４／３	褐	LiC	不 良	な し	
	2	7.5ＹＲ４／４	褐	LiC	良	な し	
	3	7.5ＹＲ５／６	明褐	LiC	不 良	な し	
	4	7.5ＹＲ３／４	暗褐	LiC	良	やや有	
	5	7.5ＹＲ３／４	暗褐	LiC	良	やや有	
	6	7.5ＹＲ５／４	にぶい褐	SiC	良	有	
	7	7.5ＹＲ３／３	暗褐	LiC	やや良	やや有	
	8	7.5ＹＲ４／４	褐	LiC	やや不良	やや有	
239		10ＹＲ３／１	黒褐色	SiCL	良	な し	中間に少量の炭化物
311	1	10ＹＲ３／２	黒褐	SiCL	やや良	やや有	
	2	10ＹＲ４／４	褐	SiC	良	有	
	3	10ＹＲ５／４	にぶい黄褐	SiC	良	有	
	4	10ＹＲ５／６	黄褐		良	有	10ＹＲ４／４　20%混じる
328	1	7.5ＹＲ４／６	明褐	CL	良	やや有	炭化物微量に含む
	2	7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	やや良	やや有	炭少量焼土微量に含む
	3	7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	やや不良	やや有	炭化物微量に含む第一層の土小ブロック状に混じる
	4	7.5ＹＲ３／２	黒褐	L	やや不良	やや有	炭化物微量に含む
	5	7.5ＹＲ４／６	褐	SiCL	良	やや有	炭化物微量に含む
	6	7.5ＹＲ３／３	暗褐	SiC	良	やや有	
	7	7.5ＹＲ４／４	褐	SiL	やや良	やや有	キメが整う
347		10ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	やや不良	やや有	炭化物中量混じる焼土微量に混じる
348		10ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	やや不良	やや有	炭混じる
365		10ＹＲ２／３	黒褐	L	やや不良	やや有	炭化物・焼土微量
380		7.5ＹＲ３／３	暗褐	SiCL	良	な し	炭化物含む　貯蔵穴
400	1	7.5ＹＲ３／２	黒褐	SiL	やや不良	な し	炭化物少量
	2	10ＹＲ２／３	黒褐	SiCL	良	やや有	
	3	7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	良	有	
	4	10ＹＲ３／４	暗褐	SiC	良	有	
	5	10ＹＲ４／６	褐	SiC	良	有	

表26　貯蔵穴土層注記

遺構名	層	ＪＩＳ標準色票	土 壌 色	土性	しまり	粘　性	備　　考
ＳＫ 403		7.5ＹＲ２／２	黒褐	L	やや不良	やや有	
478	1	7.5ＹＲ３／４	暗褐		良	な　し	
	2	7.5ＹＲ３／２	黒褐		良	な　し	
	3	7.5ＹＲ４／３	褐		良	な　し	
	4	7.5ＹＲ３／２	黒褐		な　し	な　し	１～５㎜位の炭混じる
	5	7.5ＹＲ３／３	暗褐		な　し	な　し	
	6	7.5ＹＲ２／２	黒褐		な　し	な　し	５㎜位の炭混じる
	7	7.5ＹＲ４／４	褐				ローム
	8	7.5ＹＲ３／４	暗褐		良	やや有	
516	1	7.5ＹＲ３／２	黒褐	SiCL	良	やや有	炭化物微量
	2	7.5ＹＲ３／４	暗褐	LiC	やや不良	やや有	
	3	7.5ＹＲ２／３	極暗褐	SiC	やや不良	やや有	炭化物含む
	4	7.5ＹＲ４／６	褐	SiC	良	有	
520		7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiC	良	やや有	炭化物微量　貯蔵穴　花崗岩礫４ケ10～20㎝大
ＳＩ　12	1	7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	良	な　し	
	2	7.5ＹＲ３／２	黒褐	SiCL	良	な　し	微量の炭化物含む
	3	7.5ＹＲ４／４	褐	SiL	良	有	
19	1	10ＹＲ６／３	黄橙				ロームブロック及び一部ＳＢ17の床が残る　かたい
	2	10ＹＲ５／２	灰黄褐				しまりなくバサバサ
	3	10YR3／1～2／1	黒褐・黒				炭化物多く黒い

表27　貯蔵穴土層注記

遺構名	層	ＪＩＳ標準色票	土 壌 色	土性	しまり	粘　性	備　　考
ＳＫ　04	1	10ＹＲ４／４	褐				
06	1	10ＹＲ４／４	褐				
	2	10ＹＲ４／６	褐				
07	1	10ＹＲ４／４	褐				
08	1	10ＹＲ４／４	褐			有	
	2	10ＹＲ４／６	褐			有	
	3	10ＹＲ２／３	黒褐			有	
	4	10ＹＲ３／３	暗褐			有	
	5	10ＹＲ５／６	黄褐			有	
09	1	10ＹＲ４／４	褐				
	2	10ＹＲ３／２	黒褐				褐（10ＹＲ４／４）混じり
	3	10ＹＲ３／４	暗褐				
	4	10ＹＲ３／４	暗褐				褐（10ＹＲ４／４）混じり

表28　土坑土層注記

遺構名	層	ＪＩＳ標準色票	土 壌 色	土性	しまり	粘　性	備　　考
ＳＫ　09	5	10ＹＲ５／６	黄褐				
	6	10ＹＲ５／６	黄褐				黒褐（10ＹＲ３／２）混じり
10	1	10ＹＲ３／４	暗褐			有	
	2	10ＹＲ４／４	褐			有	
	3	10ＹＲ５／６	黄褐			有	
13	1	10ＹＲ４／６	褐				
14	1	10ＹＲ４／６	褐				
15	1	10ＹＲ３／４	暗褐				
	2	10ＹＲ３／２	黒褐				
	3	10ＹＲ４／４	褐				
	4	10ＹＲ４／３	にぶい黄褐				
16	1	10ＹＲ２／３	黒褐				褐（10ＹＲ４／６）混じる
	2	10ＹＲ４／６	褐				
	3	10ＹＲ４／６	褐				黒褐（10ＹＲ２／３）混じる
17		7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	やや不良	有	炭化物少量混じる
18		7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	不　良	有	僅かに炭化物混じる
19		7.5ＹＲ４／４	褐	LiC	やや不良	やや有	炭化物少量混じる
20	1	7.5ＹＲ５／４	にぶい褐	SiCL	やや良	な　し	小礫若干含む
	2	7.5ＹＲ３／３	暗褐	SiL	不　良	な　し	
	3	7.5ＹＲ４／３	褐	SiCL	不　良	有	礫若干含む
	4	7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	やや良	やや有	
21	1	7.5ＹＲ４／４	褐	SiL	良	やや有	
	2	10ＹＲ５／４	にぶい黄褐	SiCL	良	有	
22		7.5ＹＲ４／６	褐	LiC	良	有	僅かに炭化物混じる
23		7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	やや良	やや有	炭化物混じる
24	1	10ＹＲ４／４	褐	SiC	良	有	
	2	7.5ＹＲ４／６	褐	CL	やや良	やや有	
	3	10ＹＲ５／４	にぶい黄褐	SiL	不　良	な　し	
25	1	10ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	やや有	
	2	7.5ＹＲ３／４	褐	SiL	良	一層よりなし	
26		7.5ＹＲ４／６	褐	SiC	不　良	やや有	炭化物僅かに含む
27	1	7.5ＹＲ４／４	褐	SiL	良	な　し	炭化物含む
	2	10ＹＲ４／６	褐	SiCL	良	やや有	きめ細かい
28		7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	不　良	有	炭化物含む
29	1	7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	な　し	径２㎜の小礫を若干含む
	2	7.5ＹＲ４／６	褐	SiL	良	な　し	

表29　土坑土層注記

遺構名	層	ＪＩＳ標準色票	土 壌 色	土性	しまり	粘 性	備　　考
ＳＫ 30		7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	やや不良	有	炭化物僅かに含む
32		7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	やや不良	やや有	炭化物僅かに含む
33	1	7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	不 良	やや有	
	2	10ＹＲ４／６	褐	SiL	良	な し	
34		7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	やや不良	な し	炭化物僅かに含む
35	1	7.5ＹＲ３／４	暗褐	L	不 良	な し	
	2	10ＹＲ４／３	にぶい黄褐		不 良	な し	
	3	10ＹＲ５／６	黄褐	SiL	不 良	な し	
36	1	7.5ＹＲ４／３	褐	SiL	不 良	な し	
	2	7.5ＹＲ４／４	褐	SiL	良	な し	
37		7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	不 良	有	炭化物含む
38		7.5ＹＲ４／６	褐	LiC	不 良	な し	僅かに炭化物含む
39		7.5ＹＲ４／４	褐	LiC	やや良	な し	
40		7.5ＹＲ４／４	褐	LiC	やや不良	な し	炭化物含む
41		7.5ＹＲ４／６	褐	LiC	不 良	やや有	炭化物．ブロック少量含む
42		5ＹＲ４／４	にぶい赤褐	SiC	やや不良	やや有	焼土？
43		7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	やや良	な し	炭化物僅かに含む
44		7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	不 良	な し	炭化物僅かに含む　底面焼け
45	1	7.5ＹＲ４／４	褐	SiL	不 良	な し	
	2	7.5ＹＲ５／６	明褐	SiL	良	やや有	
46		7.5ＹＲ４／４	褐	LiC	良	な し	炭化物僅かに含む
47		7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	良	な し	炭化物僅かに含む
48		7.5ＹＲ４／４	褐	LiC	良	有	炭化物を含む
49		7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	良	有	炭化物僅かに含む
50		7.5ＹＲ４／６	褐	SiC	な し	な し	径10cm以上の礫を多量に含む
51	1	7.5ＹＲ４／３	褐	SiL	良	な し	径10cm以下の小礫若干混じる
	2	7.5ＹＲ４／６	褐	SiL	良	な し	きめがそろっている
52	1	7.5ＹＲ４／３	褐	SiC	良	やや有	
	2	7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	やや有	炭若干含む
	3	10ＹＲ５／４	にぶい黄褐	SiL	良	な し	きめ細かい
53		下部7.5ＹＲ4／4	褐	SiC	やや不良	やや有	炭化物微量
54	1	7.5ＹＲ４／３	褐	SiL	やや良	やや有	
	2	7.5ＹＲ３／４	黒褐	SiL		やや有	
	3	7.5ＹＲ４／４	褐	SiL		やや有	
55	1	7.5ＹＲ４／３	褐	SiL		やや有	
	2	7.5ＹＲ４／４	褐	SiL		やや有	

表30　土坑土層注記

遺構名	層	ＪＩＳ標準色票	土 壌 色	土性	しまり	粘 性	備　　考
ＳＫ　55	3	7.5ＹＲ４／６	褐	SiL		やや有	
56	1	7.5ＹＲ４／３	褐	SiCL	良	やや有	
	2	7.5ＹＲ５／６	明褐	SiL	良	な し	
57		7.5ＹＲ４／６	褐	SiCL	良	な し	
58	1	10ＹＲ３／３	暗褐	CL	不 良	やや有	攪乱？
	2	7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	な し	
	3	7.5ＹＲ５／６	明褐	SiL	良	な し	
61	1	7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	やや不良	な し	
	2	7.5ＹＲ４／６	褐	SiL	良	やや有	
	3	10ＹＲ５／６	黄褐	SiL	良	な し	
62		7.5ＹＲ４／６	褐	LiC	良	な し	
63	1	7.5ＹＲ４／６	褐	CL	良	やや有	径２㎜の小礫含む
	2	10ＹＲ４／６	褐	SiCL	良	な し	
	3	7.5ＹＲ５／６	明褐	L	不 良	な し	キメ荒くボロボロした感じ
	4	5ＹＲ４／８	赤褐	SiC	良	やや有	
	5	7.5ＹＲ５／６	明褐	SiL	良	な し	
64		7.5ＹＲ４／６	褐	SiC	やや不良	な し	炭化物微量
65		7.5ＹＲ４／６	褐	SiC	良	な し	炭化物微量
66		7.5ＹＲ５／６	明褐	LiC	やや不良	な し	炭化物微量　焼
67		7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	良	な し	炭化物微量
68	1	7.5ＹＲ４／６	褐	SiC	良	やや有	
	2	7.5ＹＲ３／４	黒褐	SiL	不 良	な し	
	3	7.5ＹＲ４／３	褐	SiL	不 良	な し	
	4	7.5ＹＲ４／４	褐	SiL	良	やや有	
69		7.5ＹＲ４／６	褐	SiC	良	な し	炭化物微量
70	1	7.5ＹＲ４／３	褐	SiL		な し	径１～２㎜礫含む
	2	7.5ＹＲ４／４	褐	SiL		やや有	
71		7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	な し	攪乱有り　僅かに炭化物含む
73		7.5ＹＲ４／６	褐	SiCL	不 良	やや有	炭化物混じる
76	1	7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL		やや有	明褐色土少し混じる
	2	7.5ＹＲ４／６	褐	SiCL	不 良	な し	ボソボソしている
	3	7.5ＹＲ４／３	褐	SiCL	良	やや有	
	4	7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	やや有	
	5	7.5ＹＲ４／６	褐	SiCL	良	やや有	
79		7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	良	な し	炭化物僅かに含む
80		7.5ＹＲ４／４	褐	LiC	良	な し	炭化物僅かに含む

表31　土坑土層注記

遺構名	層	ＪＩＳ標準色票	土壌色	土性	しまり	粘性	備考
ＳＫ 82		7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	良	有	炭化物僅かに含む
83		7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	良	な し	炭化物僅かに含む
84		7.5ＹＲ４／４	褐	LiC	良	な し	炭化物微量
86		7.5ＹＲ４／３	褐	LiC	不 良	有	炭化物微量
87	1	7.5ＹＲ４／３	褐	SiCL	良	やや有	
	2	7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	やや良	やや有	
	3	7.5ＹＲ４／６	褐	SiCL	やや良	やや有	
88	1	7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	やや有	
	2	7.5ＹＲ４／６	褐	SiCL	良	やや有	
89		7.5ＹＲ４／６	褐	LiC	やや良	有	炭化物微量
90		7.5ＹＲ３／４	暗褐	LiC	やや不良	有	炭化物微量
91		7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	不 良	な し	炭化物微量
92		7.5ＹＲ４／６	褐	LiC	やや不良	有	炭化物微量
93		7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	良	有	炭化物微量
94	1	7.5ＹＲ４／３	褐	SiCL	良	やや有	
	2	7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	やや有	
95		7.5ＹＲ４／３	褐	SiC	良	な し	炭化物微量
97		7.5ＹＲ４／６	褐	LiC	やや良	有	炭化物微量　特殊磨石
98		7.5ＹＲ４／４	褐	LiC	不 良	有	炭化物微量
99		7.5ＹＲ４／４	褐	LiC	不 良	な し	炭化物微量
100		7.5ＹＲ４／６	褐	SiC	不 良	な し	炭化物微量
101		7.5ＹＲ４／３	褐	SiC	やや不良	な し	炭化物微量　焼礫あり
102		7.5ＹＲ３／４	暗褐	LiC	不 良	やや有	炭化物微量
103		7.5ＹＲ４／３	褐	LiC	やや良	やや有	炭化物微量
104		7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiC	やや良	有	風化花崗岩小礫　炭化物微量
105		7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	やや良	有	炭化物微量
106		7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	やや不良	有	
107		7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiC	不 良	有	
108		7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiC	不 良	有	炭化物微量
109		7.5ＹＲ２／２	黒褐	SiC	不 良	有	7.5ＹＲ４／４のブロック混小礫　炭化物微量
110		7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	良	有	炭化物微量
111		7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiC	やや不良	有	炭化物微量
112		7.5ＹＲ３／４	暗褐	LiC	やや良	やや有	炭化物微量
113	1	7.5ＹＲ３／２	黒褐	SiCL	不 良	やや有	
	2	7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	やや良	やや有	
	3	7.5ＹＲ４／３	褐	SiCL	良	やや有	

表32　土坑土層注記

遺構名	層	ＪＩＳ標準色票	土壌色	土性	しまり	粘性	備考
ＳＫ 113	4	7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	やや有	
114		7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	不良	有	7.5ＹＲ２／３がブロック状に入る よく焼けている 炭化物微量
115		7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	良	有	炭化物微量
116		7.5ＹＲ４／３	褐	LiC	やや不良	やや有	炭化物微量
117		7.5ＹＲ２／２	黒褐	LiC	良	やや有	7.5ＹＲ４／４のブロック混
118		7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiC	やや良	有	
119		7.5ＹＲ４／３	褐	SiC	不良	有	炭化物微量
120		7.5ＹＲ３／３	暗褐	SiC	不良	有	
121		7.5ＹＲ３／３	暗褐	SiC	やや不良	有	小礫混
122	1	7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	良	やや有	
	2	7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	有	
123		7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiC	やや良	有	炭化物微量
124		7.5ＹＲ４／３	褐	SiC	良	やや有	炭化物微量
125		7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiC	不良	有	炭化物
127		7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	不良	有	炭化物微量
128		7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	やや良	有	
129		7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiC	良	有	
130		7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	やや良	やや有	炭化物微量
131		7.5ＹＲ４／３	褐	LiC	良	やや有	炭化物微量
132		7.5ＹＲ３／４	暗褐	LiC	良	有	炭化物微量
133		7.5ＹＲ４／３	褐	SiC	不良	有	炭化物微量
134		7.5ＹＲ４／３	褐	LiC	やや良	有	
135		7.5ＹＲ３／３	暗褐	LiC	良	有	炭化物微量
136		7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiC	良	やや有	焼礫 焼土なし
137		7.5ＹＲ３／４	暗褐	LiC	やや不良	有	7.5ＹＲ４／３ブロック含む 炭化物微量
138		7.5ＹＲ４／３	褐	SiC	良	有	炭化物微量
139		7.5ＹＲ４／３	褐	SiC	良	有	
140		7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	不良	やや有	炭化物微量
141		7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	やや不良	有	炭化物微量
142		7.5ＹＲ３／４	暗褐	LiC	やや良	有	炭化物微量
143		7.5ＹＲ４／３	褐	SiC	良	有	炭化物微量
144		7.5ＹＲ３／３	暗褐	SiC	良	有	炭化物微量
145	1	7.5ＹＲ３／３	暗褐	SiCL	良	やや有	焼礫
	2	7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	良	やや有	焼礫
	3	7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	有	焼礫
146		7.5ＹＲ４／４	褐	LiC	やや良	有	再検出炭化物微量

表33 土坑土層注記

遺構名	層	ＪＩＳ標準色票	土 壌 色	土性	しまり	粘　性	備　　考
ＳＫ 147		7.5ＹＲ３／4	暗褐	SiC	やや良	有	炭化物微量
148		7.5ＹＲ４／3	褐	SiC	良	有	炭化物微量
149		7.5ＹＲ４／4	褐	SiC	良	有	炭化物微量
150		7.5ＹＲ４／4	褐	SiC	良	やや有	炭化物
151		7.5ＹＲ４／3	褐	SiC	不　良	有	炭化物微量
152		7.5ＹＲ３／4	暗褐	SiC	不　良	有	焼小礫　焼土なし
153		7.5ＹＲ４／3	褐	LiC	やや良	やや有	炭化物微量
154		7.5ＹＲ３／4	暗褐	SiC	良	やや有	炭化物微量
155		7.5ＹＲ３／4	暗褐	SiC	やや良	やや有	炭化物微量
156		7.5ＹＲ４／3	褐	SiC	不　良	有	炭化物微量
157		7.5ＹＲ４／4	褐	LiC	良	やや有	ＳＢに切られる　炭化物微量
158		7.5ＹＲ３／4	暗褐	LiC	やや不良	有	炭化物焼土微量
159	1	7.5ＹＲ４／4		SiCL	良	やや有	
	2	7.5ＹＲ４／6		SiCL	良	やや有	
160		7.5ＹＲ３／4	暗褐	SiC	やや良	やや有	
161		7.5ＹＲ４／4	褐	SiC	やや良	やや有	
162		7.5ＹＲ４／3	褐	SiC	良	やや有	炭化物微量
163		7.5ＹＲ３／4	暗褐	SiC	良	やや有	炭化物微量　片上がり　長楕円
164		7.5ＹＲ３／4	暗褐	SiC	良	やや有	炭化物微量
165		7.5ＹＲ３／4	暗褐	SiC	やや不良	有	炭化物微量
166		7.5ＹＲ３／4	暗褐	SiC	不　良	やや有	
167		7.5ＹＲ３／4	暗褐	SiC	不　良	有	炭化物微量
168		7.5ＹＲ４／3	褐	LiC	不　良	やや有	
169		7.5ＹＲ３／4	暗褐	LiC	やや良	やや有	炭化物微量
170		7.5ＹＲ４／3	褐	SiC	不　良	有	炭化物微量
171		7.5ＹＲ４／3	褐	SiC	良	有	
172		7.5ＹＲ４／6	褐	SiC	不　良	有	
173		7.5ＹＲ４／4	褐	SiC	良	有	
174		7.5ＹＲ３／4	暗褐	SiC	不　良	有	炭化物微量
175		7.5ＹＲ４／4	褐	SiC	不　良	有	炭化物微量
176		7.5ＹＲ４／4	褐	SiC	やや良	有	
177		7.5ＹＲ４／4	褐	SiC	良	有	炭化物微量
178		7.5ＹＲ３／4	暗褐	SiC	良	な　し	炭化物微量
179		7.5ＹＲ４／4	褐	SiC	良	有	
180		7.5ＹＲ４／4	褐	SiC	良	有	
181		7.5ＹＲ４／4	褐	SiC	やや良	有	炭化物微量

表34　土坑土層注記

遺構名	層	ＪＩＳ標準色票	土 壌 色	土性	しまり	粘 性	備 考
ＳＫ 182		7.5ＹＲ４／6	褐	SiC	良	やや有	7.5ＹＲ３／３をブロックで含む
183	1	7.5ＹＲ３／3	暗褐	SiCL	良	やや有	
	2	7.5ＹＲ４／4	褐	SiC	良	有	
184	1	7.5ＹＲ４／3	褐	SiC	良	な し	
	2	7.5ＹＲ４／6	褐	SiC	良	有	
185		7.5ＹＲ３／3	暗褐	SiC	良	やや有	暗褐は30％程度均一に混じる　炭化物微量
186		7.5ＹＲ４／4	褐	SiC	良	有	
187	1	7.5ＹＲ４／4	褐	SiC	良	有	
	2	7.5ＹＲ３／3	暗褐	SiCL	良	やや有	
	3	7.5ＹＲ４／6	褐	SiC	良	有	
188		7.5ＹＲ４／4	褐	SiC	不 良	やや有	
189		7.5ＹＲ３／4	暗褐	SiCL	良	な し	炭化物微量
190		7.5ＹＲ３／3	暗褐	SiCL	不 良	な し	
191		7.5ＹＲ４／6	褐	SiCL	不 良	な し	
192		7.5ＹＲ４／6	褐	SiCL	不 良	な し	
193		7.5ＹＲ４／6	褐	SiCL	良	な し	
194		7.5ＹＲ４／4	褐	SiCL	良	な し	
195		7.5ＹＲ４／4	褐	SiCL	良	な し	部分的に明褐色土が混じる
196		7.5ＹＲ３／3	暗褐	SiCL	不 良	な し	下層の方は褐色の砂が混じる
197		7.5ＹＲ３／2	黒褐	SiCL	不 良	な し	
198		7.5ＹＲ３／4	暗褐	SiCL	良	な し	
199		7.5ＹＲ４／4	褐	SiCL	良	な し	
200		7.5ＹＲ４／6	褐	SiCL	良	な し	
201		7.5ＹＲ３／4	暗褐	SiCL	良	な し	
203		10ＹＲ４／1	褐灰	SiCL	良		ロームブロック入る
204		10ＹＲ５／3	にぶい黄褐	SiCL	良	な し	焼土粒少量入る
205		10ＹＲ５／3	にぶい黄褐	SiCL	良	な し	砂が少し入る
206		7.5ＹＲ３／4	暗褐	SCL	良	な し	
207		10ＹＲ５／3	にぶい黄褐	SiCL	良		
208	1	7.5ＹＲ４／4	褐	SiCL	良	やや有	
	2	7.5ＹＲ５／6	明褐	SiL	良	有	
209		10ＹＲ7／4～6／4	にぶい黄橙	SiCL	良	な し	
210		7.5ＹＲ４／4	褐	SiCL	良	な し	焼土が少量混入
211	1	7.5ＹＲ４／4	褐	LiC	良	な し	炭化物含む
	2	7.5ＹＲ６／6	橙	LiC	良	な し	
	3	7.5ＹＲ５／6	明褐	LiC	良	な し	

表35　土坑土層注記

遺構名	層	ＪＩＳ標準色票	土壌色	土性	しまり	粘性	備考
ＳＫ 211	4	7.5ＹＲ５／６	明褐	SiC	やや良	な し	焼土・炭混
212		7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	良	有	炭化物微量
213							焼土
214		10ＹＲ５／２	褐灰色	SiCL	良	な し	
215		10ＹＲ４／１	褐灰色	SiCL	良	な し	
216		10ＹＲ５／２	褐灰色	SiCL	良	な し	
218		10ＹＲ５／２	褐灰色	SiCL	良	な し	
219		10ＹＲ３／１	黒	SiCL	良	な し	
222		10ＹＲ３／１	黒褐色	SiCL	良	な し	
223		10ＹＲ３／１	黒褐色	SiCL	良	な し	粘土少量入る
224		10ＹＲ３／１	黒褐色	SiCL	良	な し	
227		10ＹＲ２／１	黒	SiCL	良	な し	
229	1	7.5ＹＲ４／３	褐	SiCL	良	やや有	焼土微量
	2	7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	やや有	
	3	7.5ＹＲ４／６	褐	SiL	良	有	
230		10ＹＲ３／２	黒褐色	SiCL	良	な し	
231	1	7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	な し	ロームブロック混じる
234	2	7.5ＹＲ４／３	褐	SiCL	良	な し	
	3	7.5ＹＲ４／６	褐	SiCL	良	な し	
237		10ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	良	な し	
238	1	7.5ＹＲ３／４	黒褐	SiCL	良	な し	径１㎜からの礫混じり
	2	7.5ＹＲ４／６	褐	SiCL	良	やや有	
241		10ＹＲ３／４	暗褐色	SiCL	良	な し	炭化物入る
242		10ＹＲ５／３	にぶい黄褐	SiCL	良	な し	
243		7.5ＹＲ４／６	褐	SiL	良	有	粒子が緻密でキメがよく整っている
244	1	10ＹＲ４／１	褐灰色				焼土
	2	5ＹＲ５／３	にぶい赤褐色				焼土
	3	10ＹＲ７／６	明黄褐				焼土少量
245		7.5ＹＲ４／４	褐	LiC	良	な し	焼礫１
246		7.5ＹＲ４／４	褐	LiC	良	な し	焼土混
249		7.5ＹＲ３／４	暗褐	LiC	良	な し	
250	1	10ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	良	やや有	
	2	7.5ＹＲ４／６	褐	SiC	良	有	
251	1	7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	良	やや有	焼土微量に含む
	2	5.5ＹＲ４／６	褐	SiC	良	有	炭化物微量に含む　底面に焼土少量有り 径１㎜ほどの小礫少量含む
252		7.5ＹＲ４／６	褐	SiCL	良	有	若干の焼土含む

表36　土坑土層注記

遺構名	層	ＪＩＳ標準色票	土 壌 色	土性	しまり	粘 性	備　　考
ＳＫ 253	1	7.5ＹＲ３／４		SL	やや不良	やや有	
	2	7.5ＹＲ４／４		SiC	良	やや有	
	3	7.5ＹＲ４／４		SiCL	良	有	
254	1	7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	やや有	径20㎜程度
	2	7.5ＹＲ４／６	褐	SiL	良	有	
255	1	7.5ＹＲ３／２	黒褐	CL	良	な し	炭化物少量含む
	2	7.5ＹＲ４／６	褐	SiL	良	やや有	キメが細かくサラッとしている
256	1	7.5ＹＲ３／４	暗褐	LiC	良	やや有	
	2	7.5ＹＲ４／４	褐	LiC	やや良	有	
257		7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	やや不良	有	
258	1	10ＹＲ３／３	暗褐		やや良	有	
	2	10ＹＲ４／４	褐		やや良	有	
259		10ＹＲ３／３	暗褐	LiC	不 良	有	
260		7.5ＹＲ４／４	褐	LiC	やや良	有	
261	1	10ＹＲ３／３	暗褐		やや良	有	
	2	10ＹＲ５／６	黄褐		やや良	有	
262		7.5ＹＲ４／６	褐	SiC	良	有	
263		７／５ＹＲ４／３	褐	SiCL	やや不良	有	炭化物・焼土微量に含む
264	1	10ＹＲ４／３	にぶい黄褐		良	有	
	2	10ＹＲ４／６	褐		良	有	
	3	10ＹＲ５／６	黄褐		良	有	
265		7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	やや有	
266	1	10ＹＲ３／２		SiCL			炭化物・焼土粒
	2	10ＹＲ５／３	にぶい黄橙				ロームブロック多い
	3	10ＹＲ６／６	明黄褐				ロームに近い
267	1	10ＹＲ３／１	黒褐				炭化物
	2	10ＹＲ４／２	灰黄褐				
	3	10ＹＲ５／３	にぶい黄褐				
269	1	10ＹＲ４／１	褐灰色				炭化物ごくわずか
	2	10ＹＲ６／３	にぶい黄橙				
270	1	10ＹＲ４／１	褐灰				炭化物ごくわずか
	2	10ＹＲ５／１	褐灰		な し		
	3	10ＹＲ６／２	灰黄褐		な し		
271		7.5ＹＲ４／６	褐	SiC	良	やや有	
272	1	7.5ＹＲ４／４	褐	SiLC	良	有	
	2	7.5ＹＲ４／６	褐	SiC	良	有	

表37　土坑土層注記

遺構名	層	ＪＩＳ標準色票	土 壌 色	土性	しまり	粘 性	備　　考
ＳＫ 273		7.5ＹＲ４／6	褐	SiC	良	有	
274	1	7.5ＹＲ４／4	褐	SiCL	良	有	
	2	7.5ＹＲ５／4	にぶい褐	SiL	良	な し	キメこまかく整っている
275	1	10ＹＲ２／3	黒褐	SL	不 良	やや有	炭化物微量に含む
	2	7.5ＹＲ４／4	褐	SiCL	良	有	炭化物微量に含む
	3	7.5ＹＲ４／6	褐	SiL	良	やや有	
276		7.5ＹＲ４／4	褐	SiCL	やや不良	やや有	粘土ブロック少量含む
277		7.5ＹＲ３／4	暗褐	SiCL	やや良	やや有	
278		7.5ＹＲ４／4	褐	SiCL	良	有	
279	1	10ＹＲ５／2	灰黄褐				炭化物なし
	2	10ＹＲ７／6	明黄褐		不 良		
280		7.5ＹＲ３／4	暗褐	SiCL	やや不良	やや有	焼土微量に含む　根の攪乱有り　黒色土をブロック状に少量含む
281	1	10ＹＲ５／1	褐灰		不 良		こぶし大の石入る
	2						地山
282		7.5ＹＲ４／4	褐	SiC	良	有	
283	1	10ＹＲ５／3	にぶい黄褐		不 良		
	2	10ＹＲ４／1	褐灰				炭化物入る
	3	10ＹＲ７／6	明黄褐				地山に近い
284		7.5ＹＲ４／3	褐	SiCL	良	やや有	炭化物微量
285		7.5ＹＲ４／6	褐	SiC	良	有	
286	1	10ＹＲ３／4	暗褐				炭化物微量混じり細砂質土
	2						地山
287	1	10ＹＲ３／4	暗褐				地山の黄色土がブロックで混じる
	2	10ＹＲ４／6	褐				地山への漸移
	3	7.5ＹＲ３／4	暗褐				１よりやや赤い　地山黄色土混じる
288	1	10ＹＲ３／4	暗褐				地山の黄色が30％混じる
	2						地山の黄色土へ１層の暗褐色が混じる漸移層
289	1	10ＹＲ２／3	黒褐				炭化物ローム微妙に混じる
	2	10ＹＲ３／4	暗褐				細砂質土
	3						地山
290	1	10ＹＲ３／4	暗褐				地山黄色土微妙に混じる　微細な礫微妙に混じる
	2						地山
291	1	7.5ＹＲ４／4	褐	SiCL	良	やや有	
	2	7.5ＹＲ４／6	褐	SiC	良	有	径５㎜以下の小礫若干含む
292		7.5ＹＲ４／4	褐	SiCL	やや不良	有	7.5ＹＲ３／２黒色土小ブロックで少量混じる
293	1	7.5ＹＲ３／4	暗褐	SiCL	良	やや有	

表38　土坑土層注記

遺構名	層	ＪＩＳ標準色票	土 壌 色	土性	しまり	粘　性	備　　考
ＳＫ 293	2	7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	良	有	
294	1	7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	良	有	
	2	7.5ＹＲ５／６	明褐	SiC	良	やや有	
295		7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	やや有	炭化物微量
296	1	10ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	やや有	
297	2	10ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	やや良	やや有	
	3	7.5ＹＲ４／６	褐	SiC	良	有	
298	1	10ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	やや不良	やや有	炭化物少量含む
	2	7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	良	やや有	
	3	7.5ＹＲ４／６	褐	SiC	良	有	
299		7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	やや良	やや有	
300	1	10ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	良	やや有	炭化物微量に含む
	2	7.5ＹＲ４／３	褐	SiC	良	やや有	炭化物微量に含む
	3	7.5ＹＲ４／６	褐	SiC	良	有	炭化物微量に含む
301	1	7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	良	やや有	
	2	7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	有	炭化物微量に含む
	3	7.5ＹＲ４／６	褐	SiCL	やや良	やや有	
	4	10ＹＲ３／４	暗褐	SiC	良	有	
302	1	7.5ＹＲ３／３	暗褐	SiCL	良	有	
	2	7.5ＹＲ４／６	褐	SiL	良	な　し	
	3	7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	な　し	
303		10ＹＲ６／６	明黄褐	SiCL	良	やや有	
304	1	7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	やや有	炭化物微量に含む
	2	7.5ＹＲ４／６	褐	SiCL	やや良	やや有	焼土微量に含む
	3	7.5ＹＲ３／３	暗褐	SiCL	やや良	な　し	小礫微量に含む
	4	7.5ＹＲ４／６	褐	SiC	良	有	
	5	10ＹＲ５／６	明褐	SiC	良	有	
305	1	7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	良	有	炭化物微量に含む
	2	7.5ＹＲ３／３	暗褐	SiCL	やや良	有	焼土・炭化物微量に含む
	3	7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	良	有	
	4	7.5ＹＲ４／６	褐	SiC	良	有	
306	1	7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	良	な　し	
	2	7.5ＹＲ４／３	褐	SiCL	良	な　し	
	3	7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	な　し	
307		10ＹＲ３／１	黒褐色	SiCL	良	な　し	
308	1	7.5ＹＲ３／３	暗褐	LiC	不　良	な　し	

表39　土坑土層注記

遺構名	層	ＪＩＳ標準色票	土壌色	土性	しまり	粘性	備考
ＳＫ 308	2	7.5ＹＲ４／6	褐	SiCL	やや不良	やや有	
	3	7.5ＹＲ３／3	暗褐	LiC	良	な し	焼土ブロック炭混じる
	4	7.5ＹＲ３／4	暗褐	LiC	良	やや有	
	5	5ＹＲ４／4	にぶい赤褐	LiC	良	な し	焼土ブロック30%混じる
	6	7.5ＹＲ４／4	褐	LiC	良	やや有	
309		7.5ＹＲ４／3	褐	SiCL	良	やや有	
310		7.5ＹＲ４／4	褐	SiCL	良	やや有	炭化物微量に含む
312	1	10ＹＲ３／2	黒褐				炭化物少量
	2	7.5ＹＲ５／4	にぶい褐				混入物なし
313	1	7.5ＹＲ３／3	暗褐	L	良	な し	
	2	7.5ＹＲ４／4	褐	SiCL	良	やや有	ロームブロック含む
	3	7.5ＹＲ４／4	褐	SiCL	良	やや有	炭化物微量に含む
	4	7.5ＹＲ４／3	褐	SiC	良	有	
	5	7.5ＹＲ４／6	褐	SiC	良	有	
314	1	10ＹＲ２／3	黒褐	L	不 良	な し	
	2	7.5ＹＲ３／3	暗褐	SiCL	良	やや有	炭化物微量に含む
	3	7.5ＹＲ４／4	褐	SiC	良	有	
315	1	7.5ＹＲ３／3	暗褐	SiCL	良	やや有	焼土と炭化物微量に含む
	2	7.5ＹＲ４／4	褐	SiC	良	有	炭化物微量　焼土少量　底部に焼土有り焼けている
316		7.5ＹＲ４／4	褐	SiCL	良	やや有	小礫混じる
317		7.5ＹＲ４／4	褐	SiC	良	有	炭化物微量に含む
318	1	7.5ＹＲ４／4	褐	SiCL	不 良	やや有	根の攪乱有り
	2	7.5ＹＲ３／3	暗褐	SiCL	やや不良	やや有	炭化物微量に含む
	3	7.5ＹＲ４／4	褐	SiC	良	有	粗砂微量に含む
	4	7.5ＹＲ４／6	褐	SiC	良	有	
319	1	7.5ＹＲ３／2	黒褐	L	やや不良	な し	炭化物・小礫微量に含む
	2						地山
320	1	7.5ＹＲ３／4	暗褐	SiCL	良	やや有	
	2	7.5ＹＲ３／2	黒褐	L	やや不良	な し	炭化物・小礫微量に含む
	3						地山
321	1	10ＹＲ２／3	黒褐	SiCL	良	有	炭化物あり
	2	10ＹＲ４／4	褐	SiCL	良	やや有	黄色土ブロック混じる
	3	10ＹＲ４／6	褐	SiCL	良	やや有	炭化物あり
322	1	7.5ＹＲ４／4	褐	SiCL	良	有	炭化物微量
	2	7.5ＹＲ４／6	褐	SiCL	良	有	焼土ブロック含む　炭化物微量
323	1	7.5ＹＲ３／2	黒褐	SiL	やや不良	な し	焼土炭化物を微量に含む

表39　土坑土層注記

遺構名	層	ＪＩＳ標準色票	土 壌 色	土性	しまり	粘 性	備　　考
ＳＫ 323	2	7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	良	有	
	3	7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	良	やや有	粒子が細い
324	1	10ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	やや有	
	2	10ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	やや良	やや有	
	3	10ＹＲ５／８	黄褐	SiC	やや良	有	
	4	10ＹＲ５／８	黄褐	SiC	良	有	10ＹＲ３／４暗褐が40%混じる
325	1	10ＹＲ３／１	黒褐				
	2	10ＹＲ５／４	にぶい黄褐				
326	1	7.5ＹＲ３／２	黒褐	SiCL	良	な し	炭化物焼土含む
	2	7.5ＹＲ４／３	褐	SiCL	良	な し	
	3	7.5ＹＲ４／４	褐	LiC	やや良	やや有	
327		7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	やや不良	有	焼土炭化物微量に含む
329		10ＹＲ３／２	黒褐色		不 良	な し	
330		10ＹＲ３／３	暗褐	SiCL	やや良	やや有	7.5ＹＲ４／４混じり　炭化物微量に含む
331		7.5ＹＲ４／４	褐	LiC	良	やや有	焼土・炭混じる
332	1	10ＹＲ４／４	褐	SiC	良	やや有	
	2	10ＹＲ３／４	暗褐	SiC		やや有	
	3	10ＹＲ３／４	暗褐		良	やや有	炭・焼土粒少々混じる
	4	10ＹＲ３／４				やや有	３より焼土多い
	5	10ＹＲ４／４	褐	SiC			炭少々混じる
	6	10ＹＲ５／６	黄褐	SiC		やや有	
	7	攪乱					
333	1	7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	良	な し	炭化物微量
	2	7.5ＹＲ４／４	褐	LiC	良	やや有	
	3	7.5ＹＲ３／３	暗褐	LiC	良	な し	炭化物・焼土混じる
	4	7.5ＹＲ４／６	褐	LiC	やや良	有	
334	1	10ＹＲ４／３	にぶい黄褐	LiC	良	やや有	炭化物・礫やや混入
	2	10ＹＲ４／６	褐	LiC	やや不良	やや有	径２～３㎜ほどの礫やや混入
	3	10ＹＲ５／６	黄褐	SiC	やや不良	有	径３～10㎜ほどの礫黄色ブロックわずかに混入
	4	10ＹＲ３／４	暗褐	LiC	やや不良	やや有	径２～５㎜ほどの炭化物多量に混入
336	1	10ＹＲ４／２	灰黄褐	CL	良	やや有	径２～３㎜ほどの炭化物やや混入
	2	10ＹＲ４／３	にぶい黄褐	LiC	やや良	やや有	径２～３㎜ほどの炭化物・礫やや混入
	3	10ＹＲ４／４	褐	LiC	やや良	やや有	径２～３㎜ほどの礫わずかに混入
	4	10ＹＲ４／６	褐	LiC	やや良	やや有	径２～５㎜ほどの炭化物やや混入
	5	10ＹＲ３／３	暗褐	CL	良	やや有	
337		10ＹＲ３／４	暗褐	SiC	良	有	

表40　土坑土層注記

遺構名	層	ＪＩＳ標準色票	土 壌 色	土性	しまり	粘　性	備　　考
ＳＫ 338		10ＹＲ４／４	褐	SiC	良	有	礫多数
339		7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	やや有	焼土・炭化物微量に含む
340		7.5ＹＲ４／４	褐	LiC	やや良	やや有	炭化物微量に含む
341		7.5ＹＲ４／４	褐	LiC	やや良	やや有	炭化物微量に含む
342		10ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	やや良	やや有	
343	1	7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	良	やや有	小礫若干含む
	2	7.5ＹＲ４／６	褐	SiC	良	有	
	3	7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	やや有	
344		7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	やや良	やや有	
345		7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	良	やや有	小礫混じる
349		7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	やや良	やや有	
350		7.5ＹＲ３／３	暗褐	LiC	良	やや有	ロームブロック混じる
351	1	10ＹＲ５／３	にぶい黄褐				
	2	10ＹＲ６／４	にぶい黄褐	SiCL			
352		10ＹＲ３／３	暗褐	SiCL	やや不良	やや有	
353		7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	やや不良	な　し	炭化物微量
354		7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	良	やや有	
355		7.5ＹＲ３／３	暗褐	SiCL	良	な　し	
356		7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	良	な　し	
357		7.5ＹＲ３／４	暗褐	LiC	良	やや有	炭化物微量　焼礫
358		7.5ＹＲ３／３	暗褐	LiC	良	な　し	炭化物微量
359		7.5ＹＲ３／３	暗褐	LiC	やや良	な　し	炭化物微量
360		7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	良	やや有	炭化物微量
361		7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	良	やや有	
362		7.5ＹＲ４／４	褐	LiC	良	な　し	炭化物微量
363		7.5ＹＲ４／４	褐	LiC	良	な　し	
364		7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	やや有	炭化物少量　焼土微量
366		7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	良	やや有	炭化物微量
367		7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	やや有	焼土・炭化物少量　ロームブロック混入
368		10ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	良	やや有	焼土・炭化物微量に含む
369		7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	良	な　し	炭化物微量
370		7.5ＹＲ２／３	極暗褐	LiC	良	な　し	炭化物微量
371	1	7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	良	な　し	
	2	7.5ＹＲ４／６	褐	SiCL	良	な　し	
	3	7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	な　し	
372		7.5ＹＲ３／３	暗褐	SiCL	良	な　し	炭化物微量

表41　土坑土層注記

遺構名	層	ＪＩＳ標準色票	土壌色	土性	しまり	粘性	備考
ＳＫ 373	1	10ＹＲ４／３	にぶい黄褐	SiC	良	なし	炭化物多量に混じる
	2	10ＹＲ４／６	褐	SiC	良	なし	
	3	10ＹＲ４／３	にぶい黄褐	SiC	良	なし	炭化物少量混じる
374	1	10ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	良	なし	
	2	7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	なし	
375		7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiC	良	なし	炭化物微量に含む
376		7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiC	良	なし	炭化物微量に含む
377		7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	良	やや有	炭化物微量に含む　ロームブロック含む
		7.5ＹＲ３／２	黒褐				
378		10ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	やや良	やや有	小礫含む
379		7.5ＹＲ２／３	極暗褐	SiCL	良	なし	
383		7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	やや良	やや有	
384		7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	やや良	やや有	
385	1	7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	良	やや有	
	2	7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	やや有	焼土・炭化物微量
	3	10ＹＲ４／６	褐	SiC	良	有	炭化物微量
	4	5ＹＲ４／４	にぶい赤褐				焼土
386		7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiC	良	有	炭化物微量
387		7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	やや有	焼土微量
388		7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	やや有	根の攪乱一部入る
389		7.5ＹＲ４／６	褐	SiC	良	やや有	小礫若干含む
390		7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	良	やや有	炭化物微量
391	1	7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	やや不良	やや有	炭化物微量
	2	7.5ＹＲ４／６	褐	SiC	良	有	
392		7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	やや不良	やや有	炭微量に含む　根の攪乱有り
393	1	10ＹＲ３／３	暗褐	SiC	良	やや有	
	2	10ＹＲ４／６	褐	SiC	良	やや有	炭化物少々混じる
	3	10ＹＲ４／６	褐	SiC	良	やや有	
394		7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	やや良	有	
395		10ＹＲ２／３	黒褐	L	やや不良	なし	炭化物少量
396	1	7.5ＹＲ３／４	暗褐	CL	やや不良	なし	炭化物・焼土微量
	2	7.5ＹＲ４／３	褐	SiCL	良	やや有	
	3	5ＹＲ４／４	にぶい赤褐	SiC	良	やや有	焼土多量
	4	7.5ＹＲ４／６	褐	SiC	良	有	
397	1	7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	良	やや有	焼土少量含む
	2	7.5ＹＲ４／３	褐	SiCL	良	有	

表42　土坑土層注記

遺構名	層	ＪＩＳ標準色票	土壌色	土性	しまり	粘性	備考
ＳＫ 397	3	7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	良	有	
398		7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	やや有	
399		7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	良	有	
401		7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	やや不良	やや有	一部根の攪乱有り
402		7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	?	やや有	
404		7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	良	有	焼土微量に含む
405	1	7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	良	やや有	
	2	7.5ＹＲ４／３	褐	SiCL	良	やや有	
	3	7.5ＹＲ４／６	褐	SiC	良	有	
406		10ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	良	やや有	炭化物微量
407		7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	やや有	焼土微量
408		7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	やや不良	やや有	焼土混じる
409		7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	やや有	焼土微量
410	1	7.5ＹＲ４／４	褐	LiC	良	やや有	
	2	7.5ＹＲ４／６	褐	LiC	やや良	やや有	
	3	7.5ＹＲ３／３	暗褐	SiCL	やや良	やや有	
	4	7.5ＹＲ３／４	暗褐	LiC	やや良	やや有	
413	1	10ＹＲ６／３	にぶい赤褐				径５㎜位の小石粒含む
	2	10ＹＲ４／１	褐灰				炭化物・焼土粒わずか含む
	3	5ＹＲ５／６	明赤褐				焼土
414		7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	良	やや有	
415		7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	やや良	やや有	
416	1	5ＹＲ４／４	にぶい赤褐	SiC	良	やや有	焼土多量
	2	7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	やや有	
	3	10ＹＲ４／６	褐	SiCL	良	有	
417		10ＹＲ４／４	褐	SiC	良	有	
418		10ＹＲ４／４	褐	SiC	良	有	10ＹＲ３／４が混じる　炭化物少量
419	1	7.5ＹＲ５／２	灰褐		良	有	炭化物・焼土粒わずかに含む
	2	10ＹＲ７／４	にぶい黄橙				炭化物少量
	3	7.5ＹＲ５／２	にぶい褐				径１㎝以上の焼土魂多い
	4	10ＹＲ７／６	明褐				炭化物わずかに含む
419内Ｐ	1	7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	やや良	やや有	
	2	7.5ＹＲ４／６	褐	SiC	良	有	
421		7.5ＹＲ５／３	にぶい褐	SiC	良	やや有	焼土たくさん
422		7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	良	やや有	
423		7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	良	有	焼土微量含む

表43　土坑土層注記

遺構名	層	ＪＩＳ標準色票	土 壌 色	土性	しまり	粘 性	備　　考
ＳＫ 424		7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	良	有	焼土少量
425		7.5ＹＲ３／３	暗褐	SiC	良	有	焼土少量
428	1	7.5ＹＲ３／２	黒褐	SiC	良	有	
	2	7.5ＹＲ４／６	褐	SiCL	良	やや有	焼土少量含む
	3	7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	良	有	
	4	7.5ＹＲ５／６	明褐	SiCL	良	やや有	
429		7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	良	有	焼土少量　焼礫有り
430		7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	良	有	
432		7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiC	良	有	炭化物微量
433		7.5ＹＲ４／６	褐	SiCL	良	有	
434		7.5ＹＲ３／３	暗褐	LiC	やや良	有	炭化物微量
435	1	7.5ＹＲ４／３	褐	SiCL	良	やや有	
	2	7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	良	な　し	
	3	7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	やや有	
436		7.5ＹＲ３／４	暗褐	LiC	不　良	有	炭化物・焼土微量
437		7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	良	有	
438	1	7.5ＹＲ６／４	にぶい橙		な　し		炭化物少量
	2	10ＹＲ３／１	黒褐				炭化物・焼土粒含む
	3	5ＹＲ５／４	にぶい茶褐				焼土
439		7.5ＹＲ３／３	暗褐	SiCL	やや良	やや有	焼土混じる
440		7.5ＹＲ４／３	褐	SiC	不　良	有	炭化物微量
441		7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	やや不良	やや有	炭化物微量
442		7.5ＹＲ４／３	褐	SiCL	良	有	炭化物微量
443		7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	不　良	有	炭化物微量
444		7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	やや良	やや有	炭化物微量
445		7.5ＹＲ２／３	極暗褐	LiC	良	やや有	炭化物微量
446		7.5ＹＲ４／３	褐	LiC	やや不良	やや有	
447		7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	やや有	炭化物微量
448		7.5ＹＲ４／３	褐	SiCL	良	有	
449		7.5ＹＲ３／４	暗褐	LiC	良	やや有	炭化物微量　小礫小片
450		7.5ＹＲ３／４	暗褐	LiC	やや良	やや有	炭化物微量
451		7.5ＹＲ３／３	暗褐	LiC	良	やや有	
452		7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	やや有	
453		7.5ＹＲ４／４	褐	LiC	やや不良	有	焼土混じる
454		7.5ＹＲ３／４	暗褐	LiC	やや不良	有	下部に焼土多い
455		7.5ＹＲ３／２	黒褐	SiC	やや良	有	炭化物微量　焼礫小片

表44　土坑土層注記

遺構名	層	ＪＩＳ標準色票	土 壌 色	土性	しまり	粘　性	備　　考
ＳＫ 457		7.5ＹＲ３／２	黒褐	SiC	良	有	礫
458		7.5ＹＲ６／４	にぶい橙	SiC	良	有	
459		5ＹＲ４／４	にぶい赤褐	SiC	良	有	小礫
460		7.5ＹＲ４／３	褐	SiCL	不　良	やや有	
461		5ＹＲ７／６	橙	SiC	やや良	やや有	焼土
462		7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiC	やや良	やや有	
463		7.5ＹＲ４／６	褐	SiC	やや良	やや有	焼土ブロック中量含む
464		7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	良	やや有	
465		7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	やや良	やや有	焼土混じる
466		7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	良	有	焼土少量含む
467		7.5ＹＲ４／３	褐	SiCL	やや良	やや有	焼土微量に含む
468		7.5ＹＲ４／３	褐	LiC	良	やや有	焼土混じる
469		10ＹＲ６／６	明黄褐	SiC	良	やや有	焼土少し
470		7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	良	有	
471		7.5ＹＲ４／３	褐	LiC	良	やや有	炭化物微量
472		7.5ＹＲ４／３	褐	LiC	不　良	やや有	
473		7.5ＹＲ４／３	褐	SiCL	やや良	やや有	
474		7.5ＹＲ４／１	褐灰	SiC	な　し	やや有	
475		10ＹＲ５／４	にぶい黄褐	SiC	やや良	やや有	
476		10ＹＲ５／４	にぶい黄褐	SiC	な　し	やや有	こぶし大の石少量入る
477		5ＹＲ６／６	橙	SiC	良	やや有	焼土
479		7.5ＹＲ３／２	黒褐	LiC	不　良	な　し	炭化物微量
481		7.5ＹＲ２／３	極暗褐	SiCL	やや良	やや有	他の遺構と重複
482	1	7.5ＹＲ３／３	暗褐	CL	な　し	な　し	径５㎜位の礫少量混じる
	2	7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	やや有	
483		7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	やや不良	やや有	
484		7.5ＹＲ３／４	暗	SiCL	良	やや有	炭化物微量に含む
485		7.5ＹＲ４／６	褐	SiCL	良	な　し	攪乱に切られる　小礫少量含む
486		7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	やや良	やや有	
487		7.5ＹＲ４／４	褐	LiC	やや良	やや有	
488		7.5ＹＲ２／３	極暗褐	SiCL	良	やや有	打越式
489	1	7.5ＹＲ３／３		SiC	良	な　し	径５㎜ほどの礫混じる
	2	7.5ＹＲ４／３		SiCL	良	な　し	礫混じる（１層より少い）
490		7.5ＹＲ２／２	黒褐	LiC	良	有	炭化物多い
491		7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	良	有	炭化物微量
492		7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	やや有	焼土

表45　土坑土層注記

遺構名	層	ＪＩＳ標準色票	土壌色	土性	しまり	粘性	備考
ＳＫ 493		7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	やや有	炭化物微量
494	1	7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	やや有	
	2	7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	やや良	やや有	
	3	7.5ＹＲ４／６	褐	SiC	良	有	
495		7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	やや良	やや有	炭化物微量
496	1	7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	やや有	
	2	7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	やや不良	やや有	炭化物微量
	3	7.5ＹＲ４／６	褐	SiC	良	有	
497	1	7.5ＹＲ３／２	黒褐	SiCL	良	やや有	
	2	7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	不良	やや有	
	3	7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	やや有	
	4	7.5ＹＲ４／６	褐	SiC	良	有	
498	1	7.5ＹＲ３／３	暗褐	SiCL	不良	なし	白色岩片等含む
	2	7.5ＹＲ２／２	黒褐	LiC	良	やや有	
	3	7.5ＹＲ３／３	暗褐	LiC	やや不良	やや有	
	4	7.5ＹＲ４／５	褐	SiCL	良	やや有	
	5	7.5ＹＲ２／１	黒	SiC	やや良	やや有	
	6	7.5ＹＲ４／３	褐	SiC	やや良	やや有	
	7	7.5ＹＲ３／２	黒褐	SiC	やや良	有	
499		5ＹＲ３／４	暗赤褐	SiCL	やや良	やや有	焼土・炭化物微量
500		5ＹＲ３／４	暗赤褐	SiC	良	やや有	焼土少量
501		7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	やや有	攪乱と重複
502		7.5ＹＲ３／３	暗褐	SiCL	やや不良	やや有	一部攪乱による混入
505		7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	やや良	やや有	
506	1	10ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	良	やや有	
	2	10ＹＲ３／３	暗褐	SiL	やや不良	やや有	
	3	10ＹＲ４／６	褐	SiC	良	やや有	
507		7.5ＹＲ３／２	黒褐	LiC	不良	やや有	半分のみ検出　炭化物微量
508	1	7.5ＹＲ３／３	暗褐	SiCL	不良	なし	
	2	7.5ＹＲ２／３	極暗褐	SiCL	やや良	やや有	
	3	7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	良	やや有	
509		7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	不良	有	炭化物微量
510	1	7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	良	やや有	炭化物微量
	2	7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	良	やや有	
	3	7.5ＹＲ３／２	黒褐	HC	良	有	
511		7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	やや有	

表46　土坑土層注記

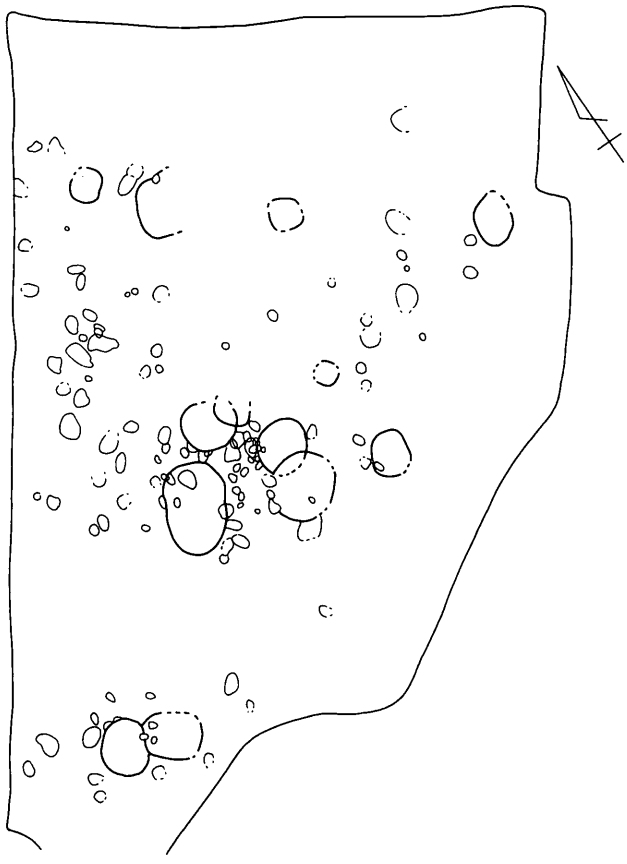
遺構名	層	ＪＩＳ標準色票	土 壌 色	土性	しまり	粘　性	備　　考
ＳＫ 512		7.5ＹＲ４／４	褐	LiC	良	やや有	
513		7.5ＹＲ４／４	褐	LiC	良	やや有	
514		10ＹＲ４／６	褐	LiC	良	やや有	
515		7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	良	やや有	
517		7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	不　良	やや有	
518		7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	やや有	
519		7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	やや有	
521		7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	良	やや有	炭化物微量
522		7.5ＹＲ４／４	褐	LiC	やや不良	やや有	
523		7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	良	やや有	
524		7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	やや不良	やや有	大きな礫
525		10ＹＲ３／３	暗褐	SiCL	やや不良	やや有	
526		7.5ＹＲ５／４	にぶい褐	CL	な　し	な　し	
527		2.5ＹＲ６／８	橙	SiC	な　し	な　し	焼土少量
528		5ＹＲ４／２	灰褐	SiC	な　し	な　し	
529		7.5ＹＲ４／４	褐	LiC	良	やや有	
530		7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiC	やや良	やや有	
531		7.5ＹＲ４／４	褐	LiC	良	やや有	
532		7.5ＹＲ４／１	褐灰	SiC	良	やや有	
533		7.5ＹＲ４／４	褐	SiC	良	やや有	

表47　土坑土層注記

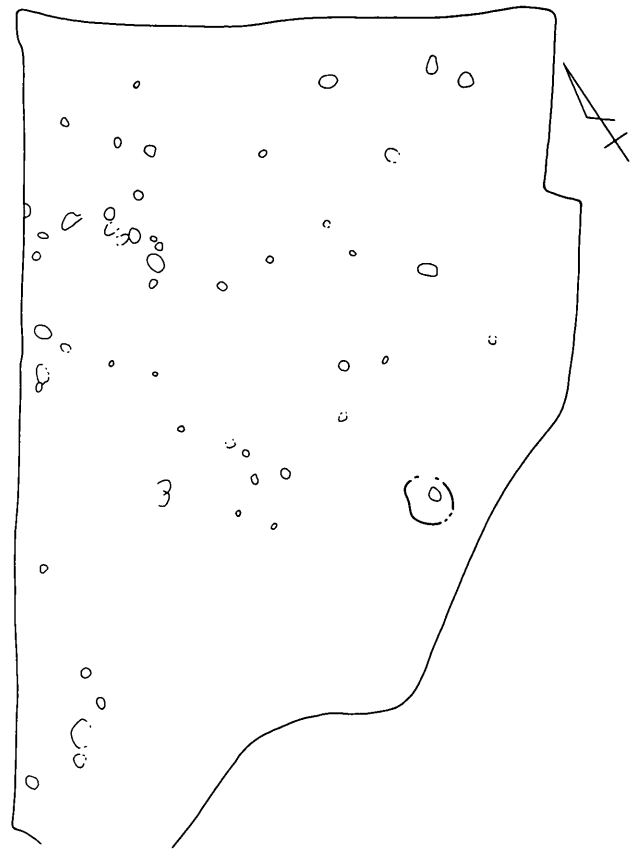
遺構名	層	ＪＩＳ標準色票	土 壌 色	土性	しまり	粘　性	備　　考
ＳＤ　01	1	7.5ＹＲ４／４	褐	SiCL	良	やや有	小礫少量　炭化物微量　混じり
02	1	7.5ＹＲ３／３	暗褐	CL	良	やや有	
03	1	7.5ＹＲ３／４	暗褐	SiCL	良	やや有	炭化物少量

表48　溝址土層注記

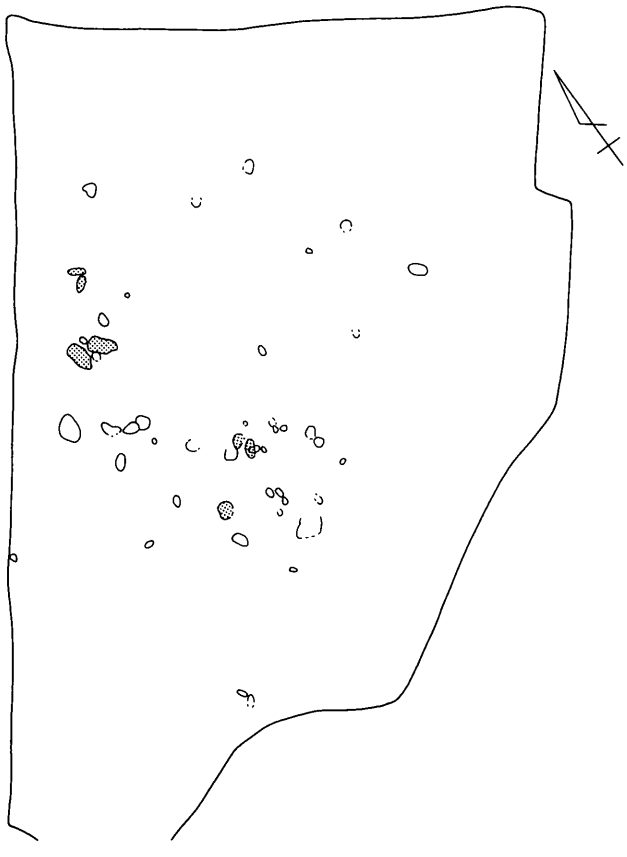
早期前半遺構分布状況



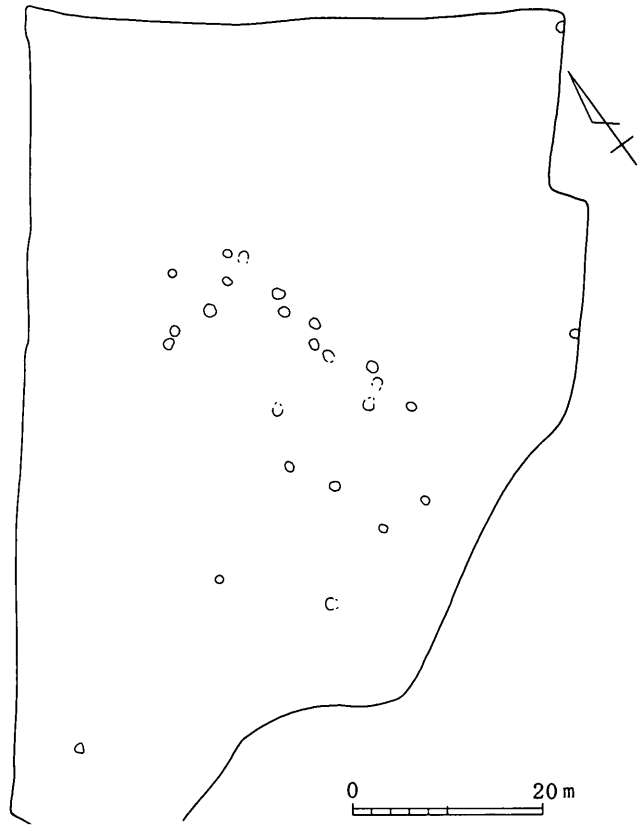
早期末葉遺構分布状況



炉穴および底面に焼土が検出された土坑



貯蔵穴



挿図73　時期別・遺構別分布状況

第Ⅳ章　ま　と　め

以上のように、美女遺跡の今次発掘調査では、縄文時代草創期から弥生時代後期にかけての遺構が調査された。各時期毎に総括し、まとめとしたい。なお、遺構の時間的な枠組みについては、遺物編を参照されたい。

1．縄文時代草創期

土坑１基（ＳＫ525）と若干の遺物が確認されているのみで、具体的な生活の様子を描くことは困難である。ＳＫ525出土の爪形文と絡条体圧痕文が併用される土器は、類例が木曽郡上松町お宮の森裏遺跡にあり（上松町教委他　1995)、爪形文土器と共伴すると考えられている。開地遺跡での遺構の調査例はこれまでのところ少ない。お宮の森裏遺跡では、遺物集中地点１から爪形文土器・絡条体圧痕文土器が出土しており、掘り込みは確認できなかったものの、周辺に分布する土坑と同様のものがあった可能性が指摘されている。また、上水内郡信濃町仲町遺跡（長野県史刊行会　1982）では１・２号土坑が検出され、１号土坑は直径130cmのほぼ円形で深さ70cmを測る。２号土坑は全体の調査はなされていないが、住居址とも考えられている。本遺跡の場合、ＳＫ525以外からも爪形文土器が出土していることから、小規模ながらも生活の舞台とされていたと考えられる。

草創期の後半の表裏縄文土器の時期については、お宮の森裏遺跡や上伊那郡宮田村向山遺跡で集落が調査されている。飯田下伊那でも、下伊那郡松川町水上遺跡で土坑2 基の調査例があり（長野県教委　1973ａ)、今次調査地点周辺にもこうした場があった可能性も指摘できよう。

2．縄文時代早期前半

本遺跡における人間活動の主要な時期のひとつである。

(1) 竪穴住居址

美女遺跡で調査された11軒の立野式期の住居址のうち、２軒の重複と考えられるＳＢ20と約１／２の調査にとどまったＳＢ08・ＳＢ24以外の住居址は、不整楕円形を呈し、小型のＳＢ11・ＳＢ14と、これ以外の底面積15～30㎡でやや大きめのものがある。また、内部に地床炉をもつものが多い。これまで押型文期の竪穴住居址は小型円形で、炉址は住居内部に存在しないとされてきたが、草創期のお宮の森裏遺跡や早期樋沢式期の向陽台遺跡の調査例から、従前の草創期から早期にかけての住居観が大きく変化している。お宮の森裏遺跡では、表裏縄文期の住居址９軒が調査されており、径４ｍ・底面積12～25㎡を測るおおむね円形を呈する竪穴住居址で、壁沿いに柱穴が巡らされている。この中で、第14号住居址１軒は炉址と考えられる焼土が検出されており、石皿をもつことと併せてやや新しい要素と考えられている。向陽台遺跡では４軒の住居址があり、10号住居址を除く３軒は中央部と壁沿いに径20cm程度・深さ10～20cmの柱穴が巡らされる。特に目を引くのは、直径８ｍを超える３号住居址で、この時期としては頭抜けて大型の住居である。いずれも炉址はないとされるが、３号住居址北西部床面上には焼成を受けて赤色化した部分があったことが報告されている（塩尻市教委　1988)。

立野式期の他の遺跡についてみると、飯田市宮崎Ａ遺跡では石囲い炉をもつ４号住居址が早期のものと報告されているが（長野県教委　1971)、他時期のようである。その他、飯田市北田遺跡30号住居址

時　期	遺跡名	遺構名	規　模(m)	底面積(㎡)	形　態	炉　址	柱　穴
草創期	お宮の森裏	第9号住居址	4.8×4.2	12.7	不整円形	無	壁沿い
		第10号住居址	4.8×4.8	15.1	不整円形	無	壁沿い
		第11号住居址	4.8×4.3	14.1	不整円形	無	壁沿い
		第13号住居址	6.0×5.0	20.6	不整楕円形	無	壁沿い
		第14号住居址	4.4×3.2	15.1	不整円形	地床炉	壁沿い
		第19号住居址	5.9×5.8	23.5	不整円形	無	壁沿い
		第25号住居址	5.8×5.8	24.3	不整円形	無	壁沿い
	向山遺跡	3号住居址	3.6×3.4	12.2	隅丸方形	無	
		5号住居址	4.0×2.2	10.0	隅丸長方形	無	壁下
早期 立野式	美女遺跡	SB01	5.6×4.1	14.3	不整楕円形	無	不明
		SB11	3.6×3.1	7.7	不整楕円形	地床炉	壁下・内部
		SB14	4.2×3.8	9.0	不整楕円形	地床炉	壁下・炉址脇
		SB18	6.0×5.0	(22.5)	不整楕円形	地床炉	壁下・内部
		SB19	5.7×5.2	20.7	不整楕円形	地床炉	壁沿い
		SB21	7.0×7.0	32.1	不整楕円形	地床炉	内部
		SB25	6.0×5.0	19.7	不整楕円形	無	内部
		SB26	6.0×4.9	21.8	不整楕円形	無	壁下・内部
	北田遺跡	30号住居址	4.6×4.0	24.1	不整楕円形	地床炉？	壁下・内部
	門前遺跡	16号住居址	2.7×2.2		不整楕円形？		
	児塚遺跡	1号住居址	3.2×3.0	6.8	不整円形	地床炉	内部
	三つ木遺跡	7号住居址	2.5×2.4	2.6	不整長楕円形	無	壁下
	天狗山遺跡	33号住居址	3.3×2.5	6.7	不整楕円形	無	
	八窪遺跡	3号住居址	7.0×7.0	33.2	不整円形	無	
	鳥林遺跡	SB01	2.6×2.6	5.3	不整隅丸方形	無	
樋沢式	向陽台遺跡	1号住居址	7.3×7.1	30.8	不整円形	無	壁沿い・内部
		2号住居址	6.0×5.1	23.2	隅丸長方形	無	壁沿い・内部
		3号住居址	8.8×8.6	54.8	円形	焼土有	壁沿い・内部
		10号住居址	4.0×3.7	(8.7)	楕円形	無	内部
	樋沢遺跡	1号住居址	2.6？×2.2	(3.7)	不整楕円形		内部
細久保式	石割遺跡	3号住居址	4.0×3.6	9.1	楕円形	地床炉	内部
	新水B遺跡	第3号住居址	3.4？×3.2	(13.7)	不整形		内部
		第5号住居址	4.2？×3.2	(9.5)	不整楕円形？		内部
参　考	若宮遺跡	第17号住居址	3.5×3.0	10.7	隅丸長方形	無	
	大鼻遺跡	SH8	4.2×4.2	11.7	不整円形	SF15？	壁沿いに垂木穴
	鴻ノ木遺跡	竪穴住居1	4.0×4.0	11.2	円形	地床炉？	

表49　各遺跡検出竪穴住居址属性表

（飯田市教委　1988）・駒ヶ根市門前遺跡16号住居址（駒ヶ根市教委　1995）・伊那市児塚遺跡１号住居址（伊那市教委　1978）・同三つ木遺跡７・８号住居址（同　1967他）・茅野市天狗山遺跡32・33号住居址（茅野市教委　1993）・八窪遺跡２・３号住居址（長野県埋蔵文化財センター　1988）・鳥林遺跡ＳＢ01（同　1994）等の調査例がある。このうち三つ木遺跡・天狗山遺跡・鳥林遺跡の例などは小規模で、おおむね住居址内に炉址をもたない、いわば竪穴状の遺構である。これに対して美女遺跡で主体となる中型の住居址は、北田遺跡・立野遺跡・八窪遺跡等にあり、調査例が増加しつつある。北田遺跡では、30号住居址内側で確認された土坑11内部から焼けた石や炭が出土し、埋土の状況から住居址に直接関連すると指摘されている。また、児塚遺跡１号住居址は貼床上に地床炉が確認されている。以上のように立野式期の住居址には、小型で炉址を伴なわないものと、規模が大きく多く地床炉を伴なうものがある。住居址の捉え方の差もあり、例外が多いのも事実であるが、本遺跡・お宮の森裏遺跡・向陽台遺跡の住居址群を見る限り、住居の定型化が指摘できよう。

(2) 炉穴および底面に焼土が検出された土坑

炉穴は、底面や側面が焼けた長楕円形ないし不整形の土坑をさし、片側に寄った炉体部が一段低く、足場を持つ。一般に、近畿・東海西部地方では「焼土坑」、九州地方で「連結土坑」、他地方では「炉穴」と呼称されているものにあたる。本遺跡では、調査時に２基、調査後の検討により数が増えて８基の炉穴が確認された。炉穴は、これまでのところ、縄文時代草創期～早期前葉の南九州、早期前葉の近畿・東海地方西部、同時期の東海地方東部、早期後～末葉を中心とする南関東で確認されており、西日本から東日本へ波及したと考えられている。

南九州では、鹿児島県掃除山遺跡（草創期）・栫ノ原遺跡（同）・加栗山遺跡・倉園Ｂ遺跡、宮崎県札ノ元遺跡・椎屋形２遺跡例があり、その分布は貝殻文系円筒土器分布圏とほぼ一致するという（新東1993)。近畿から東海地方西部では、三重県を中心に大阪府・奈良県・愛知県で調査例が報告されている。三重県では大鼻遺跡・坂倉遺跡・鴻ノ木遺跡・西出遺跡・一色山遺跡例があり（三重県埋蔵文化財センター　1993)、早期初頭の大鼻式から大川ａ式（山田　1988）が多く、西出遺跡（堀田　1991）は大川ｂ式まで残る。これより新しい時期では炉穴はなく、集石になるとされる（三重県埋蔵文化財センター　1994ａ)。大鼻遺跡や鴻ノ木遺跡では「煙道付炉穴」とよばれる煙出しをもつ炉穴、一色山遺跡では小規模な焼土をもつ炉穴が調査されている。奈良県大川遺跡では、２基の円形小型の「焼土壙」の報告があるが（山添村教委　1989)、形態が他の炉穴と異なっており、後述の静岡県若宮遺跡のＡ類炉穴跡と類似する。大阪府神並遺跡では、神宮寺式期の３基が検出されており、他県の遺跡より時期が下る（東大阪市教委　1987)。愛知県では、馬場遺跡・萩平Ｄ遺跡例があり、馬場遺跡は大川ｂ式期に比定される。東海地方東部では、静岡県若宮遺跡・寺林南遺跡・菖蒲ヶ池Ａ遺跡・清水柳北遺跡例等がある。若宮遺跡では炉穴をＡ～Ｃ類に分類しており、Ｃ類炉穴跡は「長円形、および不整形、『達磨』状を呈して、足場を有する」（富士宮市教委　1983）ものである。Ｃ類炉穴跡は若宮Ⅱ期、Ａ・Ｂ類炉穴跡はこれより後出の若宮Ⅲ期とされ、Ｃ類炉穴跡は大川新式（矢野　1993）よりも溯ると考えられる。南関東では、早期前半の撚糸文土器群の時期に登場し、早期後半の遺跡では一般的な遺構である。東京都多摩ニュータウン№200・№237・№962遺跡、同西之台遺跡Ｂ地点、同多聞寺前遺跡、神奈川県藤の台遺跡、同上浜田遺跡、同塩見台遺跡、同東間部多遺跡例等がある。長野県内では岡谷市下り林遺跡１

号焼土坑があるが、遺物出土はなく、詳細時期不明である。遺構外から立野式・樋沢式・細久保式の他、早期後半以降の遺物出土がある（長野県埋蔵文化財センター　1987)。こうした事例をみる限り、南九州を除いては、登場する時期にはそう大きな時間差は見いだせない。

美女遺跡の炉穴８例のうち、形態の判明するＳＫ412・ＳＫ411－426－427は足場をもち、特に後者は「煙道付炉穴」と似通っている。ＳＢ21に重複する焼土を除いては、竪穴住居址と重複するものはない。また、炉穴がⅢ層上面で検出されているのに対して、住居址はⅡ層上面で検出されているものの掘り込み面はⅢ層上面である可能性が高い。(1)でみたとおり、ＳＢ21が本遺跡の押型文期の住居址の中では古い段階のものであり、ＳＫ411－426－427出土の土器が他の住居址の遺物とほぼ同時期であることから、炉穴は同時期の遺構と考えて差支えないだろう。

炉穴の占地場所は、近畿から東海地方西部では、各遺跡とも竪穴住居址と重複・近接しており、住居址の埋没途中の凹地に設けられ、低い部分に灰を掻き出したのではと考えられている（三重県埋蔵文化財センター　1994)。若宮遺跡の場合も立地は、緩やかな傾斜地および住居址の重複する部分で、概ね傾斜の下方側に足場をもつ。報告者は、「Ｃ類炉穴跡が構造上、燃焼、および作業効率を求める結果、地形条件、気象条件等の必然的制約を受けざるを得なくなったためであろう。」としている。南関東では、斜面部に構築されるものが多い。東京都多摩ニュータウン№200遺跡の場合、南斜面に多く占地しており、中部地方のように竪穴住居址と重複ないし近接するものは少ない。傾斜方向に炉穴の長軸が沿うものが多く、傾斜の上方側に炉体部が設けられている（東京都埋蔵文化財センター　1996)。本遺跡の場合、住居址に重複ないし近接して構築されており、近畿から東海地方の占地状況と同じといえる。

本遺跡で確認された底面に焼土が検出された土坑も、炉穴と同様、立野式土器の分布圏では調査例はないようである。時期の判るものはほぼ立野式期のもので、ＳＫ223がＳＫ220－225－226－228・ＳＫ221－235－240－247－248と隣接する等、炉穴と同時期と考えられる。形態的には、大きさはばらばらであるものの、おおむね不整な円形ないし楕円形のものが多い。若宮遺跡の分類でいえば、Ａ類炉穴跡（『円形、および略円形を呈する炉穴跡』）・Ｂ類炉穴跡（楕円形を呈する炉穴跡(1)』、『長円形を呈する炉穴跡(2)』）と類似する。

若宮遺跡がＣ類炉穴跡とＡ・Ｂ類炉穴跡の間に時間差があるのに対して、本遺跡では底面に焼土の検出された土坑と８基の炉穴との時間差はないことから、本遺跡の炉穴は若宮遺跡等よりやや後出的といえるかもしれない。一方、底面に焼土の検出された土坑についてみると、若宮遺跡では、Ａ・Ｂ類炉穴跡が平坦面への占地指向が強く、Ｃ類炉穴跡の占地状況とは差があるが、本遺跡の場合炉穴と底面に焼土の検出された土坑との占地の差はない。両者の間に時間差および占地状況の差がないことが本遺跡の特徴である。

炉穴の用途については、肉や魚を燻製にした施設等の見解がある（例えば、岡村　1997)。本遺跡の場合、ＳＫ411－426－427からほぼ完形の土器が１個体出土しており、あるいは土器を用いて煮沸を行なった可能性もあるかもしれない。

(3) 集石

本遺跡で調査された集石はいわゆる焼礫集積遺構である。集石は、旧石器時代のものとして諏訪市茶臼山遺跡（長野県史刊行会　1983）のものが知られているが、縄文時代早期前半以降のものが多い。も

とより遺物がほとんど伴なわないのが通例であるので、詳細時期は不明なものが多いが、本遺跡の早期前半ではB・C群が多いことを前述した。C群は検出面から底面まで浅いため上部の状態はよくわからないが、ＳＩ23はD群の基底部分にあたる可能性もある。一般的には集石が調理のための施設とされることから、構築時の形態を示すものはなく、使用直後の様態をとどめるもの、使用後の廃棄の状態を示すもの、外的営力の結果を示すもの等々であると考えられる。このうちD群は、使用直後の様態を示すものに該当し、構築時の形態を復元的に把握できるものである。また、B群の一部にもこれに準ずるものがある。谷口康浩氏は早期から中期にかけての焼礫集積遺構の類型化を行ない、下部に礫が敷かれるものを充填型と被覆型とに峻別している（谷口　1986)。本遺跡のD群の例は充填型に該当すると考えられる。

本遺跡では、D群はＳＩ22を除いて早期末葉以降と考えられるが、こうした形態の集石は他の押型文期の遺跡にも類例がある。飯田市黒田大明神原遺跡（飯田市教委　1997）では、ＳＩ03があり、下部が遺存していた。周辺より樋沢式土器が出土している。この他、伊那市三つ木遺跡では、上部に集石を伴なう第９号石組炉・第11号石組炉等３基の遺構が、飯島町赤坂遺跡（遮那　1973）第１～３号集石炉がそれぞれ報告されている。また、天狗山遺跡第４号集石、浜弓場遺跡第２号焼石群（伊那市教委　1973)、駒ヶ根市養命酒駒ヶ根工場用地内遺跡焼石炉（駒ヶ根市教委　1974）も同様であり、前二者が立野式期、後二者が細久保式期のものと考えられる。B群のうち構築時の形態が把握できるものとして、天狗山遺跡・下伊那郡高森町出原西部遺跡（長野県教委　1972）・飯田市上郷姫宮遺跡（下伊那誌編纂會　1991）等がある。

県外では、静岡県沼津市中見代第Ⅱ遺跡２号集石土壙（沼津市教委　1988)、同清水柳北遺跡第１・７号集石土坑（同　1989)、同大谷津遺跡１・２号集礫土坑（同　1994）等、静岡県東部にD群の類例があるが、詳細時期は不明である。ただ、若宮遺跡には、底面に大形偏平角礫が安置される第１・７・11号集石土坑跡があり、A類集石土坑跡として括られている。このA類集石土坑跡は、A・B類炉穴跡と同時期に概括されていることから、立野式期以降に位置づけられる長野県南部地域とほぼ同時期の遺構と考えられる。近畿地方では、土坑の底部に人頭大の礫を配したものとして、神並遺跡の集石炉がある。関東地方では、群馬県勢多郡北橘村城山遺跡や、同箱田遺跡群上原遺跡（未報告）の集石例がある。前者は撚糸文土器、後者は井草式～田戸下層式の時期で、田戸下層式が主体とされる。南九州地方では、同種のものか十分検討していないが、草創期に船形配石炉と呼ばれる遺構があり、鹿児島県東黒土田遺跡・掃除山遺跡・鷹爪野遺跡・栫ノ原遺跡等に例がある。側面が扁平な礫で囲われており、礫はよく焼けている。列記した諸遺構は、群馬県の例を除いては炉穴の時間的・空間的な広がりと共通していることから、形態や機能検討すべき問題は多いが、それぞれが何らかの関係を有すると考えられる。

集石は、若宮遺跡の第11号集石土坑跡のように底部の礫にタールが付着する例があることから、一般に蒸焼きや焼石を用いた調理のための施設と考えられている。調理方法については、集石の形態や礫の焼け具合、包含される炭化物の状況等を入念に検討することから把握することが可能であろう。D群のように下部に大型の扁平礫が敷き詰められるものや、養命酒駒ヶ根工場用地内遺跡のような地山の礫が被熱している場合は、予め下部の礫を熱することが必要である。と同時に、上部を充填ないし被覆する礫も、その場所ないし周辺で加熱していたことが考えられる。後者の加熱については別の場所で行なわれたことが多いと考えられているが（谷口　前掲書)、集石の周囲に一体的に存在したと考えられるこ

うした加熱のための施設の痕跡は、これまでほとんど把握されていない。直接的にこれを示すものは本遺跡の場合もないが、B～D群の集石の周囲に、焼土が底面に検出された土坑の分布がみられる。若宮遺跡でも、同時期とされる集石土坑跡とA・B類炉穴跡とが、おおむね近接して分布している。谷口はC類炉穴跡を含めて充填・被覆礫の加熱施設と想定しているが、前述のとおり、報告者はA・B類炉穴跡とC類炉穴跡には時間差があるとしている。本遺跡でも炉穴と集石の分布は近接するが、SK411－426－427の土器出土は、礫加熱施設としての炉穴という見解には否定的である。現状では、予め礫を加熱する施設として、焼土が底面に検出された土坑、そして、こうした礫を用いて食物を加熱する施設として集石があったと考えておきたい。

(4) 貯蔵穴

長野県南部では、これまで駒ヶ根市舟山遺跡（駒ヶ根市教委　1972）の早期末葉の貯蔵穴が最も古いとされてきたが、本遺跡では早期前半に溯ると考えられるものがある。全国的にみると、静岡県広野北遺跡・同寺谷遺跡・新潟県荒屋遺跡等の例など、貯蔵穴は旧石器時代まで溯ることがわかってきている。なかでも広野北遺跡では18基の貯蔵穴が調査されており、相当計画的に食料が備蓄された様子が窺える。縄文時代でも、草創期の鹿児島県黒土田遺跡では、直径40cm・深さ25cmの小土坑内に堅果類の炭化物がいっぱいに詰まった状態で見つかっているし、新潟県卯ノ木南遺跡でも群集する袋状土坑が調査されている。こうした例から考えて本遺跡の早期前半の時期に貯蔵穴があっても差支えなかろう。

貯蔵の方法として、貯蔵穴での短期的な生貯蔵と、屋内での乾燥貯蔵が指摘されている（渡辺　1975)。乾燥貯蔵の痕跡は本遺跡では見つかっていないが、お宮の森裏遺跡第25号住居址の床面からクリ（約90個体）・コナラ属（約18個体）が出土しており、乾燥貯蔵も草創期に溯る可能性が高い。こうしたことから「氷期終末期以後の温暖化にともなう温帯森林の中緯度地方への大規模な北上は『蓄える戦略』を促進した」（西田　1985）とされるように、この時期には貯蔵やアク抜き等植物質資源の獲得・利用方法も相当進展していたと考えられる。

遺物編で述べたように、本遺跡の立野式期の住居址は、SB24→SB18、SB25→SB26の新旧関係と、各住居址の文様の比率を基礎として、おおむね3期の変遷が考えられる。すなわち、I期－SB01・SB21（・SB24)、II期－SB14・SB18・SB19・SB20・SB25、III期－SB08・SB26である。このうち、SB20は2軒の住居址が重複する可能性が高いことから、II期も細分される可能性もある。一方、遺構の分布をみると4つの大きなまとまりがあり、1群－SB01、2群－SB08・SB11・SB14、3群－SB18・SB19・SB20・SB21・SB24、4群－SB25・SB26である。このことから、同時存在の住居は2～3軒程度であったと考えられる。こうした住居施設と、炉穴・集石・貯蔵穴・土坑といった諸遺構で集落が構成されている。なお、土坑の中には早期終末～前期初頭のSK302のような墓壙も含まれる可能性もあろう。

本遺跡のような集落の調査例は立野式の分布圏内では、現在のところ断片的な調査例ばかりで、他には例がない。しかし、他地域では、若宮遺跡・大鼻遺跡・鴻ノ木遺跡といった押型文期の遺跡で、集落の姿が把握されている。また、南九州では草創期の段階で、住居址・船形配石炉・炉穴・集石・貯蔵穴が集落を構成していることが明らかにされている。個別の遺構の形態や、集落の構成要素の類似性を挙

げたのみで十分な検討もないが、南九州・近畿・東海そして関東といった太平洋沿岸との密接な関係が示唆される。そして南九州から東海への時間的傾斜が認められることから、西から東への生活様式や文物の伝播があったと言い得るかもしれない。

3．早期後葉

断片的に遺物が調査されており、時期不明の土坑のうちいくつかが該期に属すると考えられる。遺物は茅山下層式を中心とする時期のもので、隣接する半の木遺跡においても、こうした土坑を主体とした集落の在り方が看取できる。住居址は黒田大明神原遺跡ＳＢ06・飯田市中島平遺跡20号住居址（同1977）がある。後者は茅山下層式期のものとされるが、形態から他時期のものと考えられる。黒田大明神原遺跡では、住居址の他土坑・集石が調査されており、散漫な分布を示している。県内でみても、塩尻市堂の前遺跡（塩尻市教委　1985）で５軒の住居址が調査されているが、同時併存の住居は少なく、集落の規模は小さい。本遺跡では住居址は見つかっていないが、住居址・集石・貯蔵穴・土坑等の施設で構成される小規模な集落で、早期前半の様相を受け継いだ姿が考えられる。

早期後葉の土器についても、本遺跡同様、飯田下伊那地区内では、断片的な資料が多い。主なものとして、飯田市中村中平遺跡（飯田市教委　1994）で野島式土器、阿智村杉ノ木平遺跡Ｂ地区（長野県教委　1974）・高森町広庭遺跡（高森町教委　1980）で鵜ヶ島台式土器、半の木遺跡で茅山下層式土器、飯田市恒川遺跡群新屋敷遺跡・高森町瑠璃寺前遺跡青木地区（長野県教委　1972）・清内路村入古屋敷遺跡（下伊那誌編纂会　1991）で粕畑式土器が出土している。半の木遺跡の土坑内から出土した茅山下層式土器は東海地方の影響を受けており、これ以降東海地方との関係が密接になると考えられる。

4．早期末葉～前期初頭

早期前半に次いで遺構・遺物の多い時期であり、住居址ＳＢ23と、集石・貯蔵穴・土坑からなる。本遺跡のほぼ全面に遺構が散漫に分布する様子が看取できる（挿図73)。この中では塩屋式の量が多いものの、この時期の各型式の遺物が多いことから、同時存在した遺構は少ないと考えられる。とはいえ、遺物の量からみても安定した集落の姿があったことは疑いなかろう。飯田下伊那地区でも、喬木村伊久間原遺跡・豊丘村田村原遺跡・飯田市田井座遺跡といった住居址の調査された集落が増え、集落の質量ともに前時期より発展したと考えることができよう。県内では、この時期の集落は飯田下伊那地方から諏訪地方にかけて濃密に分布しており（宮下　1989)、東海系文化の流入がそうした卓越性の背景であることが指摘されている。具体的には、飯島町カゴ田遺跡・宮田村中越遺跡・高遠町宮の原遺跡・岡谷市梨久保遺跡・茅野市高風呂遺跡等の集落があげられる。この時期には住居址の構造が安定的になり、本遺跡よりも継続期間の短いカゴ田遺跡・宮の原遺跡では、住居址の周囲に多数の土坑が掘り込まれる等、盛んな活動の様子が窺われる。また、高風呂遺跡では中期まで継続する集落が形作られており、注目される。

5．前期末葉～中期初頭

２棟の竪穴住居址がある。飯田市黒田大明神原遺跡・増田遺跡・殿原遺跡・辻垣外遺跡、喬木村地神遺跡・伊久間原遺跡等で住居址が調査されている他、土坑の調査された遺跡も多い。この中で、黒田大

明神原遺跡は集落が良好に調査されており、平坦部に住居址、その縁辺部に建物址・集石・土坑等が占地していたと考えられている。小規模ながらも、いわゆる縄文モデル村的な集落景観が想定できる。これに対して、他の遺跡は小規模な集落がほとんどである。前期以降県内では大規模な集落が発達するのとは対照的である。

黒田大明神原遺跡では、晴ヶ峯式・大歳山式・鍋屋町式などが出土しており、飯田下伊那地方が特に西日本的な関西系の大歳山式の影響を受けていることが指摘されている。本遺跡でも、大歳山式の出土比率が高く、こうした状況が追認される。

6．後・晩期

該期のものとしては、貯蔵穴とその内部から出土した遺物があるのみである。貯蔵穴は、調査区の東～北東側、現標高547,50m付近に分布し、本遺跡内では低地部分にあたる。近年、長野県中野市栗林遺跡・群馬県月夜野町矢瀬遺跡・同榛東村茅野遺跡・栃木県小山市寺野東遺跡・埼玉県赤山陣屋遺跡・同後谷遺跡等、各地で集落に近接する低地部分に水場遺構等が発見されてきており、それに付随する作業場・貯蔵穴も発見されている。市内中村中平遺跡もこうした遺跡と考えられる。本遺跡でも居住の痕跡はないことから、水場に付随する貯蔵穴の可能性が高いが、調査区内のこれより低い部分は土石流を被っており、遺構が確認されていない。今回は、現在の美女下の堤付近に水場遺構が存在する可能性を指摘するにとどめておく。

7．弥生時代後期

該期の遺構は、断片的に遺物が得られたのみで、詳細時期は不明であるが、形態・炉址や遺物等から後期と考えられる。ＳＢ13のコの字状の石囲炉は、飯田市内では中村中平遺跡８・９・30・34号住居址、龍江細新遺跡56号住居址（飯田市教委　1998刊行予定)、はりつけ原遺跡ＳＢ09・ＳＢ13（飯田市教委　同前）で類例があり、後期後半の例が多い。県内他地域の例をみると、中期前半の諏訪市荒神山遺跡72号住居址、中期後半の諏訪市本城遺跡21号住居址・松本市あがた遺跡８号住居址、後期前半の塩尻市上木戸遺跡９号住居址等にみられ、上伊那から中信にかけて後期前半以前の類例が多い。それはともかくとして、該期の集落は遺構数や遺物出土量からして、ごく小規模で散在的な集落展開が考えられる。遺物の内容は飯田下伊那地方の高位段丘上に営まれた後期の集落と同様、非常に貧弱といえる。こうした集落が周辺に控えた小規模な湿地における稲作と乾燥台地上の畑作とを生産の基盤としていたように、本遺跡の場合も、遺跡南側の低湿地と調査部分とが生産基盤であったといえよう。

以上調査者の力量不足であることを痛感しつつ、気付いた点を羅列したが、本遺跡が重要であることは疑いないところである。今後、今次調査地点周辺での保護に取り組むこと、そして本報告書が活用されること、このことこそが今次調査成果を活かす方途であろう。

≪引用・参考文献≫

［第Ⅱ章関係］

飯田市教育委員会　1986　『恒川遺跡群』

飯田市教育委員会　1988　『恒川遺跡　田中・倉垣外地籍』

飯田市教育委員会　1990　『高岡遺跡　－高岡３・４号古墳－』

飯田市教育委員会　1991ａ『恒川遺跡群　新屋敷遺跡』

飯田市教育委員会　1991ｂ『恒川遺跡　田中・倉垣外地籍』

飯田市教育委員会　1991ｃ『高岡遺跡　－新井原18号古墳－』

飯田市教育委員会　1992ａ『北本城々跡』

飯田市教育委員会　1992ｂ『恒川遺跡群　白山遺跡』

飯田市教育委員会　1993　『恒川遺跡群　恒川Ａ地籍』

飯田市教育委員会　1994　『長野県飯田市代田山狐塚古墳の測量調査』

飯田市教育委員会　1996　『上野遺跡・金井原瓦窯址』

飯田市教育委員会　1997　『大井遺跡　大久保遺跡』

飯田市教育委員会　1982～97　『恒川遺跡群範囲確認調査概報』

今村善興　1967　「飯田市座光寺原遺跡」『長野県考古学会誌』４号

岡田正彦　1986　「飯田市座光寺石行遺跡発掘調査概報」『伊那』34－６

座光寺考古学研究会　1976　「飯田市座光寺中島遺跡の調査報告」『伊那』24－３

座光寺村史刊行委員会　1993　『座光寺村史』

下伊那誌編纂會　1955　『下伊那史』第二巻

下伊那誌編纂會　1991　『下伊那史』第一巻

鳥居龍蔵　1924　『下伊那の先史及原史時代』

長野県教育委員会　1971　『長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書－飯田地区－昭和45年度』

長野県史刊行会　1981　『長野県史　考古資料編　全一巻（一）遺跡地名表』

長野県史刊行会　1983　『長野県史　考古資料編　全一巻（三）主要遺跡（南信）』

宮澤恒之　1967　「飯田市中島遺跡」『長野県考古学会誌』４号

宮澤恒之　1953・54　「下伊那郡座光寺村金井原瓦窯址報告」『伊那』１－12、２－２、２－３

［第Ⅲ・Ⅳ章関係］

上松町教育委員会他　1995　『お宮の森裏遺跡』

飯田市教育委員会　1977　『伊賀良中島平』

飯田市教育委員会　1988　『北田遺跡』

飯田市教育委員会　1994　『中村中平遺跡』

飯田市教育委員会　1997　『黒田大明神原遺跡』

伊那市教育委員会　1967　『長野県伊那市三ッ木遺跡発掘調査速報』

伊那市教育委員会　1973　『浜弓場遺跡』

伊那市教育委員会　1978　『児塚遺跡緊急発掘調査概報』
伊那市史編纂委員会　1984　『伊那市史　歴史編』
上田典男　1983　「縄文時代焼礫集積遺構の形態的把握」『物質文化』41
岡村道雄　1997　「総論」『ここまでわかった日本の先史時代』
岡谷市教育委員会　1987　『樋沢押型文遺跡調査研究報告書』
上伊那誌編纂会　1965　『長野県上伊那誌　歴史編』
駒ヶ根市教育委員会　1972　『羽場下・舟山』
駒ヶ根市教育委員会　1974　『養命酒駒ヶ根工場用地内遺跡』
駒ヶ根市教育委員会　1995　『的場・門前遺跡』
塩尻市教育委員会　1985　『堂の前・福沢・青木沢』
塩尻市教育委員会　1988　『一般国道20号（塩尻バイパス）改築工事埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書』
遮那藤麻呂　1973　「上伊那郡赤坂遺跡における押型文土器と遺構」『長野県考古学会誌』16
新東晃一　1993　「縄文集落の変遷＝九州」『季刊考古学』第44号
高遠町教育委員会　1977　『高遠、宮の原遺跡』
谷口康浩　1986　「縄文時代『集石遺構』に関する試論－関東・中部地方における早・前・中期の焼礫集積遺構を中心として」『東京考古』4
茅野市教育委員会　1993　『天狗山遺跡』
帝塚山考古学研究所　1988　『縄文早期を考える－押型文文化の諸問題－』
東京都埋蔵文化財センター　1996　『多摩ニュータウン遺跡』東京埋蔵文化財センター調査報告　第32集
東京都埋蔵文化財センター　1997　『多摩ニュータウン遺跡』東京埋蔵文化財センター調査報告　第39集
長野県教育委員会　1972　『長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書－下伊那郡高森町地内その1－昭和46年度』
長野県教育委員会　1973ａ『長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書－下伊那郡松川町地内－昭和47年度』
長野県教育委員会　1973ｂ『長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書－伊那市西春近－昭和47年度』
長野県教育委員会　1974　『長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書－下伊那郡阿智村斜坑広場その2－昭和48年度』
長野県考古学会縄文時代（早期）部会　1997　「シンポジウム『押型文と沈線文』」資料集
長野県史刊行会　1982　『長野県史　考古資料編　全一巻（二）主要遺跡（北・東信）』
㈶長野県埋蔵文化財センター　1987　『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書1』
㈶長野県埋蔵文化財センター　1988　『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書2』
㈶長野県埋蔵文化財センター　1994　『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書13』
西田正規　1985　「縄文時代の環境」『岩波講座　日本考古学2　人間と環境』
沼津市教育委員会　1988　『土手上・中見代第Ⅱ・第Ⅲ遺跡発掘調査報告書』
沼津市教育委員会　1989　『清水柳北遺跡発掘調査報告書その1』
沼津市教育委員会　1990　『清水柳北遺跡発掘調査報告書その2』
沼津市教育委員会　1994　『大谷津遺跡・井出丸山古墳発掘調査報告書』

富士宮市教育委員会　1983　『若宮遺跡』
東大阪市教育委員会他　1987　『神並遺跡Ⅱ』
堀田隆長　1991　「三重県安芸郡美里村西出遺跡」『日本考古学年報42』
三重県教育委員会他　1991　『一般国道42号松阪・多気バイパス　埋蔵文化財発掘調査概報Ⅰ』
三重県埋蔵文化財センター　1993　『研究紀要』第２号
三重県埋蔵文化財センター　1994ａ『大鼻遺跡』
三重県埋蔵文化財センター　1994ｂ『一般国道42号松阪・多気バイパス　埋蔵文化財発掘調査概報Ⅳ』
宮下健司　1989　「東海条痕文系土器様式」『縄文土器大観１』草創期　早期　前期
宮田村教育委員会　1990　『中越遺跡発掘調査報告書』
矢野健一　1993　「押型文土器の起源と変遷－いわゆるネガティブな楕円文を有する押型文土器群の再検討」『考古学雑誌』78－４
山添村教育委員会　1989　『大川遺跡』
山田　猛　1988　「押型文土器群の型式学的再検討－三重県下の前半期を中心として－」『三重県史研究』第４号
渡辺　誠　1975　『縄文時代の植物食』

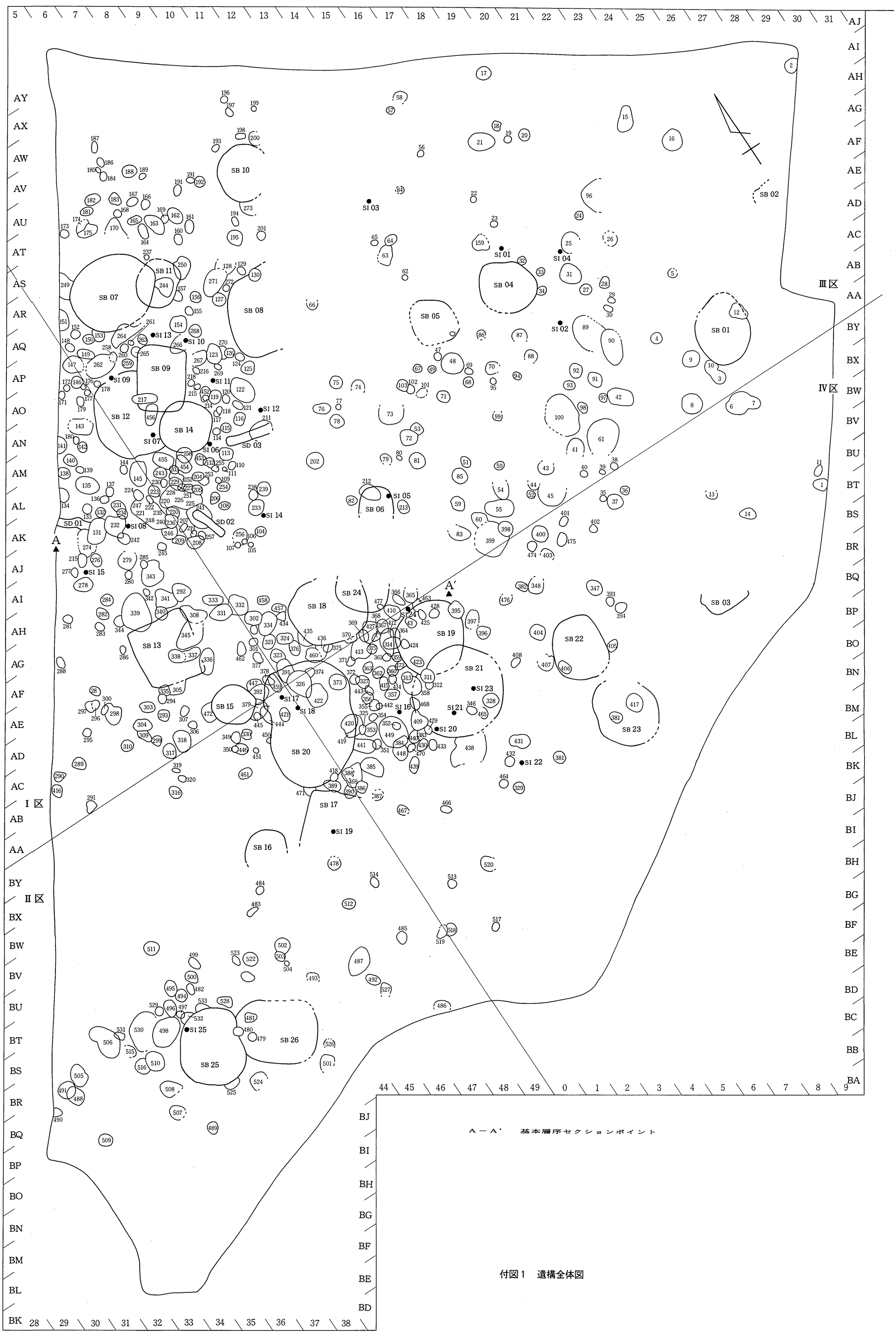
その他多数の報告書・論文等にあたったが、本文に関するものに限らせていただいた。

報告書抄録

ふりがな	びじょういせき
書名	美女遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	馬場保之・下平博行
編集機関	長野県飯田市教育委員会
所在地	〒395－0002 長野県飯田市上郷飯沼3145番地 ☎0265－53－4545
発行年月日	西暦1998年3月 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
びじょう 美女	飯田市座光寺 1379他	2053		35° 32′ 30″	137° 51′ 15″	平成7年 12月25日～ 平成8年 8月20日	4,270 ㎡	農道・ポケットパーク建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
美女	集落址	縄文時代 草創期 ～晩期	竪穴住居址 竪穴 炉穴 集石 貯蔵穴 土坑 溝址・溝状址	17棟 7基 8基 24基 26基 多数 3条	縄文時代	土器 石器	立野式期の竪穴住居址11棟と、同時期の多数の土器・石器が出土した。立野式の編年的位置や生業および集落の様子が明らかにされた。
		弥生時代	竪穴住居址	2棟	弥生時代	土器 石器	



A－A′　基本層序セクションポイント

付図1　遺構全体図

美女遺跡（びじょういせき）

－遺構編－

平成10年3月　発　行

編集・発行　長野県飯田市上郷飯沼3145番地
飯田市教育委員会

印　　刷　龍共印刷株式会社